

第一部  
本 編



### 1. 調査目的

横浜市沿岸海域において生物調査を実施し、生物生息状況を把握するとともに、得られた結果を用いて生物指標による水質評価を行うことを目的とした。

### 2. 調査内容

- (1) 横浜市沿岸海域において、魚類、海岸動物、底生動物、海草・海藻、プランクトンの種数と個体数を調査した。また、環境要因も調査した。
- (2) 調査結果を、地点、水域別に取りまとめ、過去の結果も踏まえて生物相の現状を評価した。また、生物指標による水質評価を行った。

### 3. 調査日程

調査は、2024年10月25、28～30日、11月6日に秋季調査を、2025年2月12、14、17日に冬季調査を、2025年4月22、23、25、30日、5月12日に春季調査を、2025年7月22、23、25、28、29日に夏季調査を実施した。調査は潮汐差の大きい中潮～大潮時の干潮時を中心に実施した。

調査の区分と項目における調査日程の一覧を表 3.1に示す。

表 3.1 調査日程の詳細

調査区分	調査時季		秋季	冬季	春季	夏季	調査項目						
	調査地点		2024年	2025年				魚類	海岸動物	底生動物	海草・海藻	プランクトン	環境要因
河口・海岸調査	岸壁	山下公園	10月29日	2月14日	4月23日	7月22日	○	○		△		◎	
		堀割川河口			5月12日		○	○		△		◎	
	干潟	鶴見川河口	10月30日	2月17日	4月23日	7月29日	○	○		△		◎	
		海の公園	10月25日		4月22日	7月28日	○	○		△		◎	
		野島公園	10月28日		4月25日	7月25日	○	○		△		◎	
		野島水路			○	○		△		◎			
		夕照橋	10月25日		4月22日	7月28日	○	○		△		◎	
内湾調査	横浜港沖	11月6日	2月12日	4月30日	7月23日	◎				◎	◎		
	横浜港口 (St.6)							◎		◎			
	根岸湾沖					◎				◎	◎		
	根岸湾口 (St.10)							◎			◎		
	金沢湾沖					◎				◎	◎		
	金沢湾口 (St.12)							◎			◎		

注1) ◎は4季での実施を示す。

注2) ○は秋季・春季・夏季での実施を示す。

注3) △は秋季・冬季・春季での実施を示す。

#### 4. 調査地点

調査対象区域は、河口・海岸域の調査として鶴見川河口、山下公園、堀割川河口、海の公園（金沢湾）、野島公園（金沢湾）、野島水路（平潟湾）、夕照橋（平潟湾）の計7地点を対象とした。また、内湾調査として横浜港沖、横浜港口（St.6）、根岸湾沖、根岸湾口（St.10）、金沢湾沖、金沢湾口（St.12）の3海域、6地点を対象とした。調査地点の緯度経度を表4.1に、位置関係を図4.2に示す。

調査地点は、基本的に過去に実施された調査地点に準じたが、第15報以降、横浜港沖地点は新本牧ふ頭建設工事の船舶禁止区域内となったため、区域外に過去に実施された調査地点から変更した(図4.1)。各調査地点の詳細を図4.3～図4.6に示す。河口・海岸調査地点の基点および測線方向を図4.7に示す。

表 4.1 調査地点の緯度経度

調査項目	地点名	WGS84					
		北緯			東経		
* 河口・海岸調査	鶴見川河口(干潟)	35度	29分	51.37秒	139度	40分	34.09秒
	山下公園(岸壁)	35度	26分	46.63秒	139度	39分	0.54秒
	堀割川河口(岸壁)	35度	24分	37.17秒	139度	37分	48.22秒
	海の公園(干潟)	35度	20分	19.15秒	139度	38分	7.00秒
	野島公園(干潟)	35度	19分	39.45秒	139度	38分	15.15秒
	野島水路(干潟)	35度	19分	35.11秒	139度	38分	15.20秒
	夕照橋(干潟)	35度	19分	32.54秒	139度	37分	47.33秒
内湾調査	横浜港沖	35度	25分	33.00秒	139度	42分	26.00秒
	横浜港口(St.6)	35度	26分	59.00秒	139度	41分	26.00秒
	根岸湾沖	35度	23分	35.00秒	139度	41分	0.00秒
	根岸湾口(St.10)	35度	23分	48.00秒	139度	39分	46.00秒
	金沢湾沖	35度	21分	12.00秒	139度	40分	0.00秒
	金沢湾口(St.12)	35度	20分	13.00秒	139度	39分	24.00秒

\*) 河口・海岸調査の緯度・経度は、調査測線の基点を示す。

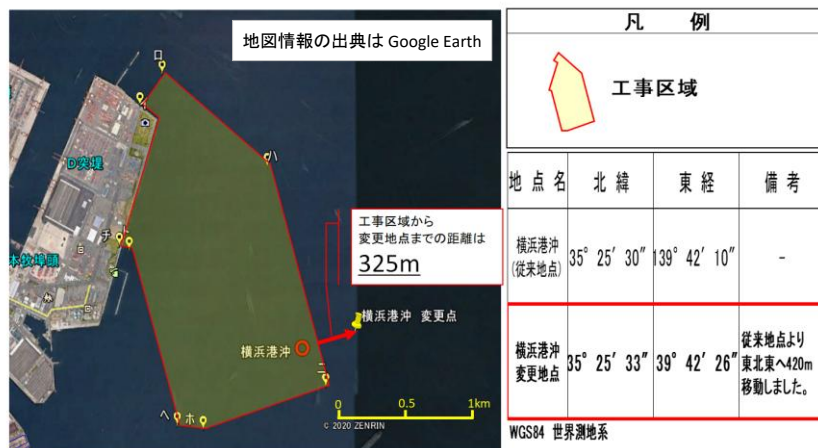


図 4.1 横浜港沖変更地点

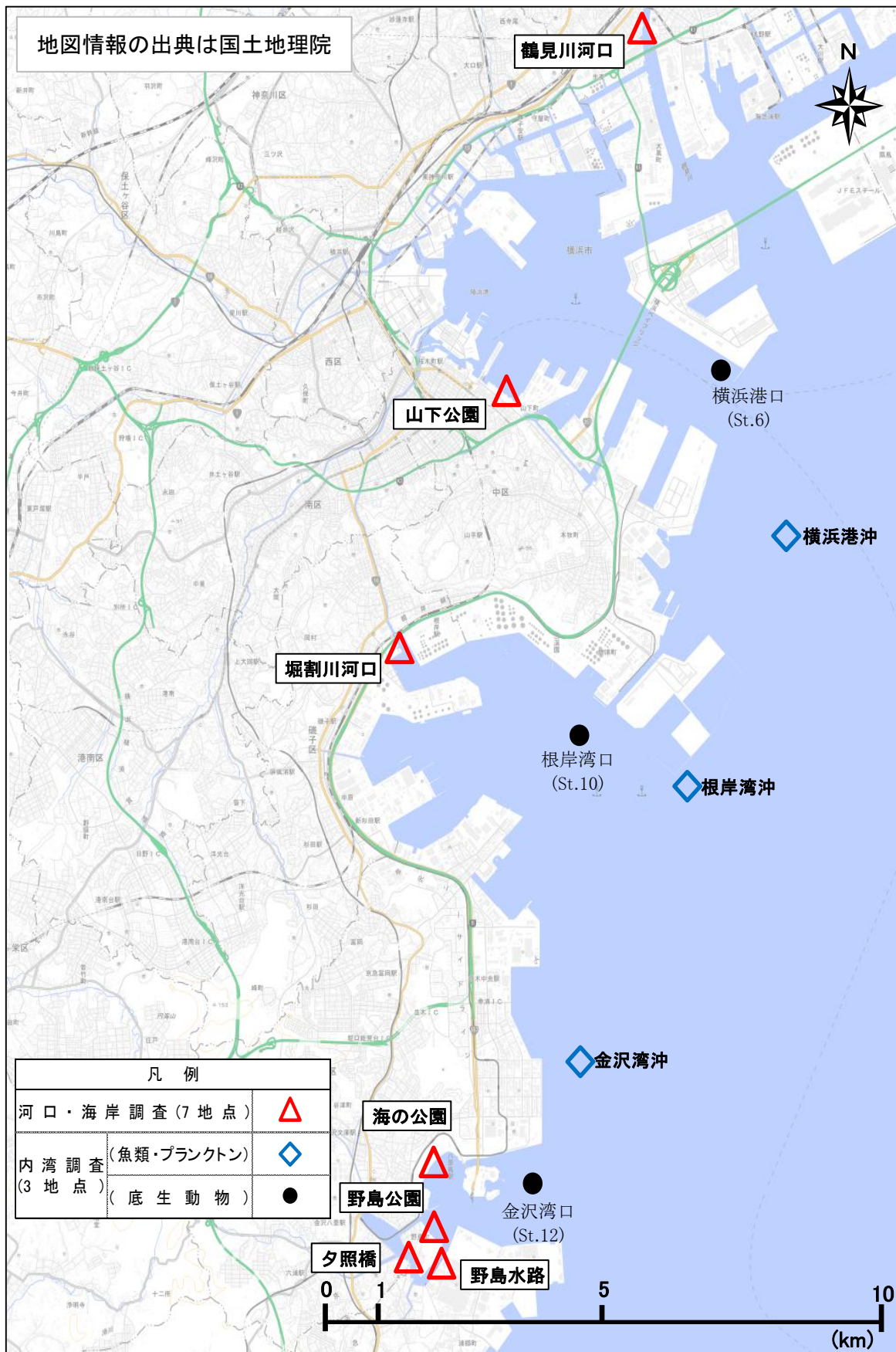


図 4.2 各調査地点の位置

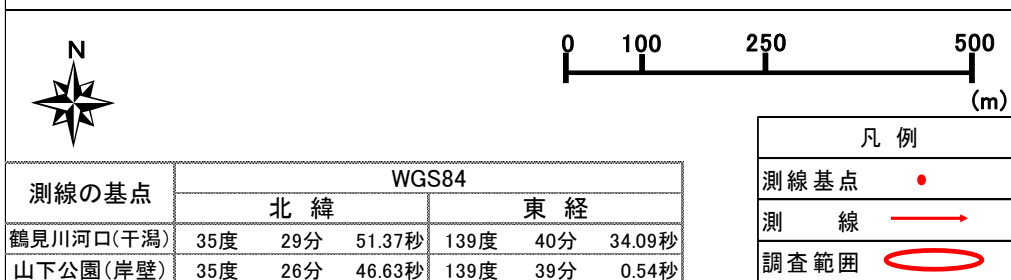


図 4.3 鶴見川河口および山下公園調査地点詳細図

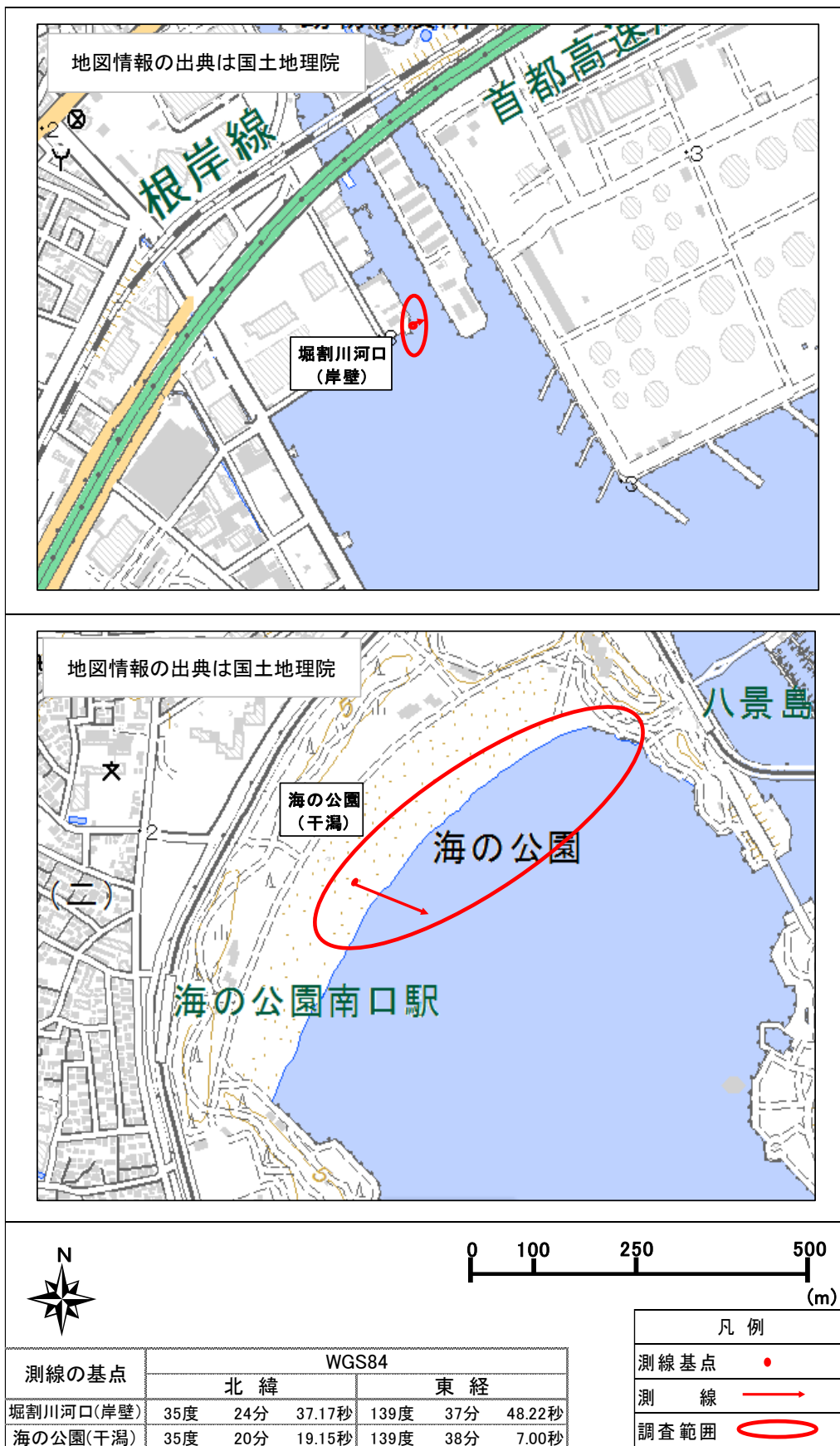


図 4.4 堀割川河口および海ノ公園（金沢湾）、調査地点詳細図

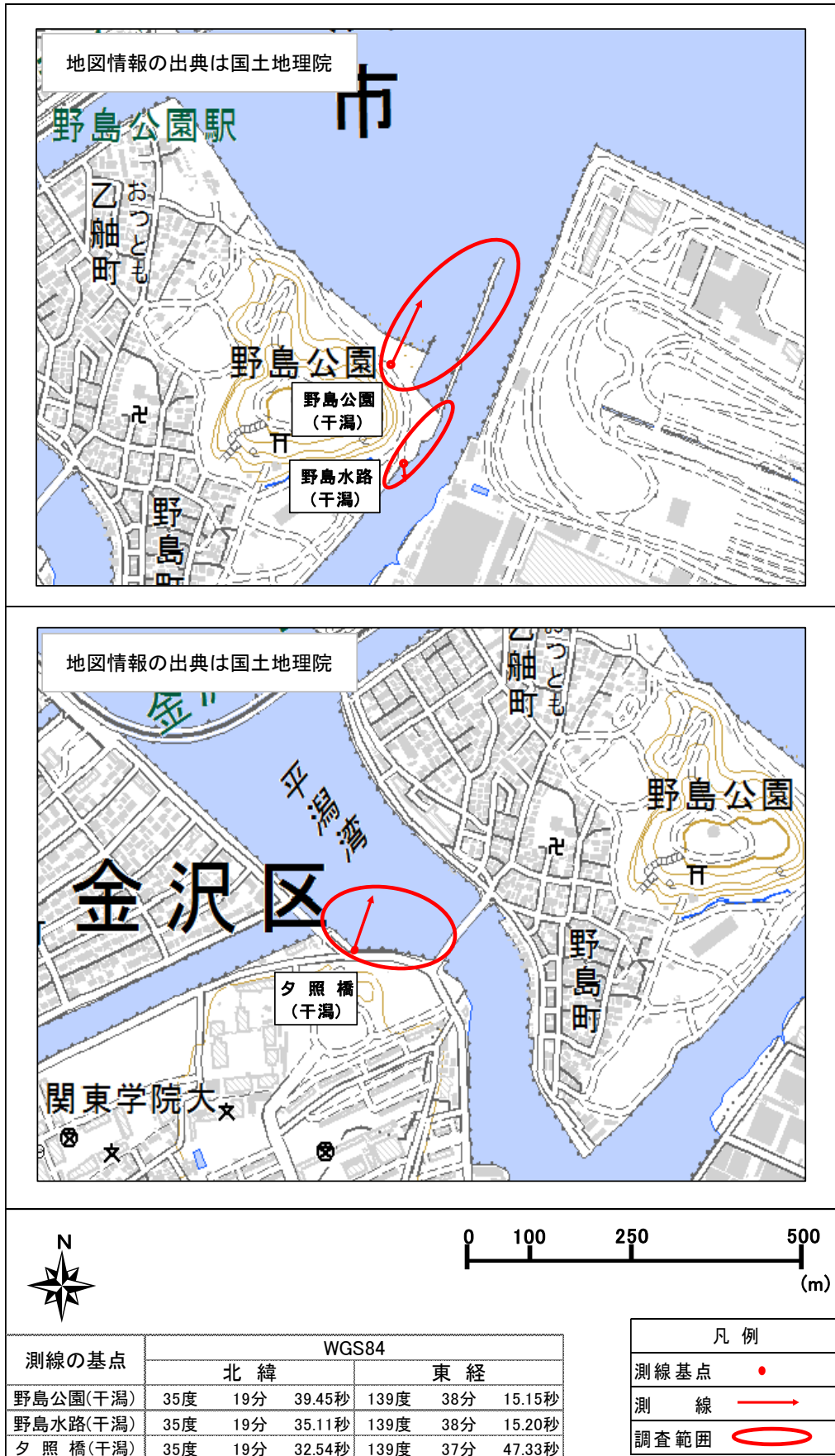
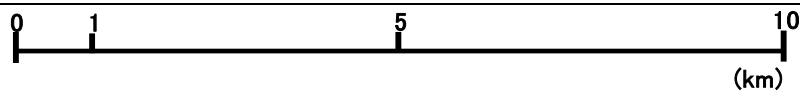
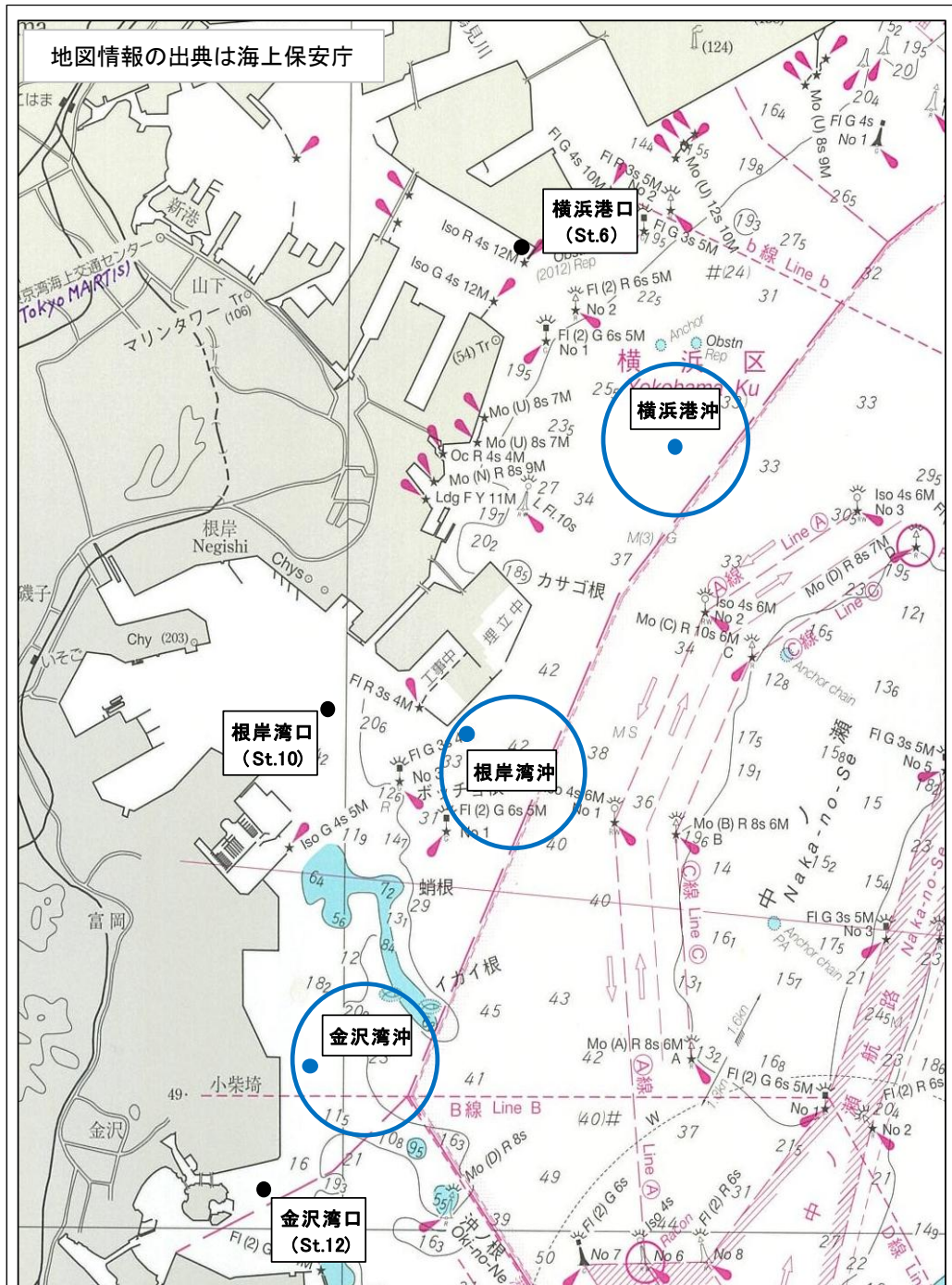


図 4.5 野島公園（金沢湾）、野島水路（平潟湾）、夕照橋（平潟湾）調査地点詳細図



注) 底曳き網は図示した半径1kmの円内を目安に曳網した。

図 4.6 内湾調査地点位置

	基点	測線方向等
鶴見川河口（干潟）	 <p>基点高 <b>A.P.+2.46m</b></p> <p>看板下部 コンクリート上面</p>	 <p>基点→ 対岸のネット支柱 左から6番目</p>
山下公園（岸壁）	 <p>基点高 <b>A.P.+3.72m</b></p> <p>柵下部 石材上面</p> <p>基点直上 段上 A.P.+1.24m</p>	 <p>基点→ 赤白鉄塔</p>
堀割川河口（岸壁）	 <p>基点高 <b>A.P.+3.55m</b></p> <p>グレージング（金網） 下面</p>	
海の公園（干潟）	 <p>基点高 <b>A.P.+2.10m</b></p> <p>看板支柱下部 コンクリート上面</p>	 <p>基点→ 八景島の シーパラダイスタワー</p>
野島公園（干潟）	 <p>基点高 <b>A.P.+2.29m</b></p> <p>階段護岸 7段目上面</p>	 <p>基点→ コンクリート杭</p>
野島水路（干潟）	 <p>基点高 A.P.+1.65m</p> <p>護岸下</p> <p>護岸上面 <b>A.P.+2.27m</b></p>	 <p>基点→ 工場右端 三角屋根頂</p>
夕照橋（干潟）	 <p>基点高 A.P.+0.90m</p> <p>護岸下</p> <p>護岸上面 <b>A.P.+3.66m</b></p>	 <p>基点→ 集合住宅角の 窪み部</p>

（2024年9～10月撮影）

図 4.7 河口・海岸調査地点の基点および測線方向

## 5. 調査項目

調査項目は以下の通りとする。

- 1) 河口・海岸調査
  - (1) 海草・海藻
  - (2) 海岸動物（岸壁）
  - (3) 海岸動物（干潟）
  - (4) 魚類
  - (5) 環境要因
- 2) 内湾調査
  - (1) 魚類
  - (2) 底生動物
  - (3) プランクトン
  - (4) 環境要因

調査項目ごとの調査内容を表 5.1に、調査地点・時季別の実施調査項目を表 5.2、表 5.3に示す。

表 5.1 調査内容

調査項目		内 容	地点(測点)×調査回数	主な使用器材
河口・海岸調査	海草・海藻	・潜水目視観察 ・剥離採取	・7地点×秋冬春の3回	潜水器材 スクレーパー
	海岸動物 (岸 壁)	・潜水目視観察 ・定量採取	・2地点(測線)×秋春夏の3回 ・4測点/地点×2地点	潜水器材 方形枠 サーバーネット
	海岸動物 (干 潟)	・潜水目視観察 ・定量採取	・5地点(測線)×秋春夏の3回 ・2測点/地点×5地点	潜水器材 方形枠 1mmふるい
	魚 類	・漁具による捕獲 ・潜水目視観察	・7地点×秋春夏の3回	投網・死網
	環境要因	○水質測定 他 気温、潮位、水温、塩分 pH(水素イオン指数)、DO(溶存酸素) COD(化学的酸素要求量) ○底質(海岸動物:干潟) 気温、泥温、pH、酸化還元電位、 泥色、臭気、外観 乾燥減量(含水率)、強熱減量、 COD、硫化物	○水質等 ・7地点×秋冬春夏の4回  ○底質 ・5地点×秋冬春夏の4回 ・2測点/地点×5地点	温度計 多項目水質計 採泥器 土色帳
内湾調査	魚 類	・漁具による捕獲	・3地点×秋冬春夏の4回	小型底曳き網
	底生動物	・採泥器による採取	・3地点×秋冬春夏の4回	採泥器 0.5mmふるい
	プランクトン	・採水法による採取	・3地点×秋冬春夏の4回	ホリバケツ
	環境要因	○水質(表層)測定 他 水深、透明度、気温、水温、塩分 pH、DO、COD、濁度、クロロフィルa ○水質(鉛直)測定(底生動物) 水温、塩分、pH、DO、濁度、 クロロフィルa(1m間隔測定) ○底質(底生動物) 気温、泥温、pH、酸化還元電位、 泥色、臭気、外観 乾燥減量(含水率)、強熱減量、 COD、硫化物、 底層溶存酸素(海底上1m)	・3地点×秋冬春夏の4回	温度計 多項目水質計 透明度板 採泥器 土色帳 バントン採水器

表 5.2 調査地点・時季別の実施調査項目（河口・海岸調査）

調査項目 地点	河口・海岸調査			
	魚類	海岸動物(岸壁) (4測点/地点)	海岸動物(干潟) (2測点/地点)	海草・海藻
時季	秋・春・夏			秋・冬・春
鶴見川河口(干潟)	○	-	○	○
山下公園(岸壁)	○	○	-	○
堀割川河口(岸壁)	○	○	-	○
海の公園(干潟)	○	-	○	○
野島公園(干潟)	○	-	○	○
野島水路(干潟)	○	-	○	○
夕照橋(干潟)	○	-	○	○

表 5.3 調査地点・時季別の実施調査項目（内湾調査）

調査項目 地点	内湾調査		
	魚類	底生動物	プランクトン
時季	秋・冬・春・夏		
横浜港沖	○		○
横浜港口(St. 6)		○	
根岸湾沖	○		○
根岸湾口(St. 10)		○	
金沢湾沖	○		○
金沢湾口(St. 12)		○	

## 6. 調査方法

各項目別の調査は以下の手順に従って実施した。

生物相調査実施時には、調査地点周辺の環境概況（護岸、底質の状況等）、天候、調査時刻を記録し、概況写真の撮影を実施した。

本調査における測量基準面を荒川工事基準面（A.P.）とした。

A.P.0m は T.P.（東京湾平均水面・標高） -1.1344m に相当する。

### 6.1. 河口・海岸調査

#### 6.1.1. 海草・海藻

調査地点とその周辺を潜水目視で観察し、岸壁、コンクリートブロック、岩礁、砂泥域に着生する草（藻）体をスクレーパーで剥離採取した。砂浜や干潟に打ち上げられた草（藻）体も採取し、できるだけ多くの種を採取した。採取した試料は 10% 中性ホルマリンで固定して持ち帰り、さく葉標本あるいは 10%ホルマリン液浸標本を作成し、種の同定を行った。出現リストに記載する際には着生物あるいは漂着物を区別した。なおアマモ・コアマモ等の海草類は単子葉植物綱に分類される種であるが、本綱はイネ科植物などの陸上植物を広く含むので、本文中では「単子葉植物」を「海草」と表記した。

採取した全種について、種判別可能な精度で写真を撮影した。同定した種は、すべて標本として保存した。海草・海藻調査以外（海岸動物の枠取調査等）で確認した種も出現種リストに記載した。

海草・海藻調査の実施状況を図 6.1、写真 6.1に示す。

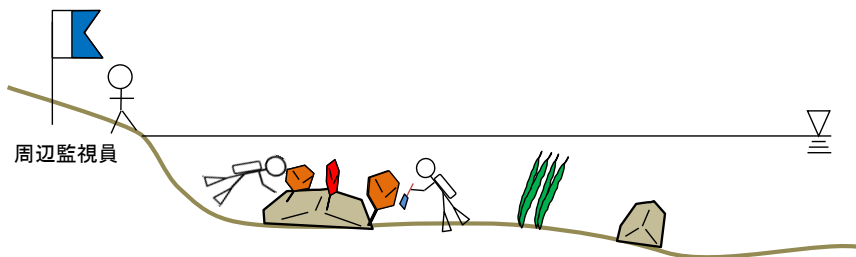


図 6.1 海草・海藻調査の実施状況



写真 6.1 海草・海藻調査実施状況

### 6.1.2. 海岸動物（岸壁）

岸壁面の潮間帯から平均水面下 2m(A.P.-0.85m)の範囲について 50cm 方形枠を用いたライトランセクト法により潜水目視観察し、出現種を個体数もしくは被度で記録した。定量採取は、潮間帯の 3 測点（高潮帯：代表高は A.P.+1.85m、平均水面：A.P.+1.15m、低潮帯：代表高は A.P.+0.45m）と平均水面下 2m の計 4 測点／地点で行った。1 測点あたり 10cm 方形枠内の生物を剥ぎ取り、10%中性ホルマリンで固定して持ち帰り、種の同定と個体数を計数し、湿重量を測定した。

採取した全種について、種判別可能な精度で写真を撮影した。同定した種は、すべて標本として保存した。海岸動物（岸壁）調査以外（魚類調査の投網混獲物等）で確認した種も出現種リストに記載した。

海岸動物（岸壁）調査の実施状況を図 6.2、写真 6.2に示す。

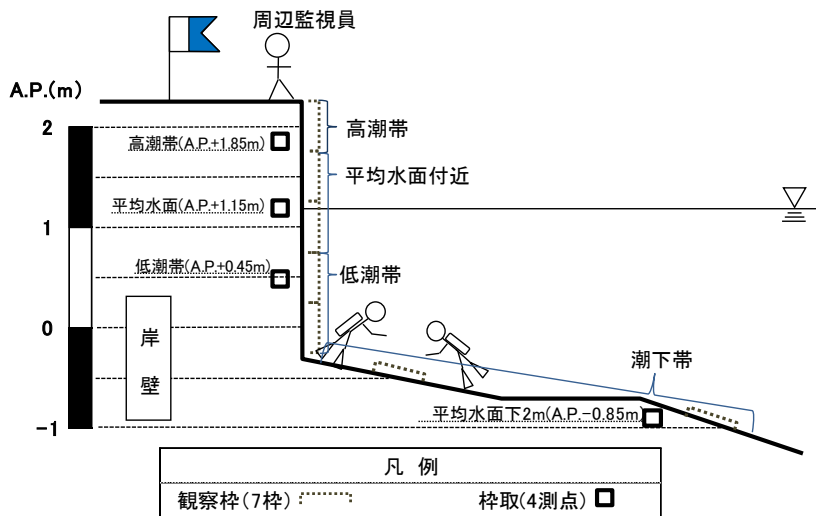


図 6.2 海岸動物（岸壁）調査の実施状況

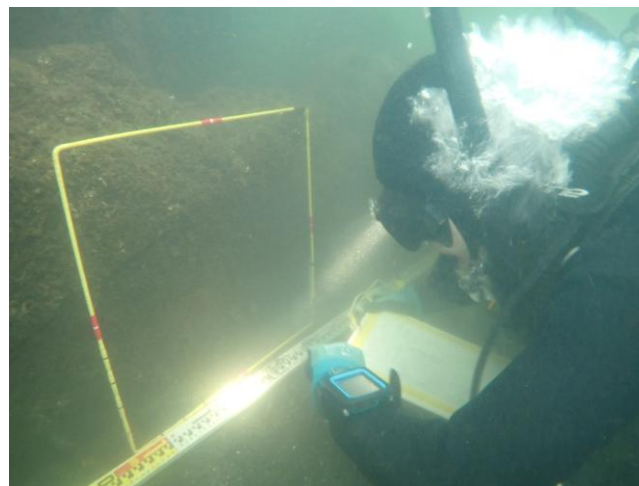


写真 6.2 海岸動物（岸壁）調査実施状況

### 6.1.3. 海岸動物（干潟）

干潟の潮間帯から平均水面下 2m(A.P.-0.85m)までの範囲について 50cm 方形枠を用いたライントランセクト法により潜水目視観察し、出現する種を個体数もしくは被度で記録した。定量採取は、潮間帯の 1 測点（平均水面）と平均水面下 2m の計 2 測点／地点で行った。1 測点あたり 50cm 方形枠内の深さ 15cm の泥を採取し、1mm メッシュのふるい上に残った試料を 10% 中性ホルマリンで固定して持ち帰り、種の同定と個体数を計数し、湿重量を測定した。

採取した全種について、種判別可能な精度で写真を撮影した。同定した種は、すべて標本として保存した。海岸動物（干潟）調査以外（魚類調査の投網混獲物等）で確認した種も出現種リストに記載した。

海岸動物（干潟）調査の実施状況を図 6.3、写真 6.3 に示す。

なお、各地点の地形により計画通りの高さに測点を設けられない場合があった。その場合は、代替した測点を調査結果に明記した。

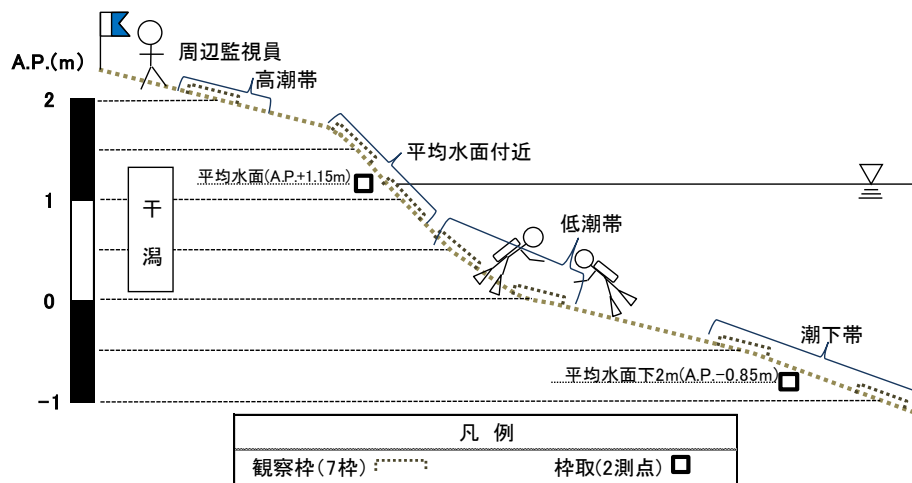


図 6.3 海岸動物（干潟）調査の実施状況



写真 6.3 海岸動物（干潟）調査実施状況

#### 6.1.4. 魚類

投網（網目は6mm\_半目/26節）を10投/地点、タモ網（網目は亀甲型の2mm×3mm）を40～50分/地点を採取努力量とした。採取した個体を同定し、1種につき20個体を上限として標準体長（S.L.）を測定した。

現地にて同定が困難な種は、標本として保存し、専門家への同定依頼に備えた（原則として現地放流とするが、1種類につき最低1個体は10%中性ホルマリンで固定し、標本として保存する。）採取した全種について、可能な限り種の判別ができる（例えば鱗を広げる、水の中に沈めて撮影するなど）精度で生体写真を撮影した。魚類調査以外で確認した種も、出現リストに記載した。魚類（投網・タモ網）調査の実施状況を図6.4、写真6.4、写真6.5に示す。

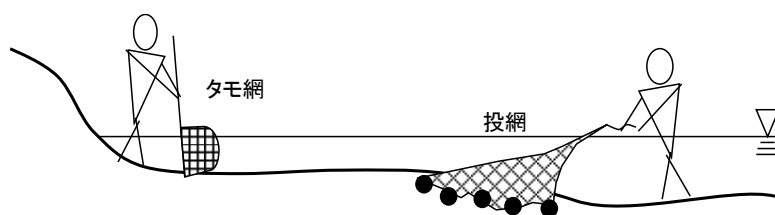


図 6.4 魚類調査の実施状況



写真 6.4 投網作業状況



写真 6.5 タモ網作業状況

### 6.1.5. 環境要因

各調査地点の代表点において、天候を観測し、気温、潮位、水温、塩分、pH、溶存酸素を測定した。また、水質試料は持ち帰り、CODを分析した。

また、海岸動物（干潟）調査地点に限っては、測点毎に平均水面および平均水面下2mの底質について、底質の泥温、pH、酸化還元電位を測定し、併せて泥色、臭気、外観、混入物を観察した。2試料のうち平均水面下2mの試料は持ち帰り、乾燥減量（含水率）、強熱減量、COD、硫化物を分析した。

測定、分析項目と方法を表6.1、表6.2に示す。

なお、底質の採取地点については各地点の地形により計画通りの高さに測点を設けられない場合があった。その場合は、代替した測点を調査結果に明記した。

表 6.1 河口・海岸域水質（表層水）の測定・分析項目と方法

	項目	(単位)	方法	測定機器
現場観測・測定	天候	(-)	目視による	-
	気温	(°C)	ガラス棒状温度計	
	潮位	(cm)	海上保安庁潮汐表（横浜新港もしくは根岸）より推定	
	水温	(°C)	白金測温体	(株)堀場製作所 「U-52G」
	塩分	(psu)	電気伝導率換算	
	pH	(-)	ガラス電極法	
	溶存酸素	(mg/L)	ポーラログラフ法	
室内分析	COD	(mg/L)	JIS K0102 17 100°Cにおける過マンガン酸カリウム酸素消費量	-

表 6.2 河口・海岸域（干潟）底質の測定・分析項目と方法

	測定項目	(単位)	測定方法	測定機器
現場観測・測定	泥温	(°C)	ガラス棒状温度計	-
	pH	(-)	ガラス電極pHメーター	東亜DKK(株) 「IM-32P」
	酸化還元電位	(mV)	白金電極ORPメーター	(財)日本色彩研究所 「標準土色帖」
	泥色	(-)	「標準土色帖」による比較観察	-
	臭気	(-)	嗅覚による	
	外観	(-)	目視観察による	
	混入物	(-)	目視観察による	
室内分析	乾燥減量(含水率)	(%)	底質調査方法(*) II 4.1 乾燥減量	-
	強熱減量	(%)	底質調査方法(*) II 4.2 強熱減量	
	COD	(mg/g・dry)	底質調査方法(*) II 4.7 CODsed	
	硫化物	(mg/g・dry)	【固定】底質調査方法(*) II 4.6 硫化物	

(\*)平成24年8月8日付け環大水発第120725002号

## 6.2. 内湾調査

### 6.2.1. 魚類

ビーム付きの小型底曳き網（袋網部の目合いは 3cm 程度）を、網を曳くワイヤーロープが所定の距離まで延びた時点（えいもう）を曳網開始、曳網後、ワイヤーを巻き始める時点（えいもう）を曳網終了とし 2~3 ノットの船速で 20 分間曳網して漁獲物を採集した。採集した漁獲物は全て氷冷保存して持ち帰り、種の同定と 1 種につき 20 個体を上限として標準体長（S.L.）等を計測した。

採取した全種について、種判別可能な精度で写真を撮影した。同定した種は、サメ類やエイ類などの大型種を除き、原則として 1 種類につき最低 1 個体は 10%ホルマリンで固定した標本を保存した。魚類以外の混獲生物（ヒトデ、シャコなど）は、種ごとに個体数を計数し、全湿重量を測定した。

魚類（小型底曳き網）調査の実施状況を図 6.5、写真 6.6に示す。

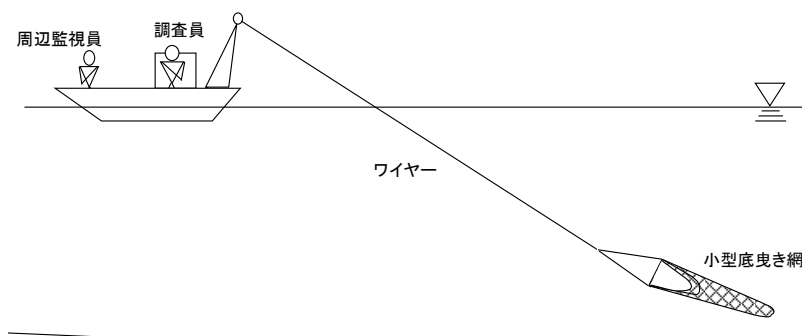


図 6.5 魚類調査（小型底曳き網）の実施状況



写真 6.6 小型底曳き網操業状況

### 6.2.2. 底生動物

エクマンバージ型採泥器(採取面積:0.0225 m<sup>2</sup>)を用いて 5 回採泥し、0.5mm メッシュのふるい上に残った試料を 10%中性ホルマリンで固定して持ち帰り、種の同定と個体数を計数し、湿重量を測定した。

採取した全種について、種判別可能な精度で写真を撮影した。同定した種は、すべて標本として保存した。

底生動物調査の実施状況を図 6.6、写真 6.7に示す。

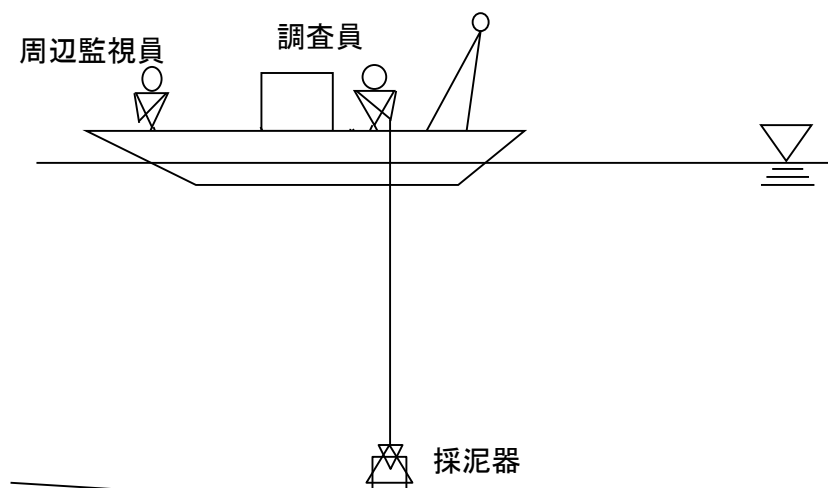


図 6.6 底生動物調査の実施状況



写真 6.7 底生動物調査作業状況

### 6.2.3. プランクトン

植物・動物プランクトンを対象とした。

船上からポリバケツで表層水を採水した。1 検体につき、植物プランクトン用に 1L、動物プランクトン用に 2L、固定により破壊される赤潮プランクトン (*Heterosigma akashiwo*、*Myrionecta rubra* の 2 種) を分析対象とする無固定試料用として 250mL をそれぞれ採水した。

植物プランクトンは最終濃度が 1%となるようにグルタルアルデヒドで、動物プランクトンは最終濃度が 5%となるように中性ホルマリンでそれぞれ固定し、無固定試料は冷暗所にて冷蔵保存した。

固定試料をメスシリンダーに入れて 24 時間放置し、プランクトンを沈殿させた。上澄み液を除去して、標準として植物プランクトンは 25mL、動物プランクトンは 5mL に濃縮して計数試料とした。定量調査は、濃縮した試料から同定・計数用の定量試料を抽出し、同定・計数した。

無固定試料は、分析対象種とした赤潮プランクトン (*Heterosigma akashiwo*、*Myrionecta rubra* の 2 種) の計数を行った。なお、植物プランクトンについては、無固定試料の分析対象種 (*Heterosigma akashiwo*、*Myrionecta rubra* の 2 種) 以外の種が出現し、固定試料で出現しなかった種も出現リストに記載した。

プランクトン調査の実施状況を図 6.7に示す。

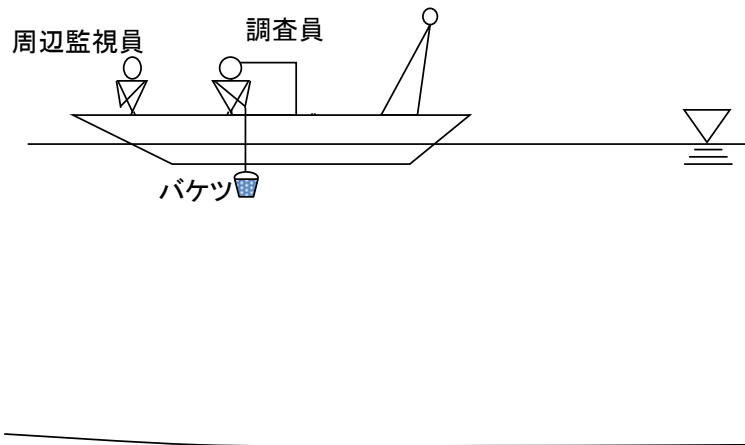


図 6.7 プランクトン調査の実施状況

#### 【植物プランクトン分析方法】

試料 1L を 25mL に濃縮 (24 時間以上静置後に上澄みを抜くことによって濃縮) した。濃縮試料 0.05mL (海水 2mL 分) を計数皿に取り、光学顕微鏡を使用して同定・計数した。計数結果を 1mL 相当に換算して、分析結果とした。

#### 【動物プランクトン分析方法】

試料 2L を 10mL に濃縮した。濃縮試料 0.2mL (海水 40mL 分) を計数皿に取り、小型のプランクトン (繊毛虫等) は光学顕微鏡を使用して 0.2mL 全てを同定・計数した。大型のプランクトン (節足動物等) は小型種を分析して残った濃縮試料 9.8mL を計数皿に取り、実体顕微鏡を使用して同定・計数した。計数結果を 1L 相当に換算して分析結果とした。

#### 使用顕微鏡

生物顕微鏡 (Nikon ALPHAPHOT-YS) 接眼レンズ 10 倍×対物レンズ 4 倍、10 倍、20 倍、40 倍  
実体顕微鏡 (Nikon SMZ-10) 接眼レンズ 10 倍×対物レンズ 10~60 倍 (ズーム : ×0.66~4)

#### 6.2.4. 環境要因

魚類・プランクトンの調査点（横浜港沖、根岸湾沖、金沢湾沖）において、天候を観測し、気温、実測水深、透明度、表層水の水温、塩分、pH、溶存酸素を測定し、水色を観察した。また、表層水を持ち帰り、COD、濁度、クロロフィル a の分析を行った。測定項目と方法を表 6.3に示す。

底生動物の調査点（横浜港口 St.6、根岸湾口 St.10、金沢湾口 St.12）においては、多項目水質計を用いて、鉛直方向の水温、塩分、pH、溶存酸素、濁度、クロロフィル a を海底から 1m 間隔で測定した。測定項目と方法を表 6.4に示す。実測水深、採泥した底質の泥温、pH、酸化還元電位、乾燥減量（含水率）、強熱減量、COD、硫化物を測定し、泥色、臭気、外観、混入物を観察した。また、底層水（海底上 1m）を採水し、底層溶存酸素を測定した。測定項目と方法を表 6.5に示す。

表 6.3 内湾水質（表層水）の測定・分析項目と方法

	項目 (単位)	観測・分析方法	測定機器
現場観測・測定	天候 (—)	目視による	—
	気温 (°C)	ガラス棒状温度計	—
	実測水深 (m)	実測	レッド (鍾) 付検尺ロープ
	透明度 (m)	海洋観測指針 第1部 (1999) 3.2	透明度板 (セッキ板)
	水温 (°C)	白金測温体	(株)堀場製作所 「U-52G」
	塩分 (psu)	電気伝導率換算	
	pH (—)	ガラス電極法	
	溶存酸素 (mg/L)	ポーラログラフ法	(財)日本色彩研究所 「日本色研色名帳」
水色 (—)	「色名帳」による比較観察		
室内分析	COD (mg/L)	JIS K0102 17 100°Cにおける過マンガン酸カリウム消費量	—
	濁度 (度)	積分球式濁度計	(株)セントラル科学 「TB-50型」
	クロロフィルa (μg/L)	N,N-ジメチルホルムアミド抽出による SCOR-UNESCO法	—

表 6.4 内湾水質（鉛直分布）測定項目と方法

測定項目 (単位)	測定方法	測定機器
水温 (°C)	サーミスタ	JFEアドバンテック (株) 「AAQ177」
塩分 (psu)	実用塩分式	
pH (—)	ガラス電極	
溶存酸素 (mg/L)	燐光式	
濁度 (FTU)	赤外光後方散乱	
クロロフィルa (μg/L)	蛍光測定	

表 6.5 内湾底質の測定・分析項目と方法

	項目 (単位)	測定・分析方法	測定機器
現場観測・測定	実測水深 (m)	実測	レッド (鍾) 付検尺ロープ
	泥温 (°C)	ガラス棒状温度計	—
	pH (—)	ガラス電極pHメーター	東亜DKK (株) 「IM-32P」
	酸化還元電位 (mV)	白金電極ORPメーター	
	泥色 (—)	「標準土色帖」による比較観察	(財)日本色彩研究所 「標準土色帖」
	臭気 (—)	嗅覚による	—
	外観 (—)	目視観察による	
	混入物 (—)		
底層溶存酸素(海底上1m) (mg/L)	ポータブル型溶存酸素メータ	(株)堀場製作所 「D-210D」	
室内分析	乾燥減量(含水率) (%)	底質調査方法 (*) II 4.1 乾燥減量	—
	強熱減量 (%)	底質調査方法 (*) II 4.2 強熱減量	
	COD (mg/g・dry)	底質調査方法 (*) II 4.7 CODsed	
	硫化物 (mg/g・dry)	【固定】底質調査方法 (*) II 4.6 硫化物	

(\*) 平成24年8月8日付け環大発第120725002号

### 6.3. レッドリスト等掲載種

各生物調査結果整理時には、レッドリスト等掲載種を、文化財保護法（天然記念物）、絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律、環境省レッドリスト、環境省版海洋生物レッドリスト、神奈川県レッドデータに加え、東京湾岸の自治体である東京都、千葉県のレッドリスト、日本ベントス学会の干潟の絶滅危惧図鑑の選定基準に基づき抽出した。

なお、本文の表中においては環境省レッドリストに該当するものを「環」、環境省版海洋生物レッドリストに該当するものを「環海」、神奈川県レッドデータに該当するものを「神奈川県」、東京都レッドリストに該当するものを「東京都」、千葉県レッドデータに該当するものを「千葉県」、干潟の絶滅危惧図鑑に該当するものを「学会」と表記する。

レッドリスト等掲載種の選定基準を表 6.6に、各文献別のカテゴリー区分を表 6.7に示す。

表 6.6 レッドリスト等掲載種の選定基準

No.	文献・法令名 【略号】	発行・ 施行年	編集・発行・所管
1	文化財保護法	1993	文化庁
2	絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律	1993	環境省、経済産業省および農林水産省
3	環境省第5次レッドリスト(植物・菌類) 【環】	2025	環境省自然環境局野生生物課
4	環境省第4次レッドリスト(動物) 【環】	2020	環境省自然環境局野生生物課
5	環境省版海洋生物レッドリスト 【環海】	2017	環境省自然環境局野生生物課
6	神奈川県レッドデータ生物調査報告書 【神奈川県】	2006	神奈川県立生命の星・地球博物館
7	東京都の保護上重要な野生生物種(本土部) ～東京都レッドリスト～ 【東京都】	2010	東京都環境局
8	千葉県の保護上重要な野生生物 －千葉県レッドデータブック－植物・菌類編<2017年改訂版> 【千葉県】	2009	千葉県環境生活部自然保護課
9	千葉県の保護上重要な野生生物 －千葉県レッドデータブック－動物編<2019年改訂版> 【千葉県】	2011	千葉県環境生活部自然保護課
10	干潟の絶滅危惧図鑑 【学会】	2012	日本ベントス学会

表 6.7 レッドリスト等掲載種の文献別カテゴリー区分

No.	文献名【略号】	カテゴリー名称	定義
1	文化財保護法	特天	国指定特別天然記念物
		国天	国指定天然記念物
		条天	都道府県および市町村が条例により指定する天然記念物
2	絶滅のおそれのある野生動物の種の保存に関する法律	国内	国内希少野生動物種
		緊急	緊急指定種
3 4 5	環境省第4次レッドリスト(動物) 環境省第5次レッドリスト(植物・菌類) 【環】 環境省版海洋生物レッドリスト【環海】	EX	絶滅 我が国ではすでに絶滅したと考えられる種
		EW	野生絶滅 飼育・栽培下でのみ存続している種
		CR+EN	絶滅危惧 I 類 絶滅の危機に瀕している種
		CR	絶滅危惧 I A類 ごく近い将来における絶滅の危険性が高い種
		EN	絶滅危惧 I B類 I A類ほどではないが、近い将来における絶滅のおそれが高い種
		VU	絶滅危惧 II 類 絶滅の危険が増大している種
		NT	準絶滅危惧 存続基盤が脆弱な種
		DD	情報不足 評価するだけの情報が不足している種
		LP	絶滅のおそれのある地域個体群 地域的に孤立しており、地域レベルでの絶滅のおそれが高い種
6	神奈川県レッドデータ生物調査報告書【神奈川県】	絶滅	すでに絶滅したと考えられる種
		野生絶滅	飼育・栽培下でのみ存続している種
		絶滅危惧 I 類	絶滅の危機に瀕している種
		絶滅危惧 I A類	ごく近い将来における絶滅の危険性が極めて高い種
		絶滅危惧 I B類	I A類ほどではないが、近い将来における絶滅の危険性が高い種
		絶滅危惧 II 類	絶滅の危険が増大している種
		準絶滅危惧	現時点では絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種
		減少種	かつては県内に広く分布していたと考えられる種のうち、生息地あるいは生息個体数が著しく減少している種
		希少種	生息地が狭域であるなど生息環境が脆弱な種のうち、現在は個体数をとくに減少させていないが、生息地での環境悪化によっては絶滅が危惧される種
		要注意種	前回、減少種または希少種と判定され、かつては広く分布していたのに、生息地または生息個体数が明らかに減少傾向にある種
		注目種	生息環境が特殊なもののうち、県内における衰退はめだたないが、環境悪化が生じた際には絶滅が危惧される種
		情報不足	評価するだけの情報が不足している種
		不明種	過去に不確実な記録だけが残されている種
		絶滅のおそれのある地域個体群	地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高い個体群
7	東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)～東京都レッドリスト～【東京都】	EX	絶滅 当該地域において、過去に生息していたことが確認されており、飼育・栽培下を含めすでに絶滅したと考えられるもの
		EW	野生絶滅 当該地域において、過去に生息していたことが確認されており、飼育・栽培下では存続しているが、野生ではすでに絶滅したと考えられるもの
		CR+EN	絶滅危惧 I 類 現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、野生での存続が困難なもの
		CR	絶滅危惧 I A類 ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの
		EN	絶滅危惧 I B類 I A類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの
		VU	絶滅危惧 II 類 現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧 I 類」のランクに移行することが確実と考えられるもの
		NT	準絶滅危惧 現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの
		DD	情報不足 環境条件の変化によって、容易に絶滅危惧のカテゴリーに移行し得る属性を有しているが、生息状況をはじめとして、ランクを判定するに足る情報が得られていないもの
		「*」または「*番号」	留意種 現時点では絶滅のおそれはないと判断されるため、上記カテゴリーには該当しないものの、留意が必要と考えられるもの
		○	ランク外 当該地域で生育・生息が確認されているが、上記カテゴリーに該当しないもの
		-	データ無し 当該地域において生育・生息している(していた)可能性があるが、確実な記録や情報が得られなかったもの
・	非分布 生態的、地史的な理由から、もともと当該地域には分布しないと考えられるもの。但し、鳥類では、確認記録があっても当該地域が主たる生息地ではないと判断される場合は、非分布として扱った。		
8 9	千葉県レッドデータブック植物・菌類編(2017年改訂版)動物編(2019年改訂版)【千葉県】	X	消息不明・絶滅生物 かつては生息・生育が確認されていたにもかかわらず、近年長期(およそ50年間)にわたって確実な生存情報がなく、千葉県から絶滅した可能性の強い生物。すでに保護の対象外となったかに見える生物であっても、将来、他の生息・生育地からの再定着や埋土種子の発芽などにより自然回復する可能性もあろうので、かつての生息・生育地については、現存する動物種と共に、その環境の保全に努める必要がある。
		A	最重要保護生物 個体数が極めて少ない、生息・生育環境が極めて限られている、生息・生育地のほとんどが環境改変の危機にある、などの状況にある生物。放置すれば著しい個体数の減少は避けられず、近い将来カテゴリーAへの移行が必至と考えられるもの。このカテゴリーに該当する種の個体数を減少させる影響及び要因は最大限の努力をもって軽減または排除する必要がある。
		B	重要保護生物 個体数がかなり少ない、生息・生育環境がかなり限られている、生息・生育地のほとんどが環境改変の可能性がある、などの状況にある生物。放置すれば著しい個体数の減少は避けられず、将来カテゴリーBへの移行が必至と考えられるもの。このカテゴリーに該当する種の個体数を減少させる影響及び要因は可能な限り軽減または排除する必要がある。
		C	要保護生物 個体数が少ない、生息・生育環境が限られている、生息・生育地の多くで環境改変の可能性がある、などの状況にある生物。放置すれば著しい個体数の減少は避けられず、将来カテゴリーCへの移行が必至と考えられるもの。このカテゴリーに該当する種の個体数を減少させる影響及び要因は可能な限り軽減または排除する必要がある。
		D	一般保護生物 個体数が少ない、生息・生育環境が限られている、生息・生育地の多くで環境改変の可能性がある、などの状況にある生物。放置すれば著しい個体数の減少は避けられず、自然環境の構成要素としての役割が著しく衰退する可能性があり、将来カテゴリーCへの移行することが予測されるもの。このカテゴリーに該当する種の個体数を減少させる影響は可能な限り生じないよう注意する。
10	干潟の絶滅危惧図鑑【学会】	EX	絶滅 過去に我が国に生息したことが確認されており、飼育下を含め、わが国ではすでに絶滅したと考えられる種。
		-	絶滅危惧 I 類 絶滅の危機に瀕している種。現在の状況をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、野生での存続が困難なもの。
		CR	絶滅危惧 I A類 ごく近い将来における野生で絶滅の危険性が高いもの。
		EN	絶滅危惧 I B類 I A類ほどではないが、近い将来に野生での絶滅の危険性が高いもの。
		VU	絶滅危惧 II 類 絶滅の危険が増大している種。現在の状況をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧 I 類」のランクに移行することが確実と考えられるもの。
		NT	準絶滅危惧 現時点で絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの。
		DD	情報不足 評価するだけの情報が不足している種。
		LP	絶滅のおそれのある地域個体群 地域的に孤立していつ個体群で、絶滅のおそれが高いもの。

#### 6.4. 外来種

各生物調査結果整理時には、以下の選定基準に基づき外来種を抽出した。外来種の選定基準を表 6.8に、文献別のカテゴリー区分を表 6.9に示す。

なお、環境省がリストアップしていた「要注意外来生物リスト」は平成 27 年 3 月 26 日に廃止され、同日に環境省および農林水産省が「我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト」を公表している。第 13 報、第 14 報では「要注意外来生物リスト」を使用していたが、過去の本調査で「要注意外来生物リスト」に該当した種は「我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト」でも該当するため、今回の調査では「要注意外来生物リスト」は除外した。

また、「日本における海産生物の人為的移入と分散（日本ベントス学会）」のリストに関しては、「非在来の国外移入種」を外来種として抽出した。

表 6.8 外来種の選定基準

No.	文献・法令名	発行年	編集・発行
1	特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律(外来生物法)	2004*	環境省 特定外来生物リスト ( <a href="https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/list.html">https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/list.html</a> )
2	我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト	2015	環境省および農林水産省 生態系被害防止外来種リスト ( <a href="https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/iaslist.html">https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/iaslist.html</a> )
3	日本における海産生物の人為的移入と分散：日本ベントス学会自然環境保全委員会によるアンケート調査の結果から	2004	岩崎他, 日本ベントス学会誌, 59: 22-44.

\*成立・公布年。該当種(特定外来生物)リストは随時更新されている。

表 6.9 外来種の文献別カテゴリ区分

No.	文献・法令名	カテゴリ名称	定義
1	特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律 (外来生物法)	特定外来生物	外来生物(海外起源の外来種)であって、生態系、人の生命・身体、農林水産業へ被害を及ぼすもの、又は及ぼすおそれがあるものの中から指定される
		未判定外来生物	生態系、人の生命・身体、農林水産業へ被害を及ぼす疑いがあるか、実態がよく分かっていない海外起源の外来生物
2	我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト (2015年3月26日 公表)	定着を予防する外来種 (定着予防外来種)	国内に未定着のもの。定着した場合に生態系等への被害のおそれがあるため、導入の予防や水際での監視、野外への逸出・定着の防止、発見した場合の早期防除が必要な外来種
		侵入予防外来種	国内に未侵入の種。特に導入の予防、水際での監視、バラスト水対策等で国内への侵入を未然に防ぐ必要がある。
		その他の定着予防外来種	侵入の情報はあがるが、定着は確認されていない種
		総合的に管理が必要な外来種 (総合対策外来種)	国内に定着が確認されているもの。生態系等への被害を及ぼしている又はそのおそれがあるため、国、地方公共団体、国民など各主体がそれぞれの役割において、防除(野外での取り除き、分布拡大の防止等)、遺棄、導入、逸出防止等のための普及啓発など総合的に対策が必要な種
		緊急対策外来種	「外来種被害防止行動計画」における対策の優先度の考え方に基づき、被害の深刻度に関する基準として①～④のいずれかに該当することに加え、対策の実効性、実行可能性として⑤に該当する種
		重点対策外来種	「外来種被害防止行動計画」における対策の優先度の考え方に基づき、被害の深刻度に関する基準として①～④のいずれかに該当する種
		その他の総合対策外来種	-
	産業管理外来種	産業又は公益的役割において重要で、代替性がなく、その利用にあたっては適切な管理を行うことが必要な外来種	
3	日本における海産生物の人為的移入と分散: 日本ベントス学会 自然環境保全委員会によるアンケート調査の結果から	非在来の国外移入種	-
		在来種だが国外移入が確認された種	-
		国外移入の可能性のある起源不明種	-
		情報不足	-
		分類上の問題がある起源不明種	-
		自然移入	-
		在来種	-

※緊急対策外来種、重点対策外来種における対策の優先度の考え方の基準 (被害の深刻度)

- ①生態系に係る潜在的な影響・被害が特に甚大
- ②生物多様性保全上重要な地域に侵入・定着し被害をもたらす可能性が高い
- ③絶滅危惧種等の生息・生育に甚大な被害を及ぼす可能性が高い
- ④人の生命・身体や農林水産業等社会経済に対して甚大な被害を及ぼす

(対策の実効性、実行可能性)

- ⑤防除手法が開発されている、又は開発される見込みがある等、一定の知見があり、対策の目標を立て得る

6.5. 生物の分類同定に使用した文献等

各生物群の分類同定に用いた文献一覧を表 6.10～表 6.13に示す。

表 6.10 海草・海藻の分類同定に用いた文献一覧

No.	文献名	編著者	発行年	出版社
1	新日本海藻誌	吉田忠生	1998	内田老鶴圃
2	学研生物図鑑 海藻	千原光雄	1983	学習研究社
3	標準原色図鑑全集15 海藻・海浜植物	千原光雄	1970	保育社
4	基本284 日本の海藻	田中次郎	2004	平凡社
5	日本産海藻目録(2015年改訂版) 藻類 第63巻 第3号	吉田忠生	2015	日本藻類学会 http://sourui.org/publications/sourui/list/63

表 6.11 海岸動物・底生動物の分類同定に用いた文献一覧

I. 分類体系の根拠文献(主に分類群全体の分類体系を参照し、種別の同定の根拠にも使用した)

No.	文献名	対象分類群	編著者	発行年	出版社,雑誌名など
1	原色検索 日本海岸動物図鑑 I・II	海産無脊椎動物全般	西村三郎	1992 1995	保育社
2	日本近海産貝類図鑑	海産軟体動物門全般	奥谷喬司	2000	東海大学出版会
3	The Polychaete Worms Definitions and keys to the Orders, Families and Genera	多毛綱全般	Kristian Fauchald	1977	Natural History Museum of Los Angeles County
4	A Catalogue of Gammaridean and Ingolfiellidean Amphipoda Recorded from the Vicinity of Japan	端脚目 ヨコエビ 罎目他	Shin-ichi Ishimaru	1994	Rep. Sado Mar. Biol. Stat., Niigata Univ., No.24 pp.29-86
5	海洋生物の多様性と分布情報のデータベース	海洋生物全般	<a href="https://www.godac.jamstec.go.jp/bismal/j/">https://www.godac.jamstec.go.jp/bismal/j/</a>		

II. 種別の同定に用いた根拠文献(種名変遷の根拠文献も含む)

No.	文献名	対象分類群、種名等 (種名等変更履歴)	編著者	発行年	出版社,雑誌名など
1	<i>Paraprionospio</i> 属多毛類の分類と系統	ハネエラスピオ属	横山寿	2007	海洋と生物 172.vol29.no.5
2	神奈川近海の干潟・汽水域に産する環形動物多毛類	多毛綱	西 栄二郎・田中克彦	2007	神奈川自然誌資料 (28):101-107
3	Taxonomic studies on the shallow water Gammaridean Amphipoda of west Kyushu, Japan II Corophidae	トログダムシ属	Akira HIRAYAMA	1984	Publ.Seto Mar.Biol.Lab.,39(1/3) .1-92
4	Two Specise of the Genus <i>Melita</i> (Crustacea:Amphipoda) from Brackish Waters in Japan	ヒゲツノメタヨコエビ シミズメタヨコエビ	Yamato,Shigeyuki	1988	Publ.Seto Mar.Biol.Lab.,33(1/3) .79-95
5	日本産モクス'ヨコエビ'科端脚類の分類学的研究 I. <i>Hyale</i> 属 の3新種	フサゲ'モクス' ウツカ'モクス'	樋渡武彦・梶原 武	1981	動物分類学会誌, 20
6	原色甲殻類検索図鑑	甲殻類全般	武田 正倫	1982	北隆館
7	原色日本大型甲殻類図鑑 I・II	十脚目、口脚目	三宅 貞祥	1982 1983	保育社
8	日本産エビ'類の分類と生態	十脚目(エビ'類)	林 健一	1981~	生物研究社 海洋と生物に連載
9	新・付着生物研究法	付着生物全般	日本付着生物学会編	2017	恒星社厚生閣
10	Resurrection of the genus <i>Nectoneanthes</i> Imajima, 1972 (Nereididae: Polychaeta), with redescription of <i>Nectoneanthes oxypoda</i> (Marenzeller, 1879) and description of a new species, comparing them to <i>Neanthes succinea</i> (Leuckart, 1847)	オウギ'ゴカイ (第14報より種小名 <i>latipoda</i> を <i>oxypoda</i> に変更 した)	Sato, Masanori	2013	Journal of Natural History, 47: 1-50
11	日本産ミス'ヒキ'ゴカイ科・ハボウ'ヒキ'ゴカイ科の分類の現状	ミス'ヒキ'ゴカイ (第15報より種小名 <i>tentaculata</i> をcf. <i>comosa</i> に変更した)	自見 直人	2016	月刊海洋 号外 No.57
12	日本産エビ'類の分類と生態(168)	エビ'シヤコ属 (第15報よりウタエビ'シヤコを <i>タルマエビ'シヤコ</i> に変更した)	林 健一	2009	海洋と生物 185.vol31.no.6

表 6.12 魚類の分類同定に用いた文献一覧

No.	文献名	編著者	発行年	出版社
1	日本産魚類検索 全種の同定 第三版	中坊徹次	2013	東海大学出版会
2	日本産魚類大図鑑	益田一・尼岡邦夫・荒賀忠一・上野輝彌・吉野哲夫	1984	東海大学出版会
3	日本産稚魚図鑑 第二版	沖山宗雄	2014	東海大学出版会
4	山溪カラー名鑑 日本の海水魚	岡村収・尼岡邦夫	1997	山と溪谷社
5	海の魚大図鑑 釣りが、魚が、海が、もっと楽しくなる	石川皓章・瀬能宏	2010	日東書院
6	日本魚類学会	<a href="https://www.fish-isj.jp/">https://www.fish-isj.jp/</a>		
7	日本産魚類全種目録 これまでに記録された日本産魚類全種の現在の標準和名と学名	本村浩之	2020	鹿児島大学 総合研究博物館

表 6.13 プランクトンの分類同定に用いた文献一覧

No.	文献名	編著者	発行年	出版社
1	日本産海洋プランクトン検索図説	千原光雄・村野正昭	1997	東海大学出版会
2	日本産海洋プランクトン図鑑	山路勇	1966	保育社
3	日本海洋データセンター	<a href="http://www.jodc.go.jp/jodcweb/index_j.html">http://www.jodc.go.jp/jodcweb/index_j.html</a>		
4	JAMBIO沿岸生物データベース	<a href="https://www.shimoda.tsukuba.ac.jp/~marinelife-db/">https://www.shimoda.tsukuba.ac.jp/~marinelife-db/</a>		
5	原生生物151～大系統分類から眺める原生生物の世界～	<a href="https://sites.google.com/site/protozoogarden/protozoogarden3_41">https://sites.google.com/site/protozoogarden/protozoogarden3_41</a>		

## 7. 調査結果

### 7.1. 海草・海藻

#### 7.1.1. 概要

海草・海藻種組成を図 7.1に、地点別種類数を図 7.2に、時季別種類数を図 7.3に、出現種一覧を表 7.1に示した。

秋季、冬季調査および春季調査で出現した海草・海藻は、計 47 種類（海草類 2 種、藍藻綱 2 種類、緑藻綱 11 種類、褐藻綱 7 種類、珪藻綱 1 種類、紅藻綱 24 種類）であった。なお、出現種類には、目視観察のみで確認した種も含めた。

地点別の種類数は、9～28 種類で、野島水路で最も多く、鶴見川河口で最も少なかった。

時季別の種類数は、秋季調査で 15 種類、冬季調査で 41 種類、春季調査で 30 種類であった。

レッドリスト等掲載種として、コアマモ、アマモおよびホソアヤギヌの 3 種を確認した。

海の公園、野島公園などに過去の調査で見られたアオサ類が大量に発生して漂着する「グリーンタイド」は、今回の調査では年間を通して観察されなかった。

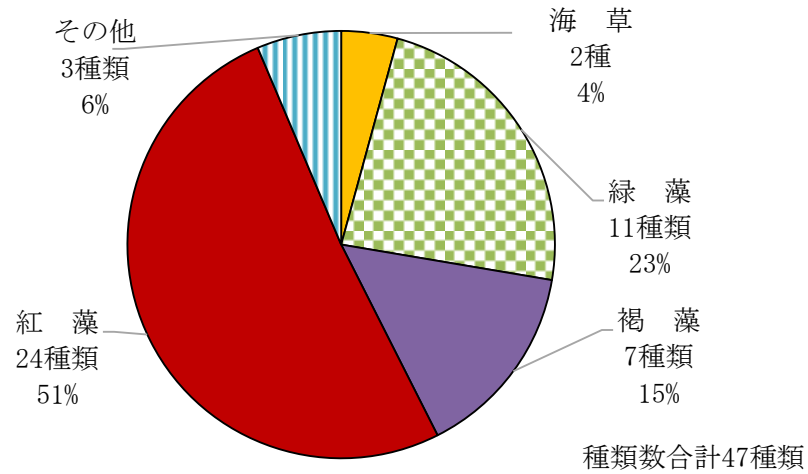


図 7.1 海草・海藻種組成

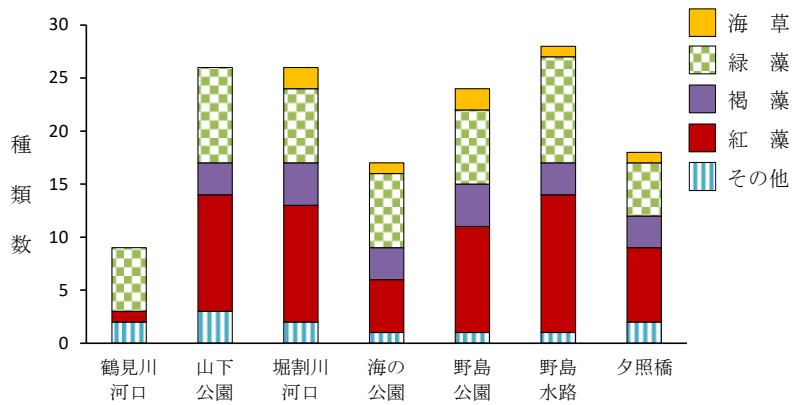


図 7.2 海草・海藻地点別種類数

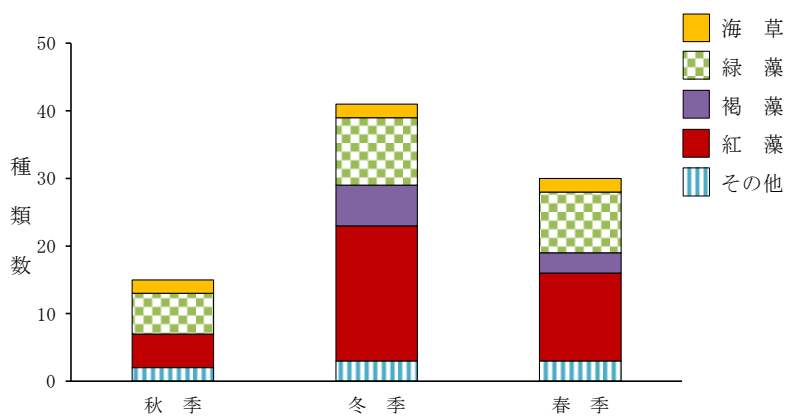


図 7.3 海草・海藻時季別種類数

表 7.1 海草・海藻出現種一覧

調査日：(秋季)2024年10月25、28、29、30日  
 (冬季)2025年 2月14、17日  
 (春季)2025年 4月22、23、25、5月12日

採取方法：スレーパー

No.	門	綱	目	科	学名	和名	地点							時季			レッドリスト等掲載種	外来種	
							鶴見川河口	山下公園	堀割川河口	海の公園	野島公園	野島水路	夕照橋	秋季	冬季	春季			
1	種子植物	単子葉植物	オモダカ	アマモ	<i>Zostera japonica</i>	コアマモ			(○)		(○)			○	○	○	○		
2					<i>Zostera marina</i>	アマモ			(○)	○	○			○	○	○	○		
3	藍色植物	藍藻	クロオコックス		CHROOCOCCALES	クロオコックス目		○							○	○	○		
4			ユレモ		OSCILLATORIALES	ユレモ目	○	○						○	○	○	○		
5	緑色植物	緑藻	ヒビミドロ		ULOTRICHALES	ヒビミドロ目	○	○						○	○	○	○		
6			アオサ	モツキトエグサ	<i>Blidingia sp.</i>	ヒメアオノリ属	○	○	○					○		○			
7			アオサ		<i>Ulva compressa</i>	ヒラアオノリ	○	○	○					○	○	○			
8					<i>Ulva intestinalis</i>	ボウアオノリ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
9					<i>Ulva linza</i>	ウスバアオノリ				○	○	○	(○)			○			
10					<i>Ulva prolifera</i>	スジアオノリ	○	○								○	○		
11					<i>Ulva sp.</i>	アオサ属	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
12			シオグサ	シオグサ	<i>Cladophora sp.</i>	シオグサ属		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
13			ミル		<i>Codium fragile</i>	ミル		○	○	○	○	○	○			○	○		
14			ハネモ	ハネモ	<i>Bryopsis sinicola</i>	ウチウミハネモ		○	○	○	○	○	○			○	○		
15					<i>Bryopsis sp.</i>	ハネモ属			○	○	○	○	○			○	○		
16	不等毛植物	褐藻	シオミドロ	シオミドロ	<i>Ectocarpus sp.</i>	シオミドロ属		○			○	○				○			
17			カヤモノリ	カヤモノリ	<i>Colpomenia sinuosa</i>	フクロノリ				(○)						(○)			
18					<i>Petalonia fascia</i>	セイヨウハバノリ		○	○	○	○	○	○			○			
19					<i>Scytosiphon lomentaria</i>	カヤモノリ					○	○				○			
20			コンブ	チガイノ	<i>Undaria pinnatifida</i>	ワカメ		○	○	(○)	(○)					○	○		
21					LAMINARIALES	コンブ目			○	○						○			
22			ヒバマタ	ホンダワラ	<i>Sargassum horneri</i>	アカモク			(○)						(○)	(○)	(○)		
23			珪藻		BACILLARIOPHYCEAE	珪藻綱	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
24	紅色植物	紅藻	ウシケノリ	ウシケノリ	<i>Pyropia yezoensis</i>	スサビノリ		○	○	○	○	○				○			
25			アクロカエティウム	アクロカエティウム	Acrochaetiaceae	アクロカエティウム科			○							○			
26			テングサ	テングサ	<i>Gelidium elegans</i>	マクサ							(○)			(○)			
27			スギノリ	イソモッカ	<i>Caulacanthus ustulatus</i>	イソダシツウ		○	○					○	○	○	○		
28				スギノリ	<i>Chondracanthus chamissoi</i>	シキンノリ					○					○			
29					<i>Chondrus sp.</i>	ツノマタ属		○								○			
30			ムカデノリ		<i>Grateloupia elliptica</i>	タンバノリ		○						(○)			○		
31					<i>Grateloupia lanceolata</i>	フダラク		○	○		○	○				○	○		
32					<i>Grateloupia livida</i>	ヒラムカデ		○	○		○	○	○	○	○	○	○		
33					<i>Grateloupia turuturu</i>	ツルツル		○								○			
34					<i>Grateloupia sp.</i>	ムカデノリ属					○					○			
35			ベニスナゴ		<i>Schizymenia dubyi</i>	ベニスナゴ						○				○			
36			オゴノリ	オゴノリ	<i>Gracilaria textorii</i>	カバノリ					○	○				○	○		
37					<i>Gracilaria vermiculophylla</i>	オゴノリ						○	○			○			
38					<i>Gracilaria sp.</i>	オゴノリ属				○		○	○	○	○	○	○		
39			マサゴシバリ	フシツナギ	<i>Lomentaria catenata</i>	フシツナギ					○	○				○	○		
40				マサゴシバリ	<i>Chrysmenia sp.</i>	タオヤギソウ属		○	○		○	○				○	○		
41					<i>Rhodymenia intricata</i>	マサゴシバリ					○	○				○	○		
42			イギス	イギス	<i>Antithamion sp.</i>	フタツガサネ属		○	○	○						○	○		
43					<i>Ceramium sp.</i>	イギス属			○							○			
44			ダシ		<i>Dasya sessilis</i>	エナシダシ			○	○						○			
45			コノハノリ		<i>Caloglossa ogasawaraensis</i>	ホソアヤギス		○							○	○	○	○	
46			フジマツモ		<i>Polysiphonia senticulosa</i>	ショウジョウケノリ		○	○	○	○	○	○			○	○		
47					<i>Polysiphonia sp.</i>	イトグサ属			○	○						○	○		
							種類数	9	26	17	24	28	18	15	41	30	3	該当種なし	

注1) ○は採取・目視観察により出現したことを示す。

注2) ( )付きの表示は海底に漂着した状態(流れ藻)を示す。

注3) 学名及び分類は日本産海藻目録(2015年改訂版)に準拠した。

注4) 珪藻綱は多様な種が含まれるが、付着性の珪藻綱のブルーム(大量増殖)を目視で確認した場合に、種レベルの識別は行わず、便宜上珪藻綱を1種として記録した。

7.1.2. 地点ごとの季節変化

① 鶴見川河口

鶴見川河口における観察結果を表 7.2～表 7.4に示す。出現種類数は、秋季調査で紅藻綱 1 種、冬季調査で藍藻綱 1 種類、緑藻綱 5 種類、珪藻綱 1 種類、紅藻綱 1 種の計 8 種類、春季調査で藍藻綱 1 種類、緑藻綱 4 種類、紅藻綱 1 種の計 6 種類であった。冬季調査で最も多くの種類が出現した。

測線上の着生基盤は礫、貝片であった。

レッドリスト等掲載種であるホソアヤギヌは、鋼矢板や鉄杭を着生基盤として、潮間帯上部から中部に帯状分布しているのを観察した（写真 7.1）。



写真 7.1 ホソアヤギヌ着生基盤（鋼矢板）と着生状況（冬季）

表 7.2 鶴見川河口における海草・海藻の観察結果（秋季）

観察方法：方形枠(50cm×50cm)内を観察  
単 位：%（被 度）

No.	門	綱	目	科	和名	調査日							測線周辺での目視または検体採取による出現	レッドリスト等掲載種
						2024年10月30日								
						基点からの距離(m)								
						底質	観察層	10.0	12.5	16.0	28.0	34.8		
						貝片・砂	貝片・砂	貝片・大礫	貝片・巨礫	泥・巨礫	泥・貝片	貝片・泥		
						高潮帯	平均水面付近	低潮帯		潮下帯				
						A.P.	A.P.	A.P.	A.P.	A.P.	A.P.	A.P.		
						+2.0m	+1.5m	+1.0m	+0.5m	±0.0m	-0.5m	-1.0m		
1	紅色植物	紅藻	イギス	コノハノリ	ホソアヤギヌ								○	○
					種 類 数	出現せず	出現せず	出現せず	出現せず	出現せず	出現せず	出現せず	1	1

注1)○は採取・目視による出現を示す。

注2)学名及び分類順は日本産海藻目録(2015年改訂版)に準拠した。

表 7.3 鶴見川河口における海草・海藻の観察結果（冬季）

観察方法：方形枠(50cm×50cm)内を観察  
単 位：%（被 度）

No.	門	綱	目	科	和 名	調査日 2025年2月14日							測線周辺 での目視 または検体 採取による 出現	レッドリスト 等掲載種
						基点からの距離(m)								
						10.0	12.5	16.0	28.0	34.8	35.1	36.5		
						底質 観察層	底質 観察層	底質 観察層	底質 観察層	底質 観察層	底質 観察層	底質 観察層		
						高潮帯	平均水面付近	低潮帯	潮下帯					
						A.P. +2.0m	A.P. +1.5m	A.P. +1.0m	A.P. +0.5m	A.P. ±0.0m	A.P. -0.5m	A.P. -1.0m		
1	藍色植物	藍藻	ユレモ		ユレモ目					+	+		○	
2	緑色植物	緑藻	ヒビミドロ		ヒビミドロ目			5	+				○	
3			アオサ	アオサ	ヒラアオリ								○	
4					ボウアオリ		(+)	+	+				○	
5					スジアオリ								○	
6					アオサ属								○	
7	不等毛植物	珪藻			珪藻綱			+			+		○	
8	紅色植物	紅藻	イギス	コノハノリ	ホソアヤギヌ								○	○
種 類 数						出現せず	1	3	2	1	2	出現せず	8	1

注1) +は被度5%未満を示す。

注2) ○は採取・目視による出現を示す。

注3) ( )付きの表示は海底に漂着した状態(流れ藻)を示す。

注4) 学名及び分類順は日本産海藻目録(2015年改訂版)に準拠した。

注5) 珪藻綱は多様な種が含まれるが、付着性の珪藻綱のブルーム(大量増殖)を目視で確認した場合に、種レベルの識別は行わず、便宜上珪藻綱を1種として記録した。

表 7.4 鶴見川河口における海草・海藻の観察結果（春季）

観察方法：方形枠(50cm×50cm)内を観察  
単 位：%（被 度）

No.	門	綱	目	科	和 名	調査日 2025年4月23日							測線周辺 での目視 または検体 採取による 出現	レッドリスト 等掲載種
						基点からの距離(m)								
						10.0	12.5	15.6	25.0	32.8	35.0	37.0		
						底質 観察層	底質 観察層	底質 観察層	底質 観察層	底質 観察層	底質 観察層	底質 観察層		
						高潮帯	平均水面付近	低潮帯	潮下帯					
						A.P. +2.0m	A.P. +1.5m	A.P. +1.0m	A.P. +0.5m	A.P. ±0.0m	A.P. -0.5m	A.P. -1.0m		
1	藍色植物	藍藻	ユレモ		ユレモ目				+				○	
2	緑色植物	緑藻	ヒビミドロ		ヒビミドロ目				+				○	
3			アオサ	モンキヒトエグサ	ヒメアオリ属								○	
4				アオサ	ボウアオリ				+				○	
5					アオサ属				+	+			○	
6	紅色植物	紅藻	イギス	コノハノリ	ホソアヤギヌ				+				○	○
種 類 数						出現せず	出現せず	出現せず	5	1	出現せず	出現せず	5	1

注1) +は被度5%未満を示す。

注2) ○は採取・目視による出現を示す。

注3) 学名及び分類順は日本産海藻目録(2015年改訂版)に準拠した。

②山下公園

山下公園における観察結果を表 7.5～表 7.7に示す。出現種類数は、秋季調査で藍藻綱 1 種類、緑藻綱 4 種類、珪藻綱 1 種類、紅藻綱 2 種の計 8 種類、冬季調査で藍藻綱 1 種類、緑藻綱 5 種類、褐藻綱 2 種、珪藻綱 1 種類、紅藻綱 8 種類の計 17 種類、春季調査で藍藻綱 2 種類、緑藻綱 4 種類、褐藻綱 2 種類、珪藻綱 1 種類、紅藻綱 8 種類の計 17 種類であった。着生基盤は石積み、コンクリート護岸、巨礫であった。冬季調査では護岸部付近に褐藻植物のワカメが着生しているのを観察した（写真 7.2）。



写真 7.2 ワカメの着生状況（冬季）

表 7.5 山下公園における海草・海藻の観察結果（秋季）

観察方法：方形枠(50cm×50cm)内を観察  
単 位：％(被 度)

No.	門	綱	目	科	調査日 基点からの距離(m) 底 質 観察層 和 名	2024年10月29日							測線周辺 での目視 または検体 採取による 出現	レッドリスト 等掲載種
						0	0	0.3	3.0	3.3	3.6	10.2		
						護岸	護岸	護岸	護岸	護岸	貝片・護岸	貝片・泥		
						高潮帯	平均水面付近	低潮帯	潮下帯					
						A.P.	A.P.	A.P.	A.P.	A.P.	A.P.			
						+2.0m	+1.5m	+1.0m	+0.5m	±0.0m	-0.5m	-1.0m		
1	藍色植物	藍藻	ユレモ		ユレモ目								○	
2	緑色植物	緑藻	ヒビミドロ		ヒビミドロ目		+		+					
3			アオサ	モツキヒトエグサ	ヒメアオノリ属		+		+				○	
4			アオサ		ヒラアオノリ		+	+						
5			シオグサ	シオグサ	シオグサ属						+			
6	不等毛植物	珪藻			珪藻綱					+		+		
7	紅色植物	紅藻	スギノリ	イソモッカ	イソダンツウ				+				○	
8				ムカデノリ	ヒラムカデ					+	+		○	
種 類 数						出現せず	3	2	2	2	2	1	4	出現せず

注1) +は被度5%未満を示す。

注2) ○は採取・目視による出現を示す。

注3) 学名及び分類順は日本産海藻目録(2015年改訂版)に準拠した。

注4) 珪藻綱は多様な種が含まれるが、付着性の珪藻綱のブルーム(大量増殖)を目視で確認した場合に、種レベルの識別は行わず、便宜上珪藻綱を1種として記録した。

表 7.6 山下公園における海草・海藻の観察結果（冬季）

観察方法：方形枠(50cm×50cm)内を観察  
単 位：％(被 度)

No.	門	綱	目	科	和名	調査日 2025年2月14日								測線周辺での目視 または検体 採取による 出現	レッドリスト 等掲載種				
						基点からの距離(m)													
						0		0.3		3.0		3.3				3.6		10.2	
						護岸 高潮帯	護岸 平均水面付近	護岸 護岸	護岸 護岸	護岸 低潮帯	護岸 護岸	巨礫・貝片 潮下帯	貝片・砂						
A.P.		A.P.		A.P.		A.P.		A.P.		A.P.									
+2.0m		+1.5m		+1.0m		+0.5m		±0.0m		-0.5m		-1.0m							
1	藍色植物	藍藻	クロオコックス	クロオコックス目	クロオコックス目	20	+							○					
2	緑色植物	緑藻	アオサ	アオサ	ボウアオリ									○					
3					アオサ属		+												
4			シオグサ	シオグサ	シオグサ属				+					○					
5			ミル	ミル	ミル					+				○					
6			ハネモ	ハネモ	ウチウミハネモ						+	+		○					
7	不等毛植物	褐藻	カヤモリ	カヤモリ	セイヨウハバノリ									○					
8			コンブ	チガイソ	ワカメ									○					
9					珪藻綱			5	10	+	10	5	+	○					
10	紅色植物	紅藻	ウシケリ	ウシケリ	スサビノリ			+	5					○					
11			スギノリ	イソモッカ	イソダンツウ			+	+					○					
12				ムカデノリ	フダラク								+	○					
13					ヒラムカデ						+	10		○					
14					ツルツル									○					
15			マサゴシバリ	マサゴシバリ	タオヤギソウ属									○					
16			イギス	イギス	フタツガサネ属					+	+			○					
17			フジマツモ	フジマツモ	ショウジョウケリ						+	5		○					
種 類 数						1	5	3	2	4	5	4	15	出現せず					

注1) +は被度5%未満を示す。

注2) ○は採取・目視による出現を示す。

注3) 学名及び分類順は日本産海藻目録(2015年改訂版)に準拠した。

注4) 珪藻綱は多様な種が含まれるが、付着性の珪藻綱のブルーム(大量増殖)を目視で確認した場合に、種レベルの識別は行わず、便宜上珪藻綱を1種として記録した。

表 7.7 山下公園における海草・海藻の観察結果（春季）

観察方法：方形枠(50cm×50cm)内を観察  
単 位：％(被 度)

No.	門	綱	目	科	和名	調査日 2025年4月23日								測線周辺での目視 または検体 採取による 出現	レッドリスト 等掲載種				
						基点からの距離(m)													
						0		0.3		3.0		3.3				3.6		10.2	
						護岸 高潮帯	護岸 平均水面付近	護岸 護岸	護岸 護岸	護岸 低潮帯	護岸 護岸	巨礫・貝片 潮下帯	泥・貝片						
A.P.		A.P.		A.P.		A.P.		A.P.		A.P.									
+2.0m		+1.5m		+1.0m		+0.5m		±0.0m		-0.5m		-1.0m							
1	藍色植物	藍藻	クロオコックス	クロオコックス目	クロオコックス目									○					
2			ユレモ	ユレモ目	ユレモ目					+		+							
3	緑色植物	緑藻	アオサ	アオサ	スジアオリ					+		+		○					
4					アオサ属			20	+	+				○					
5			シオグサ	シオグサ	シオグサ属					+				○					
6			ミル	ミル	ミル					+	5	+		○					
7	不等毛植物	褐藻	シオミドロ	シオミドロ	シオミドロ属									○					
8			コンブ	チガイソ	ワカメ									○					
9					珪藻綱					+	+			○					
10	紅色植物	紅藻	スギノリ	イソモッカ	イソダンツウ					+									
11				スギノリ	ツノマタ属					+	+								
12				ムカデノリ	タンバノリ									○					
13					フダラク							+							
14					ヒラムカデ					+	+	+		○					
15			マサゴシバリ	マサゴシバリ	タオヤギソウ属									○					
16			イギス	イギス	フタツガサネ属					+	+			○					
17			フジマツモ	フジマツモ	イトグサ属					+	+			○					
種 類 数						出現せず	1	5	1	6	4	5	12	出現せず					

注1) +は被度5%未満を示す。

注2) ○は採取・目視による出現を示す。

注3) 学名及び分類順は日本産海藻目録(2015年改訂版)に準拠した。

注4) 珪藻綱は多様な種が含まれるが、付着性の珪藻綱のブルーム(大量増殖)を目視で確認した場合に、種レベルの識別は行わず、便宜上珪藻綱を1種として記録した。

③堀割川河口

堀割川河口における観察結果を表 7.8～表 7.10に示す。出現種類数は、秋季調査で緑藻綱 3 種類、紅藻綱 2 種の計 5 種類、冬季調査で藍藻綱 1 種類、緑藻綱 5 種類、褐藻綱 2 種類、珪藻綱 1 種類、紅藻綱 8 種類の計 17 種類、春季調査で海草類 2 種、藍藻綱 1 種類、緑藻綱 5 種類、褐藻綱 2 種、紅藻綱 4 種類の計 14 種類であった。着生基盤はコンクリート垂直護岸、石組緩傾斜護岸、浮き桟橋の水線付近、潮間帯下部に散在した人頭大の捨石などであった。年間を通して護岸付近にヒラムカデが着生していた（写真 7.3）。



写真 7.3 ヒラムカデの着生状況（秋季）

表 7.8 堀割川河口における海草・海藻の観察結果（秋季）

観察方法：方形枠(50cm×50cm)内を観察  
単 位：%（被 度）

No.	門	綱	目	科	和名	調査日 2024年10月29日							測線周 辺での目視 または検体 採取による 出現	レッドリス ト等掲載種			
						基点からの距離(m)									泥・砂		
						0		0		0		1.2				3.0	
						護岸	護岸	護岸	護岸	護岸	護岸	護岸					潮下帯
高潮帯		平均水面付近		低潮帯													
A.P. +2.0m		A.P. +1.5m		A.P. +1.0m		A.P. +0.5m		A.P. ±0.0m		A.P. -0.5m		A.P. -1.0m					
1	緑色植物	緑藻	アオサ	モンキヒトエグサ	ヒメアオリ属								○				
2				アオサ	アオサ属								○				
3				シオグサ	シオグサ属								○				
4	紅色植物	紅藻	スギノリ	イソモッカ	イソダンツウ								○				
5				ムカデノリ	ヒラムカデ								○				
種 類 数						出現せず	出現せず	出現せず	出現せず	出現せず	出現せず	出現せず	5	出現せず			

注1) ○は採取・目視による出現を示す。

注2) 学名及び分類順は日本産海藻目録(2015年改訂版)に準拠した。

表 7.9 堀割川河口における海草・海藻の観察結果（冬季）

観察方法：方形枠(50cm×50cm)内を観察  
単 位：% (被 度)

No.	門	綱	目	科	和名	調査日 2025年2月14日 基点からの距離(m)								測線周 辺での目視 または検体 採取による 出現	レッドリス ト等掲載種		
						0		0		0		1.2				3.0	
						護岸	護岸	護岸	護岸	護岸	護岸	護岸	泥・貝片			砂	貝片
						高潮帯	平均水面付近	低潮帯	低潮帯	潮下帯	潮下帯	A.P.	A.P.				
1	藍色植物	藍藻	ユレモ	ユレモ目													
2	緑色植物	緑藻	アオサ	アオサ	ボウアオノリ			+						○			
3					アオサ属			+									
4			シオグサ	シオグサ	シオグサ属									○			
5			ハネモ	ハネモ	ウチウミハネモ			5	5		+	+		○			
6					ハネモ属									○			
7	不等毛植物	褐藻	カヤモノリ	カヤモノリ	セイヨウハバノリ			+						○			
8			コンブ	コンブ目										○			
9		珪藻		珪藻綱				+	20	10	+	5	+	○			
10	紅色植物	紅藻	ウシケノリ	ウシケノリ	スサビノリ			+						○			
11			アクロカエティウム	アクロカエティウム	アクロカエティウム科									○			
12			スギノリ	ムカデノリ	フダラク				+	+	+			○			
13					ヒラムカデ					+	+			○			
14			マサゴシバリ	マサゴシバリ	タオヤギソウ属									○			
15			イギス	イギス	イギス属									○			
16			ダジア	ダジア	エナシダジア									○			
17			フジマツモ	フジマツモ	ショウジョウケノリ				40	90	30	+		○			
種類数						出現せず	3	5	4	4	6	3	15	出現せず			

注1) +は被度5%未満を示す。

注2) ○は採取・目視による出現を示す。

注3) 学名及び分類順は日本産海藻目録(2015年改訂版)に準拠した。

注4) 珪藻綱は多様な種が含まれるが、付着性の珪藻綱のブルーム(大量増殖)を目視で確認した場合に、種レベルの識別は行わず、便宜上珪藻綱を1種として記録した。

表 7.10 堀割川河口における海草・海藻の観察結果（春季）

観察方法：方形枠(50cm×50cm)内を観察  
単 位：% (被 度)

No.	門	綱	目	科	和名	調査日 2025年5月12日 基点からの距離(m)								測線周 辺での目視 または検体 採取による 出現	レッドリス ト等掲載種		
						0		0		0		1.2				3.0	
						護岸	護岸	護岸	護岸	護岸	護岸	泥・貝片	砂			貝片	
						高潮帯	平均水面付近	低潮帯	低潮帯	潮下帯	潮下帯	A.P.	A.P.				
1	種子植物	単子葉植物	オモダカ	アマモ	コアアマモ									(○)	○		
2					アマモ									(○)	○		
3	藍色植物	藍藻	ユレモ	ユレモ目			+	+	+								
4	緑色植物	緑藻	アオサ	アオサ	アオサ属			+	+	+				○			
5			シオグサ	シオグサ	シオグサ属									○			
6			ミル	ミル	ミル						+			○			
7			ハネモ	ハネモ	ウチウミハネモ									○			
8					ハネモ属									○			
9	不等毛植物	褐藻	コンブ	チガイソ	ワカメ									○			
10			ヒバマタ	ホンダワラ	アカモク									(○)			
11	紅色植物	紅藻	スギノリ	イソモッカ	イソダンツウ									○			
12				ムカデノリ	ヒラムカデ					+	+			○			
13			イギス	イギス	フタツガサネ属					+	+			○			
14			フジマツモ	フジマツモ	イトグサ属									○			
種類数						出現せず	出現せず	2	2	4	3	出現せず	13	2			

注1) +は被度5%未満を示す。

注2) ○は採取・目視による出現を示す。

注3) ( )付きの表示は海底に漂着した状態(流れ藻)を示す。

注4) 学名及び分類順は日本産海藻目録(2015年改訂版)に準拠した。

④海の公園

海の公園における観察結果を表 7.11～表 7.13に示す。出現種類数は、秋季調査で海草類 1 種、緑藻綱 1 種類、紅藻綱 1 種類の計 3 種類、冬季調査で海草類 1 種、緑藻綱 7 種類、褐藻綱 3 種、珪藻綱 1 種類、紅藻綱 5 種類の計 17 種類、春季調査で海草類 1 種、緑藻綱 2 種類、紅藻綱 1 種類の計 4 種類であった。海の公園地先は遠浅の砂浜海岸で、底質は主に砂であった。着生基盤は主に貝片であった。冬季調査時にスサビノリが着生していたのは地点北西側の砂浜を囲む石積み護岸であった（写真 7.4）。

レッドリスト等掲載種である海草類のアマモは、年間を通して基点からの距離 100m 付近で出現した。また、アマモの実生（発芽して間もない小型の株）を観察した（写真 7.5）。



写真 7.4 スサビノリの着生状況 (冬季)



写真 7.5 アマモ (実生) の生育状況 (冬季)

表 7.11 海の公園における海草・海藻の観察結果 (秋季)

観察方法：方形枠 (50cm×50cm) 内を観察  
単 位：% (被 度)

No.	門	綱	目	科	和名	調査日 2024年10月25日							測線周 辺での目視 または検体 採取による 出現	レッドリス ト等掲載種	
						基点からの距離(m)									
						底質		砂		砂・貝片		砂・小礫			
						観察層		高潮帯		平均水面付近		低潮帯			潮下帯
		A.P.	A.P.	A.P.	A.P.	A.P.	A.P.	A.P.	A.P.	A.P.					
		+2.0m	+1.5m	+1.0m	+0.5m	±0.0m	-0.2m	-0.5m							
1	種子植物	単子葉植物	オモダカ	アマモ	アマモ									○	○
2	緑色植物	緑藻	アオサ	アオサ	アオサ属	(+)			+	+				○	
3	紅色植物	紅藻	オゴノリ	オゴノリ	オゴノリ属	(+)								○	
種 類 数						2	出現せず	出現せず	1	1	出現せず	出現せず	3	1	

注1) +は被度5%未満を示す。

注2) ○は採取・目視による出現を示す。

注3) ( )付きの表示は海底に漂着した状態(流れ藻)を示す。

注4) 学名及び分類順は日本産海藻目録(2015年改訂版)に準拠した。

表 7.12 海の公園における海草・海藻の観察結果（冬季）

観察方法：方形枠(50cm×50cm)内を観察  
単 位：%（被 度）

No.	門	綱	目	科	和 名	調査日 2025年2月17日							測線周 辺での目視 または検体 採取による 出現	レッドリス ト等掲載種				
						基点からの距離(m)												
						10.6	13.7	18.6	27.0	50.0	100.0	130.0						
						底 質 観察層	砂	砂	砂・貝片	砂・貝片	砂・貝片	砂・貝片			砂・貝片			
高潮帯		平均水面付近		低潮帯		潮下帯												
A.P. +2.0m		A.P. +1.5m		A.P. +1.0m		A.P. +0.5m		A.P. ±0.0m		A.P. -0.2m		A.P. -0.5m						
1	種子植物	単子葉植物	オモダカ	アマモ	アマモ								○	○				
2	緑色植物	緑藻	アオサ	アオサ	ヒラアオリ								○					
3					ボウアオリ								○					
4					ウスバアオリ								○					
5					アオサ属			(+)	10									
6					シオグサ	シオグサ	シオグサ属											
7					ハネモ	ハネモ	ウチウミハネモ									○		
8							ハネモ属											
9	不等毛植物	褐藻	カヤモノリ	カヤモノリ	フクロノリ								(○)					
10					セイヨウハバノリ										○			
11					コシブ	チガイソ	ワカメ									(○)		
12					珪藻		珪藻綱											
13	紅色植物	紅藻	ウシケリ	ウシケリ	スサビノリ									○				
14					オゴノリ	オゴノリ	オゴノリ属									○		
15					イギス	イギス	フタツガサネ属										○	
16						ダジア	エナシダジア										○	
17						フジマツモ	シヨウジョウケリ										○	
種 類 数						出現せず	出現せず	1	6	出現せず	2	出現せず	13	1				

注1) +は被度5%未満を示す。

注2) ○は採取・目視による出現を示す。

注3) ( )付きの表示は海底に漂着した状態(流れ藻)を示す。

注4) 学名及び分類順は日本産海藻目録(2015年改訂版)に準拠した。

注5) 珪藻綱は多様な種が含まれるが、付着性の珪藻綱のブルーム(大量増殖)を目視で確認した場合に、種レベルの識別は行わず、便宜上珪藻綱を1種として記録した。

表 7.13 海の公園における海草・海藻の観察結果（春季）

観察方法：方形枠(50cm×50cm)内を観察  
単 位：%（被 度）

No.	門	綱	目	科	和 名	調査日 2025年4月22日							測線周 辺での目視 または検体 採取による 出現	レッドリス ト等掲載種
						基点からの距離(m)								
						9.6	12.0	16.0	20.9	36.7	100.0	130.0		
						底 質 観察層	砂・貝片	砂・貝片	砂	砂・貝片	砂・貝片	砂		
高潮帯		平均水面付近		低潮帯		潮下帯								
A.P. +2.0m		A.P. +1.5m		A.P. +1.0m		A.P. +0.5m		A.P. ±0.0m		A.P. -0.2m		A.P. -0.5m		
1	種子植物	単子葉植物	オモダカ	アマモ	アマモ								○	○
2	緑色植物	緑藻	アオサ	アオサ	ボウアオリ								○	
3					アオサ属									
4	紅色植物	紅藻	オゴノリ	オゴノリ	オゴノリ属								○	
種 類 数						出現せず	出現せず	出現せず	出現せず	3	2	出現せず	3	1

注1) +は被度5%未満を示す。

注2) ○は採取・目視による出現を示す。

注3) 学名及び分類順は日本産海藻目録(2015年改訂版)に準拠した。

⑤野島公園

野島公園における観察結果を表 7.14～表 7.16に示す。出現種類数は、秋季調査で海草類 1 種、緑藻綱 1 種類、珪藻綱 1 種類の計 3 種類、冬季調査で海草類 1 種、緑藻綱 6 種類、褐藻綱 3 種類、珪藻綱 1 種類、紅藻綱 10 種類の計 21 種類、春季調査で海草類 2 種、緑藻綱 4 種類、褐藻綱 1 種類、珪藻綱 1 種類、紅藻綱 2 種の計 10 種類であった。野島公園地先は遠浅の砂浜海岸であり、着生基盤は、砂底上に点在する貝殻片や漂流物のほか、野島水路の導流堤をかねたコンクリート製の防波堤壁面が主である。

レッドリスト等掲載種である海草類のコアマモは、年間を通して測線およびその周辺に分布していて、測線距離 90m の周辺では小群落を観察した (写真 7.6)。



写真 7.6 コアマモの生育状況(秋季)

表 7.14 野島公園における海草・海藻の観察結果 (秋季)

観察方法：方形枠(50cm×50cm)内を観察  
単 位：％(被 度)

No.	門	綱	目	科	調査日 基点からの距離(m) 底質 観察層 和名	2024年10月28日							測線周 辺での目視 または検体 採取による 出現	レッドリス ト等掲載種
						19.0	25.0	28.5	35.0	80.0	90.0	100.0		
						砂・貝片	砂	砂・貝片	砂・貝片	砂	砂・貝片	砂・貝片		
						高潮帯	平均水面付近	低潮帯						
						A.P.	A.P.	A.P.	A.P.	A.P.	A.P.			
						+2.0m	+1.5m	+1.0m	+0.5m	±0.0m	±0.0m	+0.1m		
1	種子植物	単子葉植物	オモダカ	アマモ	コアマモ		(+)	(+)		+	25		○	○
2	緑色植物	緑藻	アオサ	アオサ	アオサ属								○	
3	不等毛植物	珪藻			珪藻綱						+			
種 類 数						出現せず	1	1	出現せず	1	2	出現せず	2	1

注1) +は被度5%未満を示す。  
 注2) ○は採取・目視による出現を示す。  
 注3) ( )付きの表示は海底に漂着した状態(流れ藻)を示す。  
 注4) 学名及び分類順は日本産海藻目録(2015年改訂版)に準拠した。  
 注5) 珪藻綱は多様な種が含まれるが、附着性の珪藻綱のブルーム(大量増殖)を目視で確認した場合に、種レベルの識別は行わず、便宜上珪藻綱を1種として記録した。

表 7.15 野島公園における海草・海藻の観察結果（冬季）

観察方法：方形枠(50cm×50cm)内を観察  
単 位：%（被 度）

No.	門	綱	目	科	和 名	調査日 2025年2月17日							測線周 辺での目視 または検体 採取による 出現	レッドリス ト等掲載種	
						基点からの距離(m)									
						19.0	25.0	28.5	35.0	80.0	90.0	100.0			
						砂・貝片	砂・貝片	砂・貝片	貝片・砂	砂	砂・貝片	砂・貝片			
底 質		平均水面付近		低潮帯											
観察層		A.P.	A.P.	A.P.	A.P.	A.P.	A.P.	A.P.							
		+2.0m	+1.5m	+1.0m	+0.5m	±0.0m	±0.0m	+0.1m							
1	種子植物	単子葉植物	オモダカ	アマモ	コアマモ						50		○	○	
2	緑色植物	緑藻	アオサ	アオサ	ウスバアオリ							+	○		
3					アオサ属								○		
4			シオグサ	シオグサ	シオグサ属									○	
5			ミル	ミル	ミル									○	
6			ハネモ	ハネモ	ウチウミハネモ									○	
7					ハネモ属									○	
8			不等毛植物	褐藻	カヤモノリ	カヤモノリ	セイヨウハバノリ								○
9	コンブ	チガイン			ワカメ								(○)		
10					コンブ目									○	
11		珪藻				珪藻綱							+	○	
12	紅色植物	紅藻	ウシケノリ	ウシケノリ	スサビノリ								○		
13			スギノリ	スギノリ	シキンノリ									○	
14				ムカデノリ	フダラク									○	
15					ヒラムカデ									○	
16					ムカデノリ属									○	
17				オゴノリ	オゴノリ	カバノリ								○	
18				マサゴシバリ	フシツナギ	フシツナギ								○	
19					マサゴシバリ	タオヤギソウ属								○	
20					マサゴシバリ	マサゴシバリ								○	
21					イギス	フジマツモ	ショウジョウケノリ								○
種 類 数						出現せず	出現せず	3	1	出現せず	2	1	20	1	

注1) +は被度5%未満を示す。

注2) ○は採取・目視による出現を示す。

注3) ( )付きの表示は海底に漂着した状態(流れ藻)を示す。

注4) 学名及び分類順は日本産海藻目録(2015年改訂版)に準拠した。

注5) 珪藻綱は多様な種が含まれるが、付着性の珪藻綱のブルーム(大量増殖)を目視で確認した場合に、種レベルの識別は行わず、便宜上珪藻綱を1種として記録した。

表 7.16 野島公園における海草・海藻の観察結果（春季）

観察方法：方形枠(50cm×50cm)内を観察  
単 位：%（被 度）

No.	門	綱	目	科	和 名	調査日 2025年4月25日							測線周 辺での目視 または検体 採取による 出現	レッドリス ト等掲載種	
						基点からの距離(m)									
						15.0	25.5	29.7	35.0	80.0	90.0	100.0			
						砂・貝片	砂・貝片	砂・貝片	貝片・砂	砂	砂・貝片	砂・貝片			
底 質		平均水面付近		低潮帯											
観察層		A.P.	A.P.	A.P.	A.P.	A.P.	A.P.	A.P.							
		+2.0m	+1.5m	+1.0m	+0.5m	±0.0m	±0.0m	+0.1m							
1	種子植物	単子葉植物	オモダカ	アマモ	コアマモ								○		
2					アマモ							10	○	○	
3	緑色植物	緑藻	アオサ	アオサ	ボウアオリ								+	○	
4					アオサ属									○	
5			ミル	ミル	ミル									○	
6			ハネモ	ハネモ	ウチウミハネモ									○	
7	不等毛植物	褐藻	シオミドロ	シオミドロ	シオミドロ属								○		
8				珪藻		珪藻綱							+	○	
9	紅色植物	紅藻	スギノリ	ムカデノリ	ヒラムカデ								○		
10				オゴノリ	オゴノリ	カバノリ								○	
種 類 数						出現せず	1	1	出現せず	出現せず	2	1	8	2	

注1) +は被度5%未満を示す。

注2) ○は採取・目視による出現を示す。

注3) ( )付きの表示は海底に漂着した状態(流れ藻)を示す。

注4) 学名及び分類順は日本産海藻目録(2015年改訂版)に準拠した。

注5) 珪藻綱は多様な種が含まれるが、付着性の珪藻綱のブルーム(大量増殖)を目視で確認した場合に、種レベルの識別は行わず、便宜上珪藻綱を1種として記録した。

⑥野島水路

野島水路における観察結果を表 7.17～表 7.19に示す。出現種類数は、秋季調査で緑藻綱 3 種類、珪藻綱 1 種類、紅藻綱 2 種類の計 6 種類、冬季調査で緑藻綱 7 種類、褐藻綱 2 種、珪藻綱 1 種類、紅藻綱 11 種類の計 21 種類、春季調査で海草類 1 種、緑藻綱 6 種類、褐藻綱 1 種類、珪藻綱 1 種類、紅藻綱 7 種類の計 16 種類であった。着生基盤は石積み護岸の垂直面、平均水面付近から潮下帯に散在する礫、貝片であった。冬季調査では測線周辺でヒラアオノリを観察した（写真 7.7）。



写真 7.7 ヒラアオノリの着生状況（冬季）

表 7.17 野島水路における海草・海藻の観察結果（秋季）

観察方法：方形枠(50cm×50cm)内を観察  
単 位：%（被 度）

No.	門	綱	目	科	和名	調査日 2024年10月28日							測線周辺での目視または検体採取による出現	レッドリスト等掲載種	
						基点からの距離(m)		底質			観察層				出現
						0	3.0	8.5	18.0	24.5	28.5	30.8			
						護岸	砂	砂・大礫	砂・貝片	砂・貝片	貝片・巨礫	砂・貝片			
高潮帯	平均水面付近	低潮帯		潮下帯		出現									
A.P.	A.P.	A.P.	A.P.	A.P.	A.P.	A.P.	出現								
+2.0m	+1.5m	+1.0m	+0.5m	±0.0m	-0.5m	-1.0m	出現								
1	緑色植物	緑藻	アオサ	モツキヒトエグサ	ヒメアオノリ属							○			
2				アオサ	アオサ属		+	+				○			
3			シオグサ	シオグサ	シオグサ属							○			
4	不等毛植物	珪藻			珪藻綱						+				
5	紅色植物	紅藻	スギノリ	イソモッカ	イソダンツウ		+					○			
6			イギス	フジマツモ	イトグサ属							○			
種類数						出現せず	2	1	出現せず	出現せず	1	3	5	出現せず	

注1) +は被度5%未満を示す。

注2) ○は採取・目視による出現を示す。

注3) 学名及び分類順は日本産海藻目録(2015年改訂版)に準拠した。

注4) 珪藻綱は多様な種が含まれるが、付着性の珪藻綱のブルーム(大量増殖)を目視で確認した場合に、種レベルの識別は行わず、便宜上珪藻綱を1種として記録した。

表 7.18 野島水路における海草・海藻の観察結果 (冬季)

観察方法：方形枠(50cm×50cm)内を観察  
単 位：% (被 度)

No.	門	綱	目	科	和 名	調査日 2025年2月17日							測線周 辺での目視 または検体 採取による 出現	レッドリス ト等掲載種
						基点からの距離(m)								
						0	3.0	8.5	18.0	24.5	28.5	30.8		
						底 質	平均水面付近		低潮帯		潮下帯			
観察層		高潮帯	平均水面付近		低潮帯		潮下帯		A.P.	A.P.	A.P.	A.P.		
		A.P.	A.P.	A.P.	A.P.	A.P.	A.P.	A.P.	A.P.	A.P.	A.P.			
		+2.0m	+1.5m	+1.0m	+0.5m	±0.0m	-0.5m	-1.0m						
1	緑色植物	緑藻	ヒビミドロ		ヒビミドロ目								○	
2			アオサ	アオサ	ヒラアオノリ			10	30	+	5	○		
3					ウスバアオノリ		(+)	+			+	○		
4					スジアオノリ							○		
5					アオサ属							○		
6			シオグサ	シオグサ	シオグサ属							○		
7			ミル	ミル	ミル							○		
8	不等毛植物	褐藻	カヤモノリ	カヤモノリ	セイヨウハバノリ						+	○		
9					カヤモノリ							○		
10					珪藻綱							○		
11	紅色植物	紅藻	ウシケリ	ウシケリ	スサビノリ							○		
12			スギノリ	イソモッカ	イソダンツウ							○		
13				ムカデノリ	フダラク							○		
14					ヒラムカデ							○		
15				ベニスナゴ	ベニスナゴ							○		
16			オゴノリ	オゴノリ	カバノリ					+		○		
17					オゴノリ							○		
18					オゴノリ属							○		
19			マサゴシバリ	フシツナギ	フシツナギ							○		
20			マサゴシバリ	マサゴシバリ	タオヤギソウ属							○		
21			イギス	フジマツモ	ショウジョウケノリ					5	+	○		
種 類 数						出現せず	1	2	1	1	3	4	21	出現せず

注1) +は被度5%未満を示す。  
 注2) ○は採取・目視による出現を示す。  
 注3) ( )付きの表示は海底に漂着した状態(流れ藻)を示す。  
 注4) 学名及び分類順は日本産海藻目録(2015年改訂版)に準拠した。  
 注5) 珪藻綱は多様な種が含まれるが、付着性の珪藻綱のブルーム(大量増殖)を目視で確認した場合に、種レベルの識別は行わず、便宜上珪藻綱を1種として記録した。

表 7.19 野島水路における海草・海藻の観察結果 (春季)

観察方法：方形枠(50cm×50cm)内を観察  
単 位：% (被 度)

No.	門	綱	目	科	和 名	調査日 2025年4月25日							測線周 辺での目視 または検体 採取による 出現	レッドリス ト等掲載種
						基点からの距離(m)								
						0	0	6.0	13.0	21.0	25.4	27.0		
						底 質	平均水面付近		低潮帯		潮下帯			
観察層		高潮帯	平均水面付近		低潮帯		潮下帯		A.P.	A.P.	A.P.	A.P.		
		A.P.	A.P.	A.P.	A.P.	A.P.	A.P.	A.P.	A.P.	A.P.	A.P.			
		+2.0m	+1.5m	+1.0m	+0.5m	±0.0m	-0.5m	-1.0m						
1	種子植物	単子葉植物	オモダカ	アマモ	コアモモ			(+)					○	
2	緑色植物	緑藻	ヒビミドロ		ヒビミドロ目								○	
3			アオサ	アオサ	ボウアオノリ		+	+	+	+	+	○		
4					アオサ属		(+)	+	+	+	+	○		
5			シオグサ	シオグサ	シオグサ属							○		
6			ミル	ミル	ミル						+	○		
7			ハネモ	ハネモ	ハネモ属						+	○		
8	不等毛植物	褐藻	シオミドロ	シオミドロ	シオミドロ属							○		
9					珪藻綱			+	+	+	+	○		
10	紅色植物	紅藻	スギノリ	ムカデノリ	タンバノリ							(○)		
11					フダラク						+	○		
12					ヒラムカデ						+	○		
13			オゴノリ	オゴノリ	カバノリ							○		
14					オゴノリ属							○		
15			マサゴシバリ	フシツナギ	フシツナギ						5	○		
16			イギス	フジマツモ	イトグサ属						+	○		
種 類 数						出現せず	出現せず	3	3	3	3	9	12	1

注1) +は被度5%未満を示す。  
 注2) ○は採取・目視による出現を示す。  
 注3) ( )付きの表示は海底に漂着した状態(流れ藻)を示す。  
 注4) 学名及び分類順は日本産海藻目録(2015年改訂版)に準拠した。  
 注5) 珪藻綱は多様な種が含まれるが、付着性の珪藻綱のブルーム(大量増殖)を目視で確認した場合に、種レベルの識別は行わず、便宜上珪藻綱を1種として記録した。

⑦夕照橋

夕照橋における観察結果を表 7.20～表 7.22に示す。出現種類数は、秋季調査で海草類 1 種、緑藻綱 1 種、珪藻綱 1 種類、紅藻綱 1 種の計 4 種類、冬季調査で藍藻綱 1 種類、緑藻綱 5 種類、褐藻綱 3 種、珪藻綱 1 種類、紅藻綱 6 種類の計 16 種類、春季調査で海草類 1 種、藍藻綱 1 種類、緑藻綱 2 種類、紅藻綱 3 種類の計 7 種類であった。着生基盤は石積み護岸の垂直面、低潮帯に散在する礫、貝殻片であった。冬季調査にはヒラアオノリが測線上を高い被度で覆っていた（写真 7.8）。

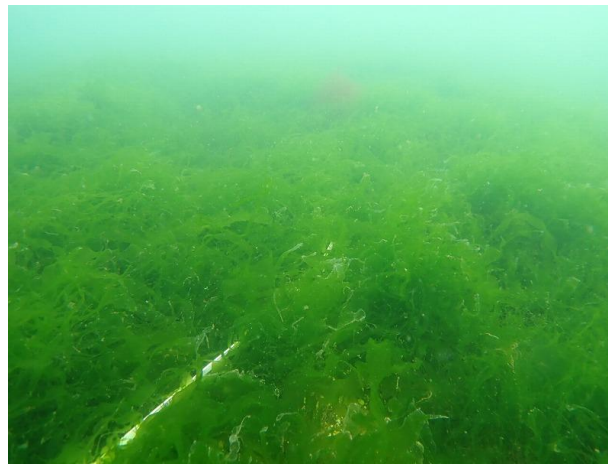


写真 7.8 ヒラアオノリの着生状況（冬季）

表 7.20 夕照橋における海草・海藻の観察結果（秋季）

観察方法：方形枠(50cm×50cm)内を観察  
単 位：%（被 度）

No.	門	綱	目	科	和名	調査日 2024年10月25日							測線周辺での目視または検体採取による出現	レッドリスト等掲載種	
						基点からの距離(m)									
						0		0		12.5	45.2	67.3			85.7
						護岸	護岸	貝片・礫岸	砂・貝片	砂・貝片	貝片・砂	貝片・砂			
						高潮帯	平均水面付近	低潮帯		潮下帯					
						A.P.	A.P.	A.P.	A.P.	A.P.	A.P.				
						+2.0m	+1.5m	+1.0m	+0.5m	±0.0m	-0.2m	-0.5m			
1	種子植物	単子葉植物	オモダカ	アマモ	アマモ				(+)				(○)	○	
2	緑色植物	緑藻	アオサ	アオサ	ボウアオノリ								○		
3	不等毛植物	珪藻			珪藻綱								○		
4	紅色植物	紅藻	スギノリ	イソモッカ	イソダンツウ		+	+					○		
種 類 数						出現せず	1	1	1	出現せず	出現せず	出現せず	4	1	

注1) +は被度5%未満を示す。

注2) ○は採取・目視による出現を示す。

注3) ( )付きの表示は海底に漂着した状態(流れ藻)を示す。

注4) 学名及び分類順は日本産海藻目録(2015年改訂版)に準拠した。

注5) 珪藻綱は多様な種が含まれるが、付着性の珪藻綱のブルーム(大量増殖)を目視で確認した場合に、種レベルの識別は行わず、便宜上珪藻綱を1種として記録した。

表 7.21 夕照橋における海草・海藻の観察結果 (冬季)

観察方法：方形枠(50cm×50cm)内を観察  
単 位：% (被 度)

No.	門	綱	目	科	和名	調査日 2025年2月17日								測線周辺での目視 または検体 採取による 出現	レッドリスト 等掲載種				
						基点からの距離(m)													
						0		0		12.5		45.0				67.3		85.7	
						護岸	護岸	護岸・貝片	砂・貝片	砂・貝片	砂・貝片	砂・貝片	砂・貝片			砂・貝片	砂・貝片	砂・貝片	砂・貝片
高潮帯		平均水面付近		低潮帯		潮下帯													
A.P.		A.P.		A.P.		A.P.		A.P.		A.P.									
+2.0m		+1.5m		+1.0m		+0.5m		±0.0m		-0.5m		-1.0m							
1	藍色植物	藍藻	ユレモ		ユレモ目														
2	緑色植物	緑藻	アオサ	アオサ	ヒラアオノリ					60	80	20	○						
3					ボウアオノリ								○						
4					ウスバアオノリ			(+)											
5					アオサ属								○						
6			ハネモ	ハネモ	ウチウミハネモ								○						
7	不等毛植物	褐藻	カヤモノリ	カヤモノリ	セイヨウハバノリ								○						
8					カヤモノリ								○						
9			ヒバマタ	ホンダワラ	アカモク								(○)						
10		珪藻			珪藻綱			+		+		+	○						
11	紅藻植物	紅藻	スギノリ	イソモッカ	イソダンツウ		+	10					○						
12				ムカデノリ	ヒラムカデ								○						
13			オゴノリ	オゴノリ	オゴノリ								○						
14					オゴノリ属								○						
15			マサゴシバリ	マサゴシバリ	マサゴシバリ								○						
16			イギス	フジマツモ	ショウジョウケノリ							+	○						
種 類 数						出現せず	1	3	2	2	1	3	14	出現せず					

注1) +は被度5%未満を示す。

注2) ○は採取・目視による出現を示す。

注3) ( )付きの表示は海底に漂着した状態(流れ藻)を示す。

注4) 学名及び分類順は日本産海藻目録(2015年改訂版)に準拠した。

注5) 珪藻綱は多様な種が含まれるが、付着性の珪藻綱のブルーム(大量増殖)を目視で確認した場合に、種レベルの識別は行わず、便宜上珪藻綱を1種として記録した。

表 7.22 夕照橋における海草・海藻の観察結果 (春季)

観察方法：方形枠(50cm×50cm)内を観察  
単 位：% (被 度)

No.	門	綱	目	科	和名	調査日 2025年4月22日								測線周辺での目視 または検体 採取による 出現	レッドリスト 等掲載種				
						基点からの距離(m)													
						0		0		12.5		40.4				64.3		78.9	
						護岸	護岸	護岸・貝片	砂・貝片	砂・貝片	砂・貝片	砂・貝片	砂・貝片			砂・貝片	砂・貝片	砂・貝片	砂・貝片
高潮帯		平均水面付近		低潮帯		潮下帯													
A.P.		A.P.		A.P.		A.P.		A.P.		A.P.									
+2.0m		+1.5m		+1.0m		+0.5m		±0.0m		-0.5m		-1.0m							
1	種子植物	単子葉植物	オモダカ	アマモ	アマモ								○	○					
2	藍色植物	藍藻	ユレモ		ユレモ目			+					○						
3	緑色植物	緑藻	アオサ	アオサ	ボウアオノリ						+	+	○						
4					アオサ属						+	+	○						
5	紅色植物	紅藻	テングサ	テングサ	マクサ								(○)						
6			スギノリ	イソモッカ	イソダンツウ		+	5					○						
7			オゴノリ	オゴノリ	オゴノリ属								○						
種 類 数						出現せず	1	2	出現せず	出現せず	2	2	7	1					

注1) +は被度5%未満を示す。

注2) ○は採取・目視による出現を示す。

注3) ( )付きの表示は海底に漂着した状態(流れ藻)を示す。

注4) 学名及び分類順は日本産海藻目録(2015年改訂版)に準拠した。

7.1.3. レッドリスト等掲載種

レッドリスト等掲載種一覧を表 7.23に、掲載種の写真を写真 7.9に示す。

レッドリスト等掲載種はコアマモ、アマモ、ホソアヤギヌの3種であった。コアマモは野島公園で観察した。堀割川河口、野島水路では漂着物として確認した。アマモは海の公園、野島公園、夕照橋で観察した。堀割川河口では漂着物として確認した。ホソアヤギヌは鶴見川河口で観察した。

表 7.23 海草・海藻のレッドリスト等掲載種一覧

調査日：(秋季)2024年10月25、28、29、30日  
 (冬季)2025年 2月14、17日  
 (春季)2025年 4月22、23、25、5月12日  
 採取方法：スクレーパー

No.	門	綱	目	科	和名	地点							レッドリスト等掲載種の選定基準		
						鶴見川河口	山下公園	堀割川河口	海の公園	野島公園	野島水路	夕照橋		秋季	冬季
1	種子植物	単子葉植物	オモダカ	アマモ	コアマモ			(○)	○	(○)		○	○	○	神奈川県: I B、千葉県:D
2					アマモ			(○)	○	○		○	○	○	千葉県:D
3	紅色植物	紅藻	イギス	コノハノリ	ホソアヤギヌ	○						○	○	○	環:NT、千葉県:A-B
種類数						1	2	1	2	1	1	3	3	3	3

注1) ○は出現したことを示す。  
 注2) ( )付きの表示は海底に漂着した状態(流れ藻)を示す。  
 注3) 学名及び分類順は日本産海藻目録(2015年改訂版)に準拠した。

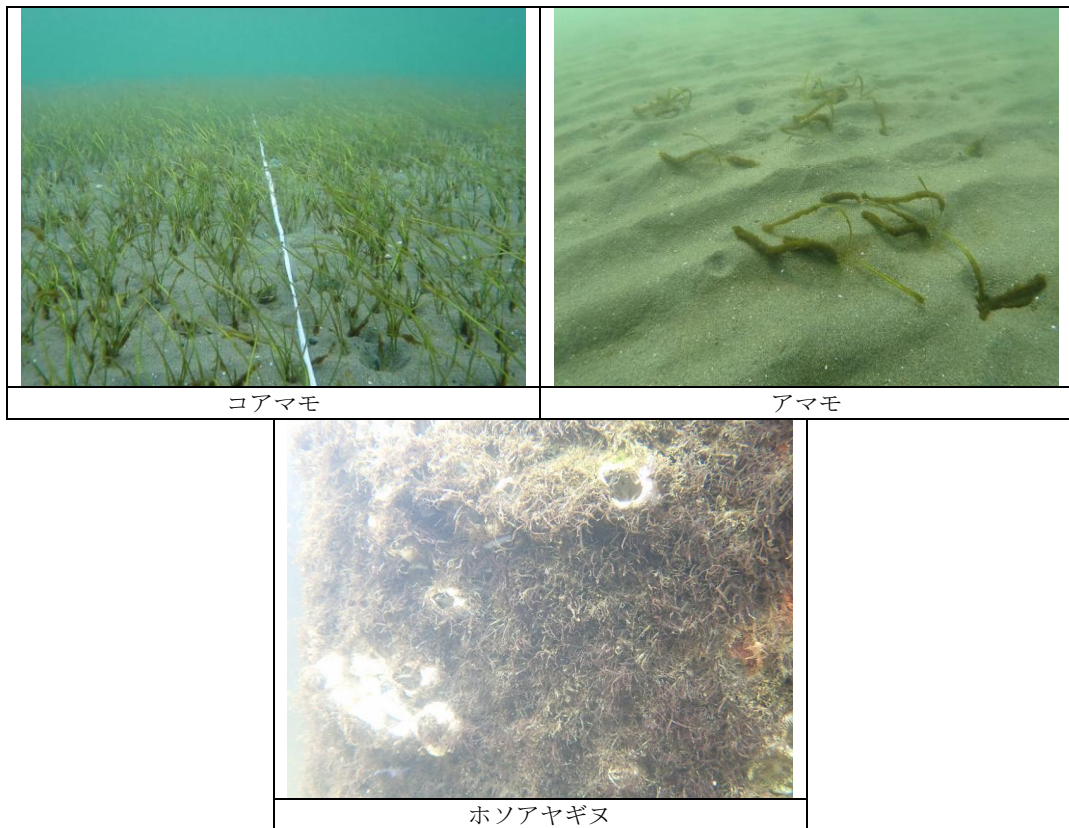


写真 7.9 海草・海藻レッドリスト等掲載種

7.1.4. 外来種

海草・海藻の外来種は出現しなかった。

## 7.2. 海岸動物（岸壁）

### 7.2.1. 概要

海岸動物（岸壁）種組成を図 7.4に、地点別種類数を図 7.5に、時季別種類数を図 7.6に、出現種一覧を表 7.24 (1) ～ (3) に示した。

調査で確認した種類数は 141 種類であった。なお、出現種には目視観察のみの種類、魚類調査で混獲された生物の種類も含めた。

動物門別の組成は、軟体動物門 36 種類（26%）、環形動物門 31 種類（22%）、節足動物門 44 種類（31%）その他 30 種類（21%）で、節足動物門が最も多かった。

地点別の種類数は、山下公園で 113 種類、堀割川河口で 92 種類であった。

レッドリスト等掲載種は、節足動物門のカクベンケイガニの 1 種であった。

外来種は軟体動物門のシマメノウフネガイ、ムラサキイガイ、ミドリイガイ、コウロエンカワヒバリガイ、ウスカラシオツガイ、節足動物門のタテジマフジツボ、アメリカフジツボ、ヨーロッパフジツボ、脊索動物門のクロマメイタボヤ、マンハッタンボヤの計 10 種であった。

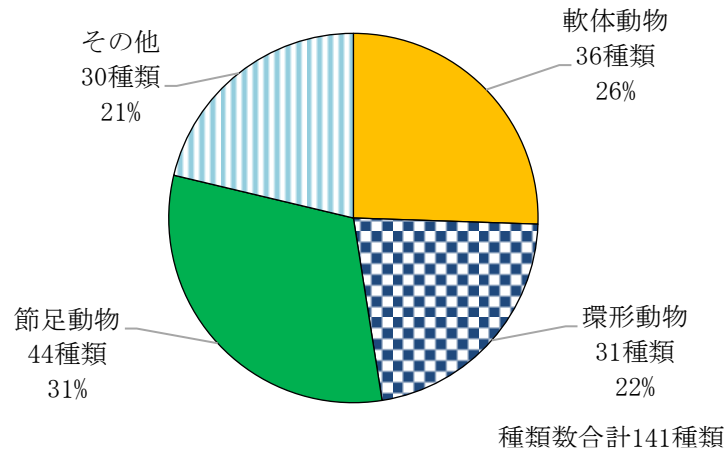


図 7.4 海岸動物（岸壁）種組成

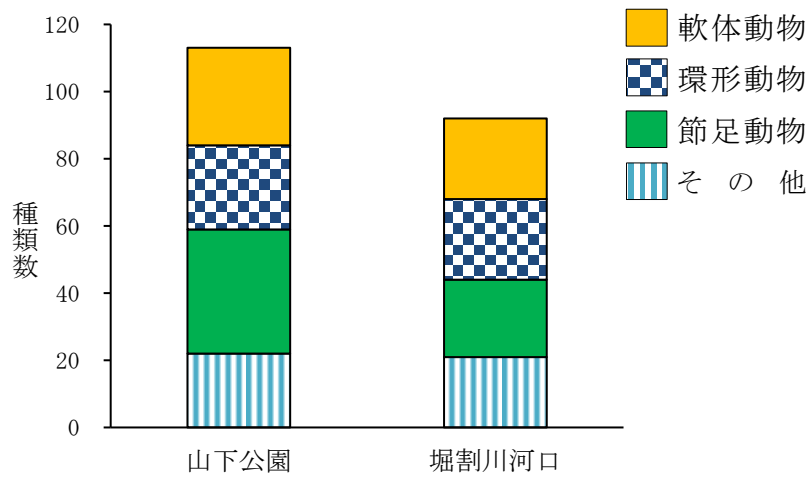


図 7.5 海岸動物（岸壁）地点別種類数

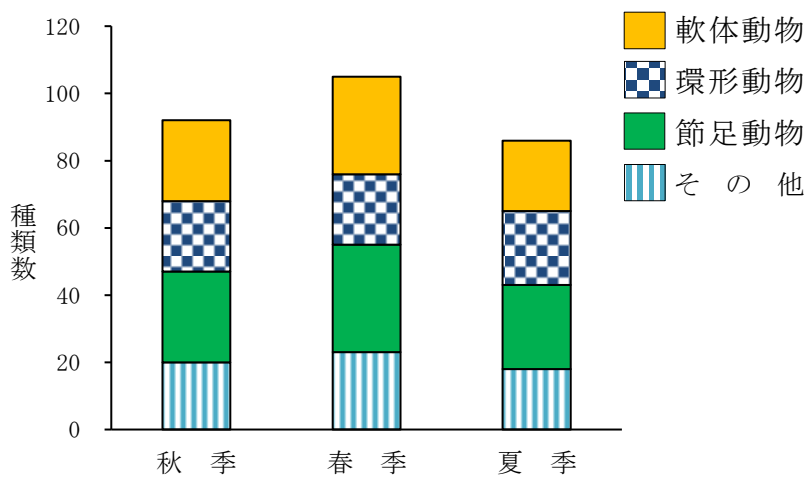


図 7.6 海岸動物（岸壁）時季別種類数

表 7.24 (1) 海岸動物（岸壁）出現種一覧

調査日：(秋季)2024年10月29日  
(春季)2025年4月23日、5月12日  
(夏季)2025年7月22日  
調査方法：目視観察、採取、投網・タモ網

No.	門	綱	目	科	学名	和名	地点		時季			レッドリスト等掲載種	外来種
							山下公園	堀割川河口	秋	春	夏		
1	海綿動物	尋常海綿			DEMOSPONGIAE	尋常海綿綱	○	◎		○	◎		
2					PORIFERA	海綿動物門		○	○				
3	刺胞動物	ヒドロ虫			HYDROZOA	ヒドロ虫綱	○	○	○	○			
4		花虫	イソギンチャク	タテジマイソギンチャク	<i>Aiptasiomorpha minuta</i>	チゲレイソギンチャク	◎		◎		◎		
5					<i>Haliplanella lineata</i>	タテジマイソギンチャク	◎	◎	○	◎	○		
6					ACTINIARIA	イソギンチャク目	◎	◎	◎	◎	◎		
7	扁形動物	渦虫	多岐腸	スチロヒラムシ	Stylochidae	スチロヒラムシ科	◎		◎	◎	◎		
8				ヤフヒラムシ	Leptoplanidae	ヤフヒラムシ科	◎			◎	◎		
9	紐形動物	無針	異紐虫		HETERONEMERTEA	異紐虫目	◎		◎	◎			
10		有針	針紐虫	エンブレクトネマ	<i>Nemertopsis gracilis</i>	ヨツヒモムシ	◎		◎				
11				テトラステマ	<i>Tetrastemma nigrifrons</i>	メノコヒモムシ	◎			◎			
12					NEMERTINEA	紐形動物門	◎	◎	◎	◎			
13	線形動物				NEMATODA	線形動物門	◎		◎				
14	触手動物	筍虫			Phoronis sp.	Phoronis 属	◎	○	◎	◎	○		
15		苔虫	櫛口	フクロコケムシ	<i>Bowerbankia imbricata</i>	センナリコケムシ		◎		◎			
16			唇口	ツノマタコケムシ	Thalamoporellidae	ツノマタコケムシ科		○		○	○		
17				フサコケムシ	<i>Bugula neritina</i>	フサコケムシ		◎	○	◎			
18				エダコケムシ	<i>Tricellaria occidentalis</i>	ホソフサコケムシ		◎	◎				
19				テングコケムシ	<i>Hippopetraliella magna</i>	ニホンコケムシ	◎		◎	◎	◎		
20				コブコケムシ	Celleporinidae	コブコケムシ科		◎		◎	◎		
21					BRYOZOA	苔虫綱	○	○	○	○	○		
22	軟体動物	多板	新ヒザラガイ	クサズリガイ	<i>Acanthopleura japonica</i>	ヒザラガイ	○		○				
23				ケハダヒザラガイ	<i>Acanthochitona achates</i>	ヒメケハダヒザラガイ	◎	◎	◎	◎	◎		
24					Acanthochitonidae	ケハダヒザラガイ科	○	○	○	○			
25		腹足	カサガイ	ユキノカサガイ	<i>Lottia dorsuosa</i>	カモガイ	○		○				
26					<i>Lottia kogamogai</i>	コガモガイ	○	○	○	○	○		
27					<i>Patelloida pygmaea</i>	ヒメコザラ(シボリガイ型)	◎			◎	◎		
28		古腹足	ニシキウスガイ		<i>Omphalius rusticus</i>	コンダカガンガラ	○	○	○	○			
29		盤足	タマキビ		<i>Littorina (Littorina) brevicula</i>	タマキビ	○		○				
30					<i>Nodilittorina radiata</i>	アラレタマキビ	○	◎	◎	◎	○		
31					<i>Peasiella habei</i>	コビトウラウスガイ	◎				◎		
32					<i>Crepidula onyx</i>	シマメノウフネガイ	◎	○	○	◎	○		●
33		新腹足	アッキガイ		<i>Rapana venosa</i>	アカニシ	○	○	○	○	○		
34					<i>Thais (Reishia) bronni</i>	レイシガイ	○		○	○			
35					<i>Thais (Reishia) clavigera</i>	イボニシ	◎	◎	◎	◎	◎		
36					<i>Mitrella bicincta</i>	ムギガイ		◎		◎			
37					<i>Reticunassa festiva</i>	アラムシロ	○	○	○	○	○		
38		異旋	トウガタガイ		<i>Babellia caelator</i>	クサズリクチキレ		◎		◎			
39		巻舌	ゴクラクミドリガイ		<i>Elysia ornata</i>	コノハマドリガイ	○		○	○	○		
40		アメフラシ	アメフラシ		<i>Bursatella leachii leachii</i>	フレリトゲアメフラシ	○	○	○				
41		裸鰓	フジタウミウシ		Polyceridae	フジタウミウシ科	◎			◎			
42				クロシタナシウミウシ	<i>Dendrodoris arborescens</i>	クロシタナシウミウシ	○			○			
43					NUDIBRANCHIA	裸鰓目		○		○			
44		基眼	カラマツガイ		<i>Siphonaria (Saccostiphonaria) japonica</i>	カラマツガイ	○	○		○	○		
45		二枚貝	フネガイ	フネガイ	<i>Arca boucardi</i>	コベルトフネガイ	○	○	○	○			
46					<i>Barbatia (Savignyarca) virescens</i>	カリガネエガイ		○		○			
47			イガイ	イガイ	<i>Modiolus nipponicus</i>	ヒバリガイ	◎		◎				
48					<i>Musculista senhousia</i>	ホトギスガイ	◎	◎	◎	◎	◎		
49					<i>Mytilus galloprovincialis</i>	ムラサキイガイ	◎	○	◎	◎	◎		●
50					<i>Perna viridis</i>	ミドリイガイ	◎	◎	◎	○	◎		●
51					<i>Xenostrobus securis</i>	コウロエンカワヒバリガイ	◎	◎	◎	◎	◎		●
52		カキ	イタボガキ		<i>Crassostrea gigas</i>	マガキ	◎	◎	◎	◎	◎		
53		マルスダレガイ	チリハギガイ		<i>Lasaea undulata</i>	チリハギガイ	◎	◎	◎	◎	◎		
54			キクザルガイ		Chamidae	キクザルガイ科	○		○				
55			イワホリガイ		<i>Petricola sp. cf. lithophaga</i>	ウスカラシオツガイ	◎	◎	◎	◎	◎		●
56			マルスダレガイ		<i>Ruditapes philippinarum</i>	アサリ	◎	◎	◎	◎	◎		
57		オオノガイ	キヌマトイガイ		<i>Hiatella orientalis</i>	キヌマトイガイ	◎		◎	◎	◎		
58	環形動物	多毛	サンバゴカイ	サンバゴカイ	<i>Eulalia viridis</i>	サミドリサンバ	◎	◎	◎	◎	◎		
59					<i>Genetyllis castanea</i>	アケノサンバ	◎	◎	◎	◎	◎		
60				オトヒメゴカイ	<i>Micropodarke dubia</i>	ミクロオトヒメ	◎	◎	◎	◎	◎		

表 7.24 (2) 海岸動物（岸壁）出現種一覧

調査日：(秋季)2024年10月29日  
 (春季)2025年4月23日、5月12日  
 (夏季)2025年7月22日  
 調査方法：目視観察、採取、投網・タモ網

No.	門	綱	目	科	学名	和名	地点		時季			レッドリスト等掲載種	外来種		
							山下公園	堀割川河口	秋	春	夏				
61	環形動物	多毛	サシバゴカイ	オトヒメゴカイ	<i>Ophiodromus</i> sp.	オフィドロムス属	◎	◎	◎	◎	◎				
62				シリス	<i>Syllis amica</i>	ヒトゲシリス	◎	◎	◎		◎				
63							<i>Typosyllis aciculata orientalis</i>	カスリシリス		◎			◎		
64							<i>Typosyllis adamanteus kurilensis</i>	シロマダラシリス	◎		◎	◎			
65							<i>Typosyllis alternata</i>	ムアシリス	◎	◎	◎	◎	◎		
66							<i>Typosyllis</i> sp.	<i>Typosyllis</i> 属	◎				◎		
67						ゴカイ	<i>Neanthes caudata</i>	ヒメゴカイ	◎	◎			◎		
68							<i>Neanthes succinea</i>	アシナゴゴカイ	◎		◎	◎			
69							<i>Nereis multignatha</i>	マサゴゴカイ	◎			◎			
70							<i>Perinereis cultrifera</i>	クマドリゴカイ	◎	◎	◎	◎	◎		
71							<i>Pseudonereis variegata</i>	デンガクゴカイ	◎		◎	◎	◎		
72							ウロコムシ	<i>Harmothoe</i> sp.	<i>Harmothoe</i> 属	◎	◎		◎	◎	
73							<i>Lepidonotus tenuisetosus</i>	フサウスウロコムシ	◎	◎	◎	◎	◎		
74						イソメ	コイソメ	<i>Schistomeringos rudolphi</i>		◎		◎	◎		
75					スピオ	スピオ	<i>Polydora</i> sp.	<i>Polydora</i> 属	◎	◎	◎	◎	◎		
76							<i>Prionospio (Minuspio) pulchra</i>	イトエラスピオ	◎		◎				
77					ミズヒキゴカイ	ミズヒキゴカイ	<i>Cirriformia</i> cf. <i>comosa</i>	ミズヒキゴカイ	◎		◎				
78							<i>Cirriformia</i> sp.	<i>Cirriformia</i> 属		◎	◎				
79							<i>Dodecaceria</i> sp.	<i>Dodecaceria</i> 属		◎		◎			
80							Cirratulidae	ミズヒキゴカイ科	◎	◎	◎		◎		
81					フサゴカイ	カザリゴカイ	Ampharetidae	カザリゴカイ科		◎		◎			
82						フサゴカイ	<i>Thelepus</i> sp.	<i>Thelepus</i> 属	◎	◎	◎	◎	◎		
83					ケヤリムシ	ケヤリムシ	<i>Sabella</i> sp.	<i>Sabella</i> 属	◎	◎	◎	◎	◎		
84							<i>Sabellastarte</i> sp.	<i>Sabellastarte</i> 属	◎	◎	◎	◎	◎		
85						カンザシゴカイ	<i>Hydroides dirampha</i>	ヤグルマカンザシゴカイ	◎	◎	◎	◎	◎		
86						<i>Hydroides ezoensis</i>	エゾカサネカンザシゴカイ	◎	◎	◎	◎	◎			
87						<i>Pomatoleios krausii</i>	ヤッコカンザシ		◎		◎				
88						Serpulidae	カンザシゴカイ科	◎	◎	◎	◎	◎			
89	節足動物	顎脚	有柄	ミョウガガイ	<i>Capitulum mitella</i>	カメノテ	◎		◎	◎	◎				
90				イワフジツボ	<i>Chthamalus challengeri</i>	イワフジツボ	◎	◎	◎	◎	◎				
91				フジツボ	<i>Amphibalanus amphitrite</i>	タテジマフジツボ	◎	◎	◎	◎	◎			●	
92					<i>Amphibalanus eburneus</i>	アメリカフジツボ	◎	◎	◎	◎	◎			●	
93					<i>Amphibalanus improvisus</i>	ヨーロッパフジツボ	◎	◎	◎	◎	◎			●	
94					<i>Amphibalanus perforatus</i>	サンカクフジツボ	◎	◎	◎	◎	◎				
95					<i>Perforatus perforatus</i>	ナンオウフジツボ	◎	◎	◎	◎	◎				
96				軟甲	端脚	ヒゲナガヨコエビ	<i>Ampithoe valida</i>	モズヨコエビ	◎			◎			
97							<i>Ampithoe</i> sp.	ヒゲナガヨコエビ属	◎		◎	◎			
98			ユンボソコエビ				<i>Aoroides</i> sp.	ユンボソコエビ属		◎		◎			
99						<i>Grandidierella japonica</i>	ニホンドロソコエビ	◎		◎					
100			ドロクダムシ			<i>Corophium acherusicum</i>	アリアケドロクダムシ	◎		◎	◎				
101						<i>Corophium crassicorne</i>	トゲドロクダムシ		◎		◎	◎			
102						<i>Corophium insidiosum</i>	トンガリドロクダムシ		◎		◎				
103						<i>Corophium uenoi</i>	ウエノドロクダムシ		◎		◎				
104						<i>Corophium</i> sp.	ドロクダムシ属	◎	◎	◎		◎			
105			カマキリヨコエビ			<i>Erichthonius pugnax</i>	ホソヨコエビ	◎	◎		◎	◎			
106						<i>Jassa</i> sp.	カマキリヨコエビ属	◎		◎					
107		ドロノミ				<i>Podocerus</i> sp.	ドロノミ属	◎		◎					
108		メリタヨコエビ	<i>Elasmopus japonicus</i>			イソヨコエビ	◎	◎	◎	◎	◎				
109		チビヨコエビ	<i>Gitanopsis</i> sp.			チビマルヨコエビ属	◎		◎	◎					
110		タテソコエビ	<i>Stenothoe</i> sp.			タテソコエビ属	◎		◎	◎	◎				
111		モクスヨコエビ	<i>Hyale uragensis</i>	ウラガモクス	◎		◎	◎	◎						
112			<i>Hyale</i> sp.	モクスヨコエビ属	◎		◎	◎							
113		ワレカラ	<i>Caprella penantis</i>	マルエラワレカラ	◎	◎		◎							
114			<i>Caprella scaura</i>	トゲワレカラ	◎			◎							
115		等脚	スナホリムシ	<i>Cirolana harfordi japonica</i>	ニセスナホリムシ	◎			◎	◎					
116			コツブムシ	<i>Dynoides dentisinus</i>	シリケンウミセミ	◎		◎	◎	◎					
117				<i>Gnorimosphaeroma rayi</i>	イソコツブムシ	◎		◎	◎						
118				<i>Paracercis japonica</i>	ツノウミセミ	◎	◎		◎	◎					
119			フナムシ	<i>Ligia furcata</i>	フタマタフナムシ	◎	◎		◎	◎					
120			タナイス	タナイス	<i>Sinelobus</i> sp. cf. <i>stanfordi</i>	キスイタナイス	◎	◎	◎	◎	◎				

表 7.24 (3) 海岸動物（岸壁）出現種一覧

調査日：(秋季)2024年10月29日  
(春季)2025年4月23日、5月12日  
(夏季)2025年7月22日  
調査方法：目視観察、杵取、投網・タモ網

No.	門	綱	目	科	学名	和名	地点		時季			レッドリスト等掲載種	外来種		
							山下公園	堀割川河口	秋季	春季	夏季				
121	節足動物	軟甲	十脚	テナガエビ	<i>Palaemon pacificus</i>	イソスジエビ	○	○							
122							<i>Palaemon serrifer</i>	スジエビモドキ	○		○				
123						ヤドカリ	<i>Clibanarius infraspinus</i>	コブヨコバサミ	○	○	○		○		
124						ホンヤドカリ	<i>Pagurus minutus</i>	ユビナガホンヤドカリ	○	○	○		○		
125						ガザミ	<i>Charybdis (Charybdis) japonica</i>	イシガニ	○	○	○	○	○		
126						オウギガニ	<i>Macromedaeus distinguendus</i>	シワオウギガニ	◎	◎	◎		◎		
127						モクズガニ	<i>Gaetice depressus</i>	ヒライシガニ	◎		◎				
128							<i>Hemigrapsus sanguineus</i>	イソガニ	◎	◎	◎	◎	◎		
129							<i>Hemigrapsus takanoi</i>	タカノケアサシガニ	◎	○	◎				
130							<i>Parasesarma pictum</i>	カクベンケイガニ	○				○	●	
131	昆虫	ハエ	ユスリカ	Chironomidae	ユスリカ科	◎	◎		◎	◎					
132			アシナガバエ	Dolichopodidae	アシナガバエ科	◎		◎	◎	◎					
133	棘皮動物	ヒトデ	ヒメヒトデ	イトマキヒトデ	<i>Asterina pectinifera</i>	イトマキヒトデ	○		○	○					
134		ウニ	ガンガゼ	ガンガゼ	<i>Diadema setosum</i>	ガンガゼ	○		○						
135	脊索動物	ホヤ	マメボヤ	ユウレイボヤ	<i>Ciona sp.</i>	ユウレイボヤ属	◎	○		○	◎				
136			マボヤ	イタボヤ	Botryllidae	イタボヤ科	○	◎		◎	◎				
137				シロボヤ	<i>Polysandrocarpa (Polysandrocarpa) zorriniensis</i>	クロマメイタボヤ		◎	◎	◎	◎		●		
138						<i>Styela plicata</i>	シロボヤ	◎	◎	◎	○	◎			
139					マボヤ	Pyuridae	マボヤ科	◎	◎			◎			
140			フクロボヤ	<i>Molgula manhattensis</i>	マンハッタンボヤ	○	◎		◎			●			
141				ASCIDIACEA	ホヤ綱	○	○	○	○	○					
種類数							113	92	92	105	86	1	10		

注1) ◎は杵取採取による出現、○は目視観察および魚類調査時の混獲生物のみによる出現、●はレッドリスト等または外来種に該当したことを示す。

注2) 学名及び分類群順は西村編(1992、1995)「原色検索 日本海岸動物図鑑 I、II」他に準拠した。

7.2.2. 地点ごとの季節変化

①山下公園

a) 目視観察結果

山下公園における目視観察結果を表 7.25～表 7.27に示す。

秋季調査の出現種類数は刺胞動物門 2 種類、触手動物門 2 種類、軟体動物門 15 種類、環形動物門 1 種類、節足動物門 9 種、棘皮動物門 1 種、脊索動物門 1 種の計 31 種類であった。

春季調査の出現種類数は海綿動物門 1 種類、刺胞動物門 3 種類、触手動物門 2 種類、軟体動物門 9 種、環形動物門 1 種類、節足動物門 6 種、棘皮動物門 1 種、脊索動物門 2 種の計 25 種類であった。

夏季調査の出現種類数は海綿動物門 1 種類、刺胞動物門 2 種類、触手動物門 1 種類、軟体動物門 9 種類、環形動物門 2 種類、節足動物門 8 種、脊索動物門 4 種類の計 27 種類であった。

表 7.25 山下公園における海岸動物（岸壁）目視観察結果（秋季）

観察方法：方形枠(50cm×50cm)内を観察  
単 位：%(被 度)、個体/0.25㎡

No.	門	綱	調 査 日 基点からの距離 (m) 底 質 観 察 層 和 名	2024年10月29日								単位	測線周 辺での 目視観察 または 魚類調査 混獲生物 による出現	
				0		0.3	3.0		3.3	3.6				10.2
				護岸	護岸	護岸	護岸	護岸	貝片・護岸	貝片・泥				
				高潮帯	平均水面付近	低潮帯	潮下帯							
			A.P.	A.P.	A.P.	A.P.	A.P.	A.P.	A.P.					
			+2.0m	+1.5m	+1.0m	+0.5m	±0.0m	-0.5m	-1.0m					
1	刺胞動物	花虫	タテジマイソギンチャク		8	20		11				個体	○	
2			イソギンチャク目					7	40	128		個体	○	
3	触手動物	筵虫	Phoronis 属					+	+			%	○	
4		苔虫	苔虫綱					+	+			%	○	
5	軟体動物	多板	ヒザラガイ		2	1						個体	○	
6		腹足	カモガイ									個体	○	
7			コガモガイ	1	1							個体	○	
8			タマキビ			1						個体	○	
9			レイシガイ									個体	○	
10			イボニシ		30	2						個体	○	
11			アラムシロ							10		個体	○	
12		二枚貝	コベルトフネガイ		1							個体		
13			ホトギスガイ					+	+	+		%	○	
14			ミドリイガイ		+	5	5	+	+	5		%	○	
15			コウロエンカワヒバリガイ		+	30	5					%	○	
16			マガキ	+	+	+						%	○	
17			キクザルガイ科									個体	○	
18			ウスカラシオツガイ		1				1	2		個体		
19			アサリ							3		個体	○	
20	環形動物	多毛	カンザシゴカイ科			+		+	+			%	○	
21	節足動物	顎脚	カメノテ									%	○	
22			イワフジツボ	5	10	+						%	○	
23			タテジマフジツボ				+					%		
24			アメリカフジツボ			+	+	+				%	○	
25			ヨーロッパフジツボ					5				%		
26			ナンオウフジツボ			5						%	○	
27		軟甲	コブヨコバサミ									個体	○	
28			イシガニ									個体	○	
29			イソガニ									個体	○	
30	棘皮動物	ヒトデ	イトマキヒトデ									個体	○	
31	脊索動物	ホヤ	シロボヤ									個体	○	
種 類 数				3	10	11	4	9	7	6	-	27		

注1) 単体性の動物は原則として個体数を、群体性の動物及び固着性で個体数計数の困難な動物(イガイ類、フジツボ類等)は被度を示した。

注2) +は被度5%未満を示す。

注3) ○は捕獲・目視による出現を示す。

注4) 学名及び分類群順は西村編(1992, 1995)「原色検索 日本海岸動物図鑑 I、II」他に準拠した。

表 7.26 山下公園における海岸動物（岸壁）目視観察結果（春季）

観察方法：方形枠(50cm×50cm)内を観察  
単 位：%(被 度)、個体/0.25㎡

No.	門	綱	調 査 日 基点からの距離(m) 底 質 観 察 層 和 名	2025年4月23日								単 位	測線周 辺での 目視観 察また は魚類 調査 混獲生 物によ る出現			
				0	0	0.3	3.0	3.3	3.6	10.2	A.P.			A.P.	A.P.	A.P.
				護岸	護岸	護岸	護岸	護岸	護岸・貝片	泥・貝片						
				高潮帯	平均水面付近	低潮帯	潮下帯									
				A.P.	A.P.	A.P.	A.P.	A.P.	A.P.	A.P.	A.P.					
				+2.0m	+1.5m	+1.0m	+0.5m	±0.0m	-0.5m	-1.0m						
1	海綿動物	尋常海綿	尋常海綿綱			+			10	+	+	%	○			
2	刺胞動物	ヒドロ虫	ヒドロ虫綱			+						%				
3		花虫	タテジマイソギンチャク			2	4	4	4	3		個体	○			
4			イソギンチャク目			11	40	35	9	13		個体	○			
5	触手動物	簪虫	Phoronis 属					40	+	+		%				
6		苔虫	苔虫綱					+	+			%				
7	軟体動物	腹足	コシダカガンガラ									個体	○			
8			アカニシ							1		個体				
9			レイシガイ									個体	○			
10			イボニシ		7	25	55		2			個体	○			
11			アラムシロ							2		個体				
12			クロシタナシウミウシ									個体	○			
13		二枚貝	ミドリイガイ									%	○			
14			コウロエンカワヒバリガイ									%	○			
15			アサリ							16		個体				
16	環形動物	多毛	カンザシゴカイ科			+		+	+	+		%				
17	節足動物	顎脚	カメノテ									%	○			
18			イワフジツボ	20	5							%				
19			タテジマフジツボ		+							%				
20			アメリカフジツボ				+					%	○			
21			ナンオウフジツボ			+	+					%				
22		軟甲	フタマタフナムシ	3								個体				
23	棘皮動物	ヒトデ	イトマキヒトデ									個体	○			
24	脊索動物	ホヤ	シロボヤ					18				個体	○			
25			マンハッタンボヤ						3			個体				
種 類 数				2	3	7	5	7	8	8	-		13			

注1) 単体性の動物は原則として個体数を、群体性の動物及び固着性で個体数計数の困難な動物(イガイ類、フジツボ類等)は被度を示した。

注2) +は被度5%未満を示す。

注3) ○は捕獲・目視による出現を示す。

注4) 学名及び分類群順は西村編(1992、1995)「原色検索 日本海岸動物図鑑 I、II」他に準拠した。

表 7.27 山下公園における海岸動物（岸壁）目視観察結果（夏季）

観察方法：方形枠（50cm×50cm）内を観察  
単 位：%（被 度）、個体/0.25㎡

No.	門	綱	調 査 日 基点からの距離 (m) 底 質 観 察 層 和 名	2025年7月22日								単 位	測線周 辺での 目視観 察また は魚類 調査 混獲生 物によ る出現			
				0	0	0.3	3.0	3.3	3.6	10.2	巨礫・泥 泥・巨礫					
				護岸	護岸	護岸	護岸	護岸	低潮帯					潮下帯		
				高潮帯	平均水面付近	低潮帯		潮下帯		A.P.				A.P.		
				A.P.	A.P.	A.P.	A.P.	A.P.	A.P.	A.P.						
1	海綿動物	尋常海綿	尋常海綿綱			+							%			
2	刺胞動物	花虫	タテジマイソギンチャク				14	3	2	1			個体	○		
3			イソギンチャク目				240	8	5				個体			
4	触手動物	筍虫	Phoronis 属					+					%	○		
5	軟体動物	多板	ケハダヒザラガイ科			1							個体			
6		腹足	コガモガイ		3									個体	○	
7			アラレタマキビ	7										個体		
8			イボニシ		2	24	9	3						個体		
9			カラマツガイ											個体	○	
10			二枚貝	ムラサキイガイ				+							%	○
11		ミドリイガイ					+							%	○	
12		マガキ					+							%	○	
13		アサリ									3			個体	○	
14		環形動物	多毛	ミズヒキゴカイ科								+		%		
15			カンザシゴカイ科			+	+	+	+					%	○	
16		節足動物	顎脚	カメノテ											%	○
17				イワフジツボ	10	70	+								%	
18	タテジマフジツボ				+	+								%		
19	ナンオウフジツボ					+	+							%	○	
20	軟甲		フタマタフナムシ	5	1									個体	○	
21			イシガニ					1						個体	○	
22			イソガニ	1										個体	○	
23			カクベンケイガニ											個体	○	
24			脊索動物	ホヤ	ユウレイボヤ属					14	1				個体	○
25	イタボヤ科													%	○	
26	シロボヤ								80	2				個体	○	
27	ホヤ綱								3	8				個体		
種 類 数				4	5	7	7	9	6	4	-		18			

注1) 単体性の動物は原則として個体数を、群体性の動物及び固着性で個体数計数の困難な動物(イガイ類、フジツボ類等)は被度を示した。

注2) +は被度5%未満を示す。

注3) ○は捕獲・目視による出現を示す。

注4) 学名及び分類群順は西村編(1992, 1995)「原色検索 日本海岸動物図鑑 I、II」他に準拠した。

## b) 定量採取分析結果

山下公園における柁取定量採取分析結果を表 7.28～表 7.30に、動物門別個体数を表 7.31に、時季別個体数を図 7.7に、時季別優占種（個体数）を表 7.32に、動物門別湿重量を表 7.33に、時季別湿重量を図 7.8に、時季別優占種（湿重量）表 7.34に示す。なお、定量採取分析における優占種を組成比 10%以上で出現した種とする。

表 7.28 山下公園における海岸動物（岸壁）定量採取分析結果（秋季）

調査方法：方形枠(0.1m×0.1m)内を1回剥離採取  
 単位：個体/0.01m<sup>2</sup>、g/0.01m<sup>2</sup>  
 (合計)個体/0.04m<sup>2</sup>、g/0.04m<sup>2</sup>

No.	門	綱	調査日 採取層 和名	2024年10月29日								合計	
				高潮帯 (A.P.+1.85m)		平均水面 (A.P.+1.15m)		低潮帯 (A.P.+0.45m)		平均水面下2m (A.P.-0.85m)		個体数	湿重量
				個体数 (個体)	湿重量 (g)	個体数 (個体)	湿重量 (g)	個体数 (個体)	湿重量 (g)	個体数 (個体)	湿重量 (g)		
1	刺胞動物	花虫	チギレイソギンチャク					1	+	11	0.24	12	0.24
2			イソギンチャク目					3	0.33			3	0.33
3	扁形動物	渦虫	スチロヒラムシ科					2	0.04			2	0.04
4	紐形動物	無針	異紐虫目			2	0.01					2	0.01
5		有針	ヨツメヒモムシ	4	0.04							4	0.04
6	線形動物		線形動物門	1	+							1	+
7	触手動物	管虫	Phoronis 属					4	0.02			4	0.02
8		苔虫	ニホンコケムシ					-	0.02			-	0.02
9	軟体動物	腹足	イボニシ			5	0.86					5	0.86
10		二枚貝	ヒバリガイ							1	0.20	1	0.20
11			ホトギスガイ							586	15.91	586	15.91
12			ムラサキイガイ			1	0.01					1	0.01
13			ミドリイガイ			45	18.92	1	0.17			46	19.09
14			コウロエンカワヒバリガイ			62	7.00	2	0.21	10	1.03	74	8.24
15			マガキ			3	5.22					3	5.22
16			チリハギガイ	132	0.06							132	0.06
17			ウスカラシオツガイ					3	0.61	60	3.44	63	4.05
18			アサリ							2	1.18	2	1.18
19	環形動物	多毛	サミドリサシバ			4	0.04	3	0.05			7	0.09
20			アケノサシバ	1	0.02	5	0.06	2	0.07			8	0.15
21			マイクロオトヒメ					3	+	6	+	9	+
22			Ophiodromus 属							13	0.08	13	0.08
23			ヒトゲシリス			4	0.02			2	0.01	6	0.03
24			シロマダラシリス			2	0.01			1	+	3	0.01
25			ムアシリス			2	0.01					2	0.01
26			アシナガゴカイ	1	+	7	0.11	2	+	4	0.19	14	0.30
27			クマドリゴカイ			9	0.17			9	0.26	18	0.43
28			デンガクゴカイ			9	0.45					9	0.45
29			フサウスウロコムシ			5	0.13	3	0.04			8	0.17
30			Polydora 属			3	+	9	0.02	49	0.11	61	0.13
31			イトエラスピオ							2	+	2	+
32			ミズヒキゴカイ					1	0.01			1	0.01
33			Sabella 属					9	0.08			9	0.08
34			エソカサネカンザシゴカイ			1	+	7	0.04			8	0.04
35	節足動物	顎脚	イワフジツボ	464	21.06							464	21.06
36			タデジマフジツボ					4	0.27			4	0.27
37			アメリカフジツボ					4	0.75			4	0.75
38			サンカクフジツボ					1	0.06			1	0.06
39			ナンオウフジツボ			3	4.69					3	4.69
40		軟甲	ヒゲナガヨコエビ属					1	+			1	+
41			ニホンドロソコエビ							2	+	2	+
42			アリアケドロクダムシ							202	0.12	202	0.12
43			ドロクダムシ属					10	+			10	+
44			ドロノミ属	1	+			1	+			2	+
45			タテソコエビ属	1	+							1	+
46			モクズヨコエビ属	7	+	2	0.01					9	0.01
47			シリケンウミセミ			1	+					1	+
48			イソコツブムシ	16	0.01							16	0.01
49			キスイタナイス							10	0.02	10	0.02
50			シワオウギガニ					4	0.11			4	0.11
51			ヒライソガニ							2	0.05	2	0.05
52			インガニ			1	0.04					1	0.04
53			タカノケフサイソガニ			1	0.03					1	0.03
54		昆虫	アシナガバエ科	7	+							7	+
種類数				11		22		24		18		54	
個体数・湿重量合				635	21.19	177	37.79	80	2.90	972	22.84	1,864	84.72

注1) +表示は0.01g未満を示す。

注2) 学名及び分類群順は西村編(1992、1995)「原色検索 日本海岸動物図鑑 I、II」他に準拠した。

表 7.29 山下公園における海岸動物（岸壁） 定量採取分析結果（春季）

調査方法：方形枠(0.1m×0.1m)内を1回剥離採取  
 単位：個体/0.01m<sup>2</sup>、g/0.01m<sup>2</sup>  
 (合計)個体/0.04m<sup>2</sup>、g/0.04m<sup>2</sup>

No.	門	綱	和名	2025年4月23日								合計	
				高潮帯 (A.P.+1.85m)		平均水面 (A.P.+1.15m)		低潮帯 (A.P.+0.45m)		平均水面下2m (A.P.-0.85m)		個体数	湿重量
				個体数 (個体)	湿重量 (g)	個体数 (個体)	湿重量 (g)	個体数 (個体)	湿重量 (g)	個体数 (個体)	湿重量 (g)		
1	刺胞動物	花虫	タテジマイソギンチャク					3	0.76			3	0.76
2			イソギンチャク目			1	0.01			23	0.23	24	0.24
3	扁形動物	渦虫	スチロヒラムシ科					1	0.08			1	0.08
4			ヤワヒラムシ科					20	0.58			20	0.58
5	紐形動物	無針	異紐虫目			2	0.05	5	0.13			7	0.18
6		有針	メノコヒモムシ					11	0.06	2	0.07	13	0.13
7			紐形動物門					2	0.04			2	0.04
8	触手動物	簞虫	Phoronis 属							23	0.39	23	0.39
9		苔虫	ニホンコケムシ					-	0.54			-	0.54
10	軟体動物	多板	ヒメケハダヒザラガイ			1	0.17					1	0.17
11		腹足	ヒメコザラ(シボリガイ型)			3	0.04					3	0.04
12			シマメノウフネガイ					1	0.11			1	0.11
13			イボニシ			6	5.38	1	6.44			7	11.82
14		二枚貝	ホトギスガイ							1	0.32	1	0.32
15			ムラサキイガイ			1	+			3	0.01	4	0.01
16			コウロエンカワヒバリガイ			4	0.03	11	1.35			15	1.38
17			マガキ			17	95.36	3	10.37			20	105.73
18			チリハギガイ	17	0.06	2	+					19	0.06
19			ウスカラシオツガイ					3	0.33	2	0.24	5	0.57
20			キヌマトイガイ							1	0.02	1	0.02
21	環形動物	多毛	サミドリサシバ					4	0.11			4	0.11
22			アケノサシバ			7	0.11	1	0.02			8	0.13
23			Ophiodromus 属					19	0.06	23	0.08	42	0.14
24			シロマダラシリス			23	0.22	3	0.03	1	0.01	27	0.26
25			ムアシリス					1	0.01	4	0.02	5	0.03
26			アシナガゴカイ					1	+			1	+
27			マサゴゴカイ					1	+			1	+
28			クマドリゴカイ					13	0.40			13	0.40
29			デンガクゴカイ			25	1.65					25	1.65
30			Harmothoe 属							4	0.06	4	0.06
31			フサウスウロコムシ							1	0.10	1	0.10
32			Polydora 属					2	0.01			2	0.01
33			Thelepus 属							17	0.43	17	0.43
34			Sabella 属					1	0.05	4	0.13	5	0.18
35			ヤグルマカンザシゴカイ							1	+	1	+
36			エゾカサネカンザシゴカイ					23	1.12			23	1.12
37	節足動物	顎脚	イワフジツボ	458	25.58							458	25.58
38			サンカクフジツボ							1	0.59	1	0.59
39		軟甲	モズミヨコエビ					2	0.06	10	0.08	12	0.14
40			ヒゲナガヨコエビ属			9	0.02	12	0.03			21	0.05
41			アリアケドロクダムシ			6	0.01	57	0.05	1,124	1.30	1,187	1.36
42			ホソヨコエビ							2	0.01	2	0.01
43			カマキリヨコエビ属					15	0.01	2	0.01	17	0.02
44			イソヨコエビ					4	0.05	1	0.01	5	0.06
45			チビマルヨコエビ属					4	0.01			4	0.01
46			タテソコエビ属					32	0.04			32	0.04
47			モクズヨコエビ属			37	0.14					37	0.14
48			マルエラフレカラ					19	0.05	10	0.06	29	0.11
49			トゲワレカラ			1	0.01			15	0.46	16	0.47
50			ニセスナホリムシ			1	0.15					1	0.15
51			シリケンウミセミ			5	0.11					5	0.11
52			イソツブムシ			21	0.17					21	0.17
53			ツノオウミセミ							1	0.04	1	0.04
54			キスイタナイス	1	+			78	0.07	31	0.05	110	0.12
55			インガニ			3	0.02	1	0.06			4	0.08
56		昆虫	ユスリカ科	5	0.02			30	0.03			35	0.05
57			アシナガバエ科	7	0.06							7	0.06
種類数				5		20		34		25		57	
個体数・湿重量合				488	25.72	175	103.65	384	23.06	1,307	4.72	2,354	157.15

注1) +表示は0.01g未満を示す。

注2) 学名及び分類群順は西村編(1992、1995)「原色検索 日本海岸動物図鑑 I、II」他に準拠した。

表 7.30 山下公園における海岸動物（岸壁） 定量採取分析結果（夏季）

調査方法：方形枠(0.1m×0.1m)内を1回剥離採取  
 単 位：個体/0.01m<sup>2</sup>、g/0.01m<sup>2</sup>  
 (合 計)個体/0.04m<sup>2</sup>、g/0.04m<sup>2</sup>

No.	門	綱	調 査 日 採 取 層 和 名	2025年7月22日								合 計	
				高潮帯 (A.P.+1.85m)		平均水面 (A.P.+1.15m)		低潮帯 (A.P.+0.45m)		平均水面下2m (A.P.-0.85m)		個体数	湿重量
				個体数 (個体)	湿重量 (g)	個体数 (個体)	湿重量 (g)	個体数 (個体)	湿重量 (g)	個体数 (個体)	湿重量 (g)		
1	刺胞動物	花虫	チギレイソギンチャク					36	0.94	1	0.03	37	0.97
2			イソギンチャク目			1	0.01	43	1.54	10	0.13	54	1.68
3	扁形動物	渦虫	スチロヒラムシ科			1	0.01					1	0.01
4			ヤワヒラムシ科					1	0.01			1	0.01
5	触手動物	苔虫	ニホンコケムシ							-	0.31	-	0.31
6	軟体動物	多板	ヒメケハダヒザラガイ			2	0.31					2	0.31
7		腹足	ヒメコザラ(シボリガイ型)			3	0.18					3	0.18
8			コヒトウラウスガイ	1	0.01							1	0.01
9			イボニシ			3	1.04	2	6.05			5	7.09
10		二枚貝	ホトギスガイ			1	0.15			1	+	2	0.15
11			ムラサキイガイ	1	0.01			28	5.34			29	5.35
12			ミドリイガイ			3	0.04	212	6.97	2	0.04	217	7.05
13			コウロエンカワヒバリガイ			3	0.07	148	1.37	1	0.01	152	1.45
14			マガキ					10	2.26			10	2.26
15			チリハギガイ	246	0.30							246	0.30
16			ウスカラシオツガイ			8	1.02	180	8.47	205	5.72	393	15.21
17			アサリ			1	0.13					1	0.13
18			キヌマイトイガイ					1	0.02	2	0.16	3	0.18
19	環形動物	多毛	サミドリサシバ			9	0.07	26	0.31			35	0.38
20			アケノサシバ					2	0.06			2	0.06
21			ミクロオトヒメ							1	+	1	+
22			<i>Ophiodromus</i> 属					5	0.03	18	0.06	23	0.09
23			ヒトゲシリス			1	+	3	0.01	2	0.01	6	0.02
24			ムアシリス							2	+	2	+
25			<i>Typosyllis</i> 属					2	0.01	20	0.19	22	0.20
26			ヒメゴカイ					1	+			1	+
27			クマドリゴカイ					2	0.31	1	0.19	3	0.50
28			デンガクゴカイ			31	1.26					31	1.26
29			<i>Harmothoe</i> 属					3	0.02	5	0.04	8	0.06
30			フサウスウロコムシ			1	0.05					1	0.05
31			<i>Polydora</i> 属					97	0.24	30	0.03	127	0.27
32			<i>Thelepus</i> 属							4	0.05	4	0.05
33			<i>Sabella</i> 属					1	0.03	34	0.09	35	0.12
34			<i>Sabellastarte</i> 属					26	0.84	85	1.05	111	1.89
35			ヤグルマカンザシゴカイ							1	+	1	+
36			エソカサネカンザシゴカイ			5	0.14	23	0.57	237	2.50	265	3.21
37	節足動物	顎脚	イワフジツボ	264	15.39							264	15.39
38			タテジマフジツボ					1	0.01			1	0.01
39			アメリカフジツボ					2	2.28			2	2.28
40			ナンオウフジツボ					13	8.78			13	8.78
41		軟甲	ホソヨコエビ							1	+	1	+
42			イソヨコエビ			33	0.06	27	0.09	3	+	63	0.15
43			チビマルヨコエビ属					79	0.04			79	0.04
44			タテソコエビ属					39	0.03			39	0.03
45			ウラガモクス			141	0.23					141	0.23
46			ニセスナホリムシ			77	0.68					77	0.68
47			シリケンウミセミ	1	0.01	161	0.40	138	0.42			300	0.83
48			ツノオウミセミ							1	0.04	1	0.04
49			キスイタナイス							185	0.08	185	0.08
50			インガニ			2	0.26					2	0.26
51		昆虫	アシナガバエ科			1	+					1	+
52	脊索動物	ホヤ	ユウレイゴヤ属							3	0.76	3	0.76
53			シロボヤ					4	22.70	5	5.32	9	28.02
54			マボヤ科					1	0.16	22	0.70	23	0.86
種 類 数				5		21		31		28		54	
個体数・湿重量合				513	15.72	488	6.11	1,156	69.91	882	17.51	3,039	109.25

注1) +表示は0.01g未満を示す。

注2) 学名及び分類群順は西村編(1992、1995)「原色検索 日本海岸動物図鑑 I、II」他に準拠した。

表 7.31 山下公園における海岸動物（岸壁）動物門別個体数

時季	秋季		春季		夏季	
	個体数 (個体/0.04 m <sup>2</sup> )	組成 比 (%)	個体数 (個体/0.04 m <sup>2</sup> )	組成 比 (%)	個体数 (個体/0.04 m <sup>2</sup> )	組成 比 (%)
軟体動物	913	49.0	77	3.3	1,064	35.0
環形動物	178	9.5	179	7.6	678	22.3
節足動物	745	40.0	2,005	85.2	1,169	38.5
その他	28	1.5	93	4.0	128	4.2
合計	1,864	100	2,354	100	3,039	100

注) 組成比の数値は小数点1桁で四捨五入しているため、合計が100%にならない場合がある。

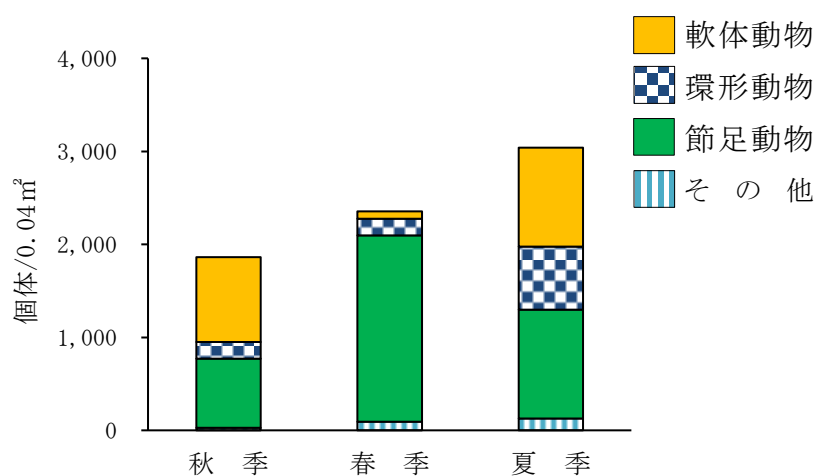


図 7.7 山下公園における海岸動物（岸壁）時季別個体数

表 7.32 山下公園における海岸動物（岸壁）時季別優占種（個体数）

単位: 個体/0.04m<sup>2</sup>

時季	秋季	春季	夏季
優占種の個体数 および組成比 (組成比10%以上)	ホトギスガイ 586 (31.4%)	アリアケドロクダムシ 1,187 (50.4%)	ウスカラシオツガイ 393 (12.9%)
	イワフジツボ 464 (24.9%)	イワフジツボ 458 (19.5%)	
	アリアケドロクダムシ 202 (10.8%)		

表 7.33 山下公園における海岸動物（岸壁）動物門別湿重量

時季	秋季		春季		夏季	
	湿重量 (g/0.04m <sup>2</sup> )	組成 比 (%)	湿重量 (g/0.04m <sup>2</sup> )	組成 比 (%)	湿重量 (g/0.04m <sup>2</sup> )	組成 比 (%)
軟体動物	54.82	64.7	120.23	76.5	39.67	36.3
環形動物	1.98	2.3	4.62	2.9	8.16	7.5
節足動物	27.22	32.1	29.36	18.7	28.80	26.4
その他	0.70	0.8	2.94	1.9	32.62	29.9
合計	84.72	100	157.15	100	109.25	100

注) 組成比の数値は小数点1桁で四捨五入しているため、合計が100%にならない場合がある。

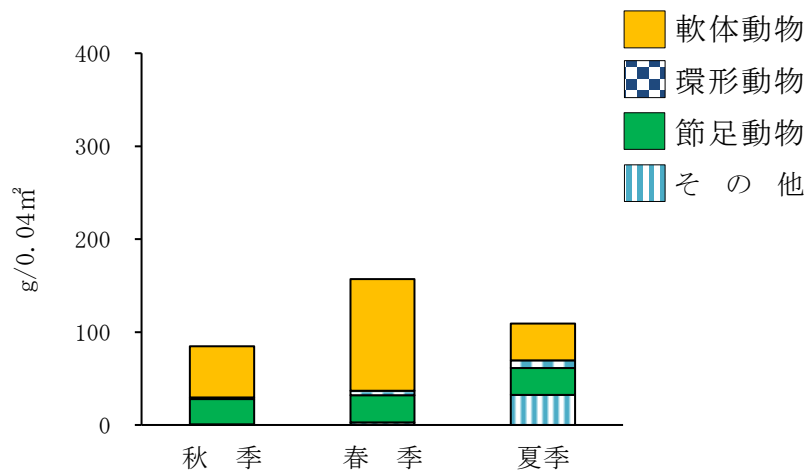


図 7.8 山下公園における海岸動物（岸壁）時季別湿重量

表 7.34 山下公園における海岸動物（岸壁）時季別優占種（湿重量）

単位: g/0.04m<sup>2</sup>

時季	秋季	春季	夏季
優占種の湿重量 および組成比 (組成比10%以上)	イワフジツボ 21.06 (24.9%)	マガキ 105.73 (67.3%)	シロボヤ 28.02 (25.6%)
	ミドリイガイ 19.09 (22.5%)	イワフジツボ 25.58 (16.3%)	イワフジツボ 15.39 (14.1%)
	ホトギスガイ 15.91 (18.8%)		ウスカラシオツガイ 15.21 (13.9%)

## ②堀割川河口

## a) 目視観察結果

堀割川河口における目視観察結果を表 7.35～表 7.37に示す。

秋季調査の出現種類数は海綿動物門 1 種類、刺胞動物門 3 種類、触手動物門 2 種類、軟体動物門 9 種、環形動物門 2 種類、節足動物門 7 種、棘皮動物門 1 種、脊索動物門 2 種類の計 27 種類であった。

春季調査の出現種類数は海綿動物門 1 種類、刺胞動物門 3 種類、触手動物門 4 種類、軟体動物門 13 種類、環形動物門 2 種類、節足動物門 5 種、脊索動物門 5 種類の計 33 種類であった。

夏季調査の出現種類数は海綿動物門 1 種類、刺胞動物門 3 種類、触手動物門 2 種類、軟体動物門 7 種、環形動物門 2 種類、節足動物門 4 種、脊索動物門 3 種類の計 22 種類であった。

表 7.35 堀割川河口における海岸動物（岸壁）目視観察結果（秋季）

観察方法：方形枠(50cm×50cm)内を観察  
単 位：%(被 度)、個体/0.25㎡

No.	門	綱	調 査 日 基点からの距離(m) 底 質 観 察 層 和 名	2024年10月29日							単位	測線周辺 での 目視観察 または 魚類調査 混獲生物 による出現	
				0	0	0	0	0	1.2	3.0			
				護岸 高潮帯	護岸 平均水面付近	護岸 低潮帯	護岸 潮下帯						
				A.P.	A.P.	A.P.	A.P.	A.P.	A.P.				
1	海綿動物		海綿動物門						+	+	%		
2	刺胞動物	ヒドロ虫	ヒドロ虫綱						+	+	%		
3		花虫	タテジマインゲンチャク		6	2	4	3			個体	○	
4			インゲンチャク目								個体	○	
5	触手動物	苔虫	フサコケムシ							+	%		
6			苔虫綱							+	+	%	
7	軟体動物	腹足	コシダカガンガラ								個体	○	
8			シマメノウフネガイ			2	1	5	6		個体	○	
9			アカニシ						1	1	個体	○	
10			イボニシ		9	7	17	12	10		個体	○	
11			アラムシロ							44	個体		
12			フレリトゲアメフラシ								個体	○	
13		二枚貝	コベルトフネガイ				2				個体		
14			ミドリイガイ				+	+		+	%	○	
15			マガキ		+	+					%	○	
16	環形動物	多毛	ミズヒキゴカイ科								+	%	
17			カンザシゴカイ科				+	70	70		%	○	
18	節足動物	顎脚	イワフジツボ		20	70					%	○	
19			タテジマフジツボ		+	+	+				%		
20			アメリカフジツボ					+			%	○	
21		軟甲	イソスジエビ						1		個体	○	
22			ユビナガホンヤドカリ					2		1	個体	○	
23			イシガニ						1	1	個体		
24			タカノケフサイソガニ				3				個体		
25	棘皮動物	ウニ	ガンガゼ								個体	○	
26	脊索動物	ホヤ	シロボヤ					3	2		個体	○	
27			ホヤ綱(群体性)								%	○	
種 類 数				出現せず	5	6	8	10	11	7	-	17	

注1) 単体性の動物は原則として個体数を、群体性の動物及び固着性で個体数計数の困難な動物(イガイ類、フジツボ類等)は被度を示した。

注2) +は被度5%未満を示す。

注3) ○は捕獲・目視による出現を示す。

注4) 学名及び分類群順は西村編(1992、1995)「原色検索 日本海岸動物図鑑 I、II」他に準拠した。

表 7.36 堀割川河口における海岸動物（岸壁）目視観察結果（春季）

観察方法：方形枠(50cm×50cm)内を観察  
単 位：％(被 度)、個体/0.25㎡

No.	門	綱	調 査 日 基点からの距離 (m) 底 質 観 察 層 和 名	2025年5月12日								単 位	測線周 辺での 目視観察 または 魚類調査 混獲生物 による出現
				0	0	0	0	0	1.2	3.0	泥・貝片		
				護岸	護岸	護岸	護岸	護岸	護岸	潮下帯			
				高潮帯	平均水	面付近	低潮帯						
A.P.	A.P.	A.P.	A.P.	A.P.	A.P.	A.P.							
				+2.0m	+1.5m	+1.0m	+0.5m	±0.0m	-0.5m	-1.0m			
1	海綿動物	尋常海綿	尋常海綿綱				+	+	+		％	○	
2	刺胞動物	ヒドロ虫	ヒドロ虫綱				+	+	+	+	％		
3		花虫	タテジマイソギンチャク		7	3	6	4	5		個体	○	
4			イソギンチャク目							3	個体		
5	触手動物	筍虫	Phoronis 属				+	+			％		
6		苔虫	ツノマダコケムシ科								％	○	
7			フサコケムシ							+	％		
8			苔虫綱				+	+	+	+	％	○	
9	軟体動物	多板	ケハダヒザラガイ科				3				個体	○	
10		腹足	コガモガイ		2	3					個体	○	
11			コシダカガンガラ					1			個体		
12			シマメノウフネガイ					1			個体	○	
13			イボニシ		17	13	9	2			個体	○	
14			アラムシロ						4	10	個体	○	
15			コノハミドリガイ								個体	○	
16			裸鰓目					2		1	個体		
17			カラマツガイ			1					個体		
18		二枚貝	コベルトフネガイ				2				個体		
19			カリガネエガイ								個体	○	
20			ムラサキイガイ								％	○	
21			マガキ		+	+					％	○	
22	環形動物	多毛	ヤッコカンザシ								％	○	
23			カンザシゴカイ科				+	+	+		％	○	
24	節足動物	顎脚	イワフジツボ		+	5					％	○	
25			アメリカフジツボ								％	○	
26		軟甲	スジエビモドキ						3		個体		
27			イシガニ								個体	○	
28			イソガニ		2		1				個体	○	
29	脊索動物	ホヤ	ユウレイボヤ属						7		個体		
30			イタボヤ科				+	5	20	+	％	○	
31			シロボヤ								個体	○	
32			マンハッタンボヤ						3		個体		
33			ホヤ綱(群体性)				+	5	10	+	％	○	
種 類 数				出現せず	6	6	11	12	11	8	-	22	

注1) 単体性の動物は原則として個体数を、群体性の動物及び固着性で個体数計数の困難な動物(イガイ類、フジツボ類等)は被度を示した。  
 注2) +は被度5%未満を示す。  
 注3) ○は捕獲・目視による出現を示す。  
 注4) 学名及び分類群順は西村編(1992、1995)「原色検索 日本海岸動物図鑑 I、II」他に準拠した。

表 7.37 堀割川河口における海岸動物（岸壁）目視観察結果（夏季）

観察方法：方形枠(50cm×50cm)内を観察  
 単 位：%(被 度)、個体/0.25㎡

No.	門	綱	調査日 基点からの距離(m) 底 質 観 察 層 和 名	2025年7月22日								単位	測線周 辺での 目視観察 または 魚類調査 混獲生物 による出現
				0	0	0	0	0	1.2	3.0			
				護岸	護岸	護岸	護岸	護岸	護岸	泥・砂			
				高潮帯	平均水面付近	低潮帯	潮下帯						
			A.P. +2.0m	A.P. +1.5m	A.P. +1.0m	A.P. +0.5m	A.P. ±0.0m	A.P. -0.5m	A.P. -1.0m				
1	海綿動物	尋常海綿	尋常海綿綱				5	10		+	%	○	
2	刺胞動物	ヒドロ虫	ヒドロ虫綱								%	○	
3		花虫	タテジマイソギンチャク			1		1	2		個体	○	
4			イソギンチャク目					2	7	5	個体	○	
5	触手動物	苔虫	ツノマダコケムシ科								%	○	
6			苔虫綱					5	20		%		
7	軟体動物	腹足	アラレタマキビ	1	3						個体		
8			シマメノウフネガイ								個体	○	
9			アカニシ								個体	○	
10			イボニシ			10	64	2			個体	○	
11			アラムシロ							6	個体		
12			コノハミドリガイ								個体	○	
13		二枚貝	マガキ								%	○	
14	環形動物	多毛	ミズヒキゴカイ科							5	%	○	
15			カンザシゴカイ科					5	5	+	%	○	
16	節足動物	顎脚	イワフジツボ		10						%	○	
17			タテジマフジツボ		10	20	10				%	○	
18		軟甲	コブヨコバサミ							1	個体		
19			ユビナガホンヤドカリ								個体	○	
20	脊索動物	ホヤ	イタボヤ科					10	10	+	%	○	
21			シロボヤ					1	28	4	個体	○	
22			ホヤ綱(群体性)					10	5		%	○	
種 類 数				1	3	3	3	9	7	8	-	18	

注1) 単体性の動物は原則として個体数を、群体性の動物及び固着性で個体数計数の困難な動物(イガイ類、フジツボ類等)は被度を示した。

注2) +は被度5%未満を示す。

注3) ○は捕獲・目視による出現を示す。

注4) 学名及び分類群順は西村編(1992、1995)「原色検索 日本海岸動物図鑑 I、II」他に準拠した。

b) 定量採取分析結果

堀割川河口における杓取採取分析結果を表 7.38～表 7.40に、動物門別個体数を表 7.41に、時季別個体数を図 7.9に、時季別優占種（個体数）を表 7.42に、動物門別湿重量を表 7.43に、時季別湿重量を図 7.10に、時季別優占種（湿重量）を表 7.44に示す。なお、定量採取分析において組成比 10%以上で出現した種を優占種とする。

表 7.38 堀割川河口における海岸動物（岸壁）定量採取分析結果（秋季）

調査方法：方形枠(0.1m×0.1m)内を1回剥離採取  
 単位：個体/0.01m<sup>2</sup>、g/0.01m<sup>2</sup>  
 (合計)個体/0.04m<sup>2</sup>、g/0.04m<sup>2</sup>

No.	門	綱	和名	2024年10月29日								合計		
				高潮帯 (A.P.+1.85m)		平均水面 (A.P.+1.15m)		低潮帯 (A.P.+0.45m)		平均水面下2m (A.P.-0.85m)		個体数	湿重量	
				個体数 (個体)	湿重量 (g)	個体数 (個体)	湿重量 (g)	個体数 (個体)	湿重量 (g)	個体数 (個体)	湿重量 (g)			
1	刺胞動物	花虫	イソギンチャク目					1	0.07			1	0.07	
2	紐形動物		紐形動物門					1	0.03			1	0.03	
3	触手動物	苔虫	ホソフサコケムシ							-	0.02	-	0.02	
4	軟体動物	多板	ヒメケハダヒザラガイ					1	+			1	+	
5			腹足	アラレタマキビ	1	0.01							1	0.01
6			イボニシ					1	2.63	1	4.17	2	6.80	
7		二枚貝	マガキ					1	0.16			1	0.16	
8			チリハギガイ			1	+					1	+	
9	環形動物	多毛	サミドリサシバ					1	0.01			1	0.01	
10				<i>Ophiodromus</i> 属							26	0.03	26	0.03
11				ムアシリス			1	+			12	0.02	13	0.02
12				フサウスウロコムシ					1	0.01			1	0.01
13				<i>Cirriformia</i> 属							946	2.60	946	2.60
14				<i>Thelepus</i> 属					2	0.01	4	0.08	6	0.09
15				<i>Sabella</i> 属					2	0.02	43	0.36	45	0.38
16				ヤグルマカンザシゴカイ							1	+	1	+
17				エゾカサネカンザシゴカイ					23	0.14	1	0.02	24	0.16
18	節足動物	顎脚	イワフジソボ		121	2.39						121	2.39	
19			軟甲	イソヨコエビ						3	+	3	+	
20		シワオウギガニ					2	0.01	16	0.23	18	0.24		
21		イソガニ		1	0.01							1	0.01	
22	脊索動物	ホヤ	クロマメイタボヤ							312	5.93	312	5.93	
23			シロボヤ							1	23.34	1	23.34	
種類数				1	4	11	13	23						
個体数・湿重量合				1	0.01	124	2.40	36	3.09	1,366	36.80	1,527	42.30	

注1) +表示は0.01g未満を示す。

注2) -表示は個体数計数が困難な群体性種等を示す。

注3) 学名及び分類群順は西村編(1992、1995)「原色検索 日本海岸動物図鑑Ⅰ、Ⅱ」他に準拠した。

表 7.39 堀割川河口における海岸動物（岸壁）定量採取分析結果（春季）

調査方法：方形枠(0.1m×0.1m)内を1回剥離採取  
 単位：個体/0.01m<sup>2</sup>、g/0.01m<sup>2</sup>  
 (合計)個体/0.04m<sup>2</sup>、g/0.04m<sup>2</sup>

No.	門	綱	和名	2025年5月12日								合計			
				高潮帯 (A.P.+1.85m)		平均水面 (A.P.+1.15m)		低潮帯 (A.P.+0.45m)		平均水面下2m (A.P.-0.85m)		個体数	湿重量		
				個体数 (個体)	湿重量 (g)	個体数 (個体)	湿重量 (g)	個体数 (個体)	湿重量 (g)	個体数 (個体)	湿重量 (g)				
1	刺胞動物	花虫	タテジマイソギンチャク					1	0.15			1	0.15		
2	触手動物	苔虫	センナリコケムシ							-	1.05	-	1.05		
3			フサコケムシ							-	0.01	-	0.01		
4			コブコケムシ科								-	0.38	-	0.38	
5			軟体動物	腹足	アラレタマキビ	2	0.01							2	0.01
6			イボニシ			1	1.82			1	0.33	2	2.15		
7			ムギガイ							1	0.10	1	0.10		
8			クサズリクチキレ							1	0.01	1	0.01		
9			フジタウミウシ科							3	1.08	3	1.08		
10	環形動物	多毛	サミドリサシバ					1	0.02			1	0.02		
11			アケノサンバ								1	0.01	1	0.01	
12			<i>Ophiodromus</i> 属								10	0.09	10	0.09	
13			ムアシリス							5	0.01			5	0.01
14			クマドリゴカイ							1	0.04			1	0.04
15			<i>Harmothoe</i> 属							1	+	8	0.03	9	0.03
16			ルドルフイソメ									3	0.02	3	0.02
17			<i>Dodecaceria</i> 属									1	0.01	1	0.01
18			カザリゴカイ科									1	0.01	1	0.01
19			<i>Thelepus</i> 属							1	0.01	8	0.37	9	0.38
20			ヤグルマカンザシゴカイ									10	0.13	10	0.13
21			エゾカサネカンザシゴカイ							6	0.11			6	0.11
22	節足動物	顎脚	イワフジツボ	1	+	364	1.52					365	1.52		
23		軟甲	ユンボソコエビ属								2	+	2	+	
24			トゲドロクダムシ								1	+	1	+	
25			トンガリドロクダムシ							1	+	9	0.01	10	0.01
26			ウエバドロクダムシ					1	+	119	0.07			120	0.07
27			ホソヨコエビ									2	+	2	+
28			マルエラワレカラ									2	0.01	2	0.01
29			フタマタフナムシ											1	0.25
30			昆虫	ユスリカ科								6	+	6	+
31		脊索動物	ホヤ	イタボヤ科							-	0.16	-	11.44	-
32	クロマメイタボヤ											13	0.26	13	0.26
33	マンハッタンボヤ											1	0.12	1	0.12
種類数				3		3		11		23		33			
個体数・湿重量合				4	0.26	366	3.34	142	0.57	78	15.47	590	19.64		

注1)+表示は0.01g未満を示す。

注2)-表示は個体数計数が困難な群体性種等を示す。

注3)学名及び分類群順は西村編(1992、1995)「原色検索 日本海岸動物図鑑Ⅰ、Ⅱ」他に準拠した。

表 7.40 堀割川河口における海岸動物（岸壁）定量採取分析結果（夏季）

調査方法：方形枠(0.1m×0.1m)内を1回剥離採取  
 単 位：個体/0.01m<sup>2</sup>、g/0.01m<sup>2</sup>  
 (合 計)個体/0.04m<sup>2</sup>、g/0.04m<sup>2</sup>

No.	門	綱	和 名	2025年7月22日								合 計			
				高潮帯 (A.P.+1.85m)		平均水面 (A.P.+1.15m)		低潮帯 (A.P.+0.45m)		平均水面下2m (A.P.-0.85m)		個体数	湿重量		
				個体数 (個体)	湿重量 (g)	個体数 (個体)	湿重量 (g)	個体数 (個体)	湿重量 (g)	個体数 (個体)	湿重量 (g)				
1	海綿動物	尋常海綿	尋常海綿綱					-	0.22			-	0.22		
2	刺胞動物	花虫	イソギンチャク目							2	0.12	2	0.12		
3	触手動物	苔虫	コブコケムシ科					-	0.07	-	2.93	-	3.00		
4	軟体動物	腹足	イボニシ					2	10.80			2	10.80		
5			二枚貝	ホトギスガイ		1	0.02	43	0.11	15	0.03	59	0.16		
6				ミドリイガイ				5	0.03			5	0.03		
7			マガキ	1	+	71	0.36					72	0.36		
8			チリハギガイ					4	0.01			4	0.01		
9			ウスカラシオツガイ					266	2.01	2	0.04	268	2.05		
10			環形動物	多毛	マイクロオトヒメ							2	+	2	+
11					<i>Ophiodromus</i> 属							2	0.02	2	0.02
12					ヒトゲシリス			1	+	1	+	1	0.01	3	0.01
13	カスリシリス									22	0.14	22	0.14		
14	ヒメゴカイ									3	0.01	3	0.01		
15	クマドリゴカイ									1	0.03	1	0.03		
16	<i>Harmothoe</i> 属									4	0.04	4	0.04		
17	ルドルフイソメ									15	0.03	15	0.03		
18	<i>Polydora</i> 属									33	0.03	78	0.15		
19	<i>Thelepus</i> 属											3	0.14		
20	<i>Sabellastarte</i> 属									12	0.12	77	0.55		
21	ヤグルマカンザシゴカイ											5	0.10		
22	エソカサネカンザシゴカイ											1	0.02		
23	節足動物	顎脚	イワフジツボ	3	0.01	232	0.30					235	0.31		
24			タテジマフジツボ	1	0.01	43	0.15					44	0.16		
25		軟甲	トゲドロクダムシ						38	0.01			38	0.01	
26			ドロクダムシ属						1	+	2	+	3	+	
27			ホソヨコエビ			1	+			10	0.01	11	0.01		
28			イソヨコエビ							2	+	7	0.01		
29			ツノオウミセミ							2	0.03	2	0.03		
30			キスイタナイス							23	0.01	1	+		
31			シワオウギガニ							14	0.05	2	0.03		
32			昆虫	ユスリカ科			1	+					1	+	
33	脊索動物	ホヤ	イタボヤ科					-	2.05			-	2.05		
34			クロマメイタボヤ							52	0.87	52	0.87		
35			シロボヤ							8	10.02	8	10.02		
36			マボヤ科							6	0.51	6	0.51		
種 類 数				3		7		16		26		36			
個体数・湿重量合				5	0.02	350	0.83	444	15.52	323	15.84	1,122	32.21		

注1) +表示は0.01g未満を示す。

注2) -表示は個体数計数が困難な群体性種等を示す。

注3) 学名及び分類群順は西村編(1992、1995)「原色検索 日本海岸動物図鑑Ⅰ、Ⅱ」他に準拠した。

表 7.41 堀割川河口における海岸動物（岸壁）動物門別個体数

時 季	秋季		春季		夏季	
	個体数 (個体/0.04 m <sup>2</sup> )	組成 比 (%)	個体数 (個体/0.04 m <sup>2</sup> )	組成 比 (%)	個体数 (個体/0.04 m <sup>2</sup> )	組成 比 (%)
軟 体 動 物	6	0.4	9	1.5	410	36.5
環 形 動 物	1,063	69.6	57	9.7	261	23.3
節 足 動 物	143	9.4	509	86.3	383	34.1
そ の 他	315	20.6	15	2.5	68	6.1
合 計	1,527	100	590	100	1,122	100

注) 組成比の数値は小数点1桁で四捨五入しているため、合計が100%にならない場合がある。

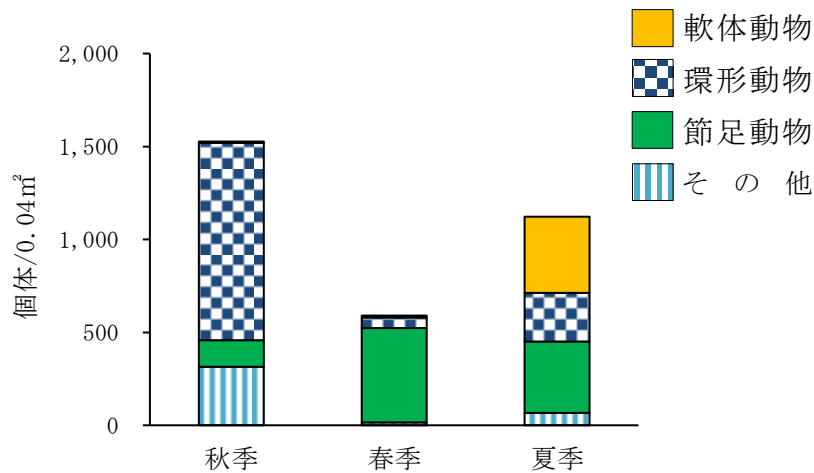


図 7.9 堀割川河口における海岸動物（岸壁）時季別個体数

表 7.42 堀割川河口における海岸動物（岸壁）時季別優占種（個体数）

時 季	秋季	春季	夏季
優占種の個体数	<i>Cirriformia</i> 属 946 (62.0%)	イワフジツボ 365 (61.9%)	ウスカラシオツガイ 268 (23.9%)
および組成比 (組成比10%以上)	クロマメイタボヤ 312 (20.4%)	ウエノドロクダムシ 120 (20.3%)	イワフジツボ 235 (20.9%)

表 7.43 堀割川河口における海岸動物（岸壁）動物門別湿重量

時 季	秋季		春季		夏季	
	湿重量 (g/0.04m <sup>2</sup> )	組成 比 (%)	湿重量 (g/0.04m <sup>2</sup> )	組成 比 (%)	湿重量 (g/0.04m <sup>2</sup> )	組成 比 (%)
軟 体 動 物	6.97	16.5	3.35	17.1	13.41	41.6
環 形 動 物	3.30	7.8	0.86	4.4	1.39	4.3
節 足 動 物	2.64	6.2	1.86	9.5	0.62	1.9
そ の 他	29.39	69.5	13.57	69.1	16.79	52.1
合 計	42.30	100	19.64	100	32.21	100

注) 組成比の数値は小数点1桁で四捨五入しているため、合計が100%にならない場合がある。

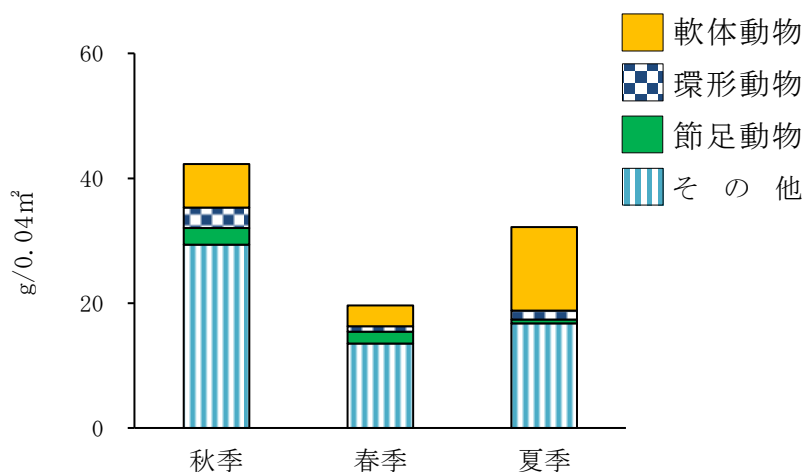


図 7.10 堀割川河口における海岸動物（岸壁）時季別湿重量

表 7.44 堀割川河口における海岸動物（岸壁）時季別優占種（湿重量）

時 季	秋季	春季	夏季
優占種の湿重量 および組成比 (組成比10%以上)	シロボヤ 23.34 (55.2%)	イタボヤ科 11.60 (59.1%)	イボニシ 10.80 (33.5%)
	イボニシ 6.80 (16.1%)	イボニシ 2.15 (10.9%)	シロボヤ 10.02 (31.1%)
	クロマメイタボヤ 5.93 (14.0%)		

7.2.海岸動物（岸壁）

7.2.3. レッドリスト等掲載種

海岸動物（岸壁）の外来種一覧を表 7.45に、該当種の写真を写真 7.10に示す。  
 レッドリスト等掲載種は、節足動物門のカクベンケイガニの1種であった。

表 7.45 海岸動物（岸壁）のレッドリスト等掲載種一覧

調査日：(秋季)2024年10月29日  
 (春季)2025年4月23日、5月12日  
 (夏季)2025年7月22日  
 調査方法：目視観察、杵取、投網・タモ網

No.	門	綱	目	科	和名	地点	時季			レッドリスト等掲載種の 選定基準
							秋 季	春 季	夏 季	
1	節足動物	軟甲	十脚	ベンケイガニ	カクベンケイガニ	○			○	東京都:留意種*14
種類数						1	該当種なし	1		

注1) ○は出現したことを示す。

注2) 東京都レッドリスト留意種の選定理由

\*14: 流域から離れて、土手から陸上へと進出するが、草地のような生息環境を必要とするため。

注3) 学名及び分類群順は西村編(1992、1995)「原色検索 日本海岸動物図鑑 I、II」他に準拠した。



カクベンケイガニ

(目盛りは 1mm 間隔)

写真 7.10 海岸動物（岸壁）のレッドリスト等掲載種

7.2.4. 外来種

海岸動物（岸壁）の外来種一覧を表 7.46に、該当種の写真を写真 7.11 (1) ~ (2) に示す。

環境省および農林水産省が 2015 年 3 月に公表した「我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト」に該当する種は、軟体動物門のシマメノウフネガイ、ムラサキガイ、ミドリガイ、コウロエンカワヒバリガイ、節足動物門のタテジマフジツボ、アメリカフジツボ、ヨーロッパフジツボの計 7 種であった。7 種全てが「その他の総合対策外来種」に該当した。

日本ベントス学会が 2004 年に公表した「日本における海産生物の人為的移入と分散」の「非在来の国外移入種」を含めた外来種は 10 種類であった。地点別では山下公園で 9 種、堀割川河口で 8 種であった。

表 7.46 海岸動物（岸壁）の外来種一覧

調査日：(秋季)2024年10月29日  
 (春季)2025年4月23日、5月12日  
 (夏季)2025年7月22日  
 調査方法：目視観察、杵取、投網・タモ網

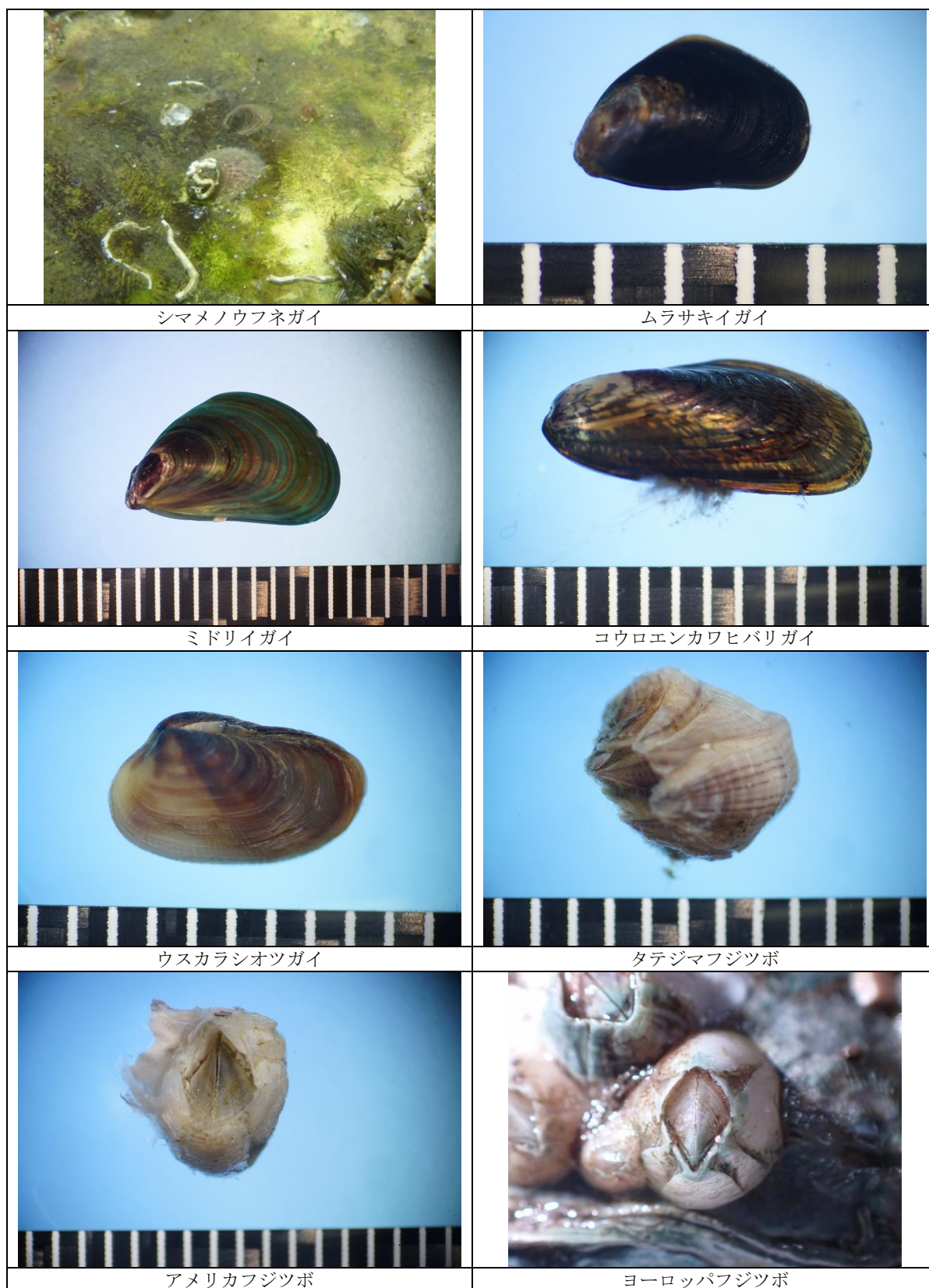
No.	門	綱	目	科	和名	地点		時季			外来種		
						山下公園	堀割川河口	秋季	春季	夏季	外来種リスト	学会	
1	軟体動物	腹足 二枚貝	盤足	カリバガサガイ	シマメノウフネガイ	○	○	○	○	○	●	●	
2				イガイ	ムラサキイガイ	○	○	○	○	○	●	●	
3				イガイ	ミドリイガイ	○	○	○	○	○	●	●	
4				イガイ	ヨウロエンカワヒバリガイ	○		○	○	○	○	●	●
5				マルスダレガイ	イワホリガイ	ウスカラシオツガイ	○	○	○	○	○		●
6	節足動物	顎脚	無柄	フジツボ	タテジマフジツボ	○	○	○	○	○	●	●	
7					アメリカフジツボ	○	○	○	○	○	○	●	●
8					ヨーロッパフジツボ	○		○				●	●
9	脊索動物	ホヤ	マボヤ	シロボヤ	クロマメイタボヤ		○	○	○	○		●	
10				フクロボヤ	マンハッタンボヤ	○	○		○				●
種類数						9	8	9	9	8	7	10	

注1) ○は出現したことを示す。●は外来種に該当したことを示す。

注2) 外来種リスト欄は「我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト(2015年3月公表)」に該当する種を示す。

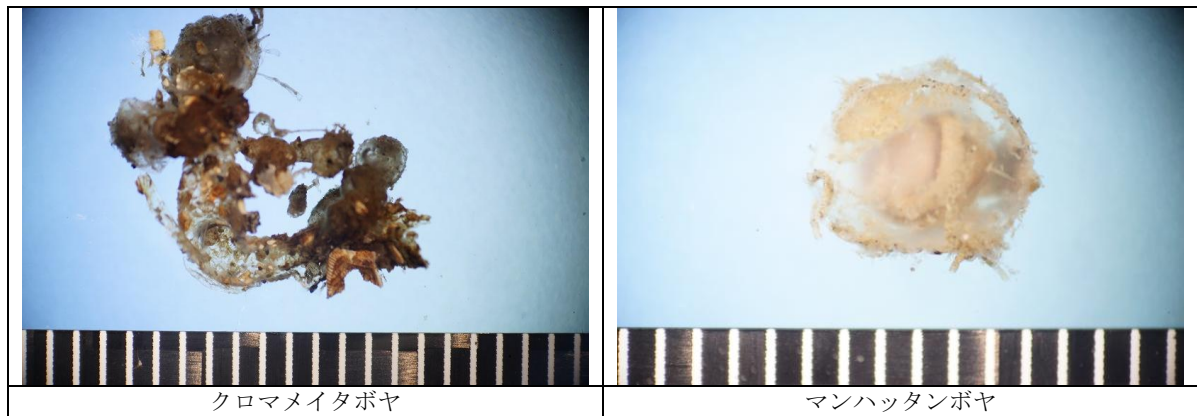
注3) 学会欄は「日本における海産生物の人為的移入と分散: 日本ベントス学会(2004年)」のうち「非在来の国外移入種」に該当する種を示す。

注4) 学名及び分類群順は西村編(1992、1995)「原色検索 日本海岸動物図鑑 I、II」他に準拠した。



(目盛りは 1mm 間隔)

写真 7.11 (1) 海岸動物（岸壁）外来種



クロマメイタボヤ

マンハッタンボヤ

（目盛りは1mm 間隔）

写真 7.11 (2) 海岸動物（岸壁）外来種

### 7.3. 海岸動物（干潟）

#### 7.3.1. 概要

海岸動物（干潟）種組成を図 7.11に、地点別種類数を図 7.12に、時季別種類数を図 7.13に、出現種一覧を表 7.47（1）～（3）に示す。

確認した種類数は172種類であった。なお、出現種には目視観察のみの種類、魚類調査で混獲された生物の種類も含めた。

動物門別の組成は、軟体動物門51種類（30%）、環形動物門50種類（29%）、節足動物門48種類（28%）その他23種類（13%）で、軟体動物門が最も多かった。

地点別の種類数は、48～101種類の範囲にあり、鶴見川河口で少なく、野島水路で多かった。

レッドリスト等掲載種は、軟体動物門のウミゴマツボ、ネコガイ、ムシロガイ、キヌボラ、クチキレガイ、ムラクモキビジキガイ、サクラガイ、ウズザクラ、ウネナシトマヤガイ、節足動物門のテナガツノヤドカリ、マメコブシガニ、カクベンケイガニ、オサガニ、コメツキガニの計14種であった。

外来種は軟体動物門のシマメノウフネガイ、ムラサキイガイ、ミドリイガイ、コウロエンカワヒバリガイ、イガイダマシ、ウスカラシオツガイ、ホンビノスガイ、環形動物門のカニヤドリカンザシゴカイ、節足動物門のタテジマフジツボ、アメリカフジツボ、ヨーロッパフジツボ、脊索動物門のマンハッタンボヤの計12種であった。

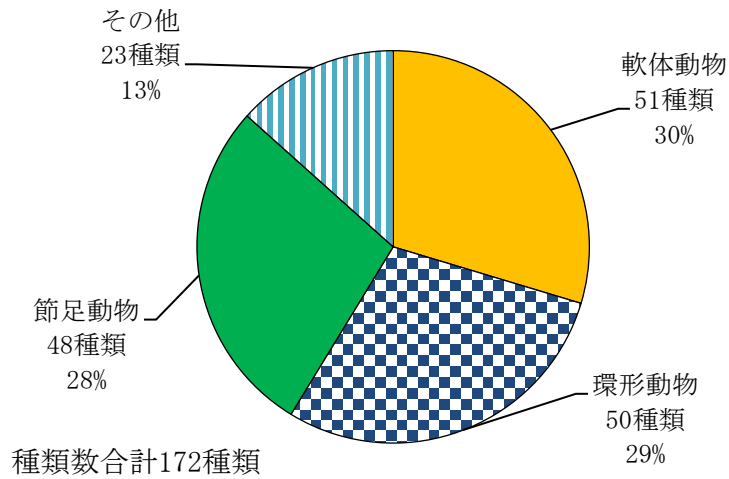


図 7.11 海岸動物（干潟）種組成

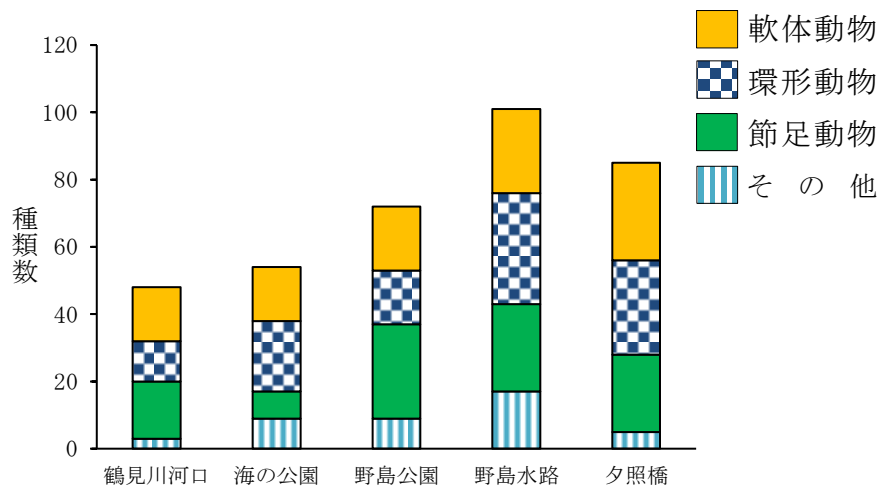


図 7.12 海岸動物（干潟）地点別種類数

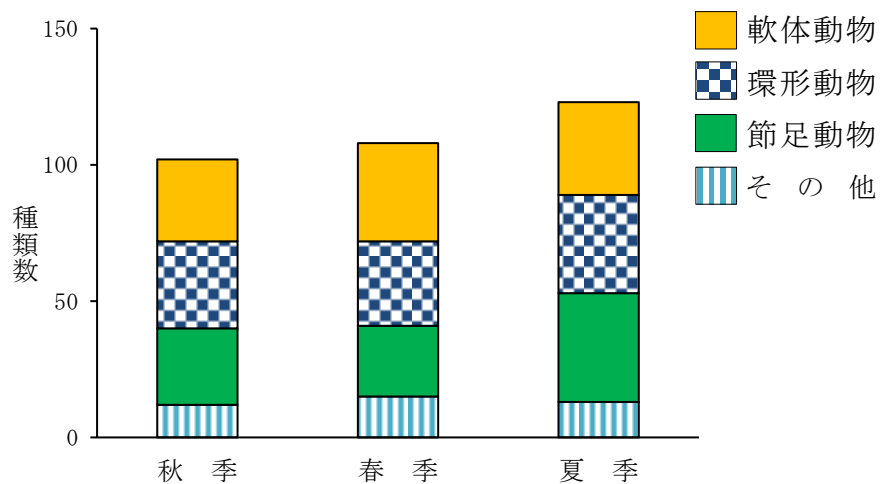


図 7.13 海岸動物（干潟）時季別種類数

表 7.47 (1) 海岸動物（干潟）出現種一覧

調査日：(秋 季)2024年10月25、28、30日  
 (春 季)2025年 4月22、23、25日  
 (夏 季)2025年 7月25、28、29日

調査方法：目視観察、杵取、投網・タモ網

No.	門	綱	目	科	学名	和名	地点					時季			レッドリスト等掲載種	外来種
							鶴見川河口	海の公園	野島公園	野島水路	夕照橋	秋季	春季	夏季		
1	海綿動物	尋常海綿			DEMOSPONGIAE	尋常海綿綱			○	○			○			
2					PORIFERA	海綿動物門				○			○			
3	刺胞動物	ヒドロ虫			HYDROZOA	ヒドロ虫綱		○		○			○	○		
4		花虫	ウミエラ		SESSILIFLORAE	ウミサボテン亜目		◎							◎	
5			イソギンチャク	ウミシノブイソギンチャク	<i>Dofleinia armata</i>	スナイソギンチャク			○				○		○	
6				ウミシノブイソギンチャク	<i>Haliplanella lineata</i>	タテジマイソギンチャク			○	○	○	○	○	○	○	
7					ACTINIARIA	イソギンチャク目	◎		○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
8	扁形動物	渦虫	多岐腸	スチロヒラムシ	Stylochidae	スチロヒラムシ科		◎		◎					◎	
9				ヤワヒラムシ	Leptoplanidae	ヤワヒラムシ科	◎	◎		◎	◎			◎	◎	
10					POLYCLADIDA	多岐腸目(ヒラムシ目)				○			○			
11	紐形動物	無針			ANOPLA	無針綱		◎					◎			
12					NEMERTINEA	紐形動物門		◎	◎	◎			◎	◎	◎	
13	線形動物				NEMATODA	線形動物門		◎					◎			
14	触手動物	筍虫	筍虫	筍虫	<i>Phoronis sp.</i>	Phoronis 属				○			○			
15		苔虫	唇口		<i>Bugula neritina</i>	フサコケムシ			◎	○	○	○	○	◎		
16					<i>Tricellaria occidentalis</i>	ホソフサコケムシ			◎	○	○	○	◎		◎	
17					BRYOZOA	苔虫綱	○		○		○	○	○			
18	軟体動物	多板	新ヒザラガイ	クサズリガイ	<i>Acanthopleura japonica</i>	ヒザラガイ			○				○	○		
19					Acanthochitonidae	ケハダヒザラガイ科							○	○		
20		腹足	カサガイ	ユキノカサガイ	<i>Lottia kogamogai</i>	コガモガイ			○	○	○	○	○	○		
21					<i>Patelloida saccharina form lanx</i>	ウノアシ(ウノアシ型)			○				○			
22		古腹足		ニシキウスガイ	<i>Monodonta labio form confusa</i>	イシダタミ							○			
23					<i>Umbonium (Suchium) costatum</i>	キサゴ		◎					○	◎	○	
24					<i>Turbo (Lunella) cornatus coreensis</i>	スガイ				○	◎	◎	◎	○	○	
25			アマオブネガイ	アマオブネガイ	<i>Nerita (Theliostyla) albicilla</i>	アマオブネガイ				○			○			
26		盤足	ウミニナ		<i>Batillaria cumingii</i>	ホソウミニナ	○			○	◎	◎	◎	◎	◎	
27			タマキビ		<i>Littorina (Littorina) brevicula</i>	タマキビ				○	○	○	○	○		
28					<i>Stenothyra edogawensis</i>	ウミゴマツボ				◎					◎	●
29			カリバカサガイ		<i>Crepidula onyx</i>	シマメノウフネガイ		○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	●
30			タマガイ		<i>Eunaticina papilla</i>	ネコガイ			◎						◎	●
31					<i>Glossaulax didyma</i>	ツメタガイ		◎	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎	
32		新腹足	アッキガイ		<i>Rapana venosa</i>	アカニシ			○	○	◎	◎	◎	◎	◎	
33					<i>Thais (Reishia) bronni</i>	レイシガイ				○					○	
34					<i>Thais (Reishia) clavigera</i>	イボニシ	○		○	○	○	○	○	○	○	
35			ムシロガイ		<i>Noitha livescens</i>	ムシロガイ		◎	◎	◎			◎	◎	◎	●
36					<i>Reticunassa festiva</i>	アラムシロ		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
37					<i>Reticunassa japonica</i>	キサボラ			◎						◎	●
38		異旋	トウガタガイ		<i>Cingulina cingulata</i>	ヨコイトカケギリ		◎						◎		
39					<i>Orinella pulchella</i>	クチキレガイ		◎			◎					●
40					<i>Turbonilla sp.</i>	イトカケギリ属				◎				◎		
41		頭楯	オホシイノミガイ		<i>Japanacteon nipponensis</i>	ムラクモキビジキガイ			◎						◎	●
42			ヘコミツラガイ		<i>Retusa (Decolifer) insignis</i>	コメツブガイ					◎				◎	
43			キセワタガイ		Philinidae	キセワタガイ科		◎		◎					◎	
44		囊舌	ゴクラクミドリガイ		<i>Elysia ornata</i>	コノハミドリガイ				○			○	○	○	
45		アメフラシ	アメフラシ		<i>Aplysia (Aplysia) juliana</i>	アマクサアメフラシ				○			○			
46					<i>Bursatella leachii leachii</i>	フレリトゲアメフラシ			○		○	○	○	○		
47		二枚貝	フネガイ	フネガイ	<i>Scapharca kagoshimensis</i>	サルボウガイ	○				◎	○	◎			
48			イガイ	イガイ	<i>Modiolus nipponicus</i>	ヒバリガイ		◎						◎		
49					<i>Musculista senhousia</i>	ホトギスガイ		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
50					<i>Mytilus galloprovincialis</i>	ムラサキイガイ						○		○		●
51					<i>Perna viridis</i>	ミドリイガイ		◎		○	○	◎				●
52					<i>Xenostrobus securis</i>	コウロエンカワヒバリガイ		◎			◎	◎	◎	◎	◎	●
53		カキ	イタボガキ		<i>Crassostrea gigas</i>	マガキ		◎		○	○	◎	◎	◎	◎	
54					<i>Saccostrea kegaki</i>	ケガキ				○						
55		マルスダレガイ	バカガイ		<i>Macra chinensis</i>	バカガイ		○	○		○	○	○	○	○	
56					<i>Macra veneriformis</i>	シオフキ			◎		○		○	◎		
57			ニッコウガイ		<i>Nitidotellina hokkaidoensis</i>	サクラガイ		◎		◎	◎		◎	◎	◎	●
58					<i>Nitidotellina minuta</i>	ウズザクラ				◎					◎	●
59					<i>Macoma incongrua</i>	ヒメシラトリ		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
60					<i>Macoma tokyoensis</i>	ゴイサギ		◎			◎	◎				

表 7.47 (2) 海岸動物（干潟）出現種一覧

調査日：(秋 季)2024年10月25、28、30日

(春 季)2025年 4月22、23、25日

(夏 季)2025年 7月25、28、29日

調査方法：目視観察、杵取、投網・タモ網

No.	門	綱	目	科	学名	和名	地点					時季			レッドリスト等掲載種	外来種	
							鶴見川河口	海の公園	野島公園	野島水路	夕照橋	秋 季	春 季	夏 季			
61	軟体動物	二枚貝	マルステレガイ	マテガイ科	<i>Solen strictus</i>	マテガイ	○	○				○	○	○			
62				カワホトトギス	<i>Mytilopsis sallei</i>	イガイダマシ	○					○	○	○		●	
63				フナガタガイ	<i>Trapezium liratum</i>	ウネナシトマヤガイ	○					○				●	
64				イワホリガイ	<i>Petricola sp. cf. lithophaga</i>	ウスカラシオツガイ	○	○			○	○		○		●	
65				マルステレガイ	<i>Mercenaria mercenaria</i>	ホンビノスガイ	○					○	○			●	
66					<i>Phacosoma japonicum</i>	カガミガイ	○			○	○	○	○				
67					<i>Ruditapes philippinarum</i>	アサリ	○	○	○	○	○	○	○	○			
68	頭足	八腕形	マダコ	<i>Octopus ocellatus</i>	イイダコ							○					
69	環形動物	多毛	サシバゴカイ	サシバゴカイ	<i>Eteone longa</i>	ホソミサシバ	○					○					
70					<i>Eumida sanguinea</i>	マダラサンバ	○	○					○	○			
71					<i>Eumida sp.</i>	マダラサンバゴカイ属										○	
72					<i>Phyllodoce sp.</i>	Phyllodoce 属									○	○	
73					チロリ	<i>Glycera nicobarica</i>	チロリ			○				○			
74						<i>Glycera onomichiensis</i>	オノミチチロリ							○	○		
75					ニカイチロリ	<i>Glycinde sp.</i>	Glycinde 属								○		
76					オトヒメゴカイ	<i>Micropodarke dubia</i>	ミクロオトヒメ			○				○	○		
77						<i>Ophiodromus angustifrons</i>	モグリオトヒメ							○	○		
78					カギゴカイ	<i>Sigambra hanaokai</i>	ハナオカカギゴカイ			○				○	○	○	
79					ゴカイ	<i>Lycastopsis augeneri</i>	オイワケゴカイ			○				○	○	○	
80						<i>Neanthes caudata</i>	ヒメゴカイ			○						○	
81						<i>Neanthes succinea</i>	アシナゴゴカイ			○				○	○	○	
82						<i>Nectoneanthes oxyopoda</i>	オウギゴカイ			○				○	○	○	
83						<i>Platynereis bicanaliculata</i>	ツルヒゲゴカイ			○	○			○	○	○	
84						<i>Simplisetia erythraeensis</i>	コケゴカイ			○	○	○	○	○	○	○	
85						シロガネゴカイ	<i>Nephtys caeca</i>	ハヤテシロガネゴカイ						○			
86						<i>Nephtys oligobranchia</i>	コノハシロガネゴカイ			○	○	○		○			
87						<i>Nephtys polybranchia</i>	ミナミシロガネゴカイ							○	○		
88						ノリウロコムシ	<i>Sthenelais sp.</i>	Sthenelais 属						○			
89						ウロコムシ	<i>Harmothoe sp.</i>	Harmothoe 属						○	○		
90					イソメ	ギボシイソメ	<i>Scoletoma longifolia</i>	カタマガリギボシイソメ						○	○	○	
91					ホコサキゴカイ	ホコサキゴカイ	<i>Naineris sp.</i>	Naineris 属						○		○	
92					スピオ	スピオ	<i>Aonides oxycephala</i>	ケンサキスピオ			○	○	○	○	○	○	
93						<i>Paraprionospio patiens</i>	シノバハネエラスピオ			○				○			
94						<i>Polydora sp.</i>	Polydora 属			○				○	○	○	
95						<i>Prionospio (Aquilaspio) krusadensis</i>	ミツバナスピオ							○	○	○	
96						<i>Pseudopolydora kempji japonica</i>	ドロオニスピオ			○				○	○	○	
97						<i>Pseudopolydora paucibranchiata</i>	コオニスピオ							○	○	○	
98		<i>Scolelepis sp.</i>	Scolelepis 属							○							
99		<i>Spio filicornis</i>	マドカスピオ			○	○			○		○					
100	ツバサゴカイ	ツバサゴカイ	Chaetopteridae	ツバサゴカイ科						○		○					
101	ミズヒキゴカイ	ミズヒキゴカイ	<i>Cirriiformia cf. comosa</i>	ミズヒキゴカイ		○	○	○	○	○	○	○					
102		<i>Caulierella sp.</i>	Caulierella 属							○	○	○					
103		<i>Chaetozone sp.</i>	Chaetozone 属							○	○	○					
104		<i>Tharyx sp.</i>	Tharyx 属							○	○	○					
105		Cirratulidae		ミズヒキゴカイ科		○	○	○		○	○	○					
106	ハボウキゴカイ	ハボウキゴカイ	Flabelligeridae	ハボウキゴカイ科						○		○					
107	オフェリアゴカイ	オフェリアゴカイ	<i>Armandia sp.</i>	Armandia 属			○					○					
108	イトゴカイ	イトゴカイ	<i>Capitella sp.</i>	イトゴカイ属			○			○	○	○					
109		<i>Mediomastus sp.</i>	Mediomastus 属			○				○	○	○					
110	タゲフシゴカイ	タゲフシゴカイ	<i>Praxillella sp.</i>	Praxillella 属			○	○		○	○	○					
111	タマシキゴカイ	タマシキゴカイ	<i>Arenicola brasiliensis</i>	タマシキゴカイ			○	○		○		○					
112	フサゴカイ	ウミイサゴムシ	<i>Lagis bocki</i>	ウミイサゴムシ						○							
113		カザリゴカイ	Ampharetidae	カザリゴカイ科								○					
114	ケヤリムシ	ケヤリムシ	<i>Chone sp.</i>	Chone 属			○	○		○	○	○					
115		カンザシゴカイ	<i>Ficopomatus enigmaticus</i>	カニヤドリカンザシゴカイ		○				○	○	○	●				
116		<i>Pomatoleios krausii</i>	ヤッコカンザシ							○							
117		Serpulidae		カンザシゴカイ科		○		○	○	○	○	○					
118		貧毛	OLIGOCHAETA	貧毛綱		○	○	○		○	○	○					
119	節足動物	顎脚	有柄	ミヨウガガイ	<i>Capitulum mitella</i>	カメノテ						○	○				
120		無柄	イワフジツボ	<i>Chthamalus challengeri</i>	イワフジツボ					○	○	○					

表 7.47 (3) 海岸動物（干潟）出現種一覧

調査日：(秋 季)2024年10月25、28、30日

(春 季)2025年 4月22、23、25日

(夏 季)2025年 7月25、28、29日

調査方法：目視観察、杵取、投網・タモ網

No.	門	綱	目	科	学名	和名	地 点					時 季			レッドリスト等掲載種	外来種		
							鶴見川河口	海の公園	野島公園	野島水路	夕照橋	秋 季	春 季	夏 季				
121	節足動物	顎脚	無柄	フジツボ	<i>Amphibalanus albicostatus</i>	シロスジフジツボ	○		○	○	○	○	○					
122					<i>Amphibalanus amphitrite</i>	タデジマフジツボ	○		○	○	○	○	○	○			●	
123					<i>Amphibalanus eburneus</i>	アメリカフジツボ	○		○	○	○	○	○	○			●	
124					<i>Amphibalanus improvisus</i>	ヨーロッパフジツボ	○		○	○	○	○	○	○			●	
125					<i>Amphibalanus trigonus</i>	サンカクフジツボ			○	○	○	○	○					
126		軟甲	端脚	エビ	<i>Aoroides</i> sp.	エビ			○	○			○					
127					<i>Grandidierella japonica</i>	ニホンドロソコエビ	○	○	○	○	○	○	○	○				
128					<i>Corophium acherusicum</i>	アリアケドロクダムシ	○			○				○	○			
129					<i>Corophium</i> sp.	ドロクダムシ属			○	○	○	○	○	○				
130					Pontogeneiidae	アゴナガヨコエビ科			○						○			
131					<i>Melita setiflagella</i>	ヒゲツノメリタヨコエビ	○			○					○			
132					<i>Melita</i> sp.	メリタヨコエビ属	○						○		○			
133					Talitridae	ハマトビムシ科	○		○				○		○			
134					<i>Caprella scaura</i>	トゲワレカラ		○	○							○		
135					等脚	コブムシ	<i>Gnorimosphaeroma rayi</i>	イソコブムシ	○		○			○	○	○		
136							<i>Ligia furcata</i>	フタマタフナムシ			○	○	○	○	○	○		
137					十脚	テナガエビ	<i>Palaemon pacificus</i>	イソスジエビ						○	○	○		
138	<i>Palaemon serrifer</i>	スジエビモドキ	○								○	○						
139	<i>Palaemon</i> sp.	スジエビ属	○									○						
140	テッポウエビ	<i>Alpheus bisinsisus</i>	フタミゾテッポウエビ	○					○	○	○							
141		<i>Alpheus</i> sp.	テッポウエビ属	○			○	○	○	○		○						
142	エビシヤコ	<i>Crangon affinis</i>	エビシヤコ				○						○					
143		<i>Crangon uritai</i>	ダルマエビシヤコ			○	○					○						
144	スナモグリ	Callianassidae	スナモグリ科			○				○								
145		<i>Clibanarius infraspinus</i>	ユボヨコバサミ	○						○	○		○					
146	ヤドカリ	<i>Diogenes nitidimanus</i>	テナガツノヤドカリ			○	○	○	○	○	○	○	○	○	●			
147		<i>Pagurus minutus</i>	ユビナガホンヤドカリ	○	○	○	○	○	○	○	○	○						
148	ホンヤドカリ	<i>Pagurus lanuginosus</i>	ケアシホンヤドカリ		○	○	○	○	○	○	○							
149		<i>Matuta lunaris</i>	キンセンガニ			○						○						
150	コブシガニ	<i>Philyra pisum</i>	マメコブシガニ			○	○	○	○	○	○	○	○	●				
151		<i>Cancer gibbosulus</i>	イボイチョウガニ			○						○						
152	ガザミ	<i>Charybdis (Charybdis) japonica</i>	イシガニ		○	○	○	○	○	○	○							
153		<i>Charybdis</i> sp.	イシガニ属			○						○						
154		<i>Portunus (Portunus) trituberculatus</i>	ガザミ		○	○			○	○	○							
155	オウギガニ	<i>Macromedaeus distinguendus</i>	シワオウギガニ	○					○	○	○							
156		<i>Gaetice depressus</i>	ヒライソガニ			○				○	○							
157	モクズガニ	<i>Hemigrapsus sanguineus</i>	イソガニ			○		○	○	○	○							
158		<i>Hemigrapsus takanoi</i>	タカノケフサイソガニ	○			○	○	○	○	○							
159		<i>Hemigrapsus</i> sp.	イソガニ属		○	○						○						
160		Varunidae	モクズガニ科			○	○	○	○	○								
161	ベンケイガニ	<i>Parasesarma pictum</i>	カクベンケイガニ				○	○				○	○	●				
162		<i>Pinnixa rathbuni</i>	ラスパンマメガニ		○				○									
163	カクレガニ	<i>Pinnotheres</i> sp.	Pinnotheres 属			○						○						
164		<i>Tritodynamia horvathi</i>	オヨギピンノ		○	○						○						
165	スナガニ	<i>Macrophthalmus (Macrophthalmus) abbreviatus</i>	オサガニ			○						○	○	●				
166		<i>Scopimera globosa</i>	コメツキガニ		○	○			○	○	○	○	○	○	●			
167	棘皮動物	ヒトデ	モミジガイ	<i>Astropecten scoparius</i>	モミジガイ		○	○		○	○	○						
168		クモヒトデ	閉蛇尾	スナクモヒトデ	Amphiruridae	スナクモヒトデ科			○				○					
169	脊索動物	ホヤ	マメボヤ	<i>Ciona</i> sp.	ユウレイボヤ			○					○					
170			マボヤ	イタボヤ	Botryllidae	イタボヤ科			○				○					
171		シロボヤ	<i>Styela plicata</i>	シロボヤ		○		○	○	○	○							
172		フクロボヤ	<i>Molgula manhattensis</i>	マンハッタンボヤ				○	○					○	●			
							種 類 数	48	54	72	101	85	102	108	123	14	12	

注1) ○は杵取採取による出現、○は目視観察および魚類調査時の混獲生物のみによる出現、●はレッドリスト等掲載種・外来種に該当したことを示す。

注2) 学名及び分類群順は西村編(1992、1995)「原色検索 日本海岸動物図鑑 I、II」他に準拠した。

## 7.3.2. 地点ごとの季節変化

## ①鶴見川河口

## a) 目視観察結果

鶴見川河口における目視観察結果を表 7.48～表 7.50に示す。

秋季調査の出現種類数は軟体動物門 7 種、環形動物門 1 種類、節足動物門 8 種の計 16 種類であった。

春季調査の出現種類数は触手動物門 1 種類、軟体動物門 6 種、環形動物門 2 種類、節足動物門 7 種類の計 16 種類であった。

夏季調査の出現種類数は刺胞動物門 1 種類、軟体動物門 2 種、環形動物門 3 種類、節足動物門 4 種類の計 10 種類であった。

表 7.48 鶴見川河口における海岸動物（干潟）目視観察結果（秋季）

観察方法：方形枠（50cm×50cm）内を観察  
単 位：%（被 度）、個体/0.25㎡

No.	門	綱	調査日 基点からの距離(m) 底 質 観 察 層 和 名	2024年10月30日							単位	測線周 辺での 目視観察 または 魚類調査 混獲生物 による出現
				10.0	12.5	16.0	28.0	34.8	36.1	37.5		
				貝片・砂	貝片・砂	貝片・小礫	貝片・巨礫	泥・巨礫	泥・貝片	貝片・泥		
				高潮帯	平均水面付近	低潮帯		潮下帯				
				A.P.	A.P.	A.P.	A.P.	A.P.	A.P.	A.P.		
				+2.0m	+1.5m	+1.0m	+0.5m	±0.0m	-0.5m	-1.0m		
1	軟体動物	腹足	イボニシ						1		個体	
2			アラムシロ					3	7	1	個体	○
3		二枚貝	サルボウガイ							1	個体	
4			ミドリイガイ						+	+	%	○
5			コウエンカワヒバリガイ				+				%	
6			マガキ				+	+	+	+	%	○
7			イガイダマシ				+	+	+	+	%	
8	環形動物	多毛	カンザシゴカイ科					5	+	+	%	○
9	節足動物	顎脚	シロスジフジツボ								%	○
10			タテジマフジツボ			+	10				%	○
11			アメリカフジツボ			+	+	+	+	+	%	○
12			ヨーロッパフジツボ				+				%	
13		軟甲	イソコツブムシ	2							個体	
14			フタミテッコウエビ							1	個体	
15			コブヨコバサミ						1		個体	○
16			タカノケフサイソガニ				4				個体	
種 類 数				1	出現せず	2	7	5	8	8	-	8

注1) 単体性の動物は原則として個体数を、群体性の動物及び固着性で個体数計数の困難な動物（イガイ類、フジツボ類等）は被度を示した。

注2) +は被度5%未満を示す。

注3) ○は捕獲・目視による出現を示す。

注4) 学名及び分類群順は西村編(1992、1995)「原色検索 日本海岸動物図鑑 I、II」他に準拠した。

表 7.49 鶴見川河口における海岸動物（干潟）目視観察結果（春季）

観察方法：方形枠（50cm×50cm）内を観察  
単 位：%（被 度）、個体/0.25㎡

No.	門	綱	調査日 基点からの距離(m) 底 質 観 察 層 和 名	2025年4月23日								単位	測線周辺 での 目視観察 または 魚類調査 混獲生物 による出現	
				10.0	12.5	15.6	25.0	32.8	35.0	37.0				
				貝片・砂	貝片・砂	貝片・小礫	大礫・貝片	大礫・泥	泥・貝片	泥・貝片				
				高潮帯	平均水面付近	低潮帯	潮下帯							
				A.P.	A.P.	A.P.	A.P.	A.P.	A.P.	A.P.				
				+2.0m	+1.5m	+1.0m	+0.5m	±0.0m	-0.5m	-1.0m				
1	触手動物	苔虫	苔虫綱								+	%		
2	軟体動物	腹足	ホソウミニナ									個体	○	
3			アラムシロ						2	4		個体	○	
4		二枚貝	サルボウガイ								1		個体	
5			ヨウロエンカワヒバリガイ				+						%	
6			マガキ						+	+	5		%	○
7			イガイダマシ									+	%	
8			環形動物	多毛	カニヤドリカンザシゴカイ									%
9	カンザシゴカイ科							+	+	+		%		
10	節足動物	顎脚	シロスジフジツボ									%	○	
11			タテジマフジツボ				+					%	○	
12			アメリカフジツボ					+	+			%		
13			ヨーロッパフジツボ					+				%		
14		軟甲	イソコツブムシ		13								個体	
15			スジエビモドキ						4				個体	○
16			タカノケフサイノガニ									個体	○	
種 類 数				出現せず	1	出現せず	4	4	3	6	-	8		

注1) 単体性の動物は原則として個体数を、群体性の動物及び固着性で個体数計数の困難な動物(イガイ類、フジツボ類等)は被度を示した。

注2) +は被度5%未満を示す。

注3) ○は捕獲・目視による出現を示す。

注4) 学名及び分類群順は西村編(1992、1995)「原色検索 日本海岸動物図鑑Ⅰ、Ⅱ」他に準拠した。

表 7.50 鶴見川河口における海岸動物（干潟）目視観察結果（夏季）

観察方法：方形枠（50cm×50cm）内を観察  
単 位：%（被 度）、個体/0.25㎡

No.	門	綱	調査日 基点からの距離(m) 底 質 観 察 層 和 名	2025年7月29日								単位	測線周辺 での 目視観察 または 魚類調査 混獲生物 による出現
				9.9	12.3	15.6	25.0	33.0	35.3	37.0			
				貝片・砂	貝片・砂	貝片・小礫	泥・貝片	大礫・泥	泥・大礫	大礫・貝片			
				高潮帯	平均水面付近	低潮帯	潮下帯						
				A.P.	A.P.	A.P.	A.P.	A.P.	A.P.	A.P.			
				+2.0m	+1.5m	+1.0m	+0.5m	±0.0m	-0.5m	-1.0m			
1	刺胞動物	花虫	イソギンチャク目									個体	○
2	軟体動物	腹足	アラムシロ						1	9	7	個体	○
3			二枚貝	マガキ								%	○
4	環形動物	多毛	ミズヒキゴカイ科								+	%	
5			カニヤドリカンザシゴカイ									%	○
6			カンザシゴカイ科				+	+	+			%	
7	節足動物	顎脚	タテジマフジツボ				+	+				%	○
8			アメリカフジツボ					+				%	○
9			ヨーロッパフジツボ						10			%	
10		軟甲	スジエビ属									個体	○
種 類 数							2	5	2	2	-	7	

注1) 単体性の動物は原則として個体数を、群体性の動物及び固着性で個体数計数の困難な動物(イガイ類、フジツボ類等)は被度を示した。

注2) +は被度5%未満を示す。

注3) ○は捕獲・目視による出現を示す。

注4) 学名及び分類群順は西村編(1992、1995)「原色検索 日本海岸動物図鑑Ⅰ、Ⅱ」他に準拠した。

## b) 定量採取分析結果

鶴見川河口における採採取分析結果を表 7.51に、動物門別個体数を表 7.52に、時季別個体数を図 7.14に、時季別優占種（個体数）を表 7.53に、動物門別湿重量を表 7.54に、時季別湿重量を図 7.15に、時季別優占種（湿重量）を表 7.55に示す。なお、定量採取分析における優占種を組成比 10%以上で出現した種とする。

表 7.51 鶴見川河口における海岸動物（干潟）採採取分析結果

調査方法：方形枠(0.5m×0.5m×深さ0.15m)内を採泥  
単 位：個体/0.25㎡、g/0.25㎡  
(合 計)：個体/0.5㎡、g/0.5㎡

No.	門	綱	学名	和名	時季調査日		採取層															
					秋季			春季			夏季											
					2024年10月30日			2025年4月23日			2025年7月29日											
					平均水面 (A.P. +1.15m)	平均水面下 2m(A.P. -0.85m)	合計	平均水面 (A.P. +1.15m)	平均水面下 2m(A.P. -0.85m)	合計	平均水面 (A.P. +1.15m)	平均水面下 2m(A.P. -0.85m)	合計									
					個体数 (個体)	湿重量 (g)	個体数 (個体)	湿重量 (g)	個体数 (個体)	湿重量 (g)	個体数 (個体)	湿重量 (g)	個体数 (個体)	湿重量 (g)								
1	刺胞動物	花虫	ACTINIARIA	イソギンチャク目																		
2	扁形動物	渦虫	Leptoplanidae	ヤワヒラムシ科									1	0.06								
3	軟体動物	腹足	<i>Reticunassa festiva</i>	アラムシロ		7	3.40	7	3.40	77	42.89	77	42.89	9	5.46							
4				<i>Cingulina cingulata</i>	ヨコイトカケギリ						2	0.02	2	0.02								
5				<i>Modiolus nipponicus</i>	ヒバリガイ						1	0.06	1	0.06								
6				<i>Musculista senhousia</i>	ホトギスガイ		3	0.63	3	0.63	34	14.10	34	14.10	66	1.67						
7				<i>Perna viridis</i>	ミドリイガイ		2	54.18	2	54.18												
8				<i>Xenostrobus securis</i>	ヨウロエンカワヒバリガイ		4	0.59	4	0.59	13	5.60	13	5.60	1	0.09						
9				<i>Crassostrea gigas</i>	マガキ		4	33.54	4	33.54	2	3.13	2	3.13	1	21.08						
10				<i>Macoma tokyoensis</i>	ゴイスギ		1	3.63	1	3.63												
11				<i>Mytilopsis sallei</i>	イガイダマシ		14	1.52	14	1.52	9	1.33	9	1.33	1	0.02						
12				<i>Trapezium liratum</i>	ウネナシトマガイ		1	6.32	1	6.32												
13				<i>Petricola</i> sp. cf. <i>lithophaga</i>	ウスカラシオソガイ										25	0.30						
14				<i>Mercenaria mercenaria</i>	ホンビノスガイ						2	0.32	2	0.32								
15				<i>Ruditapes philippinarum</i>	アサリ						47	5.04	47	5.04	23	5.96						
16			環形動物	多毛	<i>Ereone longa</i>	ホソミサシバ						1	0.01	1	0.01							
17						<i>Eumida sanguinea</i>	マダラサシバ					1	+	1	+							
18		<i>Lycastopsis augeneri</i>			オイワケゴカイ	326	0.55		326	0.55	327	0.88		327	0.88	482	0.91					
19		<i>Neanthes succinea</i>			アシナガゴカイ		132	0.74	132	0.74	10	0.69	10	0.69	151	2.51						
20		<i>Simplisia erythraensis</i> 【15報より学名変更】			コケゴカイ		2	+	2	+	4	0.16	4	0.16								
21		<i>Polydora</i> sp.			Polydora 属						1	+	1	+	126	0.18						
22		<i>Cirriiformia</i> cf. <i>comosa</i> 【15報より学名変更】			ミズヒキゴカイ		11	1.60	11	1.60	12	1.70	12	1.70	49	0.27						
23		<i>Mediomastus</i> sp.			Mediomastus 属		1	+	1	+												
24		<i>Ficopomatus enigmaticus</i>			カニヤドリカンザシゴカイ		1	0.01	1	0.01	14	0.17	14	0.17	16	0.05						
25		貧毛			OLIGOCHAETA	貧毛綱					1	0.01	1	0.01								
26	節足動物	顎脚	<i>Amphibalanus eburneus</i>	アメリカフジツボ		16	4.70	16	4.70	9	4.14	9	4.14	1	0.09							
27				<i>Amphibalanus improvisus</i>	ヨーロッパフジツボ						4	0.22	4	0.22								
28				<i>Grandidierella japonica</i>	ニホンドロソコエビ		28	0.03	28	0.03	1	+	89	0.16	90	0.16						
29				<i>Corophium acherusicum</i>	アリアケドロクダシ						4522	6.50	4522	6.50	1004	1.27						
30				<i>Melita setiflagella</i>	ヒゲツノメダコエビ										1	+						
31				<i>Melita</i> sp.	メダコエビ属		2	+	2	+					125	0.13						
32				Talitridae	ハマトビムシ科										2	+						
33				<i>Gnorimosphaeroma rayi</i>	イソツブムシ		278	0.40	278	0.40					23	0.12						
34				<i>Alpheus bisinsisus</i>	フタミノテッポウエビ		8	1.75	8	1.75	12	0.88	12	0.88								
35				<i>Alpheus</i> sp.	テッポウエビ属										12	0.39						
36				<i>Macromedaeus distinguendus</i>	シワオウギガニ		2	0.23	2	0.23	2	0.11	2	0.11	1	0.01						
37				<i>Hemigrapsus takanoi</i>	タカノケフサイソガニ		11	2.12	11	2.12	60	8.07	60	8.07	1	0.38						
種 類 数					3	18	21	2	26	27	4	20	23									
個体数・湿重量合計					606	0.95	248	114.99	854	115.94	328	0.88	4,932	95.40	5,260	96.28	508	1.41	2,537	42.76	3,045	44.17

注1) +表示は0.01g未満を示す。

注2) 学名及び分類群順は西村編(1992、1995)「原色検索 日本海岸動物図鑑 I、II」他に準拠した。

表 7.52 鶴見川河口における海岸動物（干潟）動物門別の個体数

時季	秋季		春季		夏季	
門	個体数 (個体/0.5m <sup>2</sup> )	組成比 (%)	個体数 (個体/0.5m <sup>2</sup> )	組成比 (%)	個体数 (個体/0.5m <sup>2</sup> )	組成比 (%)
軟体動物	36	4.2	187	3.6	126	4.1
環形動物	473	55.4	371	7.1	824	27.1
節足動物	345	40.4	4,699	89.3	2,094	68.8
その他			3	0.1	1	0.0
合計	854	100	5,260	100	3,045	100

注) 組成比の数値は小数点1桁で四捨五入しているため、合計が100%にならない場合がある。

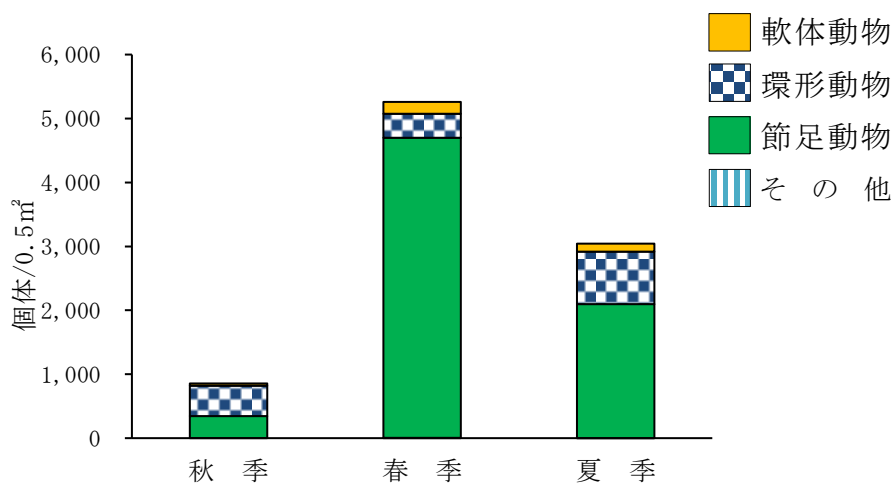


図 7.14 鶴見川河口における海岸動物（干潟）時季別個体数

表 7.53 鶴見川河口における海岸動物（干潟）時季別優占種（個体数）

単位: 個体/0.5m<sup>2</sup>

時季	秋季	春季	夏季
優占種の個体数 および組成比 (組成比10%以上)	オイワケゴカイ 326 (38.2%)	アリアケドロクダムシ 4,522 (86.0%)	アリアケドロクダムシ 1,004 (33.0%)
	イソコツブムシ 278 (32.6%)		ニホンドロソコエビ 921 (30.2%)
	アシナガゴカイ 132 (15.5%)		オイワケゴカイ 482 (15.8%)

表 7.54 鶴見川河口における海岸動物（干潟）動物門別の湿重量

時 季	秋季		春季		夏季	
	湿重量 (g/0.5m <sup>2</sup> )	組成 比 (%)	湿重量 (g/0.5m <sup>2</sup> )	組成 比 (%)	湿重量 (g/0.5m <sup>2</sup> )	組成 比 (%)
軟体動物	103.81	89.5	72.49	75.3	34.58	78.3
環形動物	2.90	2.5	3.62	3.8	3.92	8.9
節足動物	9.23	8.0	20.08	20.9	5.61	12.7
そ の 他			0.09	0.1	0.06	0.1
合 計	115.94	100	96.28	100	44.17	100

注1) 組成比の数値は小数点1桁で四捨五入しているため、合計が100%にならない場合がある。

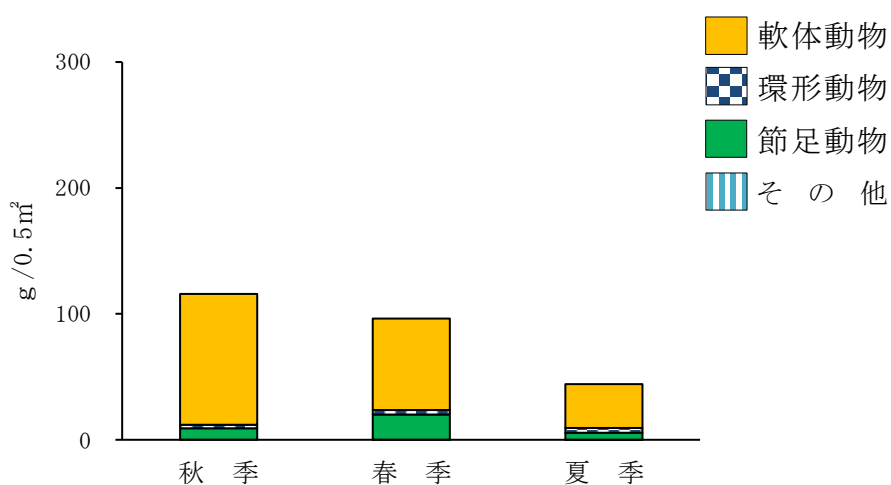


図 7.15 鶴見川河口における海岸動物（干潟）時季別湿重量

表 7.55 鶴見川河口における海岸動物（干潟）時季別優占種（湿重量）

時 季	単位:g/0.5m <sup>2</sup>		
	秋季	春季	夏季
優占種の湿重量 および組成比 (組成比10%以上)	ミドリイガイ 54.18 (46.7%)	アラムシロ 42.89 (44.5%)	マガキ 21.08 (47.7%)
	マガキ 33.54 (28.9%)	ホトギスガイ 14.10 (14.6%)	アサリ 5.96 (13.5%)
			アラムシロ 5.46 (12.4%)

②海の公園

a) 目視観察結果

海の公園における目視観察結果を表 7.56～表 7.58に示す。

秋季調査の出現種類数は軟体動物門 4 種、環形動物門 1 種類、節足動物門 1 種、棘皮動物門 1 種の計 7 種類であった。

春季調査の出現種類数は刺胞動物門 1 種類、軟体動物門 6 種、環形動物門 1 種類、節足動物門 3 種、棘皮動物門 1 種、脊索動物門 1 種の計 13 種類であった。

夏季調査の出現種類数は軟体動物門 7 種、環形動物門 1 種類、節足動物門 1 種、棘皮動物門 1 種の計 10 種類であった。

表 7.56 海の公園における海岸動物（干潟）目視観察結果（秋季）

観察方法：方形枠（50cm×50cm）内を観察  
単 位：%（被 度）、個体/0.25m<sup>2</sup>

No.	門	綱	調 査 日 基点からの距離(m) 底 質 観 察 層 和 名	2024年10月25日								単位	測線周辺 での 目視観察 または 魚類調査 混獲生物 による出現
				10.6	13.7	18.6	27.0	50.0	100.0	130.0			
				砂	砂	砂・貝片	砂・小礫	砂	砂・貝片	砂			
				高潮帯	平均水面付近	低潮帯	潮下帯						
				A.P.	A.P.	A.P.	A.P.	A.P.	A.P.	A.P.			
				+2.0m	+1.5m	+1.0m	+0.5m	±0.0m	-0.2m	-0.5m			
1	軟体動物	腹足	キサゴ				1					個体	○
2			ムシロガイ				5					個体	
3			アラムシロ				2		1	3		個体	○
4		二枚貝	アサリ		4			8				個体	○
5	環形動物	多毛	ミズヒキゴカイ科						+			%	○
6	節足動物	軟甲	ユビナガホンヤドカリ				2	1				個体	○
7	棘皮動物	ヒトデ	モミジガイ						1			個体	○
種 類 数				出現せず	出現せず	1	4	2	3	1	-		6

注1) 単体性の動物は原則として個体数を、群体性の動物及び固着性で個体数計数の困難な動物(イガイ類、フジツボ類等)は被度を示した。

注2) +は被度5%未満を示す。

注3) ○は捕獲・目視による出現を示す。

注4) 学名及び分類群順は西村編(1992、1995)「原色検索 日本海岸動物図鑑 I、II」他に準拠した。

表 7.57 海の公園における海岸動物（干潟）目視観察結果（春季）

観察方法：方形枠（50cm×50cm）内を観察  
単 位：%（被 度）、個体/0.25m<sup>2</sup>

No.	門	綱	調 査 日 基点からの距離(m) 底 質 観 察 層 和 名	2025年4月22日								単位	測線周辺 での 目視観察 または 魚類調査 混獲生物 による出現
				9.6	12.0	16.0	20.9	36.7	100.0	130.0			
				砂・貝片	砂・貝片	砂	砂・貝片	砂・貝片	砂	砂			
				高潮帯	平均水面付近	低潮帯	潮下帯						
				A.P.	A.P.	A.P.	A.P.	A.P.	A.P.	A.P.			
				+2.0m	+1.5m	+1.0m	+0.5m	±0.0m	-0.2m	-0.5m			
1	刺胞動物	ヒドロ虫	ヒドロ虫綱					+	+	+		%	
2	軟体動物	腹足	シマメノウフネガイ						2			個体	
3			ムシロガイ					1				個体	
4			アラムシロ					17	4	2		個体	○
5		二枚貝	マテガイ							1		個体	○
6			カガミガイ						1			個体	○
7			アサリ					21				個体	○
8	環形動物	多毛	ミズヒキゴカイ科						+	+		%	○
9	節足動物	軟甲	ダルマエビジャコ									個体	○
10			テナガツノヤドカリ				8	1	3	2		個体	○
11			ユビナガホンヤドカリ									個体	○
12	棘皮動物	ヒトデ	モミジガイ									個体	○
13	脊索動物	ホヤ	シロボヤ									個体	○
種 類 数				出現せず	出現せず	出現せず	1	5	6	5	-		10

注1) 単体性の動物は原則として個体数を、群体性の動物及び固着性で個体数計数の困難な動物(イガイ類、フジツボ類等)は被度を示した。

注2) +は被度5%未満を示す。

注3) ○は捕獲・目視による出現を示す。

注4) 学名及び分類群順は西村編(1992、1995)「原色検索 日本海岸動物図鑑 I、II」他に準拠した。

表 7.58 海の公園における海岸動物（干潟）目視観察結果（夏季）

観察方法：方形枠（50cm×50cm）内を観察  
単 位：%（被 度）、個体/0.25m<sup>2</sup>

No.	門	綱	調査日 基点からの距離(m) 底 質 観 察 層 和 名	2025年7月28日								単位	測線周 辺での 目視観察 または 魚類調査 混獲生物 による出現			
				7.5	12.0	16.0	23.5	37.0	100.0	130.0	高潮帯			平均水面付近	低潮帯	潮下帯
				砂・貝片	砂・貝片	砂・貝片	砂・貝片	砂・貝片	砂・貝片	砂・貝片						
				A.P. +2.0m	A.P. +1.5m	A.P. +1.0m	A.P. +0.5m	A.P. ±0.0m	A.P. -0.2m	A.P. -0.5m						
1	軟体動物	腹足	キサゴ											個体	○	
2			ツメタガイ											個体	○	
3			ムシロガイ											個体	○	
4			アラムシロ					4	7	1				個体	○	
5		二枚貝	バカガイ											個体	○	
6			マテガイ							1				個体	○	
7			アサリ		2	1	24	224	12					個体	○	
8	環形動物	多毛	ミズヒキゴカイ科										+	%	○	
9	節足動物	軟甲	テナガツノヤドカリ						1					個体	○	
10	棘皮動物	ヒトデ	モミジガイ											個体	○	
種 類 数					1	1	1	2	3	3			-		10	

注1) 単体性の動物は原則として個体数を、群体性の動物及び固着性で個体数計数の困難な動物(イガイ類、フジツボ類等)は被度を示した。

注2) +は被度5%未満を示す。

注3) ○は捕獲・目視による出現を示す。

注4) 学名及び分類群順は西村編(1992、1995)「原色検索 日本海岸動物図鑑Ⅰ、Ⅱ」他に準拠した。



表 7.60 海の公園における海岸動物（干潟）動物門別個体数

時季	秋季		春季		夏季	
門	個体数 (個体/0.5m <sup>2</sup> )	組成比 (%)	個体数 (個体/0.5m <sup>2</sup> )	組成比 (%)	個体数 (個体/0.5m <sup>2</sup> )	組成比 (%)
軟体動物	36	6.7	4	2.5	158	17.0
環形動物	236	43.9	153	95.0	761	81.8
節足動物	3	0.6	3	1.9	4	0.4
その他	262	48.8	1	0.6	7	0.8
合計	537	100	161	100	930	100

注1) 組成比の数値は小数点1桁で四捨五入しているため、合計が100%にならない場合がある。

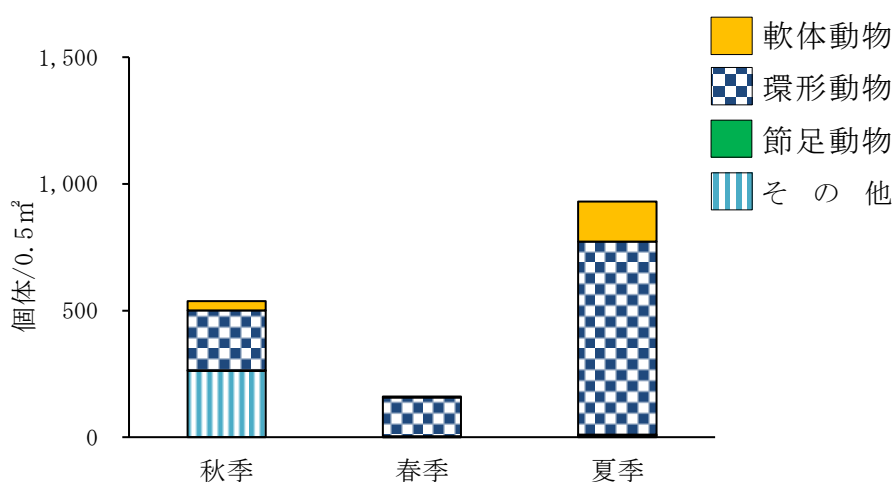


図 7.16 海の公園における海岸動物（干潟）時季別個体数

表 7.61 海の公園における海岸動物（干潟）時季別優占種（個体数）

単位: 個体/0.5m<sup>2</sup>

時季	秋季	春季	夏季
優占種の個体数 および組成比 (組成比10%以上)	線形動物門 260 (48.4%) 貧毛綱 104 (19.4%) ミズヒキゴカイ 61 (11.4%)	貧毛綱 82 (50.9%) ミズヒキゴカイ 71 (44.1%)	ミズヒキゴカイ 473 (50.9%) 貧毛綱 146 (15.7%) マテガイ 103 (11.1%) ドロオニスピオ 98 (10.5%)

表 7.62 海の公園における海岸動物（干潟）動物門別湿重量

時季	秋季		春季		夏季	
	湿重量 (g/0.5m <sup>2</sup> )	組成比 (%)	湿重量 (g/0.5m <sup>2</sup> )	組成比 (%)	湿重量 (g/0.5m <sup>2</sup> )	組成比 (%)
軟体動物	4.56	34.4	2.66	25.9	20.68	27.9
環形動物	8.00	60.4	6.69	65.1	53.33	71.9
節足動物	0.21	1.6	0.92	8.9	0.04	0.1
その他	0.47	3.5	0.01	0.1	0.17	0.2
合計	13.24	100	10.28	100	74.22	100

注) 組成比の数値は小数点1桁で四捨五入しているため、合計が100%にならない場合がある。

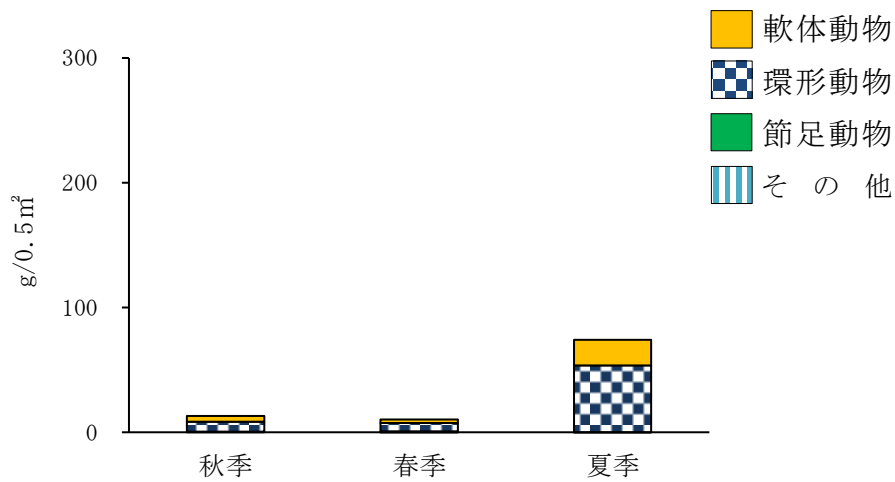


図 7.17 海の公園における海岸動物（干潟）時季別湿重量

表 7.63 海の公園における海岸動物（干潟）時季別優占種（湿重量）

時季	単位:g/0.5m <sup>2</sup>		
	秋季	春季	夏季
優占種の湿重量 および組成比 (組成比10%以上)	ミズヒキゴカイ 4.60 (34.7%)	ミズヒキゴカイ 6.64 (64.6%)	ミズヒキゴカイ 52.48 (70.8%)
	アサリ 3.58 (27.0%)	キサゴ 2.38 (23.2%)	アサリ 8.26 (11.1%)
	タマンキゴカイ 2.93 (22.1%)		

## ③野島公園

## a) 目視観察結果

野島公園における目視観察結果を表 7.64～表 7.66に示す。

秋季調査の出現種類数は刺胞動物門 2 種、軟体動物門 9 種、節足動物門 6 種の計 17 種であった。

春季調査の出現種類数は海綿動物門 1 種類、刺胞動物門 2 種類、触手動物門 1 種類、軟体動物門 7 種、環形動物門 2 種類、節足動物門 5 種、棘皮動物門 1 種の計 19 種であった。

夏季調査の出現種類数は刺胞動物門 3 種類、軟体動物門 5 種、環形動物門 2 種類、節足動物門 9 種の計 19 種であった。

表 7.64 野島公園における海岸動物（干潟）目視観察結果（秋季）

観察方法：方形枠 (50cm×50cm) 内を観察  
単 位：% (被 度)、個体/0.25m<sup>2</sup>

No.	門	綱	調 査 日 基点からの距離 (m) 底 質 観 察 層 和 名	2024年10月28日							単位	測線周辺での 目視観察 または 魚類調査 混獲生物 による出現
				19.0	25.0	28.5	35.0	80.0	90.0	100.0		
				砂・貝片	砂	砂・貝片	砂・貝片	砂	砂・貝片	砂・貝片		
				高潮帯	平均水面付近	低潮帯						
			A.P.	A.P.	A.P.	A.P.	A.P.	A.P.	A.P.			
			+2.0m	+1.5m	+1.0m	+0.5m	±0.0m	±0.0m	+0.1m			
1	刺胞動物	花虫	スナインギンチャク								個体	○
2			タテジマイノギンチャク								個体	○
3	軟体動物	多板	ヒザラガイ								個体	○
4		腹足	ウノアシ(ウノアシ型)								個体	○
5			アカニシ								個体	○
6			イボニシ								個体	○
7			アラムシロ					16	5	4	個体	○
8			フレリトゲアメフラシ								個体	○
9		二枚貝	マガキ								%	○
10			パカガイ				1	1			個体	
11			アサリ			2	4	9	8	7	個体	○
12	節足動物	顎脚	シロスジフジツボ								%	○
13		軟甲	フタマタフナムシ	3							個体	
14			コブヨコバサミ						1		個体	○
15			テナガツノヤドカリ							1	個体	○
16			ユビナガホンヤドカリ						3	1	個体	
17			イソガニ								個体	○
種 類 数				1	出現せず	1	2	3	4	4	-	14

注1) 単体性の動物は原則として個体数を、群体性の動物及び固着性で個体数計数の困難な動物(イガイ類、フジツボ類等)は被度を示した。

注2) ○は捕獲・目視による出現を示す。

注3) 学名及び分類群順は西村編(1992, 1995)「原色検索 日本海岸動物図鑑 I、II」他に準拠した。

表 7.65 野島公園における海岸動物（干潟）目視観察結果（春季）

観察方法：方形枠（50cm×50cm）内を観察  
単 位：%（被 度）、個体/0.25㎡

No.	門	綱	調査日 基点からの距離(m) 底 質 観 察 層 和 名	2025年4月25日							単位	測線周辺 での 目視観察 または 魚類調査 混獲生物 による出現	
				15.0	25.5	29.7	35.0	80.0	90.0	100.0			
				砂・貝片	砂・貝片	砂・貝片	貝片・砂	砂	砂・貝片	砂・貝片			
				高潮帯	平均水面付近	低潮帯							
				A.P.	A.P.	A.P.	A.P.	A.P.	A.P.	A.P.			
				+2.0m	+1.5m	+1.0m	+0.5m	±0.0m	±0.0m	+0.1m			
1	海綿動物	尋常海綿	尋常海綿綱									%	○
2	刺胞動物	花虫	タテジマイソギンチャク									個体	○
3			イソギンチャク目									個体	○
4	触手動物	筍虫	Phoronis 属									%	○
5	軟体動物	多板	ヒザラガイ									個体	○
6		腹足	イボニシ									個体	○
7			アラムシロ					5	22	9		個体	○
8		二枚貝	バカガイ							1		個体	○
9			シオフキ							2		個体	○
10			マテガイ							1		個体	○
11			アサリ				5	7	8	13		個体	○
12	環形動物	多毛	ミズヒキゴカイ科									%	○
13			ヤッコカンザシ									%	○
14	節足動物	軟甲	イソコツブムシ		25							個体	
15			ダルマエビジャコ									個体	○
16			テナガツノヤドカリ				1		3	1		個体	○
17			ユビナガホンヤドカリ						1			個体	○
18			ケアシホンヤドカリ									個体	○
19	棘皮動物	ヒトデ	モミジガイ									個体	○
種 類 数				出現せず	1	出現せず	2	2	4	6	-		17

注1) 単体性の動物は原則として個体数を、群体性の動物及び固着性で個体数計数の困難な動物(イガイ類、フジツボ類等)は被度を示した。  
注2) ○は捕獲・目視による出現を示す。  
注3) 学名及び分類群順は西村編(1992、1995)「原色検索 日本海岸動物図鑑 I、II」他に準拠した。

表 7.66 野島公園における海岸動物（干潟）目視観察結果（夏季）

観察方法：方形枠（50cm×50cm）内を観察  
単 位：%（被 度）、個体/0.25㎡

No.	門	綱	調査日 基点からの距離(m) 底 質 観 察 層 和 名	2025年7月25日							単位	測線周辺 での 目視観察 または 魚類調査 混獲生物 による出現	
				13.0	25.0	28.6	35.0	80.0	90.0	100.0			
				砂・貝片	砂・貝片	砂・貝片	砂・貝片	砂・貝片	砂・貝片	砂・貝片			
				高潮帯	平均水面付近	低潮帯							
				A.P.	A.P.	A.P.	A.P.	A.P.	A.P.	A.P.			
				+2.0m	+1.5m	+1.0m	+0.5m	±0.0m	±0.0m	+0.1m			
1	刺胞動物	花虫	スナイソギンチャク									個体	○
2			タテジマイソギンチャク									個体	○
3			イソギンチャク目									個体	○
4	軟体動物	腹足	コガモガイ									個体	○
5			イボニシ									個体	○
6			アラムシロ					32	83	28		個体	○
7		二枚貝	バカガイ					1				個体	○
8			アサリ					80	84	64		個体	○
9	環形動物	多毛	ミズヒキゴカイ科									%	○
10			カンザシゴカイ科									%	○
11	節足動物	顎脚	カメノテ									%	○
12		軟甲	フタマタフナムシ									個体	○
13			テナガツノヤドカリ					2	1			個体	○
14			キンセンガニ									個体	○
15			マメコブシガニ									個体	○
16			イシガニ					1				個体	○
17			イソガニ									個体	○
18			オサガニ									個体	○
19			コメツキガニ									個体	○
種 類 数								5	3	2	-		19

注1) 単体性の動物は原則として個体数を、群体性の動物及び固着性で個体数計数の困難な動物(イガイ類、フジツボ類等)は被度を示した。  
注2) ○は捕獲・目視による出現を示す。  
注3) 学名及び分類群順は西村編(1992、1995)「原色検索 日本海岸動物図鑑 I、II」他に準拠した。

b) 定量採取分析結果

野島公園における杵取採取分析結果を表 7.67に、動物門別個体数を表 7.68に、時季別個体数を図 7.18に、時季別優占種（個体数）を表 7.69に、動物門別湿重量を表 7.70に、時季別湿重量を図 7.19に、時季別優占種（湿重量）を表 7.71に示す。なお、定量採取分析における優占種を組成比 10%以上で出現した種とする。

表 7.67 野島公園における海岸動物（干潟）杵取採取分析結果

調査方法：方形杵(0.5m×0.5m×深さ0.15m)内を採泥  
 単 位：個体/0.25㎡、g/0.25㎡  
 (合 計)：個体/0.5㎡、g/0.5㎡

No.	門	綱	和名	秋季						春季						夏季							
				2024年10月28日						2025年4月25日						2025年7月25日							
				平均水面 (A.P. +1.15m)		※ 平均水面下 1.15m (A.P.0m)		合 計		平均水面 (A.P. +1.15m)		※ 平均水面下 1.15m (A.P.0m)		合 計		平均水面 (A.P. +1.15m)		※ 平均水面下 1.15m (A.P.0m)		合 計			
				個体数 (個体)	湿重量 (g)	個体数 (個体)	湿重量 (g)	個体数 (個体)	湿重量 (g)	個体数 (個体)	湿重量 (g)	個体数 (個体)	湿重量 (g)	個体数 (個体)	湿重量 (g)	個体数 (個体)	湿重量 (g)	個体数 (個体)	湿重量 (g)	個体数 (個体)	湿重量 (g)		
1	紐形動物		紐形動物門			4	0.05	4	0.05			1	0.04	1	0.04			1	0.01	1	0.01		
2	触手動物	苔虫	フサコケムシ													-	0.02				-	0.02	
3			ホソフサコケムシ													-	0.04					-	0.04
4	軟体動物	腹足	シマメノウネガイ			1	0.64	1	0.64														
5			ネコガイ															4	4.07	4	4.07		
6			ツメタガイ							2	4.24	2	4.24										
7			ムシロガイ							2	2.11	2	2.11					1	1.06	1	1.06		
8			アラムシロ			52	13.33	52	13.33			37	14.11	37	14.11			128	27.69	128	27.69		
9			ムラクモキビジキガイ															3	0.12	3	0.12		
10		二枚貝	ホトギスガイ							1	0.05	1	0.04	2	0.09			70	2.44	70	2.44		
11			シオフキ															4	0.92	4	0.92		
12			ヒメシラトリ			3	1.14	3	1.14			3	1.12	3	1.12			3	0.69	3	0.69		
13			マテガイ			2	0.63	2	0.63									25	0.49	25	0.49		
14			アサリ			53	67.42	53	67.42			26	86.54	26	86.54			1188	332.04	1188	332.04		
15	環形動物	多毛	オイワケゴカイ			15	0.02	15	0.02														
16			ツルヒゴカイ															1	0.01	1	0.01		
17			コケゴカイ			107	1.09	107	1.09			39	1.74	39	1.74			18	0.45	18	0.45		
18			ハヤテシロガネゴカイ			1	0.12	1	0.12														
19			コノハシロガネゴカイ			1	+	1	+														
20			ケンサキスピオ			1	0.01	1	0.01														
21			コオニスピオ															1258	1.13	1258	1.13		
22			Scolecopsis 属															10	0.05	10	0.05		
23			マドカスピオ															19	0.02	19	0.02		
24			ミスヒキゴカイ	3	0.14	32	1.92	35	2.06			13	2.08	13	2.08			7	0.80	7	0.80		
25			Praxillella 属			1	+	1	+			1	+	1	+								
26			タマシキゴカイ															1	0.02	1	0.02		
27		貧毛	貧毛綱							2	+			2	+	48	0.01			48	0.01		
28	節足動物	軟甲	ニホンドロソコエビ							1	+			1	+			2	+	3	0.02	5	0.02
29			ドロクダムシ属																				
30			アゴナガヨコエビ科																	3	0.01	3	0.01
31			ハマトビムシ科	1	+			1	+														
32			トゲワレカラ															3	+			3	+
33			イソコツブムシ															1	+			1	+
34			テッポウエビ属																	1	0.02	1	0.02
35			エビジャコ																	4	0.09	4	0.09
36			テナガツノヤドカリ			1	0.82	1	0.82											6	1.58	6	1.58
37			エビナガホンヤドカリ									1	0.09	1	0.09								
38			マメコブシガニ																	1	0.01	1	0.01
39			イシガニ属																	2	0.03	2	0.03
40			ガザミ									1	0.30	1	0.30					6	0.12	6	0.12
41			イソガニ属																	2	0.01	2	0.01
42			モクスガニ科									2	0.34	2	0.34								
43			Pinnotheres 属																	1	0.02	1	0.02
44			オヨギピンノ																	46	0.39	46	0.39
種 類 数				2	14	15	3	13	15	6	28	33											
個体数・湿重量合計				4	0.14	274	87.19	278	87.33	4	0.05	129	112.75	133	112.80	54	0.07	2,816	374.31	2,870	374.38		

注1)+表示は0.01g未満を示す。

注2)-表示は個体数計数が困難な群体性種等を示す。

注3)※表示は測線距離100mまで平均水面下2mの水深に至らなかったため、杵取採取は測線上で最深となった平均水面下1.15m(A.P.0m)で行ったことを示す。

注4)学名及び分類群順は西村編(1992、1995)「原色検索 日本海岸動物図鑑 I、II」他に準拠した。

表 7.68 野島公園における海岸動物（干潟）動物門別個体数

時 季	秋季		春季		夏季	
	個体数 (個体/0.5㎡)	組成 比 (%)	個体数 (個体/0.5㎡)	組成 比 (%)	個体数 (個体/0.5㎡)	組成 比 (%)
軟体動物	111	39.9	72	54.1	1,426	49.7
環形動物	161	57.9	55	41.4	1,362	47.5
節足動物	2	0.7	5	3.8	81	2.8
そ の 他	4	1.4	1	0.8	1	0.0
合 計	278	100	133	100	2,870	100

注1) 組成比の数値は小数点1桁で四捨五入しているため、合計が100%にならない場合がある。

注2) 組成比0.0は0.1%未満を示す。

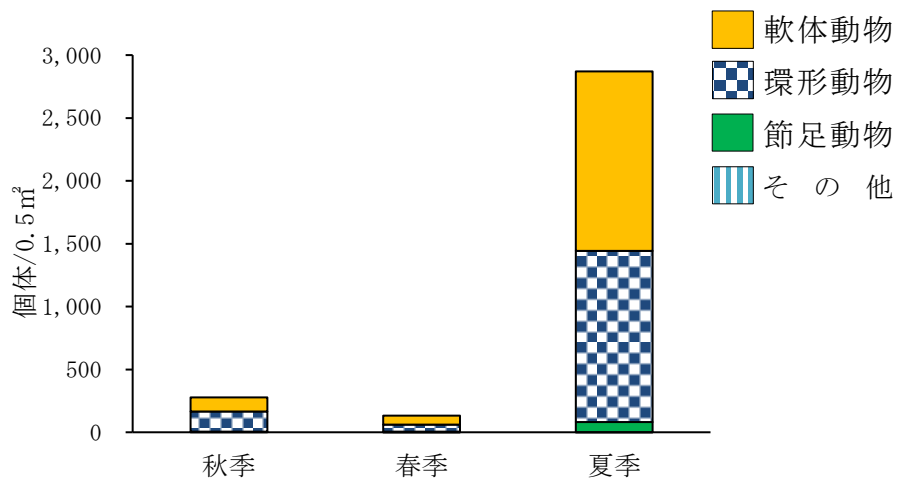


図 7.18 野島公園における海岸動物（干潟）時季別個体数

表 7.69 野島公園における海岸動物（干潟）時季別優占種（個体数）

単位: 個体/0.5㎡

時 季	秋季	春季	夏季
優占種の個体数 および組成比 (組成比10%以上)	コケゴカイ 107 (38.5%)	コケゴカイ 39 (29.3%)	コオニスピオ 1,258 (43.8%)
	アサリ 53 (19.1%)	アラムシロ 37 (27.8%)	アサリ 1,188 (41.4%)
	アラムシロ 52 (18.7%)	アサリ 26 (19.5%)	
	ミズヒキゴカイ 35 (12.6%)		

表 7.70 野島公園における海岸動物（干潟）動物門別湿重量

時季	秋季		春季		夏季	
	湿重量 (g/0.5m <sup>2</sup> )	組成比 (%)	湿重量 (g/0.5m <sup>2</sup> )	組成比 (%)	湿重量 (g/0.5m <sup>2</sup> )	組成比 (%)
軟体動物	83.16	95.2	108.21	95.9	369.52	98.7
環形動物	3.30	3.8	3.82	3.4	2.49	0.7
節足動物	0.82	0.9	0.73	0.6	2.30	0.6
その他	0.05	0.1	0.04	0.0	0.07	0.0
合計	87.33	100	112.80	100	374.38	100

注1) 組成比の数値は小数点1桁で四捨五入しているため、合計が100%にならない場合がある。

注2) 組成比0.0は0.1%未満を示す。

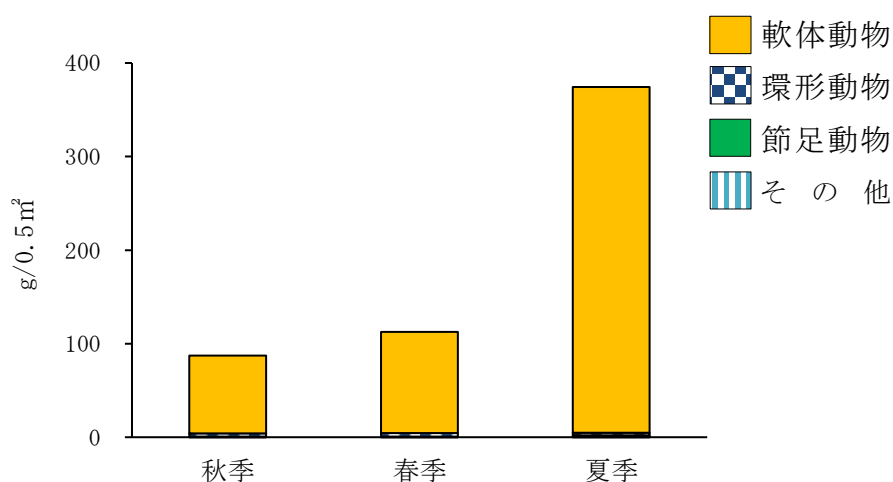


図 7.19 野島公園における海岸動物（干潟）時季別湿重量

表 7.71 野島公園における海岸動物（干潟）時季別優占種（湿重量）

時季	単位:g/0.5m <sup>2</sup>		
	秋季	春季	夏季
優占種の湿重量	アサリ 67.42 (77.2%)	アサリ 86.54 (76.7%)	アサリ 332.04 (88.7%)
および組成比 (組成比10%以上)	アラムシロ 13.33 (15.3%)	アラムシロ 14.11 (12.5%)	

④野島水路

a) 目視観察結果

野島水路における目視観察結果を表 7.72～表 7.74に示す。

秋季調査の出現種類数は海綿動物門 1 種類、刺胞動物門 2 種類、触手動物門 3 種類、軟体動物門 11 種、環形動物門 3 種類、節足動物門 10 種、脊索動物門 1 種の計 31 種類であった。

春季調査の出現種類数は海綿動物門 1 種類、刺胞動物門 1 種、扁形動物門 1 種類、軟体動物門 8 種、環形動物門 1 種類、節足動物門 8 種、脊索動物門 3 種類の計 23 種類であった。

夏季調査の出現種類数は刺胞動物門 1 種、軟体動物門 10 種、環形動物門 1 種類、節足動物門 12 種、脊索動物門 2 種類の計 26 種類であった。

表 7.72 野島水路における海岸動物（干潟）目視観察結果（秋季）

観察方法：方形枠(50cm×50cm)内を観察  
単位：%(被 度)、個体/0.25㎡

No.	門	綱	調査日 基点からの距離(m) 底質 観察層 和名	2024年10月28日							単位	測線周 辺での 目視観察 または 魚類調査 混獲生物 による出現
				0	3.0	8.5	18.0	24.5	28.5	30.8		
				護岸	砂	砂・大礫	砂・貝片	砂・貝片	貝片・巨礫	砂・貝片		
				高潮帯	平均水面付近	低潮帯		潮下帯				
				A.P.	A.P.	A.P.	A.P.	A.P.	A.P.	A.P.		
				+2.0m	+1.5m	+1.0m	+0.5m	±0.0m	-0.5m	-1.0m		
1	海綿動物		海綿動物門							+	%	○
2	刺胞動物	ヒドロ虫	ヒドロ虫綱						+	+	%	○
3		花虫	タテジマイソギンチャク		7						個体	○
4	触手動物	苔虫	フサコケムシ						+	+	%	○
5			ホソフサコケムシ							+	%	○
6			苔虫綱						+		%	○
7	軟体動物	腹足	スガイ								個体	○
8			アマオブネガイ								個体	○
9			タマキビ								個体	○
10			アカニシ								個体	○
11			イボニシ								個体	○
12			ムシログイ			5	3		1	3	個体	○
13			アラムシロ			2	3	1	3	5	個体	○
14			コノハミドリガイ								個体	○
15		二枚貝	ミドリイガイ								%	○
16			マガキ								%	○
17			アサリ				25	31		5	個体	○
18	環形動物	多毛	ツバサゴカイ科							1	個体	○
19			ミズヒキゴカイ科					+	+	+	%	○
20			カンザシゴカイ科								%	○
21	節足動物	顎脚	イワフジツボ		+						%	○
22			シロスジフジツボ		+						%	○
23			タテジマフジツボ			+					%	○
24			アメリカフジツボ								%	○
25			サンカクフジツボ						+		%	○
26		軟甲	フタマタフナムシ	2							個体	○
27			イソスジエビ								個体	○
28			ユビナガホンヤドカリ			6					個体	○
29			イシガニ						1		個体	○
30			コメツキガニ								個体	○
31	脊索動物	ホヤ	シロボヤ								個体	○
種類数				1	3	4	3	3	8	9	-	27

注1) 単体性の動物は原則として個体数を、群体性の動物及び固着性で個体数計数の困難な動物(イガイ類、フジツボ類等)は被度を示した。

注2) +は被度5%未満を示す。

注3) ○は捕獲・目視による出現を示す。

注4) 学名及び分類群順は西村編(1992、1995)「原色検索 日本海岸動物図鑑 I、II」他に準拠した。

表 7.73 野島水路における海岸動物（干潟）目視観察結果（春季）

観察方法：方形枠（50cm×50cm）内を観察  
単 位：%（被 度）、個体/0.25㎡

No.	門	綱	調査日 基点からの距離(m) 底質 観察層 和名	2025年4月25日							単位	測線周辺 での 目視観察 または 魚類調査 混獲生物 による出現		
				0	0	6.0	13.0	21.0	25.4	27.0				
				護岸	砂・小礫	砂・小礫	巨礫・砂	砂・貝片	砂・貝片	巨礫・砂				
				高潮帯	平均水面付近	低潮帯	潮下帯							
				A.P.	A.P.	A.P.	A.P.	A.P.	A.P.	A.P.				
				+2.0m	+1.5m	+1.0m	+0.5m	±0.0m	-0.5m	-1.0m				
1	海綿動物	尋常海綿	尋常海綿綱								+	%		
2	刺胞動物	花虫	タテジマイソギンチャク				17	1		2		個体	○	
3	扁形動物	渦虫	多岐腸目(ヒラムシ目)						1			個体		
4	軟体動物	腹足	シマメノウフネガイ									個体	○	
5			イボニシ					1				個体	○	
6			アラムシロ				6	12	5	3		個体	○	
7			コノハドリガイ									個体	○	
8			アマクサアメフラシ									個体	○	
9			二枚貝	マガキ					+		+		%	○
10				アサリ				4	3	6			個体	○
11		頭足	イイダコ									個体	○	
12		環形動物	多毛	ミズヒキゴカイ科					+	+	+	%	○	
13		節足動物	顎脚	イワフジツボ									%	○
14				シロスジフジツボ									%	○
15	タテジマフジツボ											%	○	
16	軟甲		イソコツブムシ		3							個体		
17			イソスジエビ					1				個体	○	
18			ユビナガホシヤドカリ				3				3	個体	○	
19			タカノケフサイソガニ				3			1		個体		
20			コメツキガニ									個体	○	
21	脊索動物	ホヤ	イタボヤ科								+	%	○	
22			シロボヤ									個体	○	
23			マンハッタンボヤ								1	個体		
種 類 数				出現せず	1	出現せず	5	7	5	8	-	18		

注1) 単体性の動物は原則として個体数を、群体性の動物及び固着性で個体数計数の困難な動物(イガイ類、フジツボ類等)は被度を示した。

注2) +は被度5%未満を示す。

注3) ○は捕獲・目視による出現を示す。

注4) 学名及び分類群順は西村編(1992、1995)「原色検索 日本海岸動物図鑑 I、II」他に準拠した。

表 7.74 野島水路における海岸動物（干潟）目視観察結果（夏季）

観察方法：方形枠（50cm×50cm）内を観察  
単 位：%（被 度）、個体/0.25㎡

No.	門	綱	調査日 基点からの距離(m) 底 質 観 察 層 和 名	2025年7月25日								単位	測線周 辺での 目視観察 または 魚類調査 混獲生物 による出現				
				0		6.0		13.0		24.6				27.0		29.2	
				護岸	小礫・泥	砂・小礫	砂・大礫	砂・泥	砂・泥	砂・泥	砂・泥			砂・泥	砂・泥	砂・泥	砂・泥
				高潮帯	平均水面付近	低潮帯		潮下帯									
				A.P.	A.P.	A.P.	A.P.	A.P.	A.P.	A.P.	A.P.						
				+2.0m	+1.5m	+1.0m	+0.5m	±0.0m	-0.5m	-1.0m							
1	刺胞動物	花虫	タテジマイソギンチャク									個体	○				
2	軟体動物	腹足	ホノウミノナ									個体	○				
3			シマメノウフネガイ						1			個体	○				
4			ツメタガイ						1			個体	○				
5			レイシガイ						1			個体	○				
6			アラムシロ					5	31	18		個体	○				
7			コノハミドリガイ									個体	○				
8			二枚貝	マガキ									%	○			
9		ケガキ										%	○				
10		ホンビノスガイ								1		個体	○				
11		アサリ						3	10	24		個体					
12		環形動物	多毛	ミズヒキゴカイ科						+		%	○				
13	節足動物	顎脚	イワフジツボ									%	○				
14			シロスジフジツボ									%	○				
15			タテジマフジツボ				+					%	○				
16			アメリカフジツボ									%	○				
17			ヨーロッパフジツボ				+					%	○				
18			軟甲	スジエビモドキ									個体	○			
19		テナガツノヤドカリ						1		1		個体	○				
20		ユビナガホンヤドカリ										個体	○				
21		ケアシホンヤドカリ						3	4			個体					
22			イシガニ									個体	○				
23		ヒライソガニ				1					個体						
24		カクベンケイガニ									個体	○					
25	脊索動物	ホヤ	ユウレイボヤ属									個体	○				
26			シロボヤ									個体	○				
種 類 数							3	4	7	4	-	19					

注1) 単体性の動物は原則として個体数を、群体性の動物及び固着性で個体数計数の困難な動物(イガイ類、フジツボ類等)は被度を示した。

注2) +は被度5%未満を示す。

注3) ○は捕獲・目視による出現を示す。

注4) 学名及び分類群順は西村編(1992、1995)「原色検索 日本海岸動物図鑑 I、II」他に準拠した。

## b) 定量採取分析結果

野島水路における杓取採取分析結果を表 7.75に、動物門別個体数を表 7.76に、時季別個体数を図 7.20に、時季別優占種（個体数）を表 7.77に、動物門別湿重量を表 7.78に、時季別湿重量を図 7.21に、時季別優占種（湿重量）を表 7.79に示す。なお、定量採取分析における優占種を組成比 10%以上で出現した種とする。

表 7.75 野島水路における海岸動物（干潟）杓取採取分析結果

調査方法：方形杓(0.5m×0.5m×深さ0.15m)内を採泥  
単 位：個体/0.25㎡、g/0.25㎡  
(合 計)：個体/0.5㎡、g/0.5㎡

No.	門	綱	時季調査日 採取層 和名	秋季 2024年10月28日						春季 2025年4月25日						夏季 2025年7月25日						
				平均水面 (A.P. +1.15m)		平均水面下 2m(A.P. -0.85m)		合計		平均水面 (A.P. +1.15m)		平均水面下 2m(A.P. -0.85m)		合計		平均水面 (A.P. +1.15m)		平均水面下 2m(A.P. -0.85m)		合計		
				個体数 (個体)	湿重量 (g)	個体数 (個体)	湿重量 (g)	個体数 (個体)	湿重量 (g)	個体数 (個体)	湿重量 (g)	個体数 (個体)	湿重量 (g)	個体数 (個体)	湿重量 (g)	個体数 (個体)	湿重量 (g)	個体数 (個体)	湿重量 (g)	個体数 (個体)	湿重量 (g)	
				個体数 (個体)	湿重量 (g)	個体数 (個体)	湿重量 (g)	個体数 (個体)	湿重量 (g)	個体数 (個体)	湿重量 (g)	個体数 (個体)	湿重量 (g)	個体数 (個体)	湿重量 (g)	個体数 (個体)	湿重量 (g)	個体数 (個体)	湿重量 (g)	個体数 (個体)	湿重量 (g)	
1	刺胞動物	花虫	イソギンチャク目														29	1.11	29	1.11		
2	扁形動物	渦虫	スチロヒラムシ科														1	0.01	1	0.01		
3			ヤワヒラムシ科														5	0.03	5	0.03		
4	紐形動物		紐形動物門																			
5	軟体動物	腹足	シマメノウネガイ			1	0.02	1	0.02			3	0.02	3	0.02			2	0.01	2	0.01	
6			ムシロガイ			5	5.53	5	5.53			8	2.84	8	2.84			1	0.04	1	0.04	
7			アラムシロ			43	19.43	43	19.43			1	0.90	1	0.90			7	3.00	7	3.00	
8			イトカケギリ属									2	0.04	2	0.04							
9			キセワタガイ科															1	0.07	1	0.07	
10		二枚貝	ホトギスガイ									47	4.52	47	4.52			88	48.86	88	48.86	
11			サクラガイ									1	0.01	1	0.01							
12			ウズザクラ															1	0.01	1	0.01	
13			ヒメシラトリ									3	0.61	3	0.61			8	3.89	8	3.89	
14			アサリ	9	24.30	89	44.65	98	68.95			216	23.82	216	23.82	1	0.61	399	398.35	400	398.96	
15	環形動物	多毛	ホソミサンバ									13	0.03	13	0.03							
16			マダラサンバ									12	0.04	12	0.04							
17			マダラサンバゴカイ属															1	+	1	+	
18			Phyllococe 属									1	0.01	1	0.01			22	0.03	22	0.03	
19			チロリ			1	0.08	1	0.08													
20			オノミチチロリ									5	0.23	5	0.23			3	0.53	3	0.53	
21			Glycinde 属									1	0.01	1	0.01							
22			マイクロトヒメ			27	0.03	27	0.03			34	0.02	34	0.02			1	+	1	+	
23			ハナオカカゴカイ			13	0.03	13	0.03			11	0.02	11	0.02							
24			オイワケゴカイ									15	0.15	15	0.15							
25			アシナガゴカイ														1	0.02			1	0.02
26			オウギゴカイ															1	0.09	1	0.09	
27			コケゴカイ	8	0.02	22	0.17	30	0.19	5	0.04	6	0.19	11	0.23	8	0.20	2	0.03	10	0.23	
28			コノハシロガネゴカイ			1	+	1	+													
29			Shenelais 属			1	0.03	1	0.03													
30			Harmothoe 属									1	0.07	1	0.07			51	0.50	51	0.50	
31			カタマカリギボシソメ			3	0.04	3	0.04			2	0.05	2	0.05			13	0.09	13	0.09	
32			Naineris 属															2	0.06	2	0.06	
33			ケンサキスピオ			2	0.01	2	0.01									2	0.01	2	0.01	
34			Polydora 属															2	+	2	+	
35			ミツバネスピオ			2	0.01	2	0.01									1	+	1	+	
36			ドロオニスピオ	2	+			2	+	1	+	11	0.03	12	0.03							
37			コオニスピオ															28	0.04	28	0.04	
38			ミスヒキゴカイ	20	0.68	6	0.09	26	0.77			5	0.12	5	0.12			28	0.55	28	0.55	
39			Caulerliella 属			3	0.01	3	0.01			1	+	1	+							
40			Tharyx 属			1	+	1	+													
41			ハボウキゴカイ科									3	0.28	3	0.28			2	0.05	2	0.05	
42			Mediomastus 属			28	0.03	28	0.03			2	0.02	2	0.02							
43			カザリゴカイ科															2	0.02	2	0.02	
44			Chone 属									3	0.13	3	0.13			6	0.11	6	0.11	
45	節足動物	顎脚	タデジマフジツボ	5	1.07			5	1.07													
46		軟甲	ニホンドロソコエビ															12	0.03	12	0.03	
47			アリアドクダムシ									590	0.35	590	0.35							
48			ドロクダムシ属															2	+		+	
49			ヒゲツノメタヨコエビ															4	0.02	4	0.02	
50			テナガツノヤドカリ															1	0.38	1	0.38	
51			コビナガホンヤドカリ															6	0.17	6	0.17	
52			マメコブシガニ															1	0.29	1	0.29	
53			イボイチョウガニ															1	0.58	1	0.58	
54			ガザミ			1	5.56	1	5.56													
55			ヒライソガニ							1	0.16			1	0.16			2	0.29	2	0.29	
56			タカケフサイソガニ															1	0.05	1	0.05	
57			オヨギペンノ															1	0.01	1	0.01	
58			コマツキガニ	2	1.03			2	1.03	13	2.17			13	2.17	2	0.19			2	0.19	
59	棘皮動物	クモヒトデ	スナクモヒトデ科															1	0.01	1	0.01	
				種 類 数	6	18	21	4	27	29	5	39	42									
				個体数・湿重量合計	46	27.10	249	75.72	295	102.82	20	2.37	998	34.60	1,018	36.97	14	1.02	740	460.57	754	461.59

注1) +表示は0.01g未満を示す。

注2) 学名及び分類群順は西村編(1992、1996)「原色検索 日本海岸動物図鑑 I、II」他に準拠した。

表 7.76 野島水路における海岸動物（干潟）動物門別個体数

時 季	秋季		春季		夏季	
	個体数 (個体/0.5㎡)	組成 比 (%)	個体数 (個体/0.5㎡)	組成 比 (%)	個体数 (個体/0.5㎡)	組成 比 (%)
軟 体 動 物	147	49.8	279	27.4	507	67.2
環 形 動 物	140	47.5	132	13.0	176	23.3
節 足 動 物	8	2.7	604	59.3	33	4.4
そ の 他			3	0.3	38	5.0
合 計	295	100	1,018	100	754	100

注) 組成比の数値は小数点1桁で四捨五入しているため、合計が100%にならない場合がある。

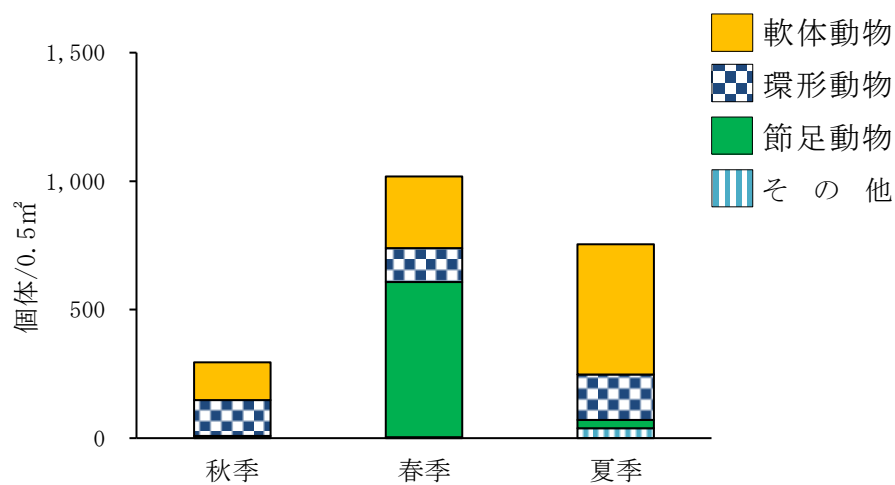


図 7.20 野島水路における海岸動物（干潟）時季別個体数

表 7.77 野島水路における海岸動物（干潟）時季別優占種（個体数）

単位: 個体/0.5㎡

時 季	秋季	春季	夏季
優占種の個体数 および組成比 (組成比10%以上)	アサリ 98 (33.2%)	アリアケドロクダムシ 590 (58.0%)	アサリ 400 (53.1%)
	アラムシロ 43 (14.6%)	アサリ 216 (21.2%)	ホトギスガイ 88 (11.7%)
	コケゴカイ 30 (10.2%)		

表 7.78 野島水路における海岸動物（干潟）動物門別湿重量

時季	秋季		春季		夏季	
	湿重量 (g/0.5m <sup>2</sup> )	組成比 (%)	湿重量 (g/0.5m <sup>2</sup> )	組成比 (%)	湿重量 (g/0.5m <sup>2</sup> )	組成比 (%)
軟体動物	93.93	91.4	32.83	88.8	456.08	98.8
環形動物	1.23	1.2	1.44	3.9	2.33	0.5
節足動物	7.66	7.4	2.68	7.2	2.01	0.4
その他			0.02	0.1	1.17	0.3
合計	102.82	100	36.97	100	461.59	100

注1) 組成比の数値は小数点1桁で四捨五入しているため、合計が100%にならない場合がある。

注2) 組成比0.0は0.1%未満を示す。

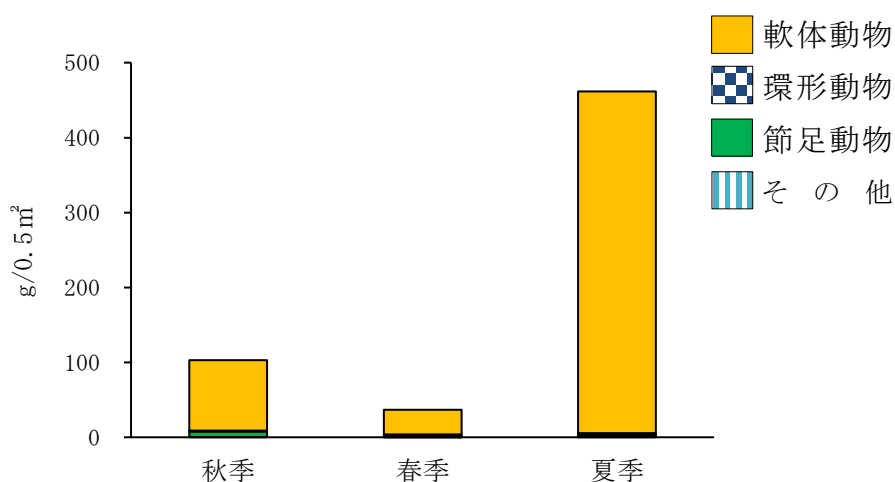


図 7.21 野島水路における海岸動物（干潟）時季別湿重量

表 7.79 野島水路における海岸動物（干潟）時季別優占種（湿重量）

時季	単位:g/0.5m <sup>2</sup>		
	秋季	春季	夏季
優占種の湿重量	アサリ 68.95 (67.1%)	アサリ 23.82 (64.4%)	アサリ 398.96 (86.4%)
および組成比 (組成比10%以上)	アラムシロ 19.43 (18.9%)	ホトギスガイ 4.52 (12.2%)	ホトギスガイ 48.86 (10.6%)

⑤夕照橋

a) 目視観察結果

夕照橋における目視観察結果を表 7.80～表 7.82に示す。

秋季調査の出現種類数は刺胞動物門 1 種類、軟体動物門 10 種、節足動物門 7 種、脊索動物門 1 種の計 19 種類であった。

春季調査の出現種類数は刺胞動物門 2 種類、触手動物門 1 種、軟体動物門 15 種類、節足動物門 11 種、脊索動物門 1 種の計 30 種類であった。

夏季調査の出現種類数は刺胞動物門 1 種、軟体動物門 12 種、節足動物門 12 種、脊索動物門 1 種の計 26 種類であった。

表 7.80 夕照橋における海岸動物（干潟）目視観察結果（秋季）

観察方法：方形枠(50cm×50cm)内を観察  
単 位：%(被 度)、個体/0.25㎡

No.	門	綱	調 査 日 基点からの距離 (m) 底 質 観 察 層 和 名	2024年10月25日								単 位	測線周 辺での 目視観察 または 魚類調査 混獲生物 による出現			
				0	0	0	12.5	45.2	67.3	85.7	高潮帯			平均水面付近	低潮帯	潮下帯
				護岸	護岸	貝片・護岸	砂・貝片	砂・貝片	貝片・砂	貝片・砂						
				A.P.	A.P.	A.P.	A.P.	A.P.	A.P.	A.P.						
1	刺胞動物	花虫	イソギンチャク目											個体	○	
2	軟体動物	腹足	コガモガイ			5								個体	○	
3			スガイ											個体	○	
4			タマキビ	6	20	14								個体	○	
5			アラムシロ				26	11	2	4				個体	○	
6			二枚貝	サルボウガイ							1				個体	
7		ミドリイガイ											%	○		
8		コウロエンカワヒバリガイ			+								%	○		
9		マガキ		+	+	+							%	○		
10		バカガイ				3							個体			
11		アサリ				1		2					個体	○		
12		節足動物	顎脚	イワフジツボ		+								%	○	
13	シロスジフジツボ				+	+							%	○		
14	タテジマフジツボ					+	+						%	○		
15	アメリカフジツボ						+						%	○		
16	ヨーロッパフジツボ												%	○		
17	軟甲		テナガツノヤドカリ				3	1					個体			
18		タカノケフサイソガニ				1						個体				
19	脊索動物	ホヤ	シロボヤ										個体	○		
種 類 数				1	4	6	8	2	2	2	2	-	15			

注1) 単体性の動物は原則として個体数を、群体性の動物及び固着性で個体数計数の困難な動物(イガイ類、フジツボ類等)は被度を示した。

注2) +は被度5%未満を示す。

注3) ○は捕獲・目視による出現を示す。

注4) 学名及び分類群順は西村編(1992、1995)「原色検索 日本海岸動物図鑑 I、II」他に準拠した。

表 7.81 夕照橋における海岸動物（干潟）目視観察結果（春季）

観察方法：方形枠（50cm×50cm）内を観察  
 単 位：%（被 度）、個体/0.25㎡

No.	門	綱	調査日 基点からの距離(m) 底 質 観 察 層 和 名	2025年4月22日								単位	測線周 辺の 目視観察 または 魚類調査 混獲生物 による出現
				0	0	0	12.5	40.4	64.3	78.9	単位		
				護岸	護岸	護岸・貝片	砂・貝片	砂・貝片	砂・貝片	砂・貝片			
				高潮帯	平均水面付近	低潮帯	潮下帯						
				A.P.	A.P.	A.P.	A.P.	A.P.	A.P.	A.P.			
				+2.0m	+1.5m	+1.0m	+0.5m	±0.0m	-0.5m	-1.0m			
1	刺胞動物	花虫	タテジマインギンチャク			2					個体		
2			インギンチャク目								個体	○	
3	触手動物	苔虫	フサコケムシ							+	%		
4	軟体動物	多板	ケハダヒザラガイ科								個体	○	
5		腹足	コガモガイ			3					個体	○	
6			スガイ					1			個体	○	
7			ホソウミニナ		17	32	1				個体	○	
8			タマキビ			5					個体	○	
9			シマメノウフネガイ								個体	○	
10			アカニシ								個体	○	
11			アラムシロ				9	11	4	7	個体	○	
12			フレリトゲアメフラシ								個体	○	
13		二枚貝	サルボウガイ							1	%	○	
14			ムラサキイガイ								%	○	
15			コウロエンカワヒバリガイ		+	+					%		
16			マガキ		+	5				+	個体	○	
17			シオフキ				1				個体	○	
18			アサリ					24	2	1	%	○	
19	節足動物	顎脚	イワフジツボ	+	+	+					%	○	
20			シロスジフジツボ	+	+	+					%	○	
21			タテジマフジツボ		+						%	○	
22			サンカクフジツボ							+	個体	○	
23		軟甲	フタマタフナムシ	2	3						個体	○	
24			スジエビモドキ								個体	○	
25			フタミヅテッポウエビ								個体	○	
26			テナガツノヤドカリ				7	2	2		個体	○	
27			ユビナガホンヤドカリ				5				個体	○	
28			マメコブシガニ								個体	○	
29			タカノケフサインガニ								個体	○	
30	脊索動物	ホヤ	シロボヤ								個体	○	
種 類 数				3	7	8	5	4	3	6	-	26	

注1) 単体性の動物は原則として個体数を、群体性の動物及び固着性で個体数計数の困難な動物(イガイ類、フジツボ類等)は被度を示した。

注2) +は被度5%未満を示す。

注3) ○は捕獲・目視による出現を示す。

注4) 学名及び分類群順は西村編(1992、1995)「原色検索 日本海岸動物図鑑 I、II」他に準拠した。

表 7.82 夕照橋における海岸動物（干潟）目視観察結果（夏季）

観察方法：方形枠（50cm×50cm）内を観察  
単 位：%（被 度）、個体/0.25㎡

No.	門	綱	調査日 基点からの距離 (m) 底 質 観 察 層 和 名	2025年7月28日								単位	測線周 辺での 目視観察 または 魚類調査 混獲生物 による出現
				0	0	0	12.5	40.4	65.0	79.0			
				護岸	護岸	護岸	砂・泥・貝片	砂・貝片・泥	砂・貝片・泥	砂・貝片・泥			
				高潮帯	平均水面付近		低潮帯		潮下帯				
			A.P.	A.P.	A.P.	A.P.	A.P.	A.P.	A.P.				
				+2.0m	+1.5m	+1.0m	+0.5m	±0.0m	-0.5m	-1.0m			
1	刺胞動物	花虫	タテジマイソギンチャク									個体	○
2	軟体動物	腹足	コガモガイ		2	4						個体	○
3			イシダタミ		2							個体	○
4			スガイ			3						個体	○
5			ホソウミニナ		31	125	7					個体	○
6			タマキビ		7	1						個体	
7			アカニシ									個体	○
8			イボニシ									個体	○
9			アラムシロ				2	2	8			個体	○
10			二枚貝	ムラサキイガイ									%
11		ヨウロエンカワヒバリガイ			+	+						%	○
12		マガキ			+	5						%	○
13		アサリ						6	5	8		個体	
14		節足動物	顎脚	イワフジツボ		+							%
15	シロスジフジツボ				+							%	○
16	タテジマフジツボ				+							%	○
17	アメリカフジツボ											%	○
18	軟甲		フタマタフナムシ	18								個体	○
19			コブヨコバサミ									個体	○
20			テナガツノヤドカリ					7	5			個体	
21			ケアシホンヤドカリ						1			個体	
22			マメコブシガニ									個体	○
23			イシガニ									個体	○
24			イソガニ									個体	○
25			カクベンケイガニ	1	1							個体	○
26	脊索動物	ホヤ	シロボヤ								個体	○	
種 類 数				3	10	5	2	3	4	1	-	22	

注1) 単体性の動物は原則として個体数を、群体性の動物及び固着性で個体数計数の困難な動物(イガイ類、フジツボ類等)は被度を示した。  
 注2) +は被度5%未満を示す。  
 注3) ○は捕獲・目視による出現を示す。  
 注4) 学名及び分類群順は西村編(1992、1995)「原色検索 日本海岸動物図鑑 I、II」他に準拠した。

## b) 定量採取分析結果

夕照橋における杓取採取分析結果を表 7.83に、動物門別個体数を表 7.84に、時季別個体数を図 7.22に、時季別優占種（個体数）を表 7.85に、動物門別湿重量を表 7.86に、時季別湿重量を図 7.23に、時季別優占種（湿重量）を表 7.87に示す。なお、定量採取分析における優占種を組成比 10%以上で出現した種とする。

表 7.83 夕照橋における海岸動物（干潟）杓取採取分析結果

調査方法：方形杓(0.5m×0.5m×深さ0.15m)内を採泥  
単 位：個体/0.25㎡、g/0.25㎡  
(合 計)：個体/0.5㎡、g/0.5㎡

No.	門	綱	時季調査日 採取層 和名	2024年10月25日						2025年4月22日						2025年7月28日					
				※ 平均水面下 0.27m (A.P. +0.88m)		平均水面下 2m (A.P.- 0.85m)		合 計		※ 平均水面下 0.27m (A.P. +0.88m)		平均水面下 2m (A.P.- 0.85m)		合 計		※ 平均水面下 0.27m (A.P. +0.88m)		平均水面下 2m (A.P.- 0.85m)		合 計	
				個体数	湿重量	個体数	湿重量	個体数	湿重量	個体数	湿重量	個体数	湿重量	個体数	湿重量	個体数	湿重量	個体数	湿重量	個体数	湿重量
				(個体)	(g)	(個体)	(g)	(個体)	(g)	(個体)	(g)	(個体)	(g)	(個体)	(g)	(個体)	(g)	(個体)	(g)	(個体)	(g)
1	刺胞動物	花虫	イソギンチャク目							2	0.02	2	0.02			3	0.26	3	0.26		
2	扁形動物	渦虫	ヤマトヒラムシ科							2	0.04	2	0.04								
3	軟体動物	腹足	スガイ	1	1.71			1	1.71												
4			ホソウミミナ	112	111.23			112	111.23	13	12.11			13	12.11	11	11.94				
5			ウミゴマツボ													50	0.16	50	0.16		
6			シマメノウフネガイ			1	0.01	1	0.01	8	1.13			8	1.13						
7			ツメタガイ			1	1.71	1	1.71			1	3.17	1	3.17			1	19.44		
8			アカニシ							1	17.76			1	17.76						
9			アラムシロ	48	19.01	33	9.89	81	28.90	5	1.96	33	8.96	38	10.92	1	0.53	4	1.20		
10			クチキレガイ							1	0.08			1	0.08						
11			コメツブガイ													40	0.03	40	0.03		
12		二枚貝	サルボウガイ							2	33.26	2	33.26								
13			ホトギスガイ			16	5.75	16	5.75			2	0.23	2	0.23			129	0.68		
14			コウロエンカワヒバリガイ							3	0.06	3	0.06								
15			マガキ	6	1.68			6	1.68					4	45.25			4	45.25		
16			サクラガイ							1	0.07	1	0.07								
17			ヒメシラトリ			2	1.07	2	1.07			4	2.48	4	2.48			5	1.09		
18			ゴイスギ	1	1.80			1	1.80									5	1.09		
19			ウスカラシオツガイ			1	0.16	1	0.16												
20			カガミガイ			2	0.83	2	0.83			2	2.34	2	2.34						
21			アサリ	12	13.24	91	67.22	103	80.46	2	3.65	43	84.09	45	87.74	3	0.91	79	25.72		
22	環形動物	多毛	ホソミサシバ							1	0.01	1	0.01								
23			マダラサシバ							1	0.01	1	0.01								
24			Phylodoce 属							1	0.01	1	0.01					1	0.02		
25			チロリ	1	0.51			1	0.51												
26			オノミチチロリ															1	0.05		
27			マイクロトヒメ							1	0.01	1	0.01								
28			モグリオトヒメ			1	+	1	+												
29			ハナオカカギゴカイ			36	0.06	36	0.06			32	0.09	32	0.09			13	0.09		
30			ヒメゴカイ															1	0.03		
31			オウギゴカイ			1	0.20	1	0.20									1	0.28		
32			ツルヒゲゴカイ									1	0.17	1	0.17						
33			コケゴカイ	203	0.93	94	0.52	297	1.45	40	0.18	4	0.05	44	0.23	160	1.55	1	0.03		
34			ミナシロガネゴカイ			2	0.01	2	0.01			18	0.23	18	0.23						
35			Harmothoe 属									29	0.39	29	0.39						
36			カタマガリギボシソメ			24	0.03	24	0.03			3	0.08	3	0.08			1	0.03		
37			ケンサキシピオ			4	0.03	4	0.03												
38			Polydora 属			1	+	1	+									1	+		
39			ミツバネスピオ			2	0.01	2	0.01			2	0.01	2	0.01						
40			マドカスピオ			12	0.02	12	0.02												
41			ミズヒキゴカイ	9	0.15	166	3.17	175	3.32	53	1.54	112	0.86	165	2.40	1	0.12	75	0.74		
42			Caulerliella 属			43	0.05	43	0.05			1	0.01	1	0.01			1	+		
43			Chaetozone 属															20	0.04		
44			Tharyx 属			100	0.30	100	0.30			34	0.03	34	0.03						
45			イトゴカイ属			5	0.01	5	0.01			15	0.08	15	0.08						
46			Mediomastus 属	12	0.03	3	+	15	0.03												
47			Praxillella 属			2	0.01	2	0.01												
48			ウミイサゴムシ									1	0.12	1	0.12						
49			Chone 属			3	0.04	3	0.04			3	0.02	3	0.02			2	0.03		
50	節足動物	顎脚	タデシマフジツボ	5	0.13			5	0.13												
51		軟甲	ユンボソコエビ属									16	0.63	16	0.63						
52			ニホンドロソコエビ			1	+	1	+			1	0.02	1	0.02			23	0.06		
53			ドロクダムシ属			11	0.01	11	0.01			18	0.02	18	0.02						
54			テッポウエビ属			1	+	1	+									1	0.03		
55			テナガツノヤドカリ	5	2.81	1	0.19	6	3.00									3	0.60		
56			ユビナガホンヤドカリ									1	0.03	1	0.03						
57			マメコブシガニ	1	0.02			1	0.02												
58			タカノゲサイノガニ			2	0.11	2	0.11	1	0.24	3	1.57	4	1.81	1	0.02				
59			モクスガニ科	1	0.01			1	0.01										1	0.02	
種 類 数				14	30	38	7	35	37	7	23	26									
個体数・湿重量合計				417 <sup>153.26</sup>	662 <sup>91.41</sup>	1,079 <sup>244.67</sup>	122 <sup>20.81</sup>	395 <sup>157.01</sup>	517 <sup>177.82</sup>	181 <sup>60.32</sup>	456 <sup>50.61</sup>	637 <sup>110.93</sup>									

注1) +表示は0.01g未満を示す。

注2) ※表示は平均水面が垂直護岸部となったため、杓取採取は護岸直下で砂泥底の平均水面下0.27m (A.P.+0.88m)で行ったことを示す。

注3) 学名及び分類群順は西村編(1992、1995)「原色検索 日本海岸動物図鑑 I、II」他に準拠した。

表 7.84 夕照橋における海岸動物（干潟）動物門別個体数

時季	秋季		春季		夏季	
	個体数 (個体/0.5m <sup>2</sup> )	組成比 (%)	個体数 (個体/0.5m <sup>2</sup> )	組成比 (%)	個体数 (個体/0.5m <sup>2</sup> )	組成比 (%)
軟体動物	327	30.3	121	23.4	327	51.3
環形動物	724	67.1	352	68.1	279	43.8
節足動物	28	2.6	40	7.7	28	4.4
その他			4	0.8	3	0.5
合計	1,079	100	517	100	637	100

注) 組成比の数値は小数点1桁で四捨五入しているため、合計が100%にならない場合がある。

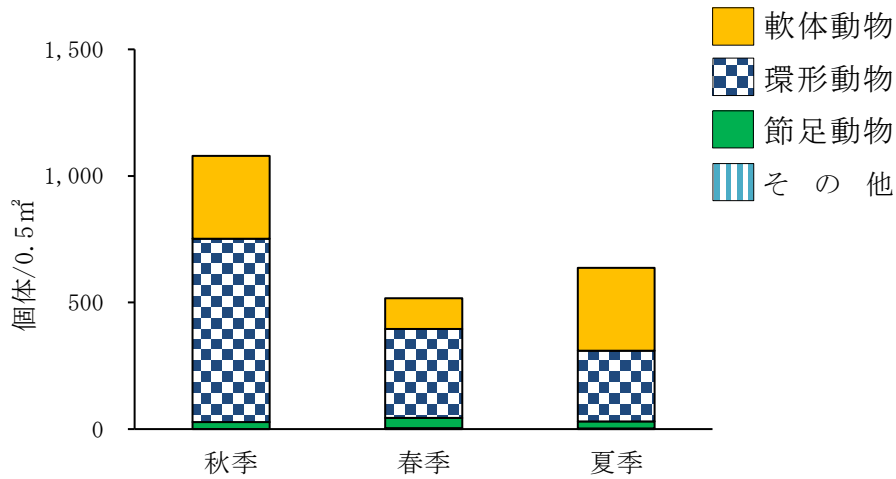


図 7.22 夕照橋における海岸動物（干潟）時季別個体数

表 7.85 夕照橋における海岸動物（干潟）時季別優占種（個体数）

単位: 個体/0.5m<sup>2</sup>

時季	秋季	春季	夏季
優占種の個体数 および組成比 (組成比10%以上)	コケゴカイ 297 (27.5%)	ミズヒキゴカイ 165 (31.9%)	コケゴカイ 161 (25.3%)
	ミズヒキゴカイ 175 (16.2%)		ホトギスガイ 129 (20.3%)
	ホソウミニナ 112 (10.4%)		アサリ 82 (12.9%)
			ミズヒキゴカイ 76 (11.9%)

表 7.86 夕照橋における海岸動物（干潟）動物門別湿重量

時季	秋季		春季		夏季	
	湿重量 (g/0.5m <sup>2</sup> )	組成比 (%)	湿重量 (g/0.5m <sup>2</sup> )	組成比 (%)	湿重量 (g/0.5m <sup>2</sup> )	組成比 (%)
軟体動物	235.31	96.2	171.35	96.4	106.95	96.4
環形動物	6.08	2.5	3.90	2.2	3.01	2.7
節足動物	3.28	1.3	2.51	1.4	0.71	0.6
その他			0.06	0.0	0.26	0.2
合計	244.67	100	177.82	100	110.93	100

注) 組成比の数値は小数点1桁で四捨五入しているため、合計が100%にならない場合がある。

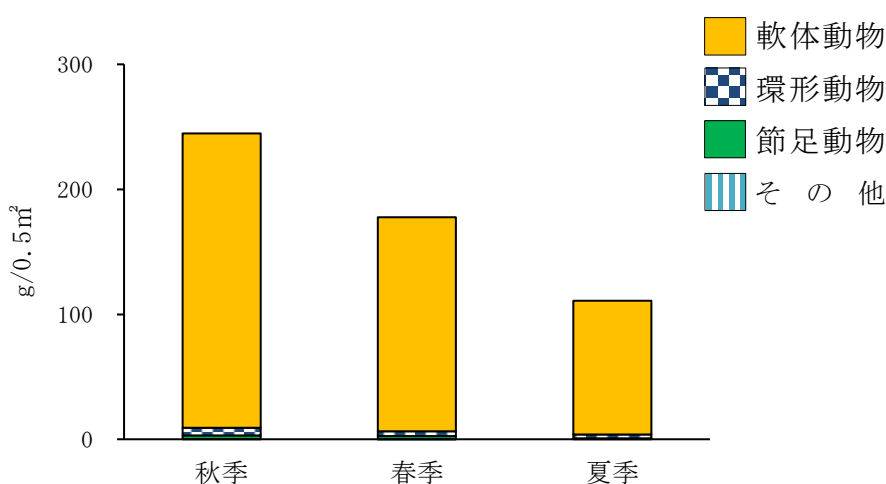


図 7.23 夕照橋における海岸動物（干潟）時季別湿重量

表 7.87 夕照橋における海岸動物（干潟）時季別優占種（湿重量）

時季	単位:g/0.5m <sup>2</sup>		
	秋季	春季	夏季
優占種の湿重量 および組成比 (組成比10%以上)	ホソウミニナ 111.23 (45.5%)	アサリ 87.74 (49.3%)	マガキ 45.25 (40.8%)
	アサリ 80.46 (32.9%)	サルボウガイ 33.26 (18.7%)	アサリ 26.63 (24.0%)
	アラムシロ 28.90 (11.8%)		ツメタガイ 19.44 (17.5%)
			ホソウミニナ 11.94 (10.8%)

7.3.海岸動物（干潟）

7.3.3. レッドリスト等掲載種

海岸動物（干潟）のレッドリスト等掲載種一覧を表 7.88に、写真を写真 7.12に示す。

レッドリスト等掲載種は、軟体動物門のウミゴマツボ、ネコガイ、ムシロガイ、キヌボラ、クチキレガイ、ムラクモキビジキガイ、サクラガイ、ウズザクラ、ウネナシトマヤガイ、節足動物門のテナガツノヤドカリ、マメコブシガニ、カクベンケイガニ、オサガニ、コメツキガニの計 14 種であった。

表 7.88 海岸動物（干潟）のレッドリスト等掲載種一覧

調査日：(秋 季)2024年10月25、28、30日  
(春 季)2025年 4月22、23、25日  
(夏 季)2025年 7月25、28、29日  
調査方法：目視観察、採取、投網・タモ網

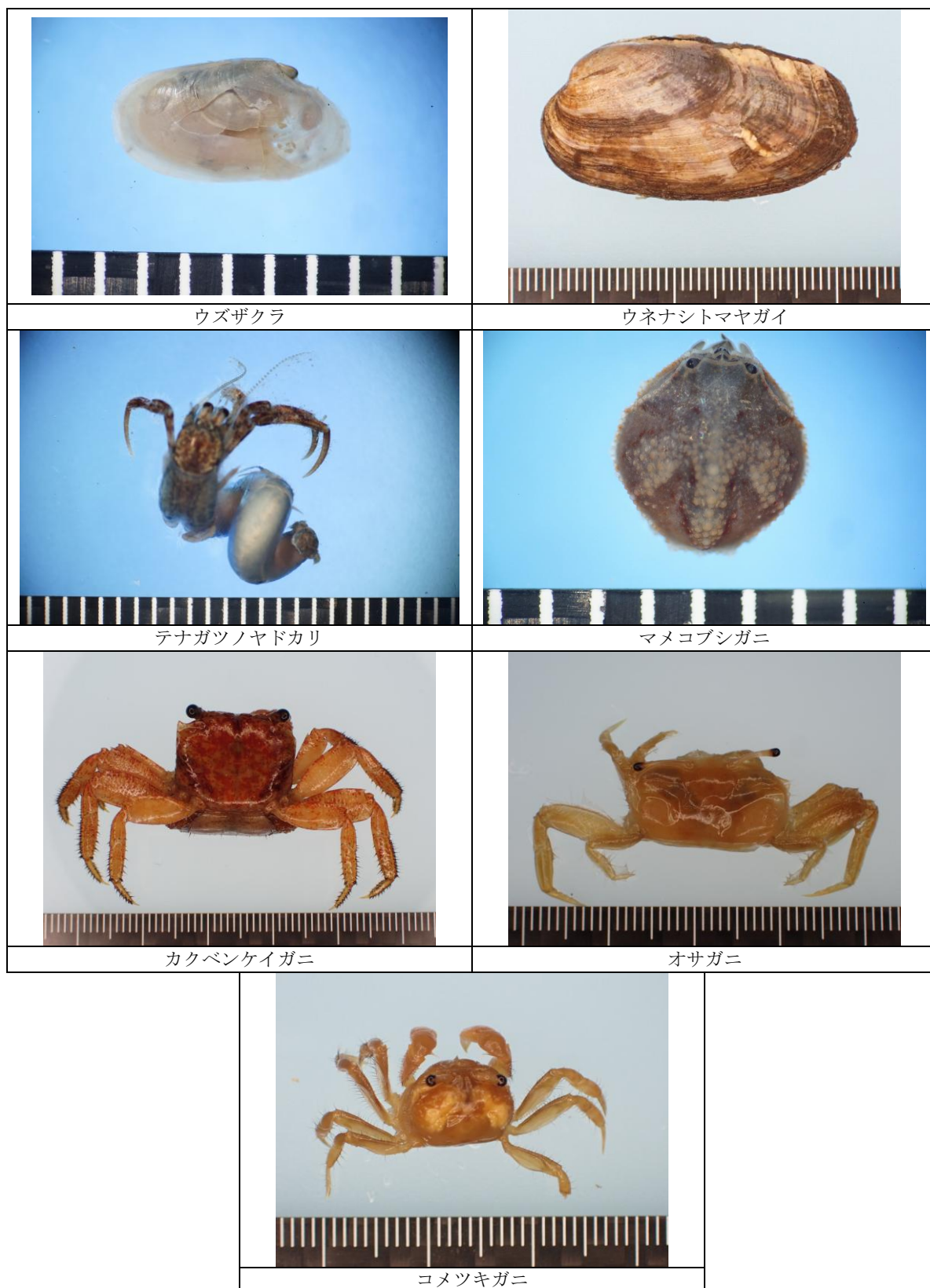
No.	門	綱	目	科	和名	地 点					時 季			レッドリスト等掲載種の 選定基準		
						鶴 見 川 河 口	海 の 公 園	野 島 園	野 島 路	野 島 橋	夕 照	秋 季	春 季		夏 季	
1	軟体動物	腹足	盤足	ミズゴマツボ	ウミゴマツボ					○				○	環:NT、千葉県:C、学会:NT	
2				タマガイ	ネコガイ			○							○	環:NT、学会:NT
3			新腹足	ムシロガイ	ムシロガイ		○	○	○			○	○	○	環:NT、千葉県:C、学会:NT	
4					キヌボラ		○						○		千葉県:D	
5				異旋	トウガタガイ	クチキレガイ		○			○		○			千葉県:B
6		二枚貝	マルスダレガイ	頭楯	オオシイバガイ	ムラクモキビジキガイ			○					○	環:NT、千葉県:B	
7				ニッコウガイ	サクラガイ		○		○	○		○	○	環:NT、学会:NT		
8					ウズザクラ				○						環:NT、学会:NT	
9				フナガタガイ	ウネナシトマヤガイ		○					○			環:NT、東京都:EX、千葉県:A	
10	節足動物	軟甲	十脚	ヤドカリ	テナガツノヤドカリ		○	○	○	○	○	○	○	環海:DD、学会:NT		
11					コブシガニ	マメコブシガニ			○	○	○	○	○	○	千葉県:D、学会:NT	
12					ベンケイガニ	カクベンケイガニ				○	○				東京都:留意種*14	
13					スナガニ	オサガニ			○						○	環:NT、千葉県:B、学会:NT
14					コメツキガニ	コメツキガニ			○	○			○	○	○	東京都:留意種*9、千葉県:D
種 類 数						1	5	7	7	6	5	7	11			

注1) ○は出現したことを示す。  
 注2) 東京都レッドリスト留意種の選定理由  
 \*14: 流域から離れて、土手から陸上へと進出するが、草地のような生息環境を必要とするため。  
 \*9: チゴガニよりも岸寄りに生息する。きれいな干潟の象徴となるため。  
 注3) 学名及び分類群順は西村編(1992、1995)「原色検索 日本海岸動物図鑑 I、II」他に準拠した。



(目盛りは 1mm 間隔)

写真 7.12 (1) 海岸動物（干潟）のレッドリスト等掲載種



(目盛りは 1mm 間隔)

写真 7.12 (2) 海岸動物（干潟）のレッドリスト等掲載種

## 7.3.4. 外来種

海岸動物（干潟）の外来種一覧を表 7.89に、写真を写真 7.13（1）～（2）に示す。

環境省および農林水産省が 2015 年 3 月に公表した「我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト」に該当する種は、軟体動物門のシマメノウフネガイ、ムラサキイガイ、ミドリイガイ、コウロエンカワヒバリガイ、イガイダマシ、ホンビノスガイ、環形動物門のカニヤドリカンザシゴカイ、節足動物門のタテジマフジツボ、アメリカフジツボ、ヨーロッパフジツボの計 10 種であった。日本ベントス学会が 2004 年に公表した「日本における海産生物の人為的移入と分散」の「非在来の国外移入種」を含めた外来種は 12 種であった。

表 7.89 海岸動物（干潟）外来種一覧

調査日：（秋 季）2024年10月25、28、30日

（春 季）2025年 4月22、23、25日

（夏 季）2025年 7月25、28、29日

調査方法：目視観察、杵取、投網・タモ網

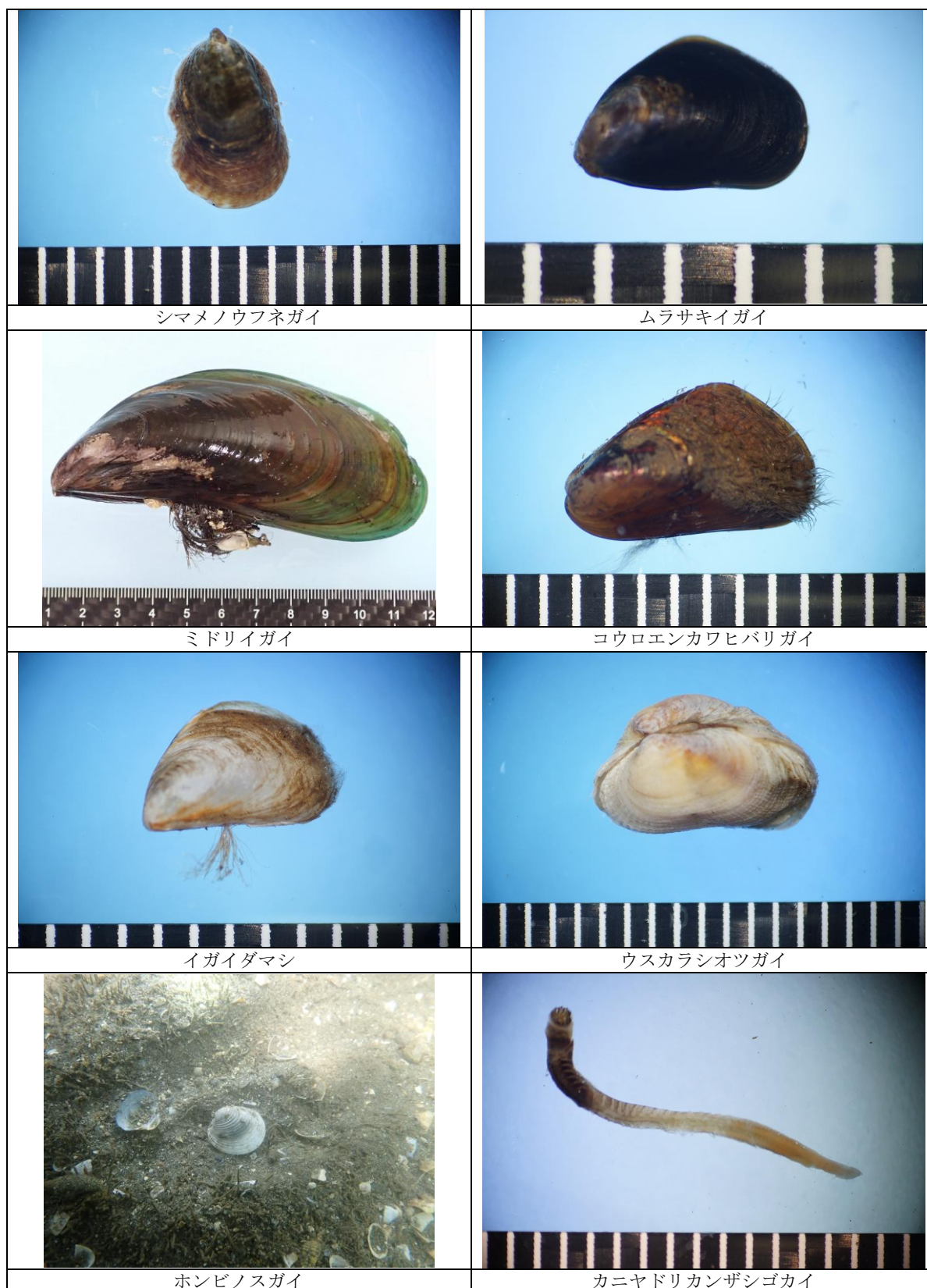
No.	門	綱	目	科	和名	地 点					時 季			外 来 種			
						鶴見川河口	海の公園	野島公園	野島水路	夕照橋	秋 季	春 季	夏 季	外来種リスト	学 会		
1	軟体動物	腹足	盤足	カリバカサガイ	シマメノウフネガイ		○	○	○	○	○	○	○	●	●		
2				二枚貝	イガイ	イガイ					○		○	○	●	●	
3									○	○			●	●			
4									○	○	○	○	●	●			
5			マルスダレガイ	カワホトギス	イガイダマシ	○				○	○	○	●	●			
6				イワホリガイ	ウスカラシオツガイ	○	○			○		○		●	●		
7				マルスダレガイ	ホンビノスガイ	○			○		○	○	●	●			
8	環形動物	多毛	ケヤリムシ	カンザシゴカイ	カニヤドリカンザシゴカイ	○				○	○	○	●	●			
9	節足動物	顎脚	無柄	フジツボ	タテジマフジツボ	○			○	○	○	○	○	●	●		
10											○	○	○	○	○	●	●
11												○	○	○	○	○	●
12	脊索動物	ホヤ	マボヤ	フクロボヤ	マンハッタンボヤ				○		○			●			
種 類 数						9	2	1	7	8	9	10	10	10	12		

注1) ○は出現したことを示す。●は外来種に該当したことを示す。

注2) 外来種リスト欄は「我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト(2015年3月公表)」に該当する種を示す。

注3) 学会欄は「日本における海産生物の人為的移入と分散：日本ベントス学会(2004年)」のうち「非在来の国外移入種」に該当する種を示す。

注4) 学名及び分類群順は西村編(1992、1995)「原色検索 日本海岸動物図鑑Ⅰ、Ⅱ」他に準拠した。



(目盛りは 1mm 間隔)

写真 7.13 (1) 海岸動物（干潟）外来種

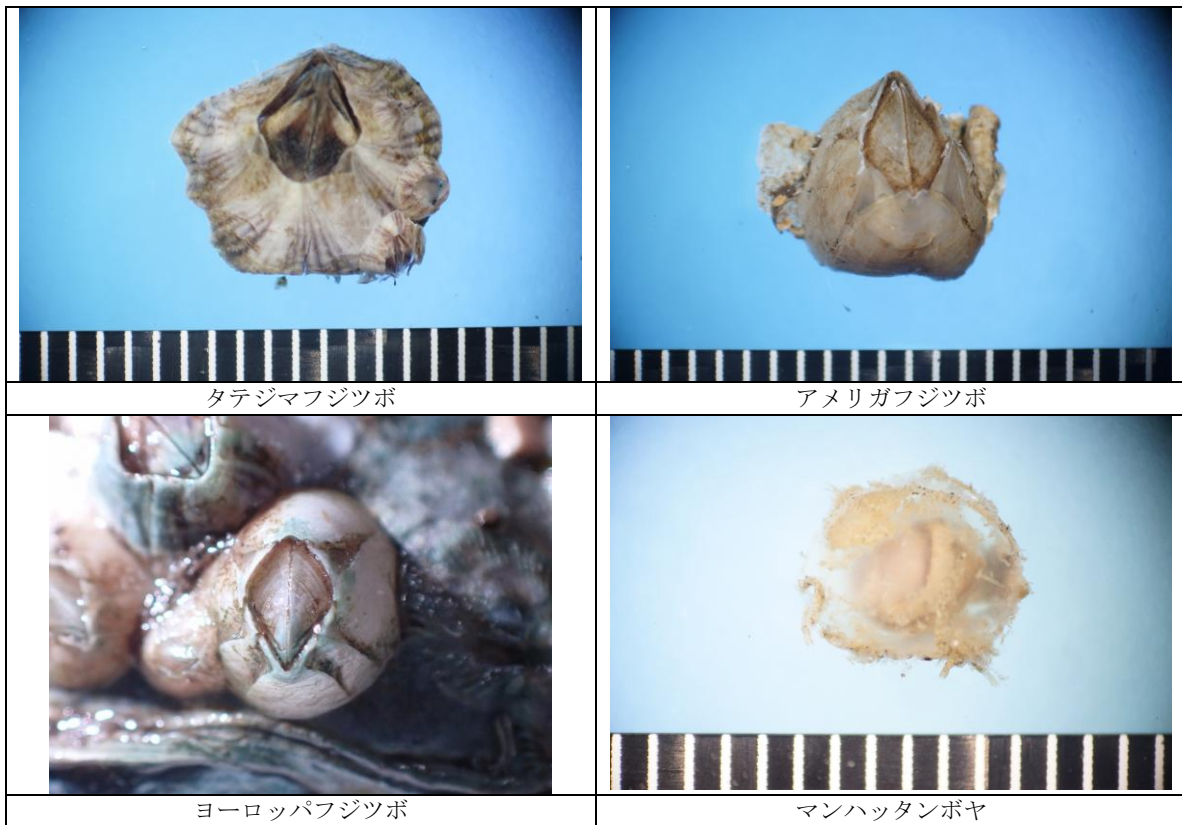


写真 7.13 (2) 海岸動物（干潟）外来種

7.3.5. 海岸動物（岸壁・干潟）外来種の変遷について

第4報～第16報まで全13回の海岸動物（岸壁・干潟）調査で確認された外来種を表7.90に、外来種の確認種類数を図7.24に示す。図7.24から外来種の確認種類数が徐々に増加していることが読み取れる。本調査ではイガイ類やフジツボ類は第4報から記録があり、長年にわたって定着している。特に、ムラサキイガイ、タテジマフジツボ、アメリカフジツボは13回全ての調査で確認された。また、ナンオウフジツボは外来種の抽出に使用した文献には記載がないため含まれていないが、外来種として認識されている。

表 7.90 海岸動物調査で確認された外来種（第4報～第16報調査）

No.	門	綱	和名	学名	調査実施年度													外来種			
					第4報 1984- 1985	第5報 1987- 1988	第6報 1990- 1991	第7報 1993	第8報 1996- 1997	第9報 1999- 2000	第10報 2002- 2003	第11報 2005	第12報 2009	第13報 2012- 2013	第14報 2016- 2017	第15報 2020- 2021	第16報 2024- 2025	外来種 リスト	学会		
1	軟体動物	腹足 二枚貝	シマメノウフネガイ	<i>Crepidula onyx</i>		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	○	○	
2			ムラサキイガイ	<i>Mytilus galloprovincialis</i>	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	○	○
3			ミドリイガイ	<i>Perna viridis</i>		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	○	○
4			コウロエンカワヒバリガイ	<i>Xenostrobus securis</i>		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	○	○
5			シナハマグリ	<i>Meretrix petechialis</i>						●										○	○
7			イガイダマシ	<i>Mytilopsis sallei</i>										●	●	●	●	●	●	○	○
8			ウスカラシオツガイ	<i>Petricola sp. cf. lithophaga</i>										●	●	●	●	●	●	○	○
6			ホンビノスガイ	<i>Mercenaria mercenaria</i>											●	●	●	●	●	○	○
9	環形動物	多毛	カサネカンザシゴカイ	<i>Hydroides elegans</i>			●	●	●	●				●	●	●	●	○	○		
10			カニヤドリカンザシゴカイ	<i>Ficopomatus enigmaticus</i>								●	●	●	●	●	●	●	○	○	
11	節足動物	顎脚	タテジマフジツボ	<i>Amphibalanus amphitrite</i>	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	○	○	
12			アメリカフジツボ	<i>Amphibalanus eburneus</i>	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	○	○	
13			ヨーロッパフジツボ	<i>Amphibalanus improvisus</i>	●	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	○	○	
14			アミメフジツボ	<i>Amphibalanus variegatus</i>										●						○	○
15		軟甲	チチュウカイミドリガニ	<i>Carcinus aestuarii</i>					●				●		●				○	○	
16			イッカククモガニ	<i>Pyromaita tuberculata</i>	●	●		●	●	●	●	●		●					○	○	
17	脊索動物	ホヤ	クロマメイタボヤ	<i>(Polyandrocarapa)</i>										●	●			○	○		
18			マンハッタンボヤ	<i>Molgula manhattensis</i>											●	●	●	●	○	○	
確認種数					5	8	7	9	10	10	9	11	10	15	14	13	13	13	17		

注1) 外来種リスト欄は「我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト(2015年3月公表)」に該当する種を示す。  
 注2) 学会欄は「日本における海産生物の人為的移入と分散：日本ベントス学会(2004年)」のうち「非在来の国外移入種」に該当する種を示す。

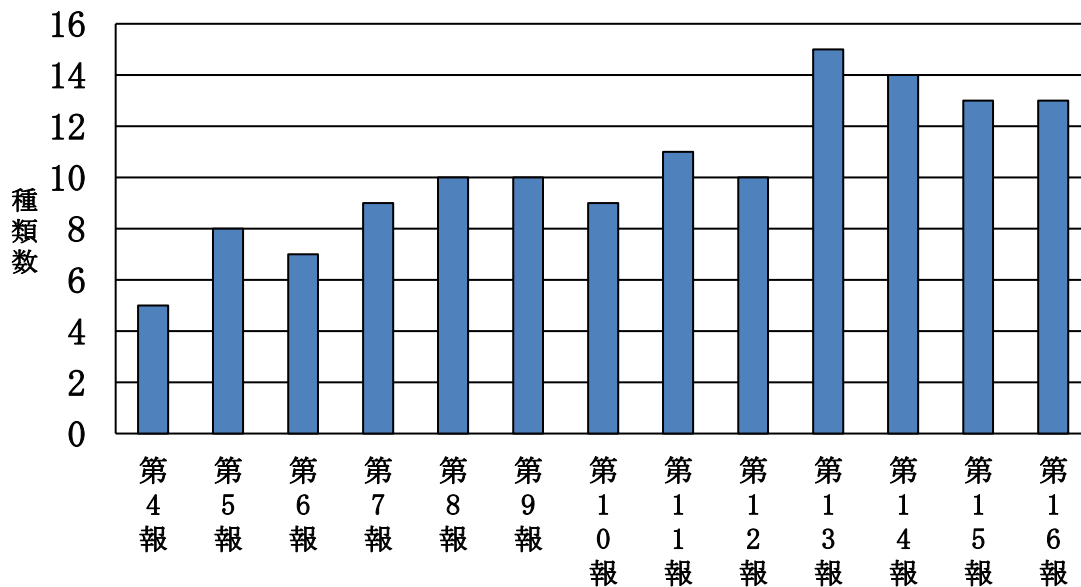


図 7.24 外来種の確認種類数

## 7.4. 魚類（河口・海岸）

### 7.4.1. 概要

河口・海岸魚類の出現種一覧表を表 7.91に示す。

出現した河口・海岸域の魚類は、秋季調査で 37 種、春季調査で 29 種類、夏季調査で 38 種、3 季全体で 63 種類であった。なお、出現種には、目視観察のみの出現種および他の調査項目で出現した種類も含めた。最も出現種数の多かった地点は野島公園と野島水路で 28 種、最も少なかったのが鶴見川河口で 13 種類であった。出現種は沿岸の河口、汽水域に生息するハゼ科魚類が主体（14 種類）であったが、メジナやイソギンポ等の沿岸の岩礁地帯に生息する魚類も出現した。また、南方系魚類のアケボノチョウチョウウオやサザナミフグが出現した。全地点を通じて出現した魚類は、稚魚もしくは未成魚が多く、魚類の産卵、育成の場としての河口、干潟域の環境を反映していた。

表 7.91 魚類（河口・海岸）出現種一覧

調査日：(秋 季)2024年10月25、28、29、30日  
 (春 季)2025年 4月22、23、25日、5月12日  
 (夏 季)2025年 7月22、25、28、29日  
 採取方法：投網・タモ網

No.	目	科	属	学名	和名	地 点							時 季		
						鶴見川河口	山下公園	堀割川河口	海の公園	野島公園	野島水路	夕照橋	秋 季	春 季	夏 季
1	トビエイ	アカエイ	アカエイ	<i>Hemitygon akajei</i>	アカエイ		○				○		○	○	○
2		ツバクロエイ	ツバクロエイ	<i>Gymnura japonica</i>	ツバクロエイ						○				○
3	ニシン	ニシン	サツバ	<i>Sardinella zunasi</i>	サツバ						○				
4	トゲウオ	ヨウジウオ	カワヨウジ	<i>Hippichthys (Parasyngnathus) penicillus</i>	ガンテンイシヨウジ							○			○
5	ボラ	ボラ	ボラ	<i>Mugil cephalus cephalus</i>	ボラ	○		○	○	○	○	○	○	○	○
6	トウゴロウイワシ	トウゴロウイワシ	トウゴロウイワシ	<i>Doboatherina bleekeri</i>	トウゴロウイワシ				○			○			
7	スズキ	メバル	メバル	<i>Sebastes cheni</i>	シロメバル		○			○	○			○	
8		コチ	コチ	<i>Platycephalus sp.2</i>	マゴチ						○			○	
9		イネゴチ	イネゴチ	<i>Cociella crocodila</i>	イネゴチ					○		○			○
10		アイナメ	アイナメ	<i>Hexagrammos agrammus</i>	クジメ		○								○
11				<i>Hexagrammos otakii</i>	アイナメ						○				
12		カジカ	アナハゼ	<i>Pseudoblennius cotooides</i>	アサヒアナハゼ		○		○					○	
13		スズキ	スズキ	<i>Lateolabrax japonicus</i>	スズキ	○	○	○		○	○		○	○	○
14	テンジクダイ	カクレテンジクダイ		<i>Apogonichthyoides niger</i>	クロイシモチ							○	○		
15	ヒイラギ	ヒイラギ		<i>Nuchequula nuchalis</i>	ヒイラギ				○				○		
16		クロサギ	クロサギ	<i>Gerres equulus</i>	クロサギ				○						
17		イサキ	コシウダイ	<i>Plectorhinchus cinctus</i>	コシウダイ				○	○					○
18		タイ	クロダイ	<i>Acanthopagrus schlegelii</i>	クロダイ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
19				<i>Acanthopagrus latus</i>	キチヌ	○	○	○	○	○				○	
20		キス	キス	<i>Sillago japonica</i>	シロギス		○	○	○	○	○				○
21	チョウチョウウオ	チョウチョウウオ		<i>Chaetodon melanotus</i>	アケボノチョウチョウウオ		○						○		
22	ウミタナゴ	ウミタナゴ		<i>Ditrema viride</i>	アオタナゴ				○				○		
23		スズメダイ	オヤビッチャ	<i>Abudefduf vaigiensis</i>	オヤビッチャ					○			○		○
24		シマイサキ	コトヒキ	<i>Terapon jarbua</i>	コトヒキ		○	○	○				○		
25			シマイサキ	<i>Rhynchopelates oxyrhynchus</i>	シマイサキ		○	○	○				○		○
26		イシダイ	イシダイ	<i>Oplegnathus fasciatus</i>	イシダイ						○				○
27				<i>Oplegnathus punctatus</i>	イシガキダイ						○				○
28		メジナ	メジナ	<i>Girella punctata</i>	メジナ		○	○	○	○			○	○	○
29		ニシキギンボ	ニシキギンボ	<i>Pholis nebulosa</i>	ギンボ					○					○
30		コケギンボ	コケギンボ	<i>Neoclinus bryope</i>	コケギンボ					○					○
31		イソギンボ	イソギンボ	<i>Parablennius yatabei</i>	イソギンボ		○	○	○	○	○	○	○	○	○
32			ナベカ	<i>Omobranchus fasciolatoceps</i>	トサカギンボ	○							○		○
33				<i>Omobranchus punctatus</i>	イダテンギンボ				○		○		○		○
34				<i>Omobranchus elegans</i>	ナベカ		○	○	○	○			○	○	○
35			ハタタテギンボ	<i>Petrosciartes breviceps</i>	ニジギンボ		○				○	○	○	○	○
36		ネズッポ	ネズッポ	<i>Repomucenus valenciennesi</i>	ハタタテヌメリ						○	○	○		○
37				<i>Repomucenus curvicornis</i>	ネズミゴチ				○						○
38		ハゼ	ミミズハゼ	<i>Luciogobius martellii</i>	イソミミズハゼ						○			○	○
39			マハゼ	<i>Acanthogobius flavimanus</i>	マハゼ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
40				<i>Acanthogobius lactipes</i>	アシシロハゼ	○								○	
41			アベハゼ	<i>Mugilogobius abei</i>	アベハゼ	○						○	○	○	○
42			チチブ	<i>Tridentiger trigonocephalus</i>	アカオビシマハゼ		○	○	○	○	○	○	○	○	○
43				<i>Tridentiger bifasciatus</i>	シモフリシマハゼ	○							○		○
44				<i>Tridentiger obscurus</i>	チチブ	○					○	○	○	○	○
45			ウロハゼ	<i>Glossogobius olivaceus</i>	ウロハゼ	○	○		○	○	○	○	○	○	○
46			キララハゼ	<i>Acentrogobius virgatus</i>	スジハゼ		○			○	○	○	○	○	○
47			ヒメハゼ	<i>Favonigobius gymnauchen</i>	ヒメハゼ			○	○	○	○	○	○	○	○
48			ウキゴリ	<i>Gymnogobius heptacanthus</i>	ニクハゼ		○					○		○	
49				<i>Gymnogobius sp.</i>	ウキゴリ属	○						○		○	
50			アゴハゼ	<i>Chaenogobius gulosus</i>	ドロメ							○			○
51				<i>Chaenogobius sp.</i>	アゴハゼ属			○							○
52		クロユリハゼ	サツキハゼ	<i>Parioglossus dotui</i>	サツキハゼ						○		○		
53		アイゴ	アイゴ	<i>Siganus fuscescens</i>	アイゴ						○		○		
54	カレイ	ヒラメ	ヒラメ	<i>Paralichthys olivaceus</i>	ヒラメ					○			○	○	○
55		カレイ	ヌマガレイ	<i>Platichthys bicoloratus</i>	イシガレイ				○					○	○
56			マガレイ	<i>Pseudopleuronectes yokohamae</i>	マコガレイ				○	○	○	○			
57	フグ	ギマ	ギマ	<i>Triacanthus biaculeatus</i>	ギマ							○			○
58		カワハギ	アミメハギ	<i>Rudarius ercodes</i>	アミメハギ		○	○	○	○	○	○	○	○	○
59			カワハギ	<i>Stephanolepis cirrhifer</i>	カワハギ			○		○					○
60		フグ	トラフグ	<i>Takifugu pardalis</i>	ヒガンフグ					○					○
61				<i>Takifugu flavipterus</i>	コモンフグ					○					○
62				<i>Takifugu alboplumbeus</i>	クサフグ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
63			モヨウフグ	<i>Arothron hispidus</i>	サザナミフグ				○				○		
種 類 数						13	20	19	22	28	28	23	37	29	38

注1) ○は採取・目視観察による出現を示す。

注2) 分類体系、和名等については、中坊編(2013)「日本産魚類検索 全種の同定 第三版」に準拠した。

注3) 学名については、本村(2020)「日本産魚類全種目録 これまでに記録された日本産魚類全種の現在の標準和名と学名」に準拠した。

## 7.4.2. 地点ごとの調査結果

## ① 鶴見川河口

鶴見川河口における魚類出現種を表 7.92に、調査時の状況および代表的な出現種を写真 7.14に示す。

出現した魚類は秋季調査で8種、春季調査で7種類、夏季調査で7種であった。出現種はいずれも干潟、汽水域に生息する魚類で、地点の環境を反映していた。レッドリスト等掲載種はキチヌ、アシシロハゼ、アベハゼ、チチブおよびウロハゼの5種であった。

表 7.92 鶴見川河口における魚類出現種一覧

No.	目	科	和名	採取方法：投網・タモ網							
				秋季		春季		夏季		レッドリスト等掲載種	
				2024年10月30日	2025年4月23日	2025年7月29日	個体数 (個体)	湿重量 (g)	個体数 (個体)		湿重量 (g)
1	ボラ	ボラ	ボラ	○		1	0.3	27	294.7		
2	スズキ	スズキ	スズキ	○		1	0.3				
3			タイ	○				2	501.5		
4			キチヌ			1	2.5	1	2.1	○	
5			イソギンボ	トサカギンボ	○		○				
6			ハゼ	マハゼ					4	37.6	
7			アシシロハゼ				4	8.0		○	
8			アベハゼ		1	0.2				○	
9			シモフリシマハゼ		7	33.0					
10			チチブ		1	6.6			9	32.7	○
11			ウロハゼ		1	14.2	1	30.0	2	21.8	○
12			ウキゴリ属				1	0.3			
13			フグ	フグ	クサフグ					4	11.3
種類数				8		7		7		5	
個体数・湿重量合計				10	54.0	9	41.4	49	901.7	-	

注1) ○は目視観察による出現を示す。

注2) 分類体系、和名等については、中坊編(2013)「日本産魚類検索 全種の同定 第三版」に準拠した。



写真 7.14 鶴見川河口における調査時の写真

②山下公園

山下公園における魚類出現種を表 7.93に、調査時の状況および代表的な出現種を写真 7.15に示す。

出現した魚類は秋季調査で 8 種、春季調査で 7 種、夏季調査で 11 種であった。岩礁域に生息する種（クロダイ、メジナ）が出現した。また、南方系の魚類であるアケボノチョウチョウウオが出現した。レッドリスト等掲載種はキチヌが出現した。

表 7.93 山下公園における魚類出現種一覧

No.	目	科	和名	採取方法：投網・タモ網								
				秋季		春季		夏季		レッドリスト等掲載種		
				調査日	2024年10月29日	2025年4月23日	2025年7月22日	調査日	2024年10月29日		2025年4月23日	2025年7月22日
個体数	湿重量 (g)	個体数	湿重量 (g)	個体数	湿重量 (g)	個体数	湿重量 (g)					
1	トビエイ	アカエイ	アカエイ			○						
2	スズキ	メバル	シロメバル					8	49.0			
3		アイナメ	クジメ					1	24.4			
4		カジカ	アサヒアナハゼ			○						
5		スズキ	スズキ					2	27.8			
6		タイ	クロダイ	1	31.8							
7			キチヌ					1	21.3			○
8		キス	シロギス					2	26.6			
9		チョウチョウウオ	アケボノチョウチョウウオ	1	2.4							
10		スズメダイ	オヤビッチャ	○								
11		シマイサキ	コトヒキ	○								
12			シマイサキ									○
13		メジナ	メジナ	1	31.4	○		11	90.1			
14		イソギンボ	イソギンボ	1	2.8	○		4	28.3			
15			ナベカ				1	4.5	1	4.0		
16			ニジギンボ	○								
17		ハゼ	アカオビシマハゼ	2	6.0	2	9.5					
18			ニクハゼ				53	1.9				
19	フグ	カワハギ	アミメハギ							3	8.0	
20		フグ	クサフグ							2	35.9	
種 類 数				8		7		11				1
個体数・湿重量合計				6	74.4	56	15.9	35	315.4			-

注1) ○は目視観察による出現を示す。

注2) 分類体系、和名等については、中坊編(2013)「日本産魚類検索 全種の同定 第三版」に準拠した。



写真 7.15 山下公園における調査時の写真

## ③堀割川河口

堀割川河口における魚類出現種を表 7.94に、調査時の状況および代表的な出現種を写真 7.16に示す。

出現した魚類は秋季調査で 11 種、春季調査で 9 種類、夏季調査で 12 種であった。シマイサキ、マハゼはコンクリート護岸周辺の砂底に、イソギンポは岩やコンクリート護岸に空いた穴等に出現した。レッドリスト等掲載種はキチヌ、ウロハゼ、スジハゼの 3 種であった。

表 7.94 堀割川河口における魚類出現種一覧

採取方法：投網・タモ網

No.	目	科	和名	秋季		春季		夏季		レッドリスト等掲載種
				2024年10月29日		2025年5月12日		2025年7月22日		
				個体数 (個体)	湿重量 (g)	個体数 (個体)	湿重量 (g)	個体数 (個体)	湿重量 (g)	
1	ボラ	ボラ	ボラ			7	3.7			
2	スズキ	スズキ	スズキ					2	21.4	
3	タイ	クロダイ	タイ	○		○		○		
4			キチヌ				○		○	
5	シマイサキ	シマイサキ	シマイサキ	○						
6			シマイサキ	○				○		
7	メジナ	メジナ	メジナ	○		7	1.0	3	21.3	
8	イソギンポ	イソギンポ	イソギンポ	1	4.5	○		○		
9			イダテンギンポ	1	9.7			3	20.9	
10			ナベカ					1	4.9	
11			ニジギンポ	○						
12	ハゼ	マハゼ	マハゼ	○				6	47.0	
13			アカオビシマハゼ	1	4.1	2	6.9			
14			ウロハゼ	1	14.0			6	67.8	○
15			スジハゼ			4	14.4			○
16		アゴハゼ属			10	1.3				
17	フグ	カワハギ	アミメハギ	1	0.8	2	4.9			
18			カワハギ					1	0.8	
19	フグ	クサフグ			○			1	9.8	
種類数				11		9		12	3	
個体数・湿重量合計				5	33.1	32	32.2	23	193.9	-

注1)○は目視観察による出現を示す。

注2)分類体系、和名等については、中坊編(2013)「日本産魚類検索 全種の同定 第三版」に準拠した。

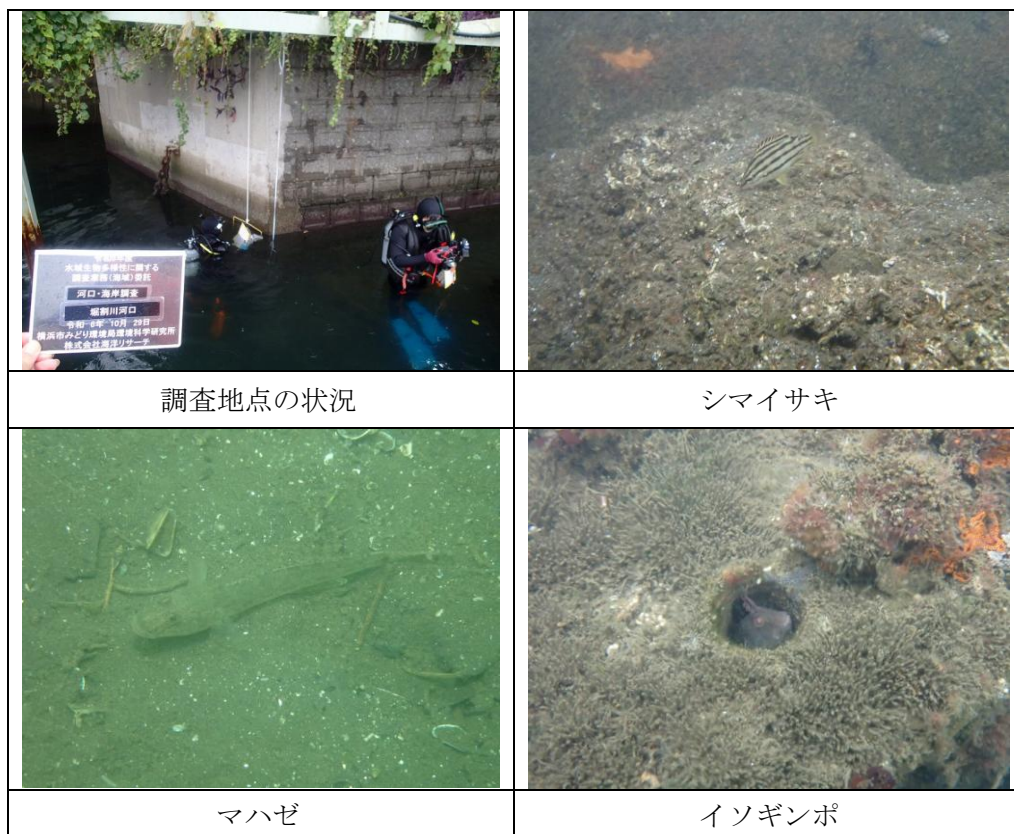


写真 7.16 堀割川河口における調査時の写真

④海の公園

海の公園における魚類出現種を表 7.95に、調査時の状況および代表的な出現種を写真 7.17に示す。

出現種は秋季調査で15種、春季調査で7種、夏季調査で10種であった。アオタナゴ、イシガレイおよびマコガレイ等は人工砂浜の前面にある砂底で、サザナミフグは砂浜の北端にあるコンクリート護岸周辺の捨石のあるところで採取した。レッドリスト等掲載種はキチヌ、ヒメハゼの2種であった。

表 7.95 海の公園における魚類出現種一覧

No.	目	科	和名	採取方法：投網・タモ網							
				秋季		春季		夏季		レッドリスト等掲載種	
				調査日	2024年10月25日	2025年4月22日	2025年7月28日	個体数	湿重量		個体数
1	ボラ	ボラ	ボラ		○				4	59.0	
2	トウゴロウイワシ	トウゴロウイワシ	トウゴロウイワシ	8	36.2						
3	スズキ	カジカ	アサヒアナハゼ			1	3.1				
4		ヒイラギ	ヒイラギ	3	11.8						
5		クロサギ	クロサギ	2	3.8						
6		イサキ	コショウダイ					1	6.8		
7		タイ	クロダイ	1	24.4			○			
8			キチヌ					10	21.8		○
9			キス					○			
10			ウミタナゴ	1	37.2						
11			シマイサキ	○							
12			シマイサキ	2	2.4			○			
13			メジナ	○							
14			ネズミゴチ					1	35.5		
15			マハゼ	2	22.3			1	8.8		
16			アカオビシマハゼ	1	3.4	1	3.9				
17			ヒメハゼ	4	0.8	2	4.7	11	44.8		○
18	カレイ	カレイ	イシガレイ			5	14.0				
19			マコガレイ			5	22.1				
20	フグ	カワハギ	アマメハギ	1	0.9						
21		フグ	クサフグ	2	19.7	2	14.7	○			
22			サザナミフグ	1	9.0						
種数				15		7		10			2
個体数・湿重量合計				28	171.9	16	62.5	28	176.7		-

注1) ○は目視観察による出現を示す。

注2) 分類体系、和名等については、中坊編(2013)「日本産魚類検索 全種の同定 第三版」に準拠した。

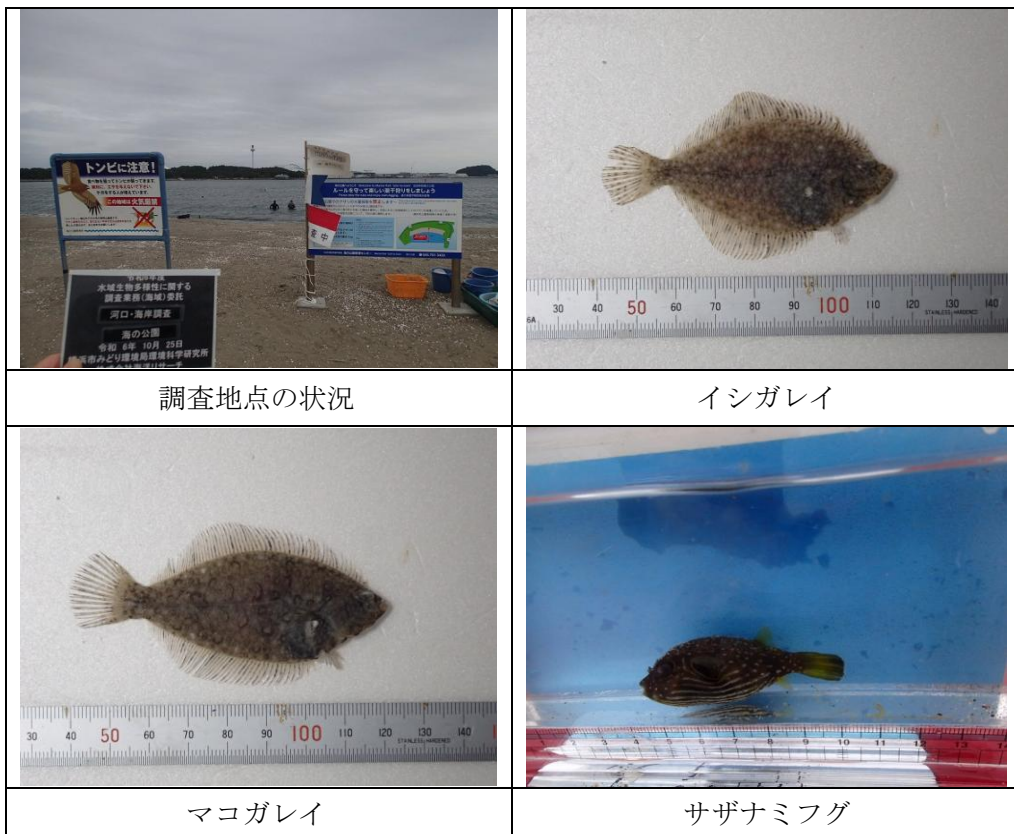


写真 7.17 海の公園における調査時の写真

## ⑤野島公園

野島公園における魚類出現種を表 7.96に、調査時の状況および代表的な出現種を写真 7.18に示す。

出現種は秋季調査で 12 種、春季調査で 10 種、夏季調査で 19 種であった。調査地点全体に広がる砂底でヒラメを観察した。レッドリスト等掲載種はツバクロエイ、ウロハゼ、スジハゼおよびヒメハゼの 4 種であった。

表 7.96 野島公園における魚類出現種一覧

採取方法：投網・タモ網

No.	目	科	和名	秋季		春季		夏季		レッドリスト等掲載種
				2024年10月28日 個体数 (個体)	湿重量 (g)	2025年4月25日 個体数 (個体)	湿重量 (g)	2025年7月25日 個体数 (個体)	湿重量 (g)	
1	トビエイ	アカエイ	アカエイ	○						
2		ツバクロエイ	ツバクロエイ					1	224.9	○
3	ニシン	ニシン	サツパ	1	7.4					
4	ボラ	ボラ	ボラ	14	913.9	○				
5	スズキ	メバル	シロメバル			1	0.9	2	12.8	
6		コチ	イネゴチ					1	1.7	
7		スズキ	スズキ					1	18.0	
8		イサキ	コショウダイ					2	0.8	
9		タイ	クロダイ	1	47.1					
10		キス	シロギス	2	6.7					
11		スズメダイ	オヤビッチャ	○				1	0.9	
12		メジナ	メジナ	○		○				
13		ニシキギンボ	ギンボ			1	0.6			
14	コケギンボ	コケギンボ					1	2.3		
15	イソギンボ	イソギンボ			1	0.4	3	4.4		
16	ハゼ	ナベカ	ナベカ	1	3.0			6	8.0	
17		マハゼ	マハゼ	1	10.6			4	32.0	
18		アカオビシマハゼ	アカオビシマハゼ			2	8.8	4	1.6	
19		ウロハゼ	ウロハゼ					1	48.0	○
20		スジハゼ	スジハゼ	1	1.4			2	5.9	○
21	ヒメハゼ	ヒメハゼ	2	4.5	1	0.1	10	32.7	○	
22	カレイ	ヒラメ	ヒラメ	1	30.8	○		2	4.8	
23	カレイ	マコガレイ	マコガレイ			2	3.3			
24	フグ	カワハギ	アミハギ					4	1.3	
25		カワハギ	カワハギ					4	8.2	
26		ヒガンフグ	ヒガンフグ					1	9.5	
27		コモンフグ	コモンフグ					1	2.5	
28		クサフグ	クサフグ			3	191.3			
種類数				12		10		19		4
個体数・湿重量合計				24	1025.4	11	205.4	51	420.3	-

注1) ○は目視観察による出現を示す。

注2) 分類体系、和名等については、中坊編(2013)「日本産魚類検索 全種の同定 第三版」に準拠した。

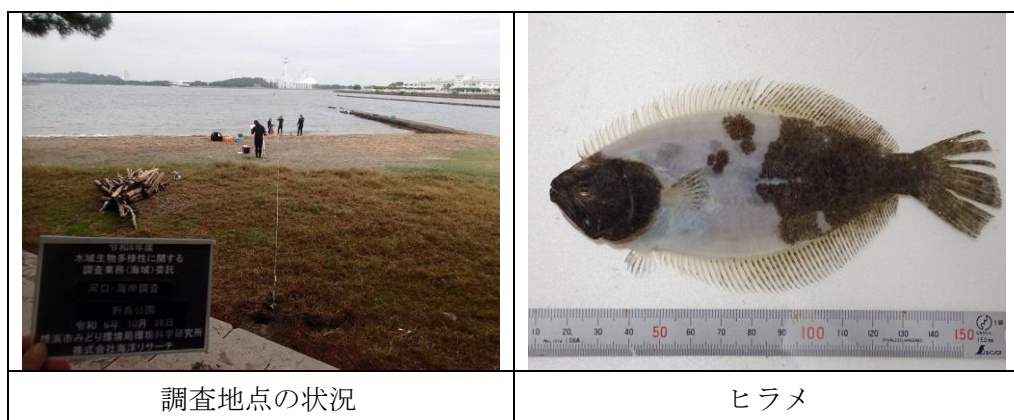


写真 7.18 野島公園における調査時の写真

⑥野島水路

野島水路における魚類出現種を表 7.97に、調査時の状況および代表的な出現種を写真 7.19に示す。

出現種は秋季調査で 16 種、春季調査で 9 種、夏季調査で 17 種であった。干潟の汽水域に生息するスジハゼ、ヒメハゼ等のハゼ科魚類の出現種数が多かった。レッドリスト等掲載種はキチヌ、チチブ、ウロハゼ、スジハゼ、ヒメハゼおよびサツキハゼの 6 種であった。

表 7.97 野島水路における魚類出現種一覧

採取方法：投網・タモ網

No.	目	科	和名	秋季		春季		夏季		レッドリスト等掲載種
				2024年10月28日 個体数 (個体)	湿重量 (g)	2025年4月25日 個体数 (個体)	湿重量 (g)	2025年7月25日 個体数 (個体)	湿重量 (g)	
1	ボラ	ボラ	ボラ	11	660.6	5	294.1	4	51.3	
2	スズキ	メバル	シロメバル			2	2.3	16	105.3	
3		コチ	マゴチ	○						
4		アイナメ	アイナメ			1	4.6			
5		スズキ	スズキ					2	32.0	
6		タイ	キチヌ					1	6.2	○
7		キス	シロギス	4	19.3			3	40.5	
8		ウミタナゴ	アオタナゴ	1	30.4					
9		スズメダイ	オヤビツチャ	○				3	3.9	
10		イシダイ	イシダイ					4	13.5	
11			イシガキダイ					1	11.2	
12		イソギンボ	イソギンボ			4	3.8	○		
13			イダテンギンボ	1	3.1			1	1.6	
14			ナベカ	2	6.6	2	2.3	1	0.5	
15			ニジギンボ	○						
16	ネズッコ		ハタタテヌメリ	3	5.3					
17	ハゼ		マハゼ					4	36.8	
18			アカオビシマハゼ	3	5.8	5	13.8	2	4.5	
19			チチブ	○						○
20			ウロハゼ					1	10.1	○
21			スジハゼ	○				5	15.1	○
22			ヒメハゼ	○		2	6.9	18	73.0	○
23		クロユリハゼ	サツキハゼ	6	1.3					○
24		アイゴ	アイゴ	1	3.2					
25			マコガレイ			1	5.0			
26	フグ	カワハギ	アマメハギ	3	4.2					
27			カワハギ					1	1.2	
28		フグ	クサフグ			○				
種類数				16		9		17		6
個体数・湿重量合計				35	739.8	22	332.8	67	406.7	-

注1)○は目視観察による出現を示す。

注2)分類体系、和名等については、中坊編(2013)「日本産魚類検索 全種の同定 第三版」に準拠した。



写真 7.19 野島水路における調査時の写真

## ⑦夕照橋

夕照橋における魚類出現種を表 7.98に、調査時の状況および代表的な出現種を写真 7.20に示す。

出現種は秋季調査で 12 種、春季調査で 12 種類、夏季調査で 14 種であった。近年、東京湾での出現頻度が増えているガンテンイシヨウジを採取した。レッドリスト等掲載種はイソミミズハゼ、アベハゼ、チチブ、ウロハゼ、スジハゼおよびヒメハゼの 6 種であった。

表 7.98 夕照橋における魚類出現種一覧

採取方法：投網・タモ網

No.	目	科	和名	時季調査日						レッドリスト等掲載種
				秋季		春季		夏季		
				2024年10月25日 個体数 (個体)	湿重量 (g)	2025年4月22日 個体数 (個体)	湿重量 (g)	2025年7月28日 個体数 (個体)	湿重量 (g)	
1	トビエイ	アカエイ	アカエイ						○	
2	トゲウオ	ヨウジウオ	ガンテンイシヨウジ					2	2.5	
3	ボラ	ボラ	ボラ	3	171.1	5	194.0	22	248.6	
4	スズキ	コチ	イネゴチ					1	3.9	
5		テンジクダイ	クロイシモチ	1	0.4					
6		タイ	クロダイ	1	24.0					
7		イソギンポ	ニジギンポ	○						
8		ネズッコ	ハタタテス刈					1	9.5	
9		ハゼ	イソミミズハゼ			1	0.7	4	1.1	○
10			マハゼ					4	15.5	
11			アベハゼ	2	0.3	1	0.1			○
12			アカオビシマハゼ	3	3.3	3	6.4	1	1.6	
13			チチブ	7	1.4	10	18.9	2	2.4	○
14			ウロハゼ	1	18.1	1	2.7	2	23.5	○
15			スジハゼ	6	1.9	1	1.0			○
16			ヒメハゼ	○		1	3.1	57	190.9	○
17			ニクハゼ			111	6.1			
18			ウキゴリ属			2	0.3			
19			ドロメ					1	4.7	
20	カレイ	カレイ	マコガレイ			1	1.1			
21	フグ	ギマ	ギマ					1	1.2	
22		カワハギ	アミメハギ	○		1	8.9			
23		フグ	クサフグ	1	7.1			○		
種類数				12		12		14		6
個体数・湿重量合計				25	227.6	138	243.3	98	505.4	-

注1) ○は目視観察による出現を示す。

注2) 分類体系、和名等については、中坊編(2013)「日本産魚類検索 全種の同定 第三版」に準拠した。

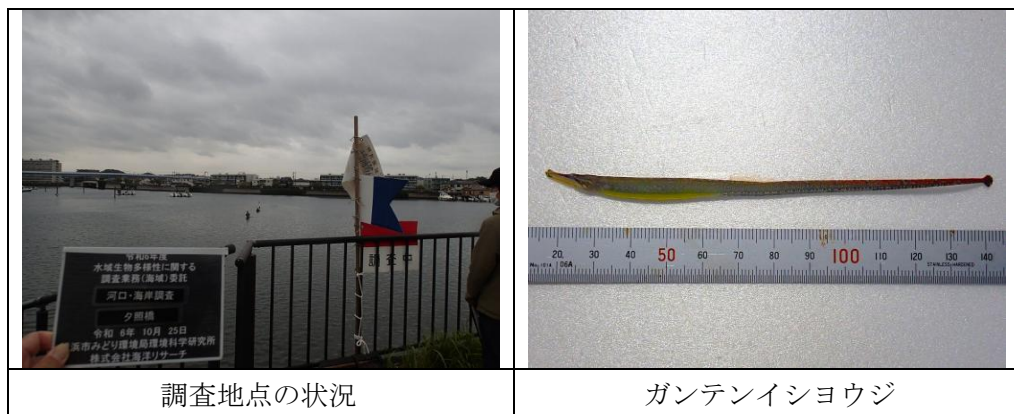


写真 7.20 夕照橋における調査時の写真

7.4.魚類（河口・海岸）

7.4.3. レッドリスト等掲載種

レッドリスト等掲載種一覧を表 7.99、該当種の写真を写真 7.21示す。

該当種はツバクロエイ、キチヌ、イソミミズハゼ、アシシロハゼ、アベハゼ、チチブ、ウロハゼ、スジハゼ、ヒメハゼおよびサツキハゼの計 10 種であった。

該当種は野島水路と夕照橋で 6 種と多かった。該当種はおもに内湾の汽水域（河口域）の干潟を生息場所とする魚類であった。

表 7.99 魚類（河口・海岸）レッドリスト等掲載種一覧

調査日：(秋季)2024年10月25、28、29、30日  
 (春季)2025年 4月22、23、25日、5月12日  
 (夏季)2025年 7月22、25、28、29日  
 採取方法：投網・タモ網

No.	目	科	属	学名	和名	地点						時季			レッドリスト等掲載種の 選定基準				
						鶴見川河口	山下公園	堀割川河口	海の公園	野島公園	野島水路	夕照橋	秋季	春季		夏季			
1	トビエイ	ツバクロエイ	ツバクロエイ	<i>Gymnura japonica</i>	ツバクロエイ					○						○	環海:情報不足		
2	スズキ	タイ	クロダイ	<i>Acanthopagrus latus</i>	キチヌ	○	○	○	○		○			○	○		神奈川:情報不足		
3	ハゼ		ミズハゼ	<i>Luciogobius martellii</i>	イソミズハゼ							○		○	○		東京:留意種*6		
4			マハゼ	<i>Acanthogobius lactipes</i>	アシシロハゼ	○									○			東京:VU、神奈川:情報不足	
5			アベハゼ	<i>Mugilogobius abei</i>	アベハゼ	○							○		○			東京:留意種*8	
6			チチブ	<i>Tridentiger obscurus</i>	チチブ	○					○	○	○	○	○	○	○		東京:留意種*8
7			ウロハゼ	<i>Glossogobius olivaceus</i>	ウロハゼ	○		○		○	○	○	○	○	○	○	○		神奈川:注目種
8			キララハゼ	<i>Acenrogobius virgatulus</i>	スジハゼ			○		○	○	○	○	○	○	○	○		東京:NT
9			ヒメハゼ	<i>Favonigobius gymnauchen</i>	ヒメハゼ			○		○	○	○	○	○	○	○	○		東京:NT
10			クロユリハゼ	サツキハゼ	<i>Parioglossus dotui</i>	サツキハゼ								○					神奈川:情報不足
種 類 数						5	1	3	2	4	6	6	6	8	7		10		

注1)○は採取・目視観察による出現を示す。  
 注2)分類体系、和名等については、中坊編(2013)「日本産魚類検索 全種の同定 第三版」に準拠した。  
 注3)イソミズハゼは、レッドリスト選定時はミズハゼと同一種とされていたため、同一カテゴリの掲載種と判断した。  
 注4)東京都レッドリスト留意種の選定理由  
 留意種\*6:かつて激減したが、河口干潟の保全に伴って増加傾向にあり、自然の回復状況を表すため。  
 留意種\*8:かつて減少したが、水質・底質改善に伴って増加傾向にあり、自然の回復状況を表すため。

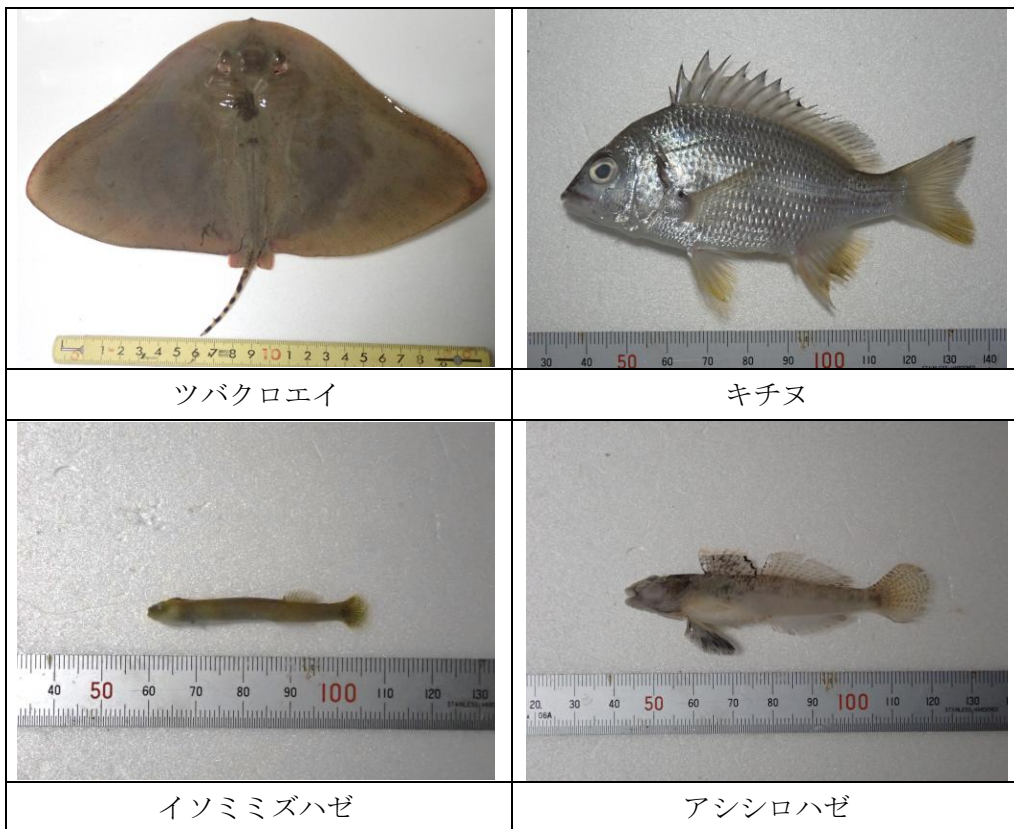


写真 7.21 (1) 魚類（河口・海岸）レッドリスト等掲載種



写真 7.21 (2) 魚類（河口・海岸）レッドリスト等掲載種

#### 7.4.4. 外来種

河口・海岸調査において、魚類の外来種は出現しなかった。

#### 7.4.5. 経年変化

横浜市では 1973 年から継続して横浜市水域の生物相調査を実施している。事実上の第 1 報は「横浜市内河川・海域の水質汚濁と生物（1974 年）」であり、その後 1975 年には生物指標を策定している。沿岸域における魚類相については「横浜の川と海の生物 第 2 報（1978 年）」での報告が最初であるが、本項ではこの報告を補足してまとめた「横浜市沿岸域における環境変化と魚類相（1979 年）」を第 2 報として扱い、表中では「横浜市魚類相」と表記する。表中の数字は採捕した個体数であるが、第 4 報では出現の有無についてのみ示す。これらの調査結果をもとにした河口・海岸域の確認種を以下に示す。

##### ①河口・海岸域（全地点）

河口・海岸域における魚類相の変遷を表 7.100 (1)、(2) に示す。これまでの調査で確認された魚類は 188 種類であり、今回の調査ではそのうち 63 種類が確認された。各調査で調査頻度が異なるため経年での詳細な比較は難しいが、出現種の状況について以下に考察する。今回調査までの全 15 回において確認された種はアサヒアナハゼ、マハゼ、ヒメハゼ、アミメハギであった。このうちマハゼはハゼ釣りの代表的な対象魚であり、人々の関心も高い魚である。浅場に生息し内湾域と河口域にも入り込む汽水性魚類であるが、生息場や産卵場の消失に伴い、東京湾での漁獲量は 1961 年を境に激減していることが知られている（東京湾研究会, 2013）。第 5 報以降、アカオビシマハゼ、シモフリシマハゼが継続的に確認されている。また、国の絶滅危惧種 IB に指定されているニホンウナギは第 6 報以降確認されていない。コケギンポは今回の調査で初出現となった。ツバクロエイ、クロイシモチは河口・海岸域の調査では初出現となった。

表 7.100 (1) 河口・海岸域における魚類相の変遷

No.	科名	和名	報告書名 調査年	横浜市	第3報	第4報	第5報	第6報	第7報	第8報	第9報	第10報	第11報	第12報	第13報	第14報	第15報	第16報	総計	確認回数			
				魚類相	1976 -1977	1979 -1980	1984 -1985	1987 -1988	1990	1993	1996 -1997	1999 -2000	2002 -2003	2005	2009	2012 -2013	2016 -2017	2020 -2021			2024 -2025		
1	スタウナギ科	スタウナギ																	0	1			
2	アカエイ科	アカエイ		○					○										○	1	7		
3	ツバクロエイ科	ツバクロエイ																		1	1		
4	カライワシ科	カライワシ				○															1		
5	ウナギ科	ニホンウナギ		7		○	3		1												11	4	
6	アナゴ科	マアナゴ		3											○						3	2	
7	ニシン科	サツバ		65		○				3	1			6		1				1	116	8	
8		コノシロ		440								5									445	2	
9	カタクチイワシ科	カタクチイワシ		47		○								29	95						171	4	
10	コイ科	ギンブナ		10		○															10	2	
11		キンギョ		1																	1	1	
12		モツゴ		14		○															14	2	
13	ドジョウ科	ドジョウ		1																	1	1	
14	ゴンズイ科	ゴンズイ		925		○		1	25								25				976	5	
15	アユ科	アユ				○		1													1	2	
16	カエルアンコウ科	ハナオコゼ		1		○				1											2	3	
17	ヤガラ科	アオヤガラ				○																1	
18	ヨウジウオ科	オウヨウジ		1				2								1					4	3	
19		ヨウジウオ		34	1	○		2	1		1	1		○		1	1				42	10	
20		ガンテンシヨウジ														1	2	2			5	3	
21		タツノオトシゴ		2		○															2	2	
22	ボラ科	フウライボラ		1																	1	1	
23		ボラ		321	23	○		80	18	19	75	51	14		19	71	95	75	13		874	14	
24		セズジボラ		323	2	○			6	4	4	2									341	7	
25		メナダ		637		○									1						638	3	
26		メナダ属																			5	1	
27		コボラ		1					3		81	3				1					89	5	
28		タイワンメナダ														2					2	1	
29		ボラ科													○							1	
30	トウゴロウイワシ科	ムギイワシ						1				6			44						51	3	
31		ギンイソイワシ							1												1	1	
32		トウゴロウイワシ		395	○	○	15	16	24	569		6	54		113				8		1200	11	
33	カダヤシ科	カダヤシ		67		○															67	2	
34	メダカ科	ミナメダカ		1				6	1												8	3	
35	サヨリ科	サヨリ		5		○		1	2	1					3						12	6	
36	トビウオ科	トビウオ		4		○			2												6	3	
37	ダツ科	ダツ		6		○			1												7	3	
38	メバル科	カサゴ				○										1					1	2	
39		クロソイ				○											1				1	2	
40		シロメバル													23	2	1	29			55	4	
41		メバル類		85	○	○		5	1	57	14	23	12								197	9	
42		ヨロイメバル		8	○	○		2	1				1				1				13	7	
43		ムラソイ													1						1	1	
44		メバル属													○	○	○					3	
45	ハオコゼ科	ハオコゼ			○										○	1					1	3	
46	ホウボウ科	ホウボウ			2																2	1	
47	コチ科	マゴチ								1	2				○	1				○	4	5	
48		イネゴチ		1							1										2	4	
49		コチ属																		○		1	
50		コチ科		29	5	○	3	3													40	5	
51	アイナメ科	クジメ		21	○	○	2		3			1	4			4	4	1	40		40	10	
52		アイナメ		100	1	○	3	10	12	6	3	6			2	4	2	1			150	13	
53	カジカ科	キヌカジカ							2												2	1	
54		サラサカジカ		20	○	○	1	14	9	4	1	6				2					57	10	
55		アヤアナハゼ					2														2	1	
56		アサヒアナハゼ		107	○	○	31	17	47	22	9	10	5	1	○	5	4	1			259	15	
57		アナハゼ							2	5	4										11	3	
58	クサウオ科	スナヒクニン							2												2	1	
59	スズキ科	スズキ		359	6	○				29	3	1	5		1				8		412	9	
60	テンジクダイ科	ネンブツダイ				○																1	
61		オオスジシモチ				○																2	
62		クロイシモチ																			1	1	
63	シイラ科	シイラ		1																	1	1	
64	アジ科	カンハチ		11																	11	1	
65		ギンガメアジ		1																	1	1	
66	ヒイラギ科	ヒイラギ		150		○	1	1	8						7	2			3		172	8	
67	マツダイ科	マツダイ		11							1										13	3	
68	クロサギ科	クロサギ		130		○		1	69	1			2	61	8	20	13	1	2		308	12	
69		クロサギ属																			10	1	
70	イサキ科	イサキ				○																1	
71		ヒゲダイ				○																1	
72		コロダイ				○																1	
73		コショウダイ		2	○	○					1		1				5	3			12	7	
74	タイ科	クロダイ		139	○	○	2		1		8			2	3	12	23	6			196	11	
75		キチヌ		14		○											1	14			29	4	
76	ニベ科	シログチ		6																	6	1	
77	キス科	シロキス				○	3	2	2	1	1				9	2				11	31	9	
78		キス属		6	○																6	2	
79	ヒメジ科	ヨメヒメジ				○																1	
80		ヒメジ		○		○									1						1	3	
81	ハタンボ科	ミノミハタンボ				○																1	
82	チョウチョウウオ科	トゲチョウチョウウオ		1	○	○										○					1	4	
83		セグロチョウチョウウオ				○																1	
84		トノサマダイ									1										1	1	
85		チョウハン		○		○																2	
86		フウライチョウチョウウオ		1	○	○															1	3	
87		ニセフウライチョウチョウウオ				○																1	
88		アケボノチョウチョウウオ				○		1			1									1		3	4
89		チョウチョウウオ		○		○					1											1	3
90	ウミタナゴ科	アオタナゴ							22			1									4	5	
91		マタナゴ													4	3	14	2			45	5	
92		ウミタナゴ類		154	5	○	1	5	25	35	3	7	8	1	7	3	18				244	11	
93		ウミタナゴ属														1					1	1	
94		ウミタナゴ科															○					1	
95	スズメダイ科	シマスズメダイ		1																		1	1
96		オヤビッチャ		57		○				1						○	○	4			62	6	
97		ソラスズメダイ				○																1	
98	シマイサキ科	コトヒキ		514		○	101	49	78	42	18	5	2			2			○		811		

表 7.100 (2) 河口・海岸域における魚類相の変遷

No.	科名	和名	報告書名 調査年																総計	確認回数	
			横浜市 魚類相 1976 -1977	第3報 1979 -1980	第4報 1984 -1985	第5報 1987 -1988	第6報 1990	第7報 1993	第8報 1996 -1997	第9報 1999 -2000	第10報 2002 -2003	第11報 2005	第12報 2009	第13報 2012 -2013	第14報 2016 -2017	第15報 2020 -2021	第16報 2024 -2025				
101	イシダイ科	イシガキダイ			○											1	1	2			
102	イスズミ科	イスズミ	1														1	1			
103		テシジクイサキ	9		○												9	2			
104	カゴカキダイ科	カゴカキダイ	○	○	○												-	3			
105	メジナ科	メジナ	168	8	○		21	1	17	2	8	5		10	7	3	22	272	13		
106		クロメジナ	○		○					1								1	3		
107	ペラ科	カナナリペラ		○	○													-	2		
108		キュウセン	○	○	○					1				1	○	1		3	7		
109		ホンペラ	○	○	○											○		-	4		
110	タウエガジ科	フサギンボ												○				-	1		
111		ダイナンギンボ			○			6	16	5		6			1	2		36	7		
112	ニシギンボ科	ギンボ	382	47	○	68	6	7	64	3	2			2	6			1	588	12	
113		タケギンボ			○		1	80	1	24	3								109	6	
114	トラギス科	オキトラギス	1																1	1	
115	イカナゴ科	イカナゴ			○														-	1	
116	コケギンボ科	コケギンボ																1	1	1	
117	イソギンボ科	イソギンボ	22	○	○		1	9		10	8			4		5	14	73	10		
118		トサカギンボ			○				14	23	3			○	1	○		41	7		
119		イダテンギンボ			○	5	17	5	9	20	25	2		2	1	6	92	11			
120		ナベカ	47	○	○	10	5	37		7	8			1	7	7	15	144	12		
121		ニシギンボ	100	○	○		1			1						1	○	103	7		
122		イソギンボ科													1			1	1		
123	ネズツボ科	ハタテヌメリ	29		○		4	12	13		2					1	4	65	8		
124		ネズミゴチ	31	12	○	21	3	12	1	4		1					1	86	10		
125		トビヌメリ	11	3	○			6			3	1	1					29	8		
126		ネズツボ科												○	○			-	2		
127	ハゼ科	ナガミズハゼ								1								1	1		
128		ミズハゼ												1	5			6	2		
129		イノミズハゼ	484		○		9	15	27	1	2			2	2	1	5	548	11		
130		ヒモハゼ			○			3	5	2								10	4		
131		トビハゼ				1												1	1		
132		タネハゼ												1				1	1		
133		サビハゼ	2	○			1							1	1	1		6	6		
134		リュウグウハゼ	1											1	1			1	1		
135		キヌハリ					1									3		4	2		
136		チャガラ							3					○				3	2		
137		マハゼ	4841	155	○	201	174	190	586	105	143	97	5	51	21	12	26	6607	15		
138		アシシロハゼ	558	3	○	59	230	1007	460	76	85	8		4	12	3	4	2509	14		
139		アベハゼ	2872		○	234	38	23	23	32	19	1	1	9			4	3256	12		
140		マサゴハゼ	45		○	19	34											98	4		
141		アカガビシマハゼ					219	138	150	62	223	3	22	9	21	37	32	916	11		
142		シモフリシマハゼ				1	1	1	1		23			○	○	8	7	41	8		
143		シマハゼ類	492	12	○	87												591	4		
144		スマチチブ				2												2	1		
145		チチブ	727		○	848	770	903	932	326	387	10	12	26	8	44	29	5022	14		
146		チチブ属										26			2	○	○	28	4		
147		ヒナハゼ													○	2		2	2		
148		ヒメクモハゼ					3											3	1		
149		ヨシノボリ属	1		○													1	2		
150		ウロハゼ								5			2	7	1	15	17	47	6		
151		スジハゼ												35	47	11	19	112	4		
152		スジハゼ類	37	○	○	10	41	252	48	69	117	4	28					606	11		
153		ヒメハゼ	714	66	○	175	29	9	63	23	27	8	5	368	4	29	18	1538	15		
154		クツワハゼ																1	1		
155		スミウキゴリ				1				1				1		74		77	4		
156		ウキゴリ属a																1	1		
157		ニクハゼ	34		○			329	2145	30	71	31	1	403	1	3	164	3212	12		
158		ウキゴリ属b												3				3	1		
159		ビリンゴ	12			6	46	216	39	40	10	2		8	2			381	10		
160		ウキゴリ属								39					20	2	3	64	4		
161		アゴハゼ	384	1	○	23	7	49	67	22	30	7		43	16	5		654	13		
162		ドROME	29		○		29	35	81	18	34			14	23	4	4	1	272	12	
163		アゴハゼ属								22								1	23	2	
164		ハゼ科																2	2		
165	クロユリハゼ科	サツキハゼ			○													6	2		
166	アイゴ科	アイゴ		○														1	1	2	3
167	ニザダイ科	ニザダイ		○	○														-	2	
168		クロハギ属			○														-	1	
169	カマス科	アカカマス	4	○	○			1											5	4	
170	サハ科	マサバ				7													7	1	
171	ヒラメ科	ヒラメ	2	2	○				3	1								3	11	6	
172	カレイ科	ホシガレイ	1	2							3								6	3	
173		イシガレイ	588	199	○				2	1				4				5	799	7	
174		マコガレイ	38	6	○	3			1	1	3	5		4				9	70	10	
175	ウシノシタ科	クロウシノシタ	1	4	○														6	4	
176	ギマ科	ギマ										136						2	1	139	3
177	モンガラカワハギ科	アミモンガラ	26		○	1													27	3	
178	カワハギ科	アミメハギ	20	4	○	2	20	19	25	13	3	2	13	1	15	46	15	198	15		
179		ウマツラハギ			○														-	1	
180		カワハギ	82	○	○													6	89	5	
181		ヨソギ	18																18	1	
182	フグ科	ヒガンフグ	37	○			1	1	2					2	1			1	45	8	
183		ショウサイフグ	2																2	1	
184		コモフグ			○						1			7		1	1	10	5		
185		クサフグ	59	○	○		4	51	15	28	85			2	19	30	13	15	321	13	
186		トラフグ属													1				1	1	
187		サザナミフグ			○														1	1	2
188		フグ科					2	1											3	2	
		種類数	101	52	108	39	53	56	50	59	43	30	27	64	54	54	63				

注1) ○は目視観察による確認を示す。  
 注2) 「横浜市沿岸域における環境変化と魚類相」は第2報の調査を補足したものであり、事実上の2報である。表中では「横浜市魚類相」と表記する。  
 注3) ウキゴリ属aはウキゴリ、スミウキゴリ、シマウキゴリのいずれかと思われるが、稚魚であるため種までの同定は出来なかった。  
 注4) ウキゴリ属bはヘビハゼ、ニクハゼのいずれかと思われるが、稚魚であるため種までの同定は出来なかった。

②鶴見川河口

鶴見川河口における魚類相の変遷を表 7.101に示す。鶴見川河口ではこれまでに 65 種類が確認されている。地点の特徴として、他の調査地点と比べ塩分濃度が低いことが挙げられる。そのため、これまでの調査でもシマイサキ、アベハゼ、シモフリシマハゼ、ビリンゴなど多くの汽水性魚類が確認されている。今回の調査で初確認された種はなかった。

確認された魚種を経年比較すると、ニホンウナギ、コトヒキ、シマイサキについては近年確認されておらず、調査開始当初から継続して高頻度（確認率 65%以上）で確認されているのは、ボラ、マハゼ、アシシロハゼ、アベハゼ、チチブの 5 種である。

表 7.101 鶴見川河口における魚類相の変遷

No.	科名	和名	報告書名														合計	確認回数
			横浜市魚類相 調査年	第4報	第5報	第6報	第7報	第8報	第9報	第10報	第11報	第12報	第13報	第14報	第15報	第16報		
			1976 -1977	1984 -1985	1987 -1988	1990	1993	1996 -1997	1999 -2000	2002 -2003	2005	2009	2012 -2013	2016 -2017	2020 -2021	2024 -2025		
1	スタウナギ科	スタウナギ		○													-	1
2	カライワシ科	カライワシ															-	1
3	ウナギ科	ニホンウナギ	1	○	1		1										3	4
4	アナゴ科	マアナゴ	1										○				1	2
5	ニシン科	サツバ	7	○		39						6					52	4
6		コシロ	5														5	1
7	コイ科	ギンブナ	10	○													10	2
8		キンギョ	1														1	1
9		モツゴ	4	○													4	2
10	ドジョウ科	ドジョウ	1														1	1
11	ヨウジウオ科	ヨウジウオ	1														1	1
12		ガンテンイシヨウジ															1	1
13	ボラ科	ボラ	102	○		1	1	9	1	1			12	20	15	28	190	11
14		セシボラ				1											1	1
15		メナダ	18										1				19	2
16		コボラ											1				1	1
17		タイワシメナダ											2				2	1
18	トウゴロウイワシ科	トウゴロウイワシ	1	○													1	2
19	カダヤシ科	カダヤシ	67	○													67	2
20	メダカ科	ミナミメダカ	1														1	1
21	サヨリ科	サヨリ	○	○									3				3	3
22	メバル科	メバル類	2														2	1
23	コチ科	コチ	21														21	1
24	アイナメ科	アイナメ		○				1									1	2
25	カシカ科	アサヒアナハゼ						1									1	1
26	スズキ科	スズキ	127	○				7	2	1	1		1			1	140	8
27	ヒラギ科	ヒラギ	1														1	1
28	タイ科	クロダイ	1		1								2	9		2	15	5
29		キチヌ													1	2	3	2
30	ニベ科	シログチ	1														1	1
31	シマイサキ科	コトヒキ	90			26	2		1								119	4
32		シマイサキ	8	○	4		1			4							17	5
33	インダイ科	インダイ	1														1	1
34	イスズミ科	イスズミ	1														1	1
35	メジナ科	メジナ				1				1							2	2
36	タウエガジ科	ダイナンギンボ								1							1	1
37	ニシキギンボ科	ギンボ			1			4		1			1				7	4
38	イソギンボ科	トサカギンボ												○	1	○	1	3
39		ナベカ											○				-	1
40	ハゼ科	ミズハゼ												1	2		3	2
41		イソミズハゼ		○				22		1		1	1				25	5
42		トビハゼ			1												1	1
43		マハゼ	236	○	88	118	148	102	52	114	29	4	16	4	1	4	916	14
44		アシシロハゼ	5	○	15	7	10		1	17			2	○	4		61	10
45		アベハゼ	2213	○	129	18	12	3		10		1	2			1	2389	10
46		アカオビシマハゼ				2	1		1						2		11	6
47		シモフリシマハゼ				1	1	1		22				○	8	7	40	7
48		シマハゼ類	1	○													1	2
49		チチブ	10	○	48	134	233	12	11	33		6	12	6	33	1	539	13
50		ヒナハゼ												○	2		2	2
51		ヨシボリ属	1	○													1	2
52		ウロハゼ								1		2	6	1	8	4	22	6
53		スジハゼ類			2												2	1
54		ヒメハゼ											1		○		1	2
55		スミウキゴリ											1		2		3	2
56		ニクハゼ					1		2								3	2
57		ビリンゴ				4	216	39	37	7			2				305	6
58		ウキゴリ属								25						1	26	2
59		アゴハゼ				3											3	1
60		ドROME					1	10	5	3		1	1				21	6
61		ハゼ科									1		1				2	2
62	ヒラメ科	ヒラメ						1									1	1
63	カレイ科	イシガレイ	1					2									3	2
64	ギマ科	ギマ									2						2	1
65	フグ科	クサフグ								1						4	5	2
		種類数	32	20	11	13	12	15	10	16	4	9	18	13	14	13		

注1) ○は目視観察による確認を示す。  
 注2) 「横浜市沿岸域における環境変化と魚類相」は第2報の調査を補足したものであり、事実上の2報である。表中では「横浜市魚類相」と表記する。

③山下公園

山下公園における魚類相の変遷を表 7.102に示す。山下公園ではこれまでに 63 種類が確認されている。地点の特徴として垂直護岸であること、護岸近辺には岩礁帯が広がっていることが挙げられる。

山下公園については第 5 報～第 10 報では調査されておらず、これまでに実施された調査は全 8 回と他地点に比べデータが少なく傾向は読み取れない。調査開始当初から継続して高頻度（確認率 65%以上）で確認されているのはクロダイ、メジナの 2 種である。

表 7.102 山下公園における魚類相の変遷

No.	科名	和名	報告書名		第4報	第11報	第12報	第13報	第14報	第15報	第16報	総計	確認回数
			調査年										
			1976 -1977	1984 -1985									
1	アカエイ科	アカエイ								○	○	-	2
2	ニシン科	サツバ	40	○								40	2
3	カタクティワシ科	カタクティワシ		○		29	1					30	3
4	ヨウジウオ科	ヨウジウオ	1									1	1
5	ボラ科	ボラ	3	○		3	○			6		12	5
6		セスジボラ	○	○								-	2
7		メナダ	1	○								1	2
8		ボラ科					○					-	1
9	トウゴロウイワシ科	トウゴロウイワシ			5		6					11	2
10	サヨリ科	サヨリ	○	○								-	2
11	メバル科	クロソイ		○								-	1
12		シロメバル					6	1			8	15	3
13		メバル類	3	○	1							4	3
14	ハオコゼ科	ハオコゼ					○					-	1
15	アイナメ科	クジメ							2	1		3	2
16		アイナメ	10	○			2	3				15	4
17	カジカ科	アサヒアナハゼ								○		-	1
18	スズキ科	スズキ	117	○			○			2		119	4
19	ヒラギ科	ヒラギ					3					3	1
20	イサギ科	コンヨウダイ	1									1	1
21	タイ科	クロダイ	4	○			○	1	10	1		16	6
22		キチヌ									1	1	1
23	キス科	シロキス		○			7					2	9
24	チョウチョウウオ科	アケボノチョウチョウウオ									1	1	1
25	ウミタナゴ科	アオタナゴ					2			3		5	2
26		マタナゴ					4	1	10			15	3
27		ウミタナゴ類	4	○	2	1						7	4
28	スズメダイ科	オヤビッチャ									○	-	1
29	シマイサキ科	コトヒキ	16	○								○	16
30		シマイサキ	1	○								○	1
31	イシダイ科	イシダイ	2	○								2	2
32		イシガキダイ		○								-	1
33	イスズミ科	テンジクイサキ		○								-	1
34	メジナ科	メジナ	26	○	1		6	2	2	2	12	49	7
35		クロメジナ		○								-	1
36	ベラ科	キュウセン					1					1	1
37	ニシキギンボ科	ギンボ	3	○		1	1					5	4
38	イカナゴ科	イカナゴ		○								-	1
39	イソギンボ科	イソギンボ	9	○			2		3	5		19	5
40		イダテンギンボ		○					1			1	2
41		ナベカ	16	○						1	2	19	4
42		ニジギンボ		○						1	○	1	3
43	ネズンボ科	ハタタテスメリ		○								-	1
44		トビヌメリ					4					4	1
45	ハゼ科	イソミズハゼ	29									29	1
46		マハゼ	42	○	1		1					44	4
47		アカオビシマハゼ				1	3	2	3	4		13	5
48		シモフリシマハゼ					○					-	1
49		シマハゼ類	89	○								89	2
50		チチブ	1	○			○			○		1	4
51		チチブ属								○		-	1
52		スジハゼ						1				1	1
53		スジハゼ類	1	○								1	2
54		ヒメハゼ					22					22	1
55		ニクハゼ	4	○							53	57	3
56		スミウキゴリ								60		60	1
57		ウキゴリ属b					3					3	1
58		アコハゼ					1	1	2			4	3
59		ドロメ		○		2	16		4			22	4
60	カレイ科	イシガレイ	4	○								4	2
61		マコガレイ	3	○	5		3					11	4
62	カワハギ科	アミメハギ		○			1			2	3	6	4
63	フグ科	クサフグ	4	○					5		2	11	4
		種類数	28		37	6	6	28	10	17	20		

注1) ○は目視観察による確認を示す。  
 注2) 横浜市沿岸域における環境変化と魚類相は第2報の調査を補足したものであり、事実上の2報である。表中では「横浜市魚類相」と表記する。  
 注3) ウキゴリ属bはヘビハゼ、ニクハゼのいずれかと思われるが、稚魚であるため種までの同定は出来なかった。

## ④堀割川河口

堀割川河口における魚類相の変遷を表 7.103に示す。堀割川河口ではこれまでに 88 種類が確認されている。地点の特徴として転石、砂泥底、泥底など底質が多様であることが挙げられる。調査開始当初から継続して高頻度（確認率 65%以上）で確認されているのはイダテンギンポ、マハゼ、アカオビシマハゼ、チチブ、アミメハギ、クサフグの 6 種である。

表 7.103 堀割川河口における魚類相の変遷

No.	科名	和名	報告書名 調査年	横浜市	第4報	第5報	第6報	第7報	第8報	第9報	第10報	第11報	第12報	第13報	第14報	第15報	第16報	総計	確認回数	
				魚類相	1976 -1977	1984 -1985	1987 -1988	1990	1993	1996 -1997	1999 -2000	2002 -2003	2005	2009	2012 -2013	2016 -2017	2020 -2021			2024 -2025
1	アカエイ科	アカエイ			○													-	1	
2	カライワシ科	カライワシ			○													-	1	
3	ウナギ科	ニホシウナギ		○	○													-	2	
4	ニシン科	サツバ			○													-	1	
5		コノシロ		7														7	1	
6	カタクチイワシ科	カタクチイワシ											94					94	1	
7	カエルアンコウ科	ハナオコゼ							1									1	1	
8	ヨウジウオ科	ヨウジウオ					1											1	1	
9	ボラ科	ボラ		33	○					3				1		1	7	45	6	
10		セズボラ		15	○		1		1									17	4	
11		メナダ		36	○													36	2	
12		コボラ					3											3	1	
13	トウゴロウイワシ科	ムギイワシ											18					18	1	
14		ギンソイワシ						1										1	1	
15		トウゴロウイワシ			○	9	2							87				98	4	
16	サヨリ科	サヨリ					1											1	1	
17	ダツ科	ダツ			○													-	1	
18	メバル科	カサゴ												1				1	1	
19		メバル類			○				38	1		11						50	4	
20		ヨロイメバル										1						1	1	
21		メバル属											○					-	1	
22	コチ科	コチ			○													-	1	
23	アイナメ科	アイナメ		2	○	1	3	7	4					○				17	7	
24	カシカ科	アサヒアナハゼ		2			6	10	9	2	1	2						32	7	
25	スズキ科	スズキ		52	○												2	54	3	
26	テンジクダイ科	ネンブツダイ			○													-	1	
27	ヒイラギ科	ヒイラギ		31			1	8						1	2			43	5	
28	クロサギ科	クロサギ			○								○	18	1			19	4	
29	イサキ科	コショウダイ			○							1						1	2	
30	タイ科	クロダイ		2	○			1					○	1	○	○	○	5	9	
31		キチヌ		14	○										○	○	○	14	4	
32	キス科	シロキス				3	2	2							2			9	5	
33	ヒメジ科	ヒメジ			○													-	1	
34	チョウチョウウオ科	セグロチョウチョウウオ			○													-	1	
35		アケボノチョウチョウウオ			○													-	1	
36	ウミタナゴ科	アオタナゴ						2								11		13	2	
37		マタナゴ												3	1	7		11	3	
38		ウミタナゴ類		2	○		3	1	1	3	1	1	○					12	9	
39	シマイサギ科	コトヒキ		18	○	21	29	17		4	5						○	94	8	
40		シマイサギ		3	○		1	4		5	6						○	19	7	
41	インダイ科	インダイ			○													-	1	
42	メジナ科	メジナ			○		13		5		6			4	2	1	1	32	8	
43		クロメジナ								1								1	1	
44	ベラ科	キュウセン			○													-	1	
45	タウエガジ科	フサギンボ											○					-	1	
46	ニシキギンボ科	ギンボ		5	○				2	1	1		○					9	6	
47		タケギンボ									1							1	1	
48	イソギンボ科	イソギンボ						1										1	2	
49		トサカギンボ			○				1	23	1							25	4	
50		イダテンギンボ			○	1	14	2	6	16	8	2			1		4	54	10	
51		ナベカ			○									○		2	1	3	4	
52		ニジギンボ								1							○	1	2	
53	ネズッポ科	ハタタチヌメリ			○		2	10	9		1						○	22	5	
54		ネズミコチ			○	12												12	2	
55	ハゼ科	イソミズハゼ						2										2	1	
56		サビハゼ											1					1	1	
57		キヌバリ						1								1		2	2	
58		チャガラ											○					-	1	
59		マハゼ		948	○	20	23	12	25	1	18	37		3	3		6	996	12	
60		アンシロハゼ		179	○			1	1									181	4	
61		アベハゼ		96				1										97	2	
62		アカオビシマハゼ						97	74	105	52		3	6	○	1	11	3	473	11
63		シモフリシマハゼ									1							1	1	
64		シマハゼ類		50	○	82												132	3	
65		チチブ		501	○	2	51	1	14		18	10		2		○		599	10	
66		ウロハゼ												1		7	7	15	3	
67		スジハゼ											6	1			4	11	3	
68		スジハゼ類		6	○	4	16	209	7	16	44	3					305	9		
69		ヒメハゼ								2								2	1	
70		クツワハゼ														1		1	1	
71		スミウキゴリ								1						12		13	2	
72		ニクハゼ		2				1	185	5	20	7						220	6	
73		ビリンゴ									2							2	1	
74		ウキゴリ属									14				1			15	2	
75		アゴハゼ			○			13	66	17	3			1	1	1		102	8	
76		ドROME			○		16	15	71	5	29		○	7				143	8	
77		アゴハゼ属								22								1	23	2
78	クロユリハゼ科	サツキハゼ			○													-	1	
79	サハ科	マサバ				7												7	1	
80	カレイ科	イシガレイ		4	○													4	2	
81		マコガレイ		6	○				1									7	3	
82	モンガラカワハギ科	アミモンガラ				1												1	1	
83	カワハギ科	アミメハギ			○		5	13	18	6	3	2	1	○	3	3	3	57	12	
84		カワハギ																1	1	
85	フグ科	ヒガシフグ								1								1	1	
86		コモンフグ										1						5	3	
87		クサフグ			○		1	22	4	10	61			3		1	1	119	10	
88		フグ科					1							1	18	1	1	1	1	
		種類数		24	46	12	22	27	22	22	24	13	9	24	14	17	19	1	1	

注1) ○は目視観察による確認を示す。

注2) 「横浜市沿岸域における環境変化と魚類相」は第2報の調査を補足したものであり、事実上の2報である。表中では「横浜市魚類相」と表記する。

⑤海の公園

海の公園における魚類相の変遷を表 7.104に示す。海の公園ではこれまでに 113 種類が確認されている。この地点はもともと自然海岸であったが、1979 年（昭和 54 年）に埋め立てられ人工海浜「海の公園」として造成された。したがって、「横浜市沿岸域における環境変化と魚類相（1979 年）」は自然海岸であった時期に行われた調査であり、第 3 報以降は人工海浜として造成された後の調査である。

確認種類数を経年比較すると、調査回数の少ない第 3 報、第 11 報、第 13 報では他の調査回に比べ確認種類数も少ない。ヒメハゼは全 14 回の調査で確認されており、他の種類に比べ個体数が多く採集されている。調査開始当初から継続して高頻度（確認率 65%以上）で確認されているのは、ボラ、コトヒキ、マハゼ、ヒメハゼ、クサフグの 5 種であった。



⑥野島公園

野島公園における魚類相の変遷を表 7.105に示す。野島公園ではこれまでに 79 種類が確認されている。今回の調査時には広範囲にわたってアマモが生育していた。これまでの調査でもヨウジウオ、アミメハギといった一生をアマモ場で過ごす魚類や、クジメ、アイナメ、シロメバルといったアマモ場を成育の場とする魚類が確認されている。

野島公園については第 4 報～第 11 報では調査されておらず、これまでに実施した調査は全 7 回とデータが少なく傾向を読み取るのは難しい。カレイ科とヒラメ科は第 12 報以降、あまり確認されていないが、今回の調査では 2 種確認された。高頻度（確認率 65%以上）で確認されているのは、ヨウジウオ、ボラ、クロダイ、メジナ、マハゼ、ヒメハゼ、クサフグの 7 種である。

表 7.105 野島公園における魚類相の変遷

No.	科名 和名	報告書名 調査年	横浜市魚類相							総計	確認回数
			1976 -1977	1979 -1980	2009	2012 -2013	2016 -2017	2020 -2021	2024 -2025		
1	アカエイ科	アカエイ			○		○	1	○	1	4
2	ツバクロエイ科	ツバクロエイ							1	1	1
3	アナゴ科	マアナゴ	2							2	1
4	ニシン科	サツバ							1	1	1
5		コノシロ	1							1	1
6	ゴンズイ科	ゴンズイ	2							2	1
7	ヨウジウオ科	ヨウジウオ	3	1	○		1	1		6	5
8	ボラ科	ボラ	32	22	7		1	1	14	77	6
9		セスジボラ	49	2						51	2
10		メナダ	63							63	1
11		コボラ	1							1	1
12	トウゴロウイワシ科	ムギイワシ			25					25	1
13		トウゴロウイワシ	1			13				14	2
14	ダツ科	ダツ	2							2	1
15	メバル科	シロメバル					1		3	4	2
16		メバル類	26					○		26	2
17	ハオコゼ科	ハオコゼ			○					-	1
18	ホウボウ科	ホウボウ		2						2	1
19	コチ科	マゴチ			○	1				1	2
20		イネゴチ	1						1	2	2
21		コチ科	4	5						9	2
22	アイナメ科	クジメ	2				4	2		8	3
23		アイナメ	36	1				2		39	3
24	カジカ科	アサヒアナハゼ	2			○	2	3		7	4
25	スズキ科	スズキ	22	6						29	3
26	マツダイ科	マツダイ	2						1	2	1
27	クロサキ科	クロサキ	1		4		8			13	3
28	イサキ科	コショウダイ						4	2	6	2
29	タイ科	クロダイ	7		2		○	3	1	13	5
30	キス科	シロギス							2	2	1
31		キス属	1							1	1
32	ウミタナゴ科	アオタナゴ					1			1	1
33		ウミタナゴ類	45	5						50	2
34	スズメダイ科	シマスズメダイ	1							1	1
35	スズメダイ科	オヤビツチャ	14				○	○	1	15	4
36	シマイサキ科	コトヒキ	28				○			28	2
37		シマイサキ	5			1				6	2
38	インダイ科	インダイ	12				3			15	2
39	イスズミ科	テンジクイサキ	1							1	1
40	メジナ科	メジナ	89	8			○	○	○	97	5
41	ベラ科	ホンベラ						○		-	1
42	タウエガジ科	ダイナンギンポ					1			1	1
43	ニシキギンポ科	ギンポ	74	32		1			1	108	4
44	コケギンポ科	コケギンポ							1	1	1
45	イソギンポ科	イソギンポ				1		1	4	6	3
46		イダテンギンポ					○			-	1
47		ナベカ				○	1	○	7	8	4
48		ニシギンポ	13							13	1
49	ネズンポ科	ハタタテヌメリ	2							2	1
50		ネズミゴチ	6	9						15	2
51		トビヌメリ	5	3						8	2
52	ハゼ科	イソミズハゼ	277							277	1
53		キヌバリ						1		1	1
54		マハゼ	979	143		8		4	5	1139	5
55		アシロハゼ	11	3						14	2
56		アカオビシマハゼ						3	6	9	2
57		チチブ						1		1	1
58		シマハゼ類	54	6						60	2
59		ウロハゼ							1	1	1
60		スジハゼ							3	3	1
61		ヒメハゼ	121	54		103	1	2	13	294	6
62		ウキゴリ属a								1	1
63		ウキハゼ			1	399				400	2
64		ビリンゴ				2				2	1
65		ウキゴリ属					15			15	1
66		アゴハゼ	103	1			3	1		108	4
67		トロメ	1		7		1			9	3
68		ハゼ科				○				-	1
69	ヒラメ科	ヒラメ	1	2					3	6	3
70	カレイ科	ホシガレイ	1	2						3	2
71		イシガレイ	169	100		1				270	3
72		マコガレイ	3	6					2	11	3
73	ウシノシタ科	クロウシノシタ	1	4						5	2
74	モンガラカワハギ科	アミメンガラ	1							1	1
75	カワハギ科	アミメハギ		4	8			2	4	18	4
76		カワハギ	4						4	8	2
77	フグ科	ヒガシフグ	1						1	2	2
78		コモンフグ							1	1	1
79		クサフグ	6		1	7	1	2	3	20	6
		種類数	50	23	12	15	21	22	28		

注1) ○は目視観察による確認を示す。  
 注2) 「横浜市沿岸域における環境変化と魚類相」は第2報の調査を補足したものであり、事実上の2報である。表中では「横浜市魚類相」と表記する。  
 注3) ウキゴリ属aはウキゴリ、スミウキゴリ、シマウキゴリのいずれと思われるが、稚魚であるため種までの同定は出来なかった。

## ⑦平潟湾（今回の調査地点では野島水路、夕照橋）

平潟湾における魚類相の変遷を表 7.106に示す。戦後の野島水路については1966年に閉鎖され、1985-1988年に平潟湾内で浚渫工事が行われた。その後1994年に完全に開削している。野島水路が閉鎖されていた時期に調査が実施された第2報で44種、第4報では24種のまとまった種数が確認されていたが、湾内の大規模浚渫工事が開始された1987年には15種と減少し、水路の土堰堤が仮締め切り堤に置き換えられた1990年も18種で増加は鈍かった（工藤他, 2002）。しかし、1993年以降は第7報で24種、第8報では30種と徐々に種数も増加し、水路が完全に開削された後の1990年代後半以降の魚類相の回復傾向は顕著であり、この要因として湾内の海水交換が向上したためと考えられる（工藤他, 2002）。第13報以降は野島水路と夕照橋の調査結果を合計し、これを平潟湾の結果とした。本調査では平潟湾でこれまでに107種類が確認されており、砂泥、泥底を好むチチブ属（チチブを含む）が全14回の調査で確認されている。

高頻度（確認率65%以上）で確認されているのは、ボラ、マハゼ、アシシロハゼ、アベハゼ、アカオビシマハゼ、チチブ、ヒメハゼ、ニクハゼの8種であった。

## 参考文献

- 山川宇宙・坪 健人・酒井 卓・三井翔太・瀬能 宏, 2017. 相模湾とその周辺地域の河川および沿岸域で記録された注目すべき魚類5種. 神奈川自然誌資料 (38) : 77-82.
- 山川宇宙・瀬能 宏, 2016. 相模湾流入河川および沿岸域で記録された注目すべき魚類16種. 神奈川自然誌資料 (37) : 44-52.
- 工藤孝浩, 2011. 横浜, 川崎および中の瀬海域から初記録の魚類-V. 神奈川自然誌資料 (32) : 127-133.
- 工藤孝浩・滝口直之・柵瀬信夫, 2002. 横浜市平潟湾流域の魚類相と人為的環境変化. 神奈川県水産総合研究所研究報告 (7) : 135-148
- 中央ブロック水産業関係研究開発推進会議東京湾研究会 (2013) 江戸前の復活！東京湾の再生をめざして.

表 7.106 平潟湾における魚類相の変遷

No.	科名 和名	報告書名 調査年	横浜市	第4報	第5報	第6報	第7報	第8報	第9報	第10報	第11報	第12報	第13報	第14報	第15報	第16報	総計	確認回数	
			魚類相 1976 -1977 個体数	1984 -1985 個体数	1987 -1988 個体数	1990 個体数	1993 個体数	1996 -1997 個体数	1999 -2000 個体数	2002 -2003 個体数	2005 個体数	2009 個体数	2012 -2013 個体数	2016 -2017 個体数	2020 -2021 個体数	2024 -2025 個体数			
1	アカエイ科	アカエイ					○									○	-	2	
2	ウナギ科	ニホンウナギ	2	○	2												4	3	
3	ニシン科	サツメ	2	○					1								3	3	
4		コクハシ	122							5							127	2	
5	コイ科	モツゴ	10														10	1	
6	ゴンズイ科	ゴンズイ													25		25	1	
7	アユ科	アユ		○													-	1	
8	ヨウジウオ科	オクヨウジ	1											1			2	2	
9		ヨウジウオ	1		1			1									3	3	
10		ガンテンイシヨウジ														2	2	1	
11	ボラ科	ボラ	89	○	80	17	15	64	45	7		9	57	71	26	5	485	13	
12		セスジボラ	118	○		1	3	1	2								125	6	
13		メナダ	181	○													181	2	
14		メナダ属							5								5	1	
15		コボラ							3								3	1	
16	トウゴロウイワシ科	ムギイワシ										1					1	1	
17		トウゴロウイワシ	110	○	6	8	24	24		5	40		7				224	9	
18	メダカ科	ミナメダカ			6	1											7	2	
19	メバル科	クロソイ												1			1	1	
20		ヨロイメバル													1		1	1	
21		シロメバル											17		1	18	36	3	
22		メバル類	3					18		13							34	3	
23		ムラソイ											1				1	1	
24		メバル属												○			-	1	
25	ハオコゼ科	ハオコゼ											1				1	1	
26	コチ科	マゴチ							2							○	2	2	
27		イネゴチ														1	1	1	
28		コチ科	1	○													1	2	
29	アイナメ科	アイナメ	9	○				1								1	11	4	
30	カジカ科	サラサカジカ						3		5				2			10	3	
31		アサヒアナハゼ		○		2		7		4	3	1	○	3	1		21	9	
32		アナハゼ					1										1	1	
33	スズキ科	スズキ	29						1							2	32	3	
34	テンジクダイ科	クロイシモチ														1	1	1	
35	ヒイラギ科	ヒイラギ	4	○	1								3				8	4	
36	クロサギ科	クロサギ				1	69	1		2	1	4	2	4	1		85	9	
37	イサキ科	コショウダイ													1		1	1	
38	タイ科	クロダイ	11	○					7					2	8	1	29	6	
39		キチヌ														1	1	1	
40	キス科	シロギス							1				2			7	10	3	
41	ヒメジ科	ヒメジ											1				1	1	
42	チョウチョウウオ科	トゲチョウチョウウオ							1					○			-	1	
43		トノサマダイ							1								1	1	
44		アケボノチョウチョウウオ							1								1	1	
45	ウミタナゴ科	アオタナゴ					20						2	2		1	25	4	
46		マタナゴ												1			1	1	
47		ウミタナゴ類	8				1			1	5						15	4	
48		ウミタナゴ属											1		○		1	1	
49	スズメダイ科	オヤビツチャ	26					1								3	30	4	
50	シマイサキ科	コトヒキ	145	○	30	9	53	18	13					○			268	8	
51		シマイサキ	22	○	2	1	1		1					1			28	7	
52	インダイ科	インダイ	17										2			4	23	3	
53		インガキダイ														1	1	1	
54	イスズミ科	テンジクイサキ	5							2	4						5	1	
55	メジナ科	メジナ															9	3	
56	ベラ科	キュウセン											○	○	1		1	3	
57	タウエガジ科	ダイコンギンポ						2		5			1	1			9	4	
58	ニシキギンポ科	ギンポ	6	○				1					2				9	4	
59		タケギンポ					1										1	1	
60	イソギンポ科	イソギンポ								3			1		1	4	9	4	
61		トサカギンポ						13		2							15	2	
62		イダテンギンポ						3		17				○	1	2	23	5	
63		ナベカ								7			1	5	4	5	22	5	
64		ニジギンポ	15													○	15	2	
65		イソギンポ科												1			1	1	
66	ネズボ科	ハタタチヌメリ						4		1					1	4	10	4	
67		ネズミコチ	1					1			1						3	3	
68		トビヌメリ	1						1		1						3	3	
69		ネズボ科											○	○			-	2	
70	ハゼ科	ミミズハゼ														3	3	1	
71		イソミミズハゼ	17				4	2		1		1	1	1		5	32	8	
72		ヒモハゼ					1	5	1								7	3	
73		タネハゼ												1			1	1	
74		サビハゼ												1	1		2	2	
75		リュウグウハゼ	1														1	1	
76		マハゼ	1736	○	61	27	30	236	51	8	30	1	23	14	3	8	2228	14	
77		アシンロハゼ	306	○	40	221	991	456	74	68	8		4	10	3		2181	12	
78		アベハゼ	563	○	92	20	10	20	32	9	1		7			3	757	11	
79		マサゴハゼ	45	○	19	34											98	4	
80		アカオビシマハゼ					22	47	44	1	76		10	6	18	11	17	252	10
81		シマハゼ類	149	○													149	2	
82		チチブ	100	○	723	544	667	906	313	335		6	12	2	10	19	3637	13	
83		チチブ属									26		2	○	○		28	4	
84		ウロハゼ								4						5	9	2	
85		スジハゼ											29	45	11	12	97	4	
86		スジハゼ類					16	28	39	46	62	1	28				220	7	
87		ヒメハゼ	25				1	1	4	11	15	1	5	41	2	24	78	208	12
88		スミウキゴリ			1												1	1	
89		ニクハゼ	21	○			327	487	23	51	23		4	1	1	111	1049	11	
90		ビリンゴ	12		4	42			3	1	2		1				65	7	
91		ウキゴリ属												4	2	2	8	3	
92		アゴハゼ	13						1	13			41	11	1		80	6	
93		ドロメ				3				1		4				1	11	5	
94		ハゼ科											○				-	1	
95	クロユリハゼ科	サツキハゼ														6	6	1	
96	アイゴ科	アイゴ														1	1	1	
97	カレイ科	ホシガレイ								3							3	1	
98		イシガレイ	14	○									3				17	3	
99		マコガレイ	7	○						1			1			2	11	5	
100	ギマ科	ギマ														1	1	1	
101	カワハギ科	アミメハギ	3					4				4		11	2	4	28	6	
102		カワハギ	2									1				1	4	3	
103	フグ科	ヒガンフグ	16				1						2	1			20	4	
104		コモンフグ											4				4	1	
105		クサフグ	4				6	4		15		1	10	4	3	1	48	9	
106		トラフグ属											1				1	1	
107		フグ科					○	1									1	2	
		種類数	44	24	15	18	24	30	25	31	15	14	37	38	28	39			

注1) ○は目視観察による確認を示す。  
 注2) 「横浜市沿岸域における環境変化と魚類相」は第2報の調査を補足したものであり、事実上の2報である。表中では「横浜市魚類相」と表記する。

## 7.5. 魚類（内湾）

### 7.5.1. 概要

内湾魚類の出現種一覧表を表 7.107に示す。

各調査時季における出現種類数は、秋季調査で 30 種、冬季調査で 24 種、春季調査で 30 種、夏季調査で 27 種、4 季全体で 51 種であった。各地点の出現種数は、横浜港沖で 22 種、根岸湾沖で 28 種、金沢湾沖で 37 種であった。本調査における初出現種はカガミダイ、セトミノカサゴ、オニオコゼ、コウベダルマガレイ、シマウシノシタであった。

表 7.107 魚類（内湾）出現種一覧

調査日：（秋季）2024年11月 6日  
 （冬季）2025年 2月12日  
 （春季）2025年 4月30日  
 （夏季）2025年 7月23日  
 採取方法：底曳網

No.	目	科	属	学名	和名	地点			時季			
						横浜 港 沖	根 岸 湾 沖	金 沢 湾 沖	秋 季	冬 季	春 季	夏 季
1	ヌタウナギ	ヌタウナギ	ヌタウナギ	<i>Eptatretus burgeri</i>	ヌタウナギ		○	○				○
2	メジロザメ	ドチザメ	ホシザメ	<i>Mustelus manazo</i>	ホシザメ	○	○	○	○	○	○	○
3	カスザメ	カスザメ	カスザメ	<i>Squatina japonica</i>	カスザメ		○	○	○		○	
4	ガンギエイ	ガンギエイ	ガンギエイ	<i>Dipturus kwangtungensis</i>	ガンギエイ		○	○		○	○	
5			コモンカスベ	<i>Okamejei kenojei</i>	コモンカスベ		○	○	○		○	
6	トビエイ	アカエイ	アカエイ	<i>Hemirhynchus akajei</i>	アカエイ	○	○	○	○	○	○	○
7		ツバクロエイ	ツバクロエイ	<i>Gymnura japonica</i>	ツバクロエイ	○	○	○		○	○	○
8		トビエイ	トビエイ	<i>Myliobatis tobijei</i>	トビエイ		○				○	
9	ウナギ	アナゴ	クロアナゴ	<i>Conger myriaster</i>	マアナゴ	○	○		○		○	
10	ニシン	ニシン	コノシロ	<i>Konosirus punctatus</i>	コノシロ		○					○
11		カタクチイワシ	カタクチイワシ	<i>Engraulis japonica</i>	カタクチイワシ	○						○
12	ヒメ	エソ	マエソ	<i>Saurida macrolepis</i>	マエソ	○	○	○	○	○		
13	マトウダイ	マトウダイ	カガミダイ	<i>Zenopsis nebulosa</i>	カガミダイ	○						○
14	スズキ	メバル	カサゴ	<i>Sebastes marmoratus</i>	カサゴ			○				○
15		フサカサゴ	イソカサゴ	<i>Scorpaenodes evides</i>	イソカサゴ			○				○
16			セトミノカサゴ	<i>Parapterois heterura</i>	セトミノカサゴ	○				○		
17		ハオコゼ	ハオコゼ	<i>Hypodytes rubripinnis</i>	ハオコゼ			○	○		○	
18		オニオコゼ	オニオコゼ	<i>Inimicus japonicus</i>	オニオコゼ			○	○		○	○
19		ホウボウ	ホウボウ	<i>Chelidonichthys spinosus</i>	ホウボウ			○				○
20		コチ	コチ	<i>Platycephalus sp.2</i>	マゴチ		○	○	○	○		○
21			イネゴチ	<i>Cociella crocodila</i>	イネゴチ			○	○		○	○
22		スズキ	スズキ	<i>Lateolabrax japonicus</i>	スズキ		○	○	○	○	○	○
23	テンジクダイ	ツマグロイシモチ	Jaydia lineatus	Jaydia lineatus	テンジクダイ	○	○	○	○	○	○	○
24	アジ	マアジ	Trachurus japonicus	Trachurus japonicus	マアジ	○	○	○	○	○	○	○
25	イサキ	コショウダイ	Plectorhinchus cinctus	Plectorhinchus cinctus	コショウダイ		○	○				○
26	タイ	クロダイ	Acanthopagrus schlegelii	Acanthopagrus schlegelii	クロダイ		○	○	○	○	○	
27		マダイ	Pagrus major	Pagrus major	マダイ		○	○	○	○		
28		ニベ	シログチ	Pennahia argentata	シログチ	○	○	○	○	○	○	
29	キス	キス	Sillago japonica	Sillago japonica	シロギス	○	○			○		
30	イボダイ	イボダイ	Psenopsis anomala	Psenopsis anomala	イボダイ	○			○			
31	ネズツボ	ネズツボ	Repomucenus valenciennesi	Repomucenus valenciennesi	ハタタテス刈	○	○	○		○	○	○
32	ハゼ	アカハゼ	Amblychaetrichthys sciiistius	Amblychaetrichthys sciiistius	コモチジャコ			○	○		○	○
33			Amblychaetrichthys hexanema	Amblychaetrichthys hexanema	アカハゼ	○	○	○	○	○	○	
34	カマス	カマス	Sphyrna pinguis	Sphyrna pinguis	アカカマス	○		○				
35	タチウオ	タチウオ	Trichiurus japonicus	Trichiurus japonicus	タチウオ	○			○			
36	カレイ	ヒラメ	Paralichthys olivaceus	Paralichthys olivaceus	ヒラメ		○	○	○	○	○	○
37		ガンゾウビラメ	Pseudorhombus ocellifer	Pseudorhombus ocellifer	タマガンゾウビラメ			○	○	○	○	○
38	ダルマガレイ	コウベダルマガレイ	Crossorhombus kobensis	Crossorhombus kobensis	コウベダルマガレイ			○				○
39		ダルマガレイ	Engyprosopon multisquama	Engyprosopon multisquama	チカメダルマガレイ		○				○	
40	カレイ	メイタガレイ	Pleuronichthys lighti	Pleuronichthys lighti	メイタガレイ	○	○	○	○	○	○	○
41		ムシガレイ	Eopsetta grigorjewi	Eopsetta grigorjewi	ムシガレイ			○			○	
42		マガレイ	Pseudopleuronectes yokohamae	Pseudopleuronectes yokohamae	マコガレイ		○	○				○
43	ササウシノシタ	トビササウシノシタ	Aseraggodes kobensis	Aseraggodes kobensis	トビササウシノシタ	○			○	○	○	
44		シマウシノシタ	Zebrias zebrinus	Zebrias zebrinus	シマウシノシタ			○				○
45	ウシノシタ	イヌノシタ	Cynoglossus joyneri	Cynoglossus joyneri	アカシタビラメ	○	○	○	○	○	○	○
46	フグ	カワハギ	ウスバハギ	Aluterus monoceros	ウスバハギ			○				○
47		フグ	トラフグ	Takifugu pardalis	ヒガンフグ			○	○	○		○
48				Takifugu snyderi	ショウサイフグ			○		○	○	○
49				Takifugu flavipterus	コモンフグ		○	○	○	○	○	○
50				Takifugu rubripes	トラフグ	○			○			
51		サバフグ	Lagocephalus spadiceus	Lagocephalus spadiceus	シロサバフグ	○			○			
種 類 数						22	28	37	30	24	30	27

注1) ○は出現したことを示す。

注2) 分類体系、学名および和名等については、中坊編(2013)「日本産魚類検索 全種の同定 第三版」に準拠した。

## 7.5.2. 地点ごとの季節変化

## ①横浜港沖

横浜港沖での時季別出現種一覧を表 7.108に示す。

出現種類数は、秋季調査で 14 種、冬季調査、春季調査ともに 10 種、夏季調査で 1 種、4 季全体で 22 種であった。個体数は秋季調査で 135 個体、冬季調査で 98 個体、春季調査で 38 個体、夏季調査で 1 個体であった。20 個体以上漁獲された魚種は秋季調査でマアジ、シログチ、冬季調査でハタタテヌメリ、アカハゼであった。春季調査と夏季調査では 20 個体以上漁獲された魚種は無かった。

表 7.108 横浜港沖における魚類出現種一覧

採取方法:底曳網

No.	目	科	和名	時季調査日		秋季		冬季		春季		夏季	
				2024年11月6日		2025年2月12日		2025年4月30日		2025年7月23日			
				個体数 (個体)	湿重量 (g)	個体数 (個体)	湿重量 (g)	個体数 (個体)	湿重量 (g)	個体数 (個体)	湿重量 (g)		
1	メジロザメ	ドチザメ	ホシザメ	5	6,890					1	1,540		
2	トビエイ	アカエイ	アカエイ	1	240					11	11,564		
3		ツバクロエイ	ツバクロエイ							2	1,379		
4	ウナギ	アナゴ	マアナゴ	1	141					1	116		
5	ニシン	カタクチイワシ	カタクチイワシ									1	6
6	ヒメ	エソ	マエソ				2	63					
7	マトウダイ	マトウダイ	カガミダイ							1	25		
8	スズキ	フサカサゴ	セトミノカサゴ				1	11					
9		テンジクダイ	テンジクダイ	7	45	7	48	5	33				
10		アジ	マアジ	40	759								
11		ニベ	シログチ	65	6,960	4	199	7	508				
12		キス	シロギス			2	18						
13		イボダイ	イボダイ	4	553								
14		ネズッコ	ハタタテヌメリ			40	119	3	15				
15		ハゼ	アカハゼ	1	3	38	122						
16		カマス	アカカマス	5	1,193								
17		タチウオ	タチウオ	1	206								
18	カレイ	カレイ	メイタガレイ			1	243						
19		ササウシノシタ	トビササウシノシタ	2	27	1	17	4	107				
20		ウシノシタ	アカシタビラメ	1	78	2	2	3	210				
21	フグ	フグ	トラフグ	1	277								
22			シロサバフグ	1	18								
種類数				14		10		10		1			
個体数・湿重量合計				135	17,390	98	842	38	15,497	1	6		

注)分類体系、和名等については、中坊編(2013)「日本産魚類検索 全種の同定 第三版」に準拠した。



写真 7.22 横浜港沖の漁獲の状況（秋季）

②根岸湾沖

根岸湾沖での時季別出現種一覧を表 7.109に示す。

出現種類数は秋季調査で 17 種、冬季調査で 12 種、春季調査で 16 種、夏季調査で 4 種、4 季全体で 28 種であった。個体数は秋季調査で 277 個体、冬季調査で 160 個体、春季調査で 42 個体、夏季調査で 20 個体であった。20 個体以上漁獲された魚種は秋季調査でマアジ、冬季調査でシログチであった。春季調査と夏季調査では 20 個体以上漁獲された魚種は無かった。

表 7.109 根岸湾沖における魚類出現種一覧

採取方法:底曳網

No.	目	科	和名	秋季		冬季		春季		夏季		
				2024年11月6日	2025年2月12日	2025年4月30日	2025年7月23日					
				個体数 (個体)	湿重量 (g)	個体数 (個体)	湿重量 (g)	個体数 (個体)	湿重量 (g)	個体数 (個体)	湿重量 (g)	
1	スタウナギ	スタウナギ	スタウナギ							16	440	
2	メジロザメ	ドチザメ	ホシザメ	8	2,836							
3	カスザメ	カスザメ	カスザメ	1	5,740							
4	ガンギエイ	ガンギエイ	ガンギエイ			2	134	2	981			
5			コモンカスベ	1	404							
6	トビエイ	アカエイ	アカエイ	13	6,850	3	1,510	6	5,115	2	10,600	
7		ツバクロエイ	ツバクロエイ			5	7,255	3	1,680			
8		トビエイ	トビエイ					1	252			
9	ウナギ	アナゴ	マアナゴ	1	302			1	175			
10	ニシン	ニシン	コノシロ							1	108	
11	ヒメ	エソ	マエソ	1	992							
12	スズキ	コチ	マゴチ			3	1,746					
13			スズキ	スズキ	1	3,040			2	3,128		
14		テンジクダイ	テンジクダイ	10	35	1	7	9	58			
15		アジ	マアジ	219	7,390			2	104			
16		イサキ	コショウダイ					1	323			
17		タイ	クロダイ	2	2,089	13	11,708	1	797			
18			マダイ	3	1,847							
19		ニベ	シログチ	12	1,294	113	2,076	6	268			
20		キス	シロギス			3	31					
21		ネズッコ	ハタタテヌメリ			4	18	2	9			
22		ハゼ	アカハゼ	1	13	7	57	1	3			
23	カレイ	ヒラメ	ヒラメ	1	115			2	6,686			
24			チカメダルマガレイ						1	16		
25			メイタガレイ	1	150	2	478	2	473			
26			マコガレイ								1	5
27			ウシノシタ	アカシタビラメ	1	11	4	226				
28	フグ	フグ	コモンフグ	1	33							
種類数				17		12		16		4		
個体数・湿重量合計				277	33,141	160	25,246	42	20,068	20	11,153	

注)分類体系、和名等については、中坊編(2013)「日本産魚類検索 全種の同定 第三版」に準拠した。



写真 7.23 根岸湾沖の漁獲の状況（秋季）

## ③金沢湾沖

金沢湾沖での時季別出現種一覧を表 7.110に示す。

出現種類数は秋季調査、冬季調査ともに 16 種、春季調査で 18 種、夏季調査で 24 種、4 季全体で 37 種であった。個体数は秋季調査で 53 個体、冬季調査で 92 個体、春季調査で 48 個体、夏季調査で 125 個体であった。20 個体以上漁獲された魚種は冬季調査でマアジ、コモンフグ、夏季調査でテンジクダイ、コモンフグであった。秋季調査と春季調査で 20 個体以上漁獲された魚種は無かった。

表 7.110 金沢湾沖における魚類出現種一覧

No.	目	科	和名	地点 時季 調査日	金沢湾沖							
					秋季		冬季		春季		夏季	
					2024年11月6日	2025年2月12日	2025年4月30日	2025年7月23日				
				個体数 (個体)	湿重量 (g)	個体数 (個体)	湿重量 (g)	個体数 (個体)	湿重量 (g)	個体数 (個体)	湿重量 (g)	
1	スタウナギ	スタウナギ	スタウナギ							3	31	
2	メシロザメ	ドチザメ	ホシザメ		1	221	1	1,430	1	420	1	577
3	カスザメ	カスザメ	カスザメ						1	6,210		
4	ガンギエイ	ガンギエイ	ガンギエイ				2	1,860	5	2,787		
5			コモンカスベ						1	752		
6	トビエイ	アカエイ	アカエイ		2	2,920	14	49,321	2	1,120		
7		ツバクロエイ	ツバクロエイ							1	682	
8	ヒメ	エソ	マエソ		1	72	1	8				
9	スズキ	メバル	カサゴ							6	70	
10		フサカサゴ	イソカサゴ							3	18	
11		ハオコゼ	ハオコゼ		1	13			1	8		
12		オニオコゼ	オニオコゼ		1	103			1	209	2	202
13		ホウボウ	ホウボウ							1	145	
14		コチ	マゴチ		1	162	1	300		1	320	
15			イネゴチ		1	238			2	365	1	468
16		スズキ	スズキ				1	933			1	24
17	テンジクダイ	テンジクダイ	テンジクダイ		18	40	2	4	1	4	23	158
18	アジ	マアジ	マアジ		6	259	35	1,586				
19	イサキ	コショウダイ	コショウダイ						1	297		
20	タイ	クロダイ	クロダイ						1	572		
21		マダイ	マダイ		3	1,200	1	56				
22	ニベ	シログチ	シログチ		3	573	2	101	1	71		
23	ネズッコ	ハタタテスリ	ハタタテスリ								11	73
24	ハゼ	コモチジャコ	コモチジャコ		8	7			1	4	1	1
25		アカハゼ	アカハゼ				1	3				
26	カレイ	ヒラメ	ヒラメ				4	5,374			1	824
27		タマガンソウビラメ	タマガンソウビラメ		3	133	1	148	3	266	1	16
28	ダルマガレイ	コウバダママガレイ	コウバダママガレイ								1	9
29	カレイ	メイタガレイ	メイタガレイ		1	112					4	205
30		ムシガレイ	ムシガレイ						1	57		
31		マコガレイ	マコガレイ								4	411
32	ササウシノシタ	シマウシノシタ	シマウシノシタ								1	186
33	ウシノシタ	アカシタビラメ	アカシタビラメ						1	14	2	27
34	フグ	カワハギ	ウスバハギ								1	113
35		フグ	ヒガンフグ		1	378	1	599			2	745
36			シヨウサイフグ				1	218	18	1,585	7	1,200
37			コモンフグ		2	146	24	1,955	6	417	46	3,354
種 類 数					16		16		18		24	
個体数・湿重量合計					53 / 6,577		92 / 63,896		48 / 15,158		125 / 9,859	

注) 分類体系、和名等については、中坊編(2013)「日本産魚類検索 全種の同定 第三版」に準拠した。



写真 7.24 金沢湾沖の漁獲の状況（秋季）

7.5.魚類（内湾）

7.5.3. レッドリスト等掲載種

レッドリスト等掲載種一覧を表 7.111に、該当種の写真を写真 7.25に示す。

レッドリスト等掲載種は、ホシザメ、カスザメ、ガンギエイ、コモンカスベ、ツバクロエイ、トビエイ、コモチジャコおよびアカハゼの8種であった。該当種は全て2017年3月に環境省が公表した、「環境省版海洋生物レッドリスト」に掲載されている種類であった。

表 7.111 魚類（内湾）レッドリスト等掲載種一覧

調査日：(秋季) 2024年11月6日  
 (冬季) 2025年2月12日  
 (春季) 2025年4月30日  
 (夏季) 2025年7月23日

採取方法：底曳網

No.	目	科	属	学名	和名	地点			時季				レッドリスト等 掲載種の 選定基準	
						横 浜 港 沖	根 岸 湾 沖	金 沢 湾 沖	秋 季	冬 季	春 季	夏 季		
1	メジロザメ	ドチザメ	ホシザメ	<i>Mustelus manazo</i>	ホシザメ	○	○	○	○	○	○	○	○	環海:NT
2	カスザメ	カスザメ	カスザメ	<i>Squatina japonica</i>	カスザメ		○	○	○		○			環海:NT
3	ガンギエイ	ガンギエイ	ガンギエイ	<i>Dipturus kwangtungensis</i>	ガンギエイ		○	○		○	○			環海:DD
4			コモンカスベ	<i>Okamejei kenojei</i>	コモンカスベ		○	○	○		○			環海:DD
5	トビエイ	ツバクロエイ	ツバクロエイ	<i>Gymnura japonica</i>	ツバクロエイ	○	○	○		○	○	○		環海:DD
6		トビエイ	トビエイ	<i>Myliobatis tobijei</i>	トビエイ		○				○			環海:DD
7	スズキ	ハゼ	アカハゼ	<i>Amblychaeturichthys scistius</i>	コモチジャコ			○	○		○	○		環海:NT
8				<i>Amblychaeturichthys hexanema</i>	アカハゼ	○	○	○	○	○	○	○		環海:NT
種類数						3	7	7	5	4	8	3		

注1)○は出現したことを示す。

注2)分類体系、学名および和名等については、中坊編(2013)「日本産魚類検索 全種の同定 第三版」に準拠した。

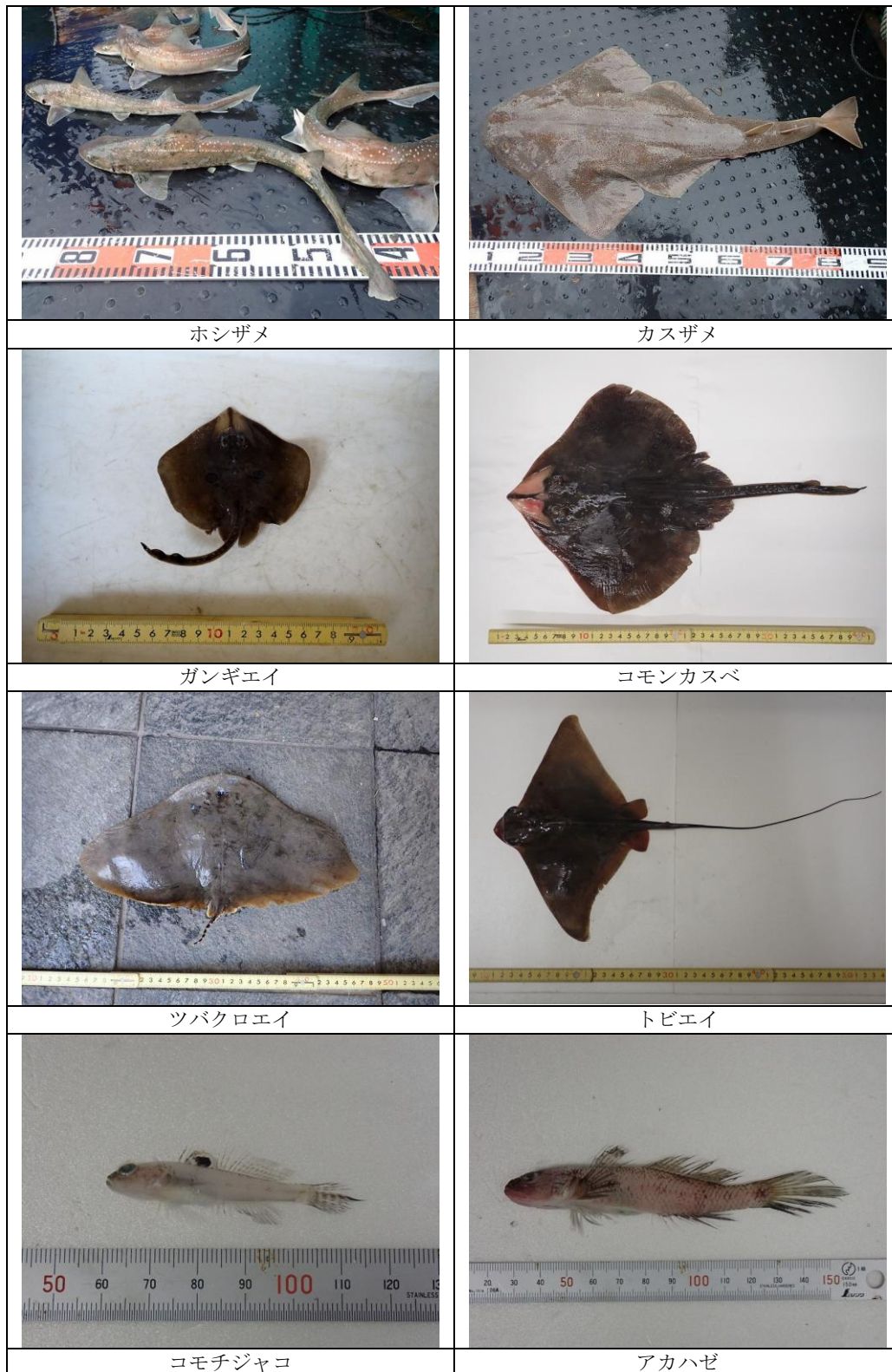


写真 7.25 魚類（内湾）レッドリスト等掲載種

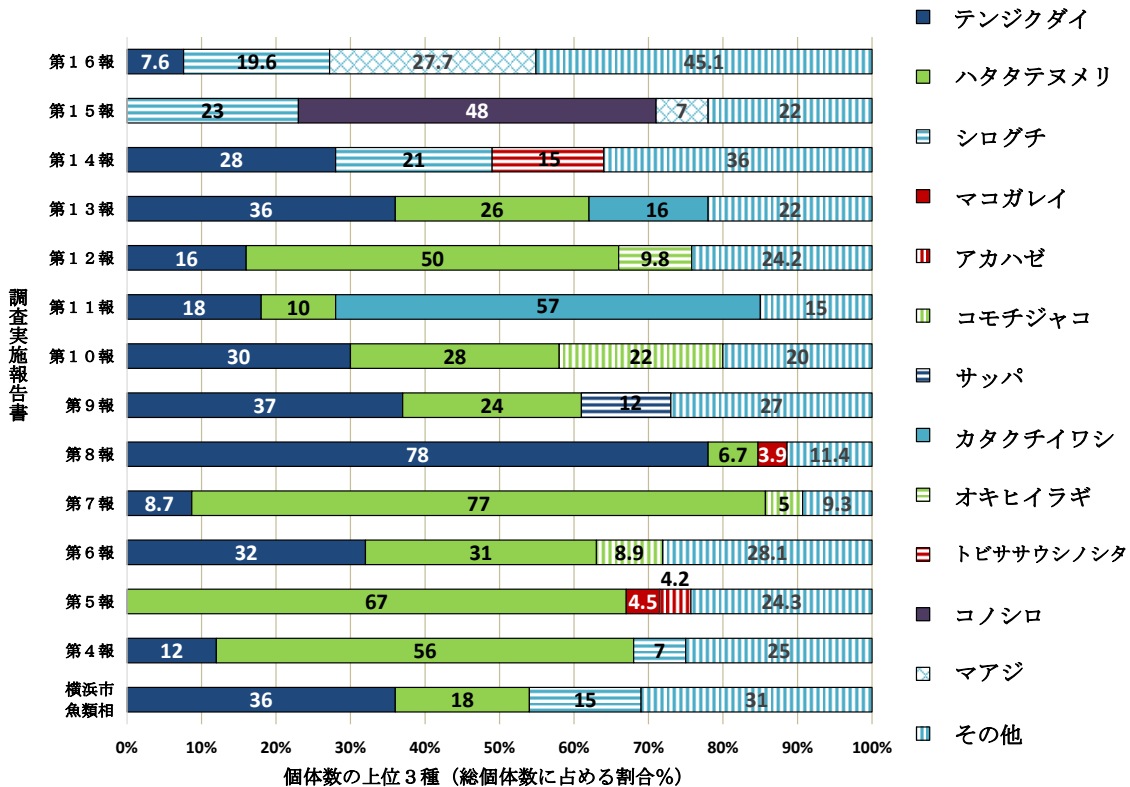
#### 7.5.4. 外来種

内湾調査において、魚類の外来種は出現しなかった。

7.5.5. 経年変化

(1) 優占種の経年変化

内湾域における魚類調査では、金沢湾、根岸湾、横浜港の3地点において、小型底曳網を用いて底層に生息する魚を採取している。調査は「横浜市沿岸域における環境変化と魚類相」（事実上の第2報）から第16報まで全14回行われており、これまでに154種類の魚類が確認されている。各調査における魚類の優占種の変遷を図7.25に示す。マアジ、テンジクダイおよびシログチが個体数の上位3種であった。テンジクダイは14回中12回で、個体数が上位3位以内に入っている。シログチは第14報以降、継続して上位3種に入っている。



注) 「横浜市沿岸域における環境変化と魚類相」は第2報の調査を補足したものであり、事実上の2報である。図中では「横浜市魚類相」と表記する。

図 7.25 内湾魚類の優占種の変遷

(2) 出現種の経年変化

内湾域（全地点）における魚類の出現種の変遷を表7.112(1)、(2)に示す。14回全てにおいて確認されている種は、ホシザメ、マアナゴ、スズキ、テンジクダイ、シログチ、ハタタテヌメリ、アカハゼ、マコガレイの8種であり、海の底に棲む、いわゆる底生魚がその多くを占めている。

表 7.112 (1) 内湾域における魚類相の変遷

No.	科名	報告書名 調査年 曳網回数	横浜市	第4報	第5報	第6報	第7報	第8報	第9報	第10報	第11報	第12報	第13報	第14報	第15報	第16報	総計	確認回数
			魚類相	1984	1987	1990	1993	1996	1999	2002	2005	2009	2012	2016	2020	2024		
			1976 -1977	1984 -1985	1987 -1988	1990	1993	1996 -1997	1999 -2000	2002 -2003	2005	2009	2012 -2013	2016 -2017	2020 -2021	2024 -2025		
個体数	個体数	個体数	個体数	個体数	個体数	個体数	個体数	個体数	個体数	個体数	個体数	個体数	個体数	個体数	個体数			
1	スタウナギ科	ホソスタウナギ					1									1	1	
2		スタウナギ		1			2	10		1						19	33	5
3	ドチザメ科	ホシザメ	2	25	14	18	24	63	11	44	8	6	18	57	18	18	326	14
4		シロザメ						6	3								9	2
5		ドチザメ					1						1	2			4	3
6	カスザメ科	カスザメ														2	2	1
7	ガンギエイ科	メガネカスベ						2	1								3	2
8		ガンギエイ					1		1	15		6		5	26	11	65	7
9		コモンカスベ											3			2	5	2
10		ツマリカスベ															5	1
11	アカエイ科	アカエイ	3	9		5	10	20	4	4	1	5	12	7	22	54	156	13
12	ツバクロエイ科	ツバクロエイ	2	1	1	1	2		1			1	7	10	11		37	10
13	トビエイ科	トビエイ	2		1	3	1	4	4	1	1				4	1	23	11
14	ウツボ科	アミウツボ					2			1					1		4	3
15	アナゴ科	マアナゴ	131	143	4	5	225	27	75	210	10	12	31	8	9	4	894	14
16		クロアナゴ		4		1				2			1				8	4
17	ハモ科	ハモ													1		1	1
18	ニシン科	マイワシ	1	40		2	244	4		1							292	6
19		サツバ		49			331	58	1298				6				1742	5
20		コノシロ	13	105		4	4	20	1	7			7	3	1047	1	1212	11
21	カタクチイワシ科	カタクチイワシ	2	7	3		480	61	370		829		955			1	2708	9
22	エソ科	マエソ				2										5	7	2
23		ワニエソ												1	1		2	2
24	ハダカイワシ科	イワハダカ							1								1	1
25	チゴダラ科	チゴダラ					7	4		4							15	3
26		エソイソアイナメ	6	1		2											9	3
27		チゴダラ科											1				1	1
28	サイウオ科	サイウオ					1	1									2	2
29	アシロ科	シオイタチウオ								3							3	1
30	アンコウ科	アンコウ				1		5									6	2
31		キアンコウ							1								1	1
32	カエルアンコウ科	カエルアンコウ			1		1			1			1				4	4
33	ヒウチダイ科	ハシキンメ	4	1		1	2	14		12							34	6
34	マツカサウオ科	マツカサウオ		1													1	1
35	マトウダイ科	カガミダイ														1	1	1
36		マトウダイ									1						1	1
37	ヨウジウオ科	ヨウジウオ		2		3		1									6	3
38	メバル科	カサゴ		5	1	3	6	4		18	1		13	4	3	6	64	11
39		メバル類	2				2	6	5	1							16	5
40		ムラソイ		1						1							2	2
41	フサカサゴ科	セトミノカサゴ															1	1
42		ミノカサゴ					1										1	1
43		コクチフサカサゴ		3						5			16	3			27	4
44		フサカサゴ					1		1				1				3	3
45		イソカサゴ														3	3	1
46	ハチ科	ハチ	1				1		3	2			1				8	5
47	ハオコゼ科	ハオコゼ					3	2	1	8		15	150	7	1	2	189	9
48	オニオコゼ科	オニオコゼ														4	4	1
49	イボオコゼ科	アブオコゼ			4	1	8	79	2				1				95	6
50	ホウボウ科	ホウボウ	1				3	7			2		2	3	4	1	23	8
51		イゴダカホデリ													1		1	1
52		カナガシラ	14			1								1			16	3
53	コチ科	マゴチ					2	5		5		1	2	12	12	6	45	8
54		イネゴチ		2				1		5			3		7	4	22	6
55		メゴチ	1				2		1					1	1		6	5
56		オニゴチ										1	2				3	2
57		コチ科		3	6	1											10	3
58	アイナメ科	アイナメ	8	105	25	16	8	23					4				189	7
59	カジカ科	セトカジカ				1											1	1
60	スズキ科	スズキ	15	3	6	8	7	21	69	2	5	1	29	11	15	5	197	14
61	ホタルジャコ科	アカムツ					3										3	1
62		ホタルジャコ		8			10	44	4	15	14		16	31			142	8
63	アゴアマダイ科	ニラミアマダイ								2							2	1
64	キントキダイ科	コマヒレキントキ					1										1	1
65		キントキダイ			1	1			4								6	3
66	テンジクダイ科	テップウイシモチ					1										1	1
67		ネンブツダイ					2						1				3	2
68		クロイシモチ											1				1	1
69		マトイシモチ					1	1									2	2
70		テンジクダイ	1445	788	51	856	3738	620	3951	3382	258	252	2210	358	134	83	18126	14
71	アジ科	マアジ	4	42		9	182	178	86	20	3	15	18	53	153	302	1065	13
72		マルアジ										7					7	1
73	ヒイラギ科	ヒイラギ	18	53		8	29		5	10	3	6	89	5			226	10
74		ヒメヒイラギ												1			1	1
75		オキヒイラギ			1					8		151	35	1	1		197	6
76	イサキ科	イサキ							1								1	1
77		コロダイ											2				2	1
78		コショウダイ		1					10		1	1				2	15	5
79	タイ科	クロダイ				3		4	1						12	17	37	5
80		マダイ							1		1		2	2	4	7	17	6
81		チダイ						2				1	1				4	3
82	ニベ科	ニベ		1		2	1	15		13							32	5
83		シログチ	613	456	22	126	520	59	371	276	31	30	254	270	512	213	3753	14
84	キス科	シログス		48	2	15	83		35	18	3	15	35			5	259	10
85		キス属															21	1
86	ヒメジ科	ヒメジ	1	6		1	3				1	3	1	1			17	8
87	チョウチョウオ科	ゲンロクダイ							1								1	1
88	アカタチ科	スミツキアカタチ								2							2	1
89		アカタチ					1	1									2	2
90	ウミタナゴ科	マタナゴ											1				1	1
91		ウミタナゴ類	1			8				2							12	4
92	インダイ科	インダイ			1												1	1
93	カゴカキダイ科	カゴカキダイ				4		1									5	2
94	イボダイ科	イボダイ		2	8	14	6	660	44			7	1	30	2	4	778	11
95		ボウズコンニャク				1											1	1
96	ベラ科	キュウセン										2					2	1
97	タウエガシ科	ダイナンギンボ							1								1	1
98	ニシキギンボ科	ギンボ	78	7	3	4	36	2	12	4		1					147	9
99		タケギンボ					3		3								6	2
100	トラギス科	トラギス					1										1	1

表 7.112 (2) 内湾域における魚類相の変遷

No.	科名	報告書名 調査年 曳網回数	横浜市魚類相													総計	確認回数			
			第4報	第5報	第6報	第7報	第8報	第9報	第10報	第11報	第12報	第13報	第14報	第15報	第16報					
			1976 -1977	1984 -1985	1987 -1988	1990	1993	1996 -1997	1999 -2000	2002 -2003	2005	2009	2012 -2013	2016 -2017	2020 -2021			2024 -2025		
			17	17	3	13	16	26	13	6	6	12	12	12	12					
101	トラギス科	クラカケトラギス	1										1			2	2			
102	ミシマオコゼ科	ミシマオコゼ		1			3	1					3	1		9	5			
103	ネズッコ科	ヤリスメリ										1				1	1			
104		ハタテヌメリ	700	3627	861	825	33693	7300	2600	3170	146	769	1585	69	5	60	55410	14		
105		ネズミゴチ		4	1								1			6	3			
106		ヌメリゴチ						1								1	1			
107		トビヌメリ	1										1			2	2			
108		セトヌメリ						1								1	1			
109	ハゼ科	アカオオ								1							1	1		
110		コモチシヤコ	209	279	19	240	2185	47	191	2475	89	47				10	5791	11		
111		アカハゼ	409	113	54	213	201	146	187	87	15	2	29	65	9	49	1579	14		
112		サビハゼ	7				4			1	1						13	4		
113		リュウグウハゼ	1				13			7							21	3		
114		マハゼ	5	132	11	13	5										166	5		
115		シマハゼ類		1													1	1		
116		モウハゼ	90	99	16	81	1045	14	457	631	25	141	74				2673	11		
117		イトヒキハゼ					5			7	1		2	1			16	5		
118		ミサキシハゼ											1				1	1		
119	カマス科	アカカマス				1		1		12		1	11		5	5	36	7		
120	タチウオ科	タチウオ		2		6	1	2	39	188			1				3	1	243	9
121	サバ科	マサバ				1												1	1	
122	ヒラメ科	ヒラメ	2			1		2	16	2	1	3	1			6	13	8	55	11
123		アマガレイ								1								1	1	
124		タマガンゾウビラメ	3					3	1					17	89	8	121	6		
125	ダルマガレイ科	コウベダルマガレイ															1	1	1	
126		チカメダルマガレイ							2								1	3	2	
127	カレイ科	メイタガレイ	19	1									2	4	3	11	40	6		
128		ナガレメイタガレイ						1									1	1		
129		ホシガレイ		1													1	1		
130		ムシガレイ	8					1							2	1	12	4		
131		イシガレイ	29	24	13	31	8	2		6			1				114	8		
132		マコガレイ	91	234	58	97	308	367	16	23	5	6	7	21	6	5	1244	14		
133	ササウシノシタ科	ササウシノシタ					1					5					6	2		
134		トビササウシノシタ								3			30	185	22	7	247	5		
135		セトウシノシタ											2	1			3	2		
136		シマウシノシタ														1	1	1		
137	ウシノシタ科	クロウシノシタ						1									1	1		
138		ゲンコ	1	5		9	173	33	108	335	3	5	313	15	4		1004	12		
139		イヌノシタ										1					1	1		
140		アカシタビラメ					1						6		7	14	28	4		
141		イヌノシタ属										2					2	1		
142	ベニカワムキ科	ベニカワムキ		1													1	1		
143	ギマ科	ギマ							1	1							2	2		
144	カワハギ科	ウスハハギ				1										1	2	2		
145		アミメハギ		1	1		1			6			80				89	5		
146		ウマヅラハギ	2	20	50	1	2	1						1			77	7		
147		カワハギ	2	8	42	23	6	10	46	3	1	3	1	2	1		148	13		
148		ヨソギ												1			1	1		
149	フグ科	ヒガシフグ	2							3						4	9	3		
150		ショウサイフグ	8					2					3	12	1	26	52	6		
151		コモンフグ										2			1	79	82	3		
152		クサフグ		1													1	1		
153		トラフグ				1										1	2	2		
154		シロサバフグ			8	18	3	3	1				2		1	1	37	8		
		種類数	45	50	34	50	68	58	48	57	26	35	55	47	44	51				

注1)〇は目視観察による確認を示す。

注2)「横浜市沿岸域における環境変化と魚類相」は第2報の調査を補足したものであり、事実上の2報である。表中では「横浜市魚類相」と表記する。

## (3) 種類数の経年変化

内湾域（全地点）における魚類の種類数の変遷を図 7.26に示す。曳網回数が少ない第 5 報（曳網回数 3 回）、第 11 報および第 12 報（曳網回数 6 回）は種類数が減少したが、それ以外は概ね 50 種前後で推移している。

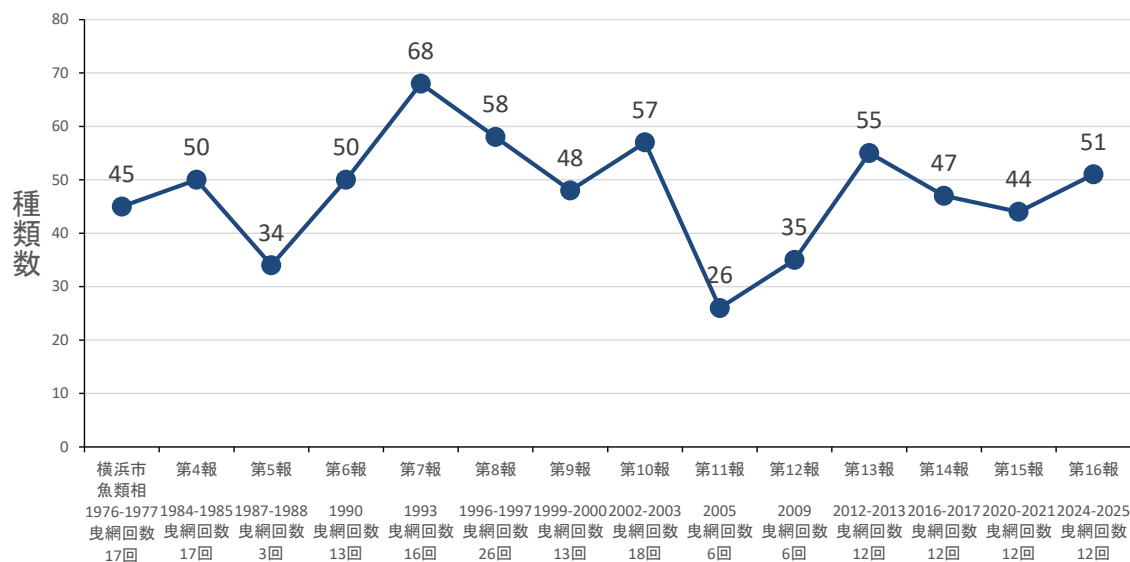


図 7.26 内湾魚類の種類数の変遷

## (4) 個体数の経年変化

内湾域（全地点）における魚類の個体数の変遷を図 7.27に示す。採取した個体数は減少傾向にあり、採取した個体数が最も多かった第 7 報（1993 年）では 43,706 個体（曳網 1 回あたり 2,732 個体）であったのに対し、今回の調査では過去最も少ない 1,089 個体（曳網 1 回あたり 91 個体）であった。

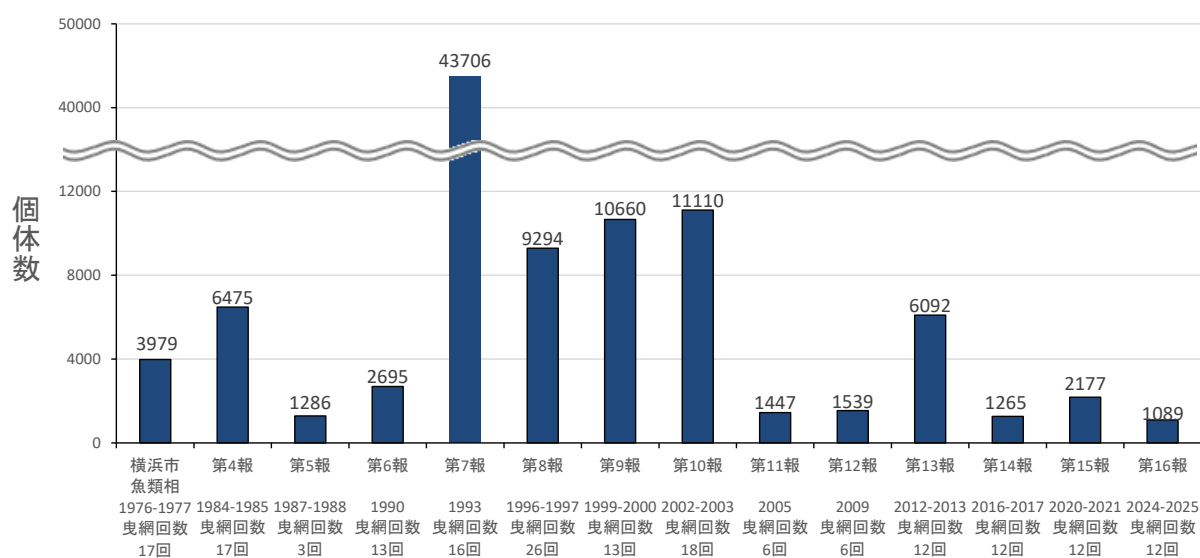


図 7.27 内湾魚類の個体数の変遷

7.6. 底生動物

7.6.1. 概要

底生生物種組成を図 7.28に、地点別種類数を図 7.29に、時季別種類数を図 7.30に、出現一覧を表 7.113に示す。

底生動物調査で確認した種類数は 80 種類であった。

動物門別の組成は、軟体動物門 12 種類 (15%)、環形動物門 50 種類 (63%)、節足動物門 11 種類 (14%) その他 7 種類 (9%) で、環形動物門が最も多かった。

地点別の種類数は、27~57 種類の範囲にあり、根岸湾口で最も多く、横浜港口で最も少なかった。

時季別の種類数は秋季調査で 41 種類、冬季調査で 38 種類、春季調査で 46 種類、夏季調査で 44 種類であった。

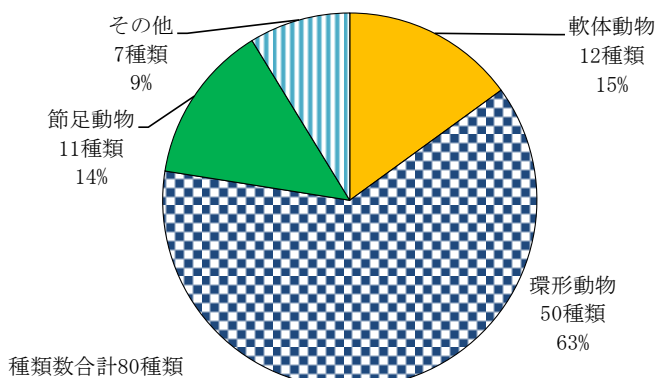


図 7.28 底生動物種組成

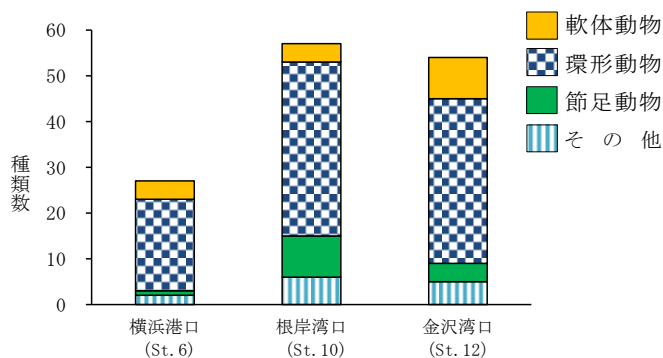


図 7.29 底生動物地点別種類数

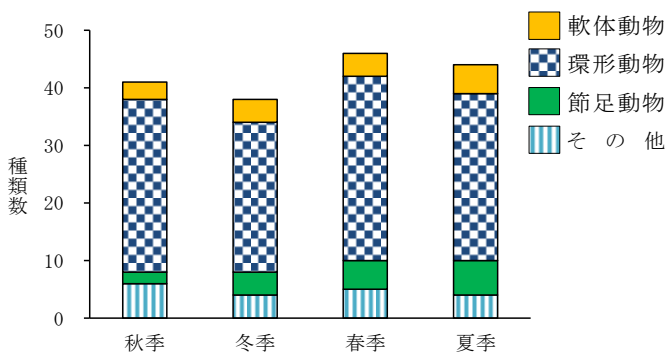


図 7.30 底生動物時季別種類数

表 7.113 底生動物出現種一覧

調査日：(秋季) 2024年11月 6日  
(冬季) 2025年 2月12日  
(春季) 2025年 4月30日  
(夏季) 2025年 7月23日  
採取方法：採泥器

No.	門	綱	目	科	学名	和名	地点			時季				レッドリスト等掲載種	外来種				
							横浜港口 (St. 6)	根岸港口 (St.10)	金沢湾口 (St.12)	秋 季	冬 季	春 季	夏 季						
1	刺胞動物	花虫	ウミエラ	ヤナギウミエラ	<i>Virgularia</i> sp.	ヤナギウミエラ属													
2	紐形動物	無針	異紐虫	リネウス	Lineidae	リネウス科													
3					ANOPLA	無針綱													
4					NEMERTINEA	紐形動物門													
5	軟体動物	腹足	異旋	トウガタガイ	<i>Orinella pulchella</i>	クチキレガイ									●				
6					Turbanilla sp.	トランビラ属													
7			頭楯	キセワタガイ	Phillinidae	キセワタガイ科													
8		楯足	ソウゲツノガイ	ソウゲツノガイ	<i>Dentalium (Paradentalium) octangulatum</i>	ヤカドソノガイ													
9		二枚貝	マルズダレガイ	キヌタレガイ	<i>Petrasma pusilla</i>	キヌタレガイ										●			
10				イガイ	<i>Musculista senhousia</i>	ホトギスガイ													
11				バカガイ	<i>Raetellops pulchellus</i>	チノノハナガイ													
12				ニッコウガイ	<i>Nitidotellina hokkaidoensis</i>	サクラガイ												●	
13					<i>Macoma tokyoensis</i>	ゴイスギ													
14				アサジガイ	<i>Theora fragilis</i>	シズクガイ													
15		ケンハマグリ	<i>Alwenius ojanus</i>	セントリガイ															
16		ウシタケガイモドキ	スエモノガイ	Thraciidae	スエモノガイ科														
17		環形動物	多毛	サンバゴカイ	サンバゴカイ	<i>Eumida</i> sp.	マダラサンバゴカイ属												
18						<i>Phyllodoce</i> sp.	Phyllodoce 属												
19						Phyllodocidae	サンバゴカイ科												
20						チロリ	<i>Glycella alba</i>	アルバチロリ											
21					<i>Glycera nicobarica</i>	チロリ													
22					<i>Glycera</i> sp.	Glycera 属													
23					ニカイチロリ	<i>Glycinde</i> sp.	Glycinde 属												
24					オトヒメゴカイ	<i>Podarkeopsis brevipalpa</i>	タレメオトヒメゴカイ												
25					Hesionidae	オトヒメゴカイ科													
26					カギゴカイ	<i>Sigambra hanaokai</i>	ハナオカカギゴカイ												
27					ゴカイ	<i>Necteanthes oxypoda</i>	オウギゴカイ												
28					シロガネゴカイ	<i>Nephtys oligobranchia</i>	コノハシロガネゴカイ												
29					ウロコムシ	<i>Harmothoe</i> sp.	Harmothoe 属												
30					タンザクゴカイ	Chrysopetalidae	タンザクゴカイ科												
31					ギボシイソム	<i>Limbrineris nipponica</i>	ゴアシギボシイソム												
32						<i>Ninoe palmata</i>	エラギボシイソム												
33						<i>Scoletoma longifolia</i>	カタマカリギボシイソム												
34					コイソム	<i>Schistomeringos rudolphi</i>	ルドルフイソム												
35					ホコサキゴカイ	<i>Naineris</i> sp.	Naineris 属												
36						<i>Paradoneis nipponica</i>	ニホンヒメエラゴカイ												
37						Paraonidae	ヒメエラゴカイ科												
38					スピオ	トックリゴカイ	Poecilochaetidae	トックリゴカイ科											
39						Aonides oxycephala	ケンサキシスピオ												
40						Paraprionospio coora	スバズバハネエラスピオ												
41						Paraprionospio patiens	シノブハネエラスピオ												
42						<i>Polydora</i> sp.	Polydora 属												
43						<i>Prionospio (Aquilaspio) krusadensis</i>	ミツバナスピオ												
44						<i>Prionospio (Aquilaspio) sexoculata</i>	フタエラスピオ												
45						<i>Prionospio (Minuspio) pulchra</i>	イトエラスピオ												
46						<i>Pseudopolydora kempi japonica</i>	ドロオニスピオ												
47						<i>Pseudopolydora</i> sp.	Pseudopolydora 属												
48						<i>Scolecopsis</i> sp.	Scolecopsis 属												
49			<i>Spiophanes japonicum</i>	ニホンエラナシスピオ															
50		ツバサゴカイ	ツバサゴカイ	<i>Spiochaetopterus okudai</i>	アシビキツツバサゴカイ														
51		モロテゴカイ	モロテゴカイ	<i>Magelona</i> sp.	Magelona 属														
52		ミスヒキゴカイ	ミスヒキゴカイ	<i>Cirriiformia cf. comosa</i>	ミスヒキゴカイ														
53			<i>Chaetozone</i> sp.	Chaetozone 属															
54			<i>Tharyx</i> sp.	Tharyx 属															
55			Cirratulidae	ミスヒキゴカイ科															
56		イトゴカイ	イトゴカイ	<i>Capitellethus</i> sp.	Capitellethus 属														
57			Mediomastus sp.	Mediomastus 属															
58			タケフシゴカイ	<i>Clymenella collaris</i>	エリタケフシゴカイ														
59			<i>Praxillella</i> sp.	Praxillella 属															
60			Maldanidae	タケフシゴカイ科															
61		フサゴカイ	ウミイサゴムシ	<i>Lagis bocki</i>	ウミイサゴムシ														
62			カンムリゴカイ	<i>Idanthyrsus pennatus</i>	ナガオカンムリ														
63			カザリゴカイ	Ampharetidae	カザリゴカイ科														
64			フサゴカイ	<i>Streblosoma</i> sp.	Streblosoma 属														
65		ケヤリムシ	ケヤリムシ	<i>Euchone</i> sp.	Euchone 属														
66			<i>Sabellastarte</i> sp.	Sabellastarte 属															
67	節足動物	軟甲	端脚	スガメソコエビ	<i>Ampelisca brevicornis</i>	クビナガスガメ													
68					ユンボソコエビ	<i>Aoroides</i> sp.	ユンボソコエビ属												
69					クチバシソコエビ	<i>Synchelidium</i> sp.	サンバツソコエビ属												
70				フレカラ	<i>Caprella scaura</i>	トグワレカラ													
71				<i>Caprella</i> sp.	フレカラ属														
72			クーマ	クーマ	<i>Iphinoe sagamiensis</i>	ホソナギサクーマ													
73				テップウエビ	<i>Alpheus</i> sp.	テップウエビ属													
74				アナジャコ	<i>Upogebia</i> sp.	アナジャコ属													
75				クモガニ	<i>Pyromaita tuberculata</i>	イッカククモガニ										●			
76				ガザミ	<i>Portunus (Portunus) trituberculatus</i>	ガザミ													
77				カクレガニ	Pinnotheridae	カクレガニ科													
78		棘皮動物	ヒトデ	モミジガイ	<i>Astropecten scoparius</i>	モミジガイ													
79				クモヒトデ	閉尾	<i>Ophiura kinbergi</i>	クシノハクモヒトデ												
80			ナマコ	無足	イカリナマコ	Synaptidae	イカリナマコ科												

注1) ○は出現したことを示す。

注2) ●はレッドリスト等掲載種・外来種に該当したことを示す。

注3) 学名及び分類群順は西村編(1992, 1995)「原色検索 日本海岸動物図鑑 I、II」他に準拠した。

7.6.底生動物

7.6.2. 地点ごとの季節変化

①横浜港口 (St.6)

横浜港口 (St.6) の底生動物出現種一覧を表 7.114に示す。

出現種類数は、秋季調査で 8 種類、冬季調査で 9 種類、春季調査で 18 種類、夏季調査で 10 種類、4 季合わせて計 27 種類であった。

表 7.114 横浜港口 (St.6) における底生動物出現種一覧

調査方法：エカマンパージ型採泥器 (0.0225m<sup>2</sup>) × 5回  
 単位：個体/0.1125m<sup>2</sup>、g/0.1125m<sup>2</sup>

No.	門	和名	秋季		冬季		春季		夏季	
			個体数 (個体)	湿重量 (g)	個体数 (個体)	湿重量 (g)	個体数 (個体)	湿重量 (g)	個体数 (個体)	湿重量 (g)
1	紐形動物	無針綱					5	0.09		
2	軟体動物	ホトギスガイ					1	0.03		
3		ゴイサギ							1	0.55
4		シズクガイ					10	0.03	7	0.11
5		ケントリガイ					3	+	1	+
6		環形動物	マダラサシバゴカイ属	2	0.01			2	0.01	
7		アルパチロリ					4	0.13		
8		チロリ			2	0.26				
9		Glycera 属			3	0.02				
10		Glycinde 属			2	0.02	5	0.02		
11		タレメオトヒメゴカイ	2	+	2	+			1	+
12		ハナオカカギゴカイ	1	+	3	0.02	3	0.01	2	0.01
13		オウギゴカイ	1	0.09	4	0.74	2	0.90		
14		コノシロガネゴカイ					3	+		
15		Harmothoe 属					1	+		
16		コアシギボシイソメ					2	0.01		
17		カタマガリギボシイソメ							1	0.01
18		スペースハネエラスピオ					3	0.23	3	0.01
19		シノハネエラスピオ	19	0.26	53	1.17	50	1.62	19	0.44
20		フタエラスピオ	2	+						
21		イトエラスピオ	30	0.02	1	+			4	0.01
22		Chaetozone 属					11	0.04		
23		Capitellethus 属							1	0.01
24		Mediomastus 属					1	0.01		
25		Euchone 属					1	+		
26	節足動物	サンバツソコエビ属			1	+				
27	棘皮動物	クシノハクモヒトデ	1	0.03			1	+		
種類数			8		9		18		10	
個体数・湿重量合計			58	0.41	71	2.23	108	3.13	40	1.15

注1) +表示は0.01g未満を示す。

注2) 学名及び分類群順は西村編(1992、1995)「原色検索 日本海岸動物図鑑 I、II」他に準拠した。

## a) 種組成

横浜港口（St.6）の底生動物種組成を図 7.31に、時季別種類数を図 7.32に示す。

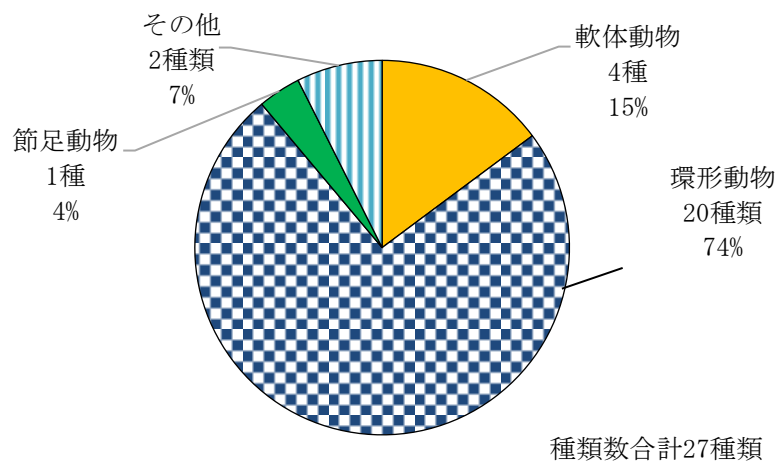


図 7.31 横浜港口 (St.6) における底生動物種組成

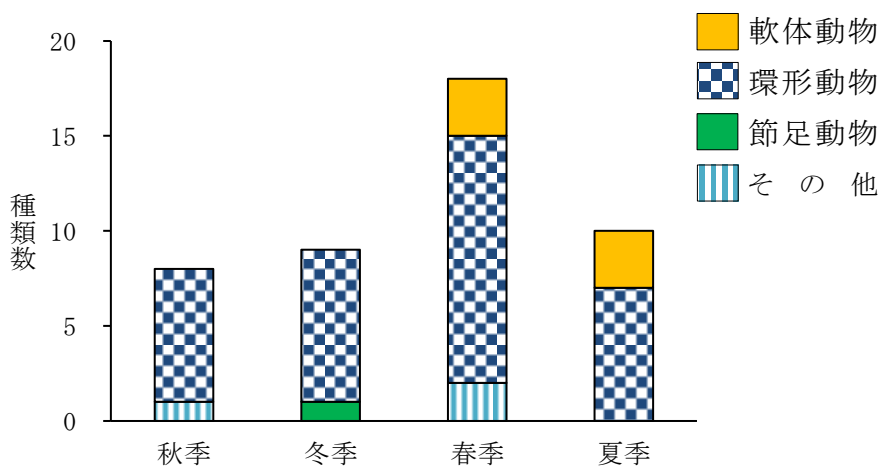


図 7.32 横浜港口 (St.6) における底生動物時季別種類数

## b) 個体数および優占種

横浜港口 (St.6) の底生動物門別個体数を表 7.115に、時季別個体数を図 7.33に、時季別優占種を表 7.116に示す。

個体数は4季ともに環形動物門がそのほとんどを占めた。

組成比10%以上を示す優占種は、秋季調査でイトエラスピオ (30 個体、51.7%)、シノブハネエラスピオ (19 個体、32.8%)、冬季調査でシノブハネエラスピオ (53 個体、74.6%)、春季調査でシノブハネエラスピオ (50 個体、46.3%)、*Chaetozone* 属 (11 個体、10.2%)、夏季調査でシノブハネエラスピオ (19 個体、47.5%)、シズクガイ (7 個体、17.5%)、イトエラスピオ (4 個体、10.0%) であった。

表 7.115 横浜港口 (St.6) における底生動物門別個体数

時季	秋季		冬季		春季		夏季	
	個体数 (個体/0.1125 m <sup>2</sup> )	組成比 (%)	個体数 (個体/0.1125 m <sup>2</sup> )	組成比 (%)	個体数 (個体/0.1125 m <sup>2</sup> )	組成比 (%)	個体数 (個体/0.1125 m <sup>2</sup> )	組成比 (%)
軟体動物					14	13.0	9	22.5
環形動物	57	98.3	70	98.6	88	81.5	31	77.5
節足動物			1	1.4				
その他	1	1.7			6	5.6		
合計	58	100	71	100	108	100	40	100

注) 組成比の数値は小数点1桁で四捨五入しているため、合計が100%にならない場合がある。

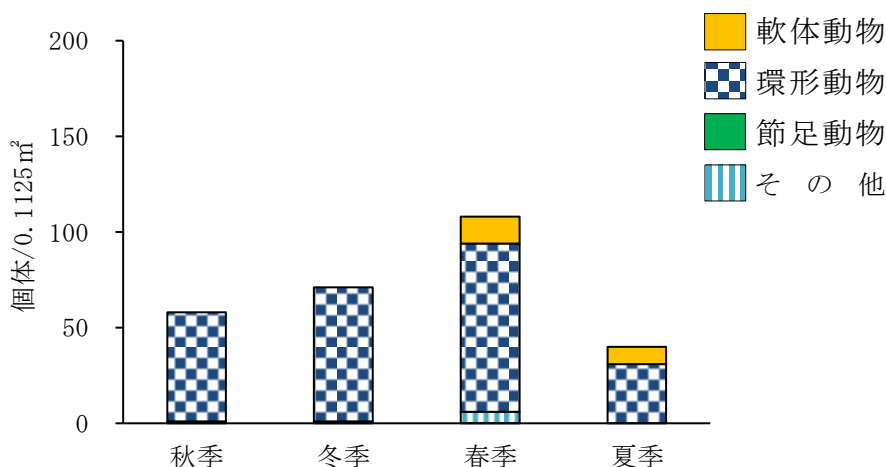


図 7.33 横浜港口 (St.6) における底生動物時季別個体数

表 7.116 横浜港口 (St.6) における底生動物時季別優占種 (個体数)

時季	単位: 個体/0.1125m <sup>2</sup>			
	秋季	冬季	春季	夏季
優占種の個体数 および組成比 (組成比10%以上)	イトエラスピオ 30 (51.7%) シノブハネエラスピオ 19 (32.8%)	シノブハネエラスピオ 53 (74.6%)	シノブハネエラスピオ 50 (46.3%) <i>Chaetozone</i> 属 11 (10.2%)	シノブハネエラスピオ 19 (47.5%) シズクガイ 7 (17.5%) イトエラスピオ 4 (10.0%)

## c) 湿重量および優占種

横浜港口 (St.6) の底生動物門別湿重量を表 7.117に、時季別湿重量を図 7.34に、時季別優占種を表 7.118に示す。

湿重量は秋季調査、冬季調査および春季調査で環形動物門がそのほとんどを占め、夏季調査で軟体動物門と環形動物門が多くを占めた。

組成比 10%以上を示す優占種は、秋季調査でシノブハネエラスピオ (0.26g、63.4%)、オウギゴカイ (0.09g、22.0%)、冬季調査でシノブハネエラスピオ (1.17g、52.5%)、オウギゴカイ (0.74g、33.2%)、チロリ (0.26g、11.7%)、春季調査でシノブハネエラスピオ (1.61g、51.8%)、オウギゴカイ (0.90g、28.8%)、夏季調査でゴイサギ (0.55g、47.8%)、シノブハネエラスピオ (0.44g、38.3%) であった。

表 7.117 横浜港口 (St.6) における底生動物門別湿重量

時季	秋季		冬季		春季		夏季	
	湿重量 (g/0.1125m <sup>2</sup> )	組成比 (%)	湿重量 (g/0.1125m <sup>2</sup> )	組成比 (%)	湿重量 (g/0.1125m <sup>2</sup> )	組成比 (%)	湿重量 (g/0.1125m <sup>2</sup> )	組成比 (%)
軟体動物					0.06	1.9	0.66	57.4
環形動物	0.38	92.7	2.23	100.0	2.98	95.2	0.49	42.6
節足動物			+	-				
その他	0.03	7.3			0.09	2.9		
合計	0.41	100	2.23	100	3.13	100	1.15	100

注1) 組成比の数値は小数点1桁で四捨五入しているため、合計が100%にならない場合がある。

注2) 湿重量の+は0.01g未満を示す。組成比率は-とした。

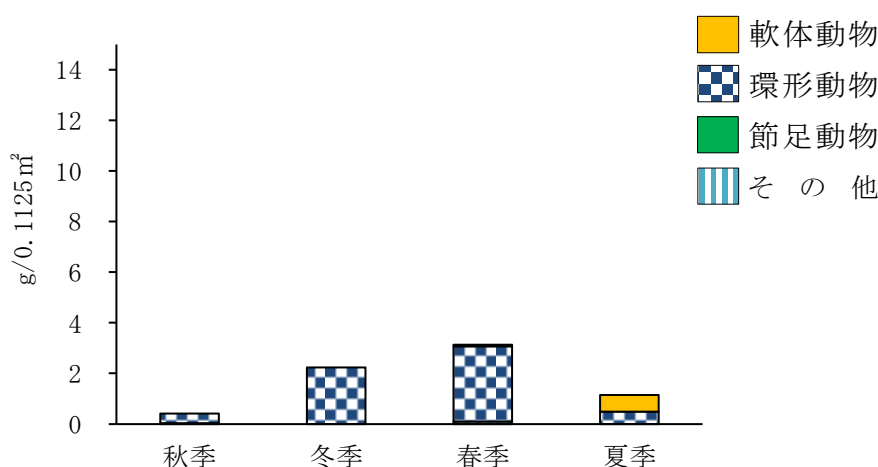


図 7.34 横浜港口 (St.6) における底生動物時季別湿重量

表 7.118 横浜港口 (St.6) における底生動物時季別優占種 (湿重量)

時季	単位:g/0.1125m <sup>2</sup>			
	秋季	冬季	春季	夏季
優占種の湿重量 および組成比 (組成比10%以上)	シノブハネエラスピオ 0.26 (63.4%)	シノブハネエラスピオ 1.17 (52.5%)	シノブハネエラスピオ 1.61 (51.8%)	ゴイサギ 0.55 (47.8%)
	オウギゴカイ 0.09 (22.0%)	オウギゴカイ 0.74 (33.2%)	オウギゴカイ 0.90 (28.8%)	シノブハネエラスピオ 0.44 (38.3%)
		チロリ 0.26 (11.7%)		

## ②根岸湾口 (St.10)

根岸湾口 (St.10) の底生動物出現種一覧を表 7.119に示す。

出現種類数は秋季調査で 21 種類、冬季調査で 24 種類、春季調査で 35 種類、夏季調査で 36 種類、4 季合わせて計 57 種類であった。

表 7.119 根岸湾口 (St.10) における底生動物出現種一覧

調査方法：エクマン<sup>®</sup>型採泥器 (0.0225m<sup>2</sup>)×5回  
単 位：個体/0.1125m<sup>2</sup>、g/0.1125m<sup>2</sup>

No.	門	和名	秋季		冬季		春季		夏季	
			2024年11月6日 個体数 (個体)	湿重量 (g)	2025年2月12日 個体数 (個体)	湿重量 (g)	2025年4月30日 個体数 (個体)	湿重量 (g)	2025年7月23日 個体数 (個体)	湿重量 (g)
1	刺胞動物	ヤナギウミエラ属	1	0.01			1	+		
2	紐形動物	リネウス科	6	0.01			4	0.01		
3		無針綱	6	0.01			2	0.01	5	0.01
4		紐形動物門	11	0.02	3	0.01	3	0.08	3	0.02
5	軟体動物	クチキレガイ			3	0.01				
6		キセワタガイ科					2	0.02	1	0.01
7		チヨノハナガイ							5	0.06
8		シズクガイ					1	0.01	11	0.09
9	環形動物	マダラサシバゴカイ属					1	+		
10		サシバゴカイ科					1	+		
11		アルバチロリ	3	0.03	1	0.04	5	0.06	7	0.11
12		チロリ			2	0.38			1	0.05
13		Glycera 属			1	0.01				
14		Glycinde 属			1	0.01	3	0.01	8	0.01
15		タレマトヒメゴカイ	2	+			2	+	6	0.01
16		オトヒメゴカイ科			1	+				
17		ハナオカカギゴカイ	10	0.01	13	0.02	8	0.03	19	0.05
18		コノシロガネゴカイ			2	0.01	2	0.01	2	0.03
19		Harmothoe 属					1	0.01		
20		タンザクゴカイ科			1	+			1	+
21		コアシギボシイソメ	7	0.09	6	0.05			2	0.03
22		エラギボシイソメ					1	0.02		
23		カタマガリギボシイソメ					3	0.04	10	0.17
24		ルドルフイソメ	1	+			1	0.01		
25		Naineris 属							1	0.01
26		トゥクリゴカイ科	1	+	1	+				
27		スベスベハネエラスピオ	3	0.09					1	+
28		シノハネエラスピオ	19	0.26	6	0.14	3	0.06		
29		フタエラスピオ	85	0.06	2	+				
30		ドロオニスピオ							4	0.03
31		Pseudopolydora 属	2	0.01						
32		Scolelepis 属	2	+	2	0.01	2	0.01	1	+
33		ニホンエラナシスピオ	1	+	1	+	1	0.03	2	0.03
34		Magelona 属					1	+	3	0.04
35		ミスヒキゴカイ			3	0.02	1	0.10	2	0.02
36		Chaetozone 属							3	0.08
37		Tharyx 属	10	0.14	15	0.30	1	0.03	7	0.21
38		ミスヒキゴカイ科					2	0.02	3	0.06
39		Capitellethus 属	2	0.02	12	0.41	9	0.14	13	0.57
40		Mediomastus 属			1	+				
41		エリタケフシゴカイ	1	0.03	4	0.09	5	0.13	7	0.28
42		Praxillella 属	2	0.02					3	0.11
43		ウミイサゴムシ					1	0.03		
44		カザリゴカイ科					3	0.01		
45		Streblosoma 属					1	0.39		
46		Euchone 属					2	0.02	1	+
47	節足動物	クビナガスガメ			3	0.01	1	+		
48		ユンボソコエビ属					1	+	4	+
49		サンバツソコエビ属					1	+		
50		トゲワレカラ							1	+
51		ワレカラ属							1	+
52		ホソナギサクーマ			1	0.01			8	0.01
53		テッポウエビ属							1	0.04
54		アナジャコ属					1	0.22		
55		カクレガニ科							1	0.12
56	棘皮動物	クシノハクモヒトデ			1	+	3	0.03	5	0.05
57		イカリナマコ科	2	1.77					1	0.15
種類数			21		24		35		36	
個体数・湿重量合計			177	2.58	86	1.53	80	1.54	154	2.46

注1) +表示は0.01g未満を示す。

注2) 学名及び分類群順は西村編(1992, 1995)「原色検索 日本海岸動物図鑑 I、II」他に準拠した。

## a) 種組成

根岸湾口 (St.10) の底生動物種組成を図 7.35に、時季別種類数を図 7.36に示す。

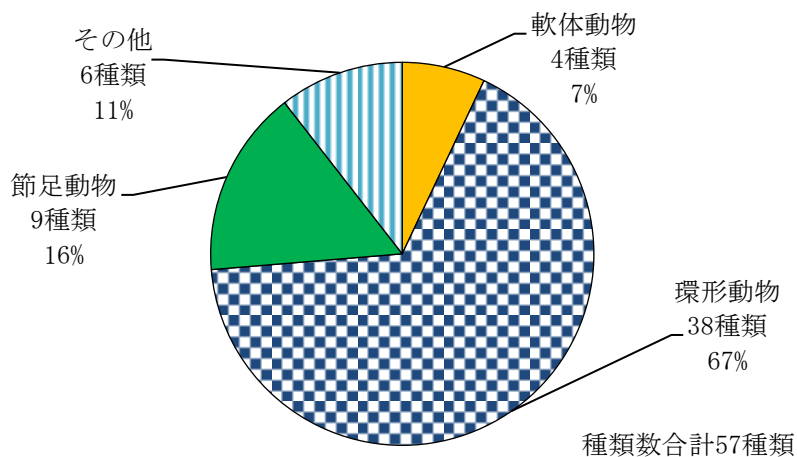


図 7.35 根岸湾口 (St.10) における底生動物種組成

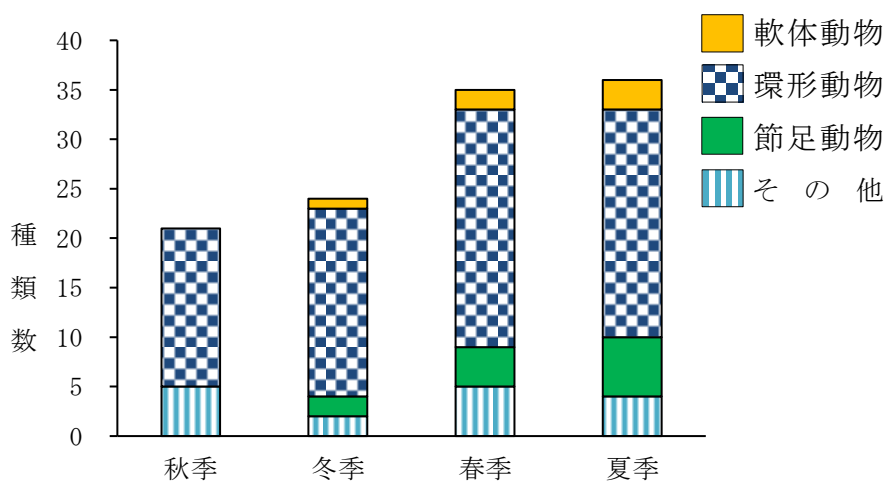


図 7.36 根岸湾口 (St.10) における底生動物時季別種類数

## b) 個体数および優占種

根岸湾口 (St.10) の底生動物門別個体数を表 7.120に、時季別個体数を図 7.37に、時季別優占種を表 7.121に示す。

個体数は、4季ともに環形動物門がそのほとんどを占めた。

組成比 10%以上を示す優占種は、秋季調査でフタエラスピオ (85 個体、48.0%)、シノブハネエラスピオ (19 個体、10.7%)、冬季調査で *Tharyx* 属 (15 個体、17.4%)、ハナオカカギゴカイ (13 個体、15.1%)、*Capitellethus* 属 (12 個体、14.0%)、春季調査で *Capitellethus* 属 (9 個体、11.3%)、ハナオカカギゴカイ (8 個体、10.0%)、夏季調査でハナオカカギゴカイ (19 個体、12.3%) であった。

表 7.120 根岸湾口 (St.10) における底生動物門別個体数

時季	秋季		冬季		春季		夏季	
	個体数 (個体/0.1125 m <sup>2</sup> )	組成比 (%)	個体数 (個体/0.1125 m <sup>2</sup> )	組成比 (%)	個体数 (個体/0.1125 m <sup>2</sup> )	組成比 (%)	個体数 (個体/0.1125 m <sup>2</sup> )	組成比 (%)
軟体動物			3	3.5	3	3.8	17	11.0
環形動物	151	85.3	75	87.2	60	75.0	107	69.5
節足動物			4	4.7	4	5.0	16	10.4
その他	26	14.7	4	4.7	13	16.3	14	9.1
合計	177	100	86	100	80	100	154	100

注) 組成比の数値は小数点1桁で四捨五入しているため、合計が100%にならない場合がある。

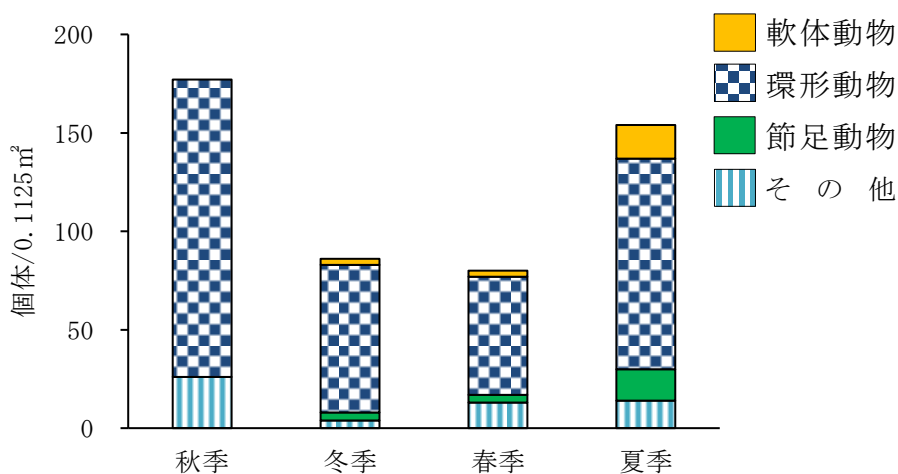


図 7.37 根岸湾口 (St.10) における底生動物時季別個体数

表 7.121 根岸湾口 (St.10) における底生動物時季別優占種 (個体数)

時季	単位: 個体/0.1125m <sup>2</sup>			
	秋季	冬季	春季	夏季
優占種の個体数 および組成比 (組成比10%以上)	フタエラスピオ 85 (48.0%) シノブハネエラスピオ 19 (10.7%)	<i>Tharyx</i> 属 15 (17.4%) ハナオカカギゴカイ 13 (15.1%) <i>Capitellethus</i> 属 12 (14.0%)	<i>Capitellethus</i> 属 9 (11.3%) ハナオカカギゴカイ 8 (10.0%)	ハナオカカギゴカイ 19 (12.3%)

## c) 湿重量および優占種

根岸湾口 (St.10) の底生動物門別湿重量を表 7.122に、時季別湿重量を図 7.38に、時季別優占種を表 7.123に示す。

湿重量は、秋季調査ではその他の動物門が大きな割合を占め、冬季調査、春季調査、夏季調査では環形動物門が大きな割合を占めた。

組成比 10%以上を示す優占種は、秋季調査でイカリナマコ科 (1.77g、68.6%)、シノブハネエラスピオ (0.26g、10.1%)、冬季調査で *Capitellethus* 属 (0.41g、26.8%)、チロリ (0.38g、24.8%)、*Tharyx* 属 (0.30g、19.6%)、春季調査で *Streblosoma* 属 (0.39g、25.3%)、アナジャコ属 (0.22g、14.3%)、夏季調査で *Capitellethus* 属 (0.57g、23.2%)、エリタケフシゴカイ (0.28g、11.4%) であった。

表 7.122 根岸湾口 (St.10) における底生動物門別湿重量

時季	秋季		冬季		春季		夏季	
	湿重量 (g/0.1125m <sup>2</sup> )	組成比 (%)	湿重量 (g/0.1125m <sup>2</sup> )	組成比 (%)	湿重量 (g/0.1125m <sup>2</sup> )	組成比 (%)	湿重量 (g/0.1125m <sup>2</sup> )	組成比 (%)
軟体動物			0.01	0.7	0.03	1.9	0.16	6.5
環形動物	0.76	29.5	1.49	97.4	1.16	75.3	1.90	77.2
節足動物			0.02	1.3	0.22	14.3	0.17	6.9
その他	1.82	70.5	0.01	0.7	0.13	8.4	0.23	9.3
合計	2.58	100	1.53	100	1.54	100	2.46	100

注1) 組成比の数値は小数点1桁で四捨五入しているため、合計が100%にならない場合がある。

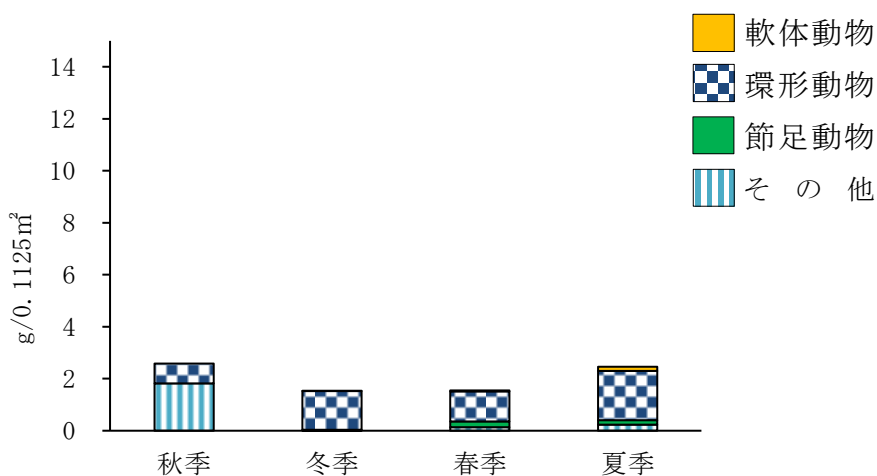


図 7.38 根岸湾口 (St.10) における底生動物時季別湿重量

表 7.123 根岸湾口 (St.10) における底生動物時季別優占種 (湿重量)

時季	単位:g/0.1125m <sup>2</sup>			
	秋季	冬季	春季	夏季
優占種の湿重量 および組成比 (組成比10%以上)	イカリナマコ科 1.77 (68.6%)	<i>Capitellethus</i> 属 0.41 (26.8%)	<i>Streblosoma</i> 属 0.39 (25.3%)	<i>Capitellethus</i> 属 0.57 (23.2%)
	シノブハネエラスピオ 0.26 (10.1%)	チロリ 0.38 (24.8%)	アナジャコ属 0.22 (14.3%)	エリタケフシゴカイ 0.28 (11.4%)
		<i>Tharyx</i> 属 0.30 (19.6%)		

③金沢湾口 (St.12)

金沢湾口 (St.12) の底生動物出現種一覧を表 7.124に示す。

出現種類数は秋季調査で 24 種類、冬季調査で 22 種類、春季調査で 19 種類、夏季調査で 20 種類、4 季合わせて計 54 種類であった。

表 7.124 金沢湾口 (St.12) における底生動物出現種一覧

調査方法：エクマンホーン型採泥器 (0.0225 m<sup>2</sup>) × 5回  
単 位：個体/0.1125 m<sup>2</sup>、g/0.1125 m<sup>2</sup>

No.	門	和 名	秋季		冬季		春季		夏季	
			2024年11月6日 個体数 (個体)	湿重量 (g)	2025年2月12日 個体数 (個体)	湿重量 (g)	2025年4月30日 個体数 (個体)	湿重量 (g)	2025年7月23日 個体数 (個体)	湿重量 (g)
1	刺胞動物	ヤナギウミエラ属					1	+		
2	紐形動物	リネウス科					1	0.01		
3		無針綱	1	+	1	+	1	+	1	+
4		紐形動物門			5	0.02	4	+	2	0.02
5	軟体動物	クチキレガイ			1	0.02				
6		イトカケギリ属	3	0.01						
7		キセワタガイ科			1	+				
8		ヤカドツノガイ	1	0.43						
9		キヌタレガイ			1	0.01				
10		サクラガイ			1	0.01				
11		シズクガイ					1	+	12	0.12
12		ケシトリガイ							1	+
13		スエモノガイ科	1	0.03						
14	環形動物	Phyllodoce 属	6	0.01	1	+				
15		サシバゴカイ科							1	+
16		アルバチロリ	1	0.01			1	0.04	2	0.05
17		チロリ			1	0.35				
18		Glycera 属	2	0.01	3	0.01				
19		Glycinde 属					1	+	10	0.03
20		タレメオトヒメゴカイ	2	+	1	+			4	0.01
21		ハナオカカギゴカイ			2	0.01	2	+	9	0.01
22		コノシロガネゴカイ	1	+	4	0.02	4	0.03	2	0.03
23		タンザクゴカイ科							2	+
24		コアシギボシイソメ	3	0.02	3	0.03				
25		カタマカリギボシイソメ					6	0.07	3	0.03
26		ルドルフイソメ					1	+		
27		ニホンヒメエラゴカイ					2	0.01		
28		ヒメエラゴカイ科					1	+		
29		ケンサキスピオ	1	0.01			1	0.01		
30		スベスベハネエラスピオ	2	0.05	3	0.18			13	0.34
31		Polydora 属	2	+						
32		ミツバナスピオ							4	+
33		フタエラスピオ	4	+	3	+				
34		アシビキツバサゴカイ							1	0.02
35		Magelona 属	1	+					1	+
36		ミズヒキゴカイ							2	0.45
37		Chaetozone 属	3	0.04			1	+		
38		Tharyx 属	1	0.01	1	+			1	0.01
39		ミズヒキゴカイ科	2	0.01						
40		Capitellethus 属			2	0.06			9	0.57
41		Mediomastus 属			4	0.02	1	+		
42		エリタケフシゴカイ	8	0.11			2	0.07		
43		タケフシゴカイ科			1	+				
44		ウミイサゴムシ							1	0.01
45		ナガオカンムリ	8	0.03						
46		カザリゴカイ科			1	+				
47		Streblosoma 属	1	0.02						
48		Euchone 属					1	+		
49		Sabellastarte 属	7	0.15						
50	節足動物	ユンボソコエビ属	1	+						
51		ホソナギサクーマ					1	+		
52		イッカクモガニ	2	0.02						
53		ガザミ			1	0.46				
54	棘皮動物	モミジガイ			1	12.88				
種類数			24		22		19		20	
個体数・湿重量合計			64	0.97	42	14.08	33	0.24	81	1.70

注1) +表示は0.01g未満を示す。

注2) 学名及び分類群順は西村編(1992, 1995)「原色検索 日本海岸動物図鑑 I、II」他に準拠した。

## a) 種組成

金沢湾口 (St.12) の底生動物種組成を図 7.39に、時季別種類数を図 7.40に示す。

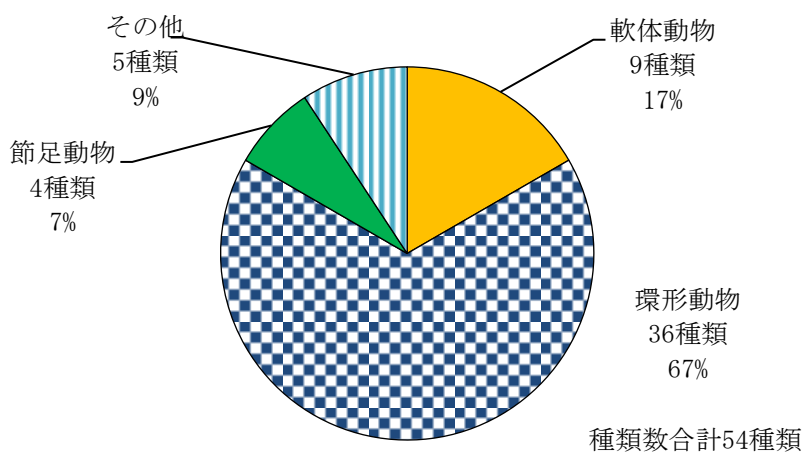


図 7.39 金沢湾口 (St.12) における底生動物種組成

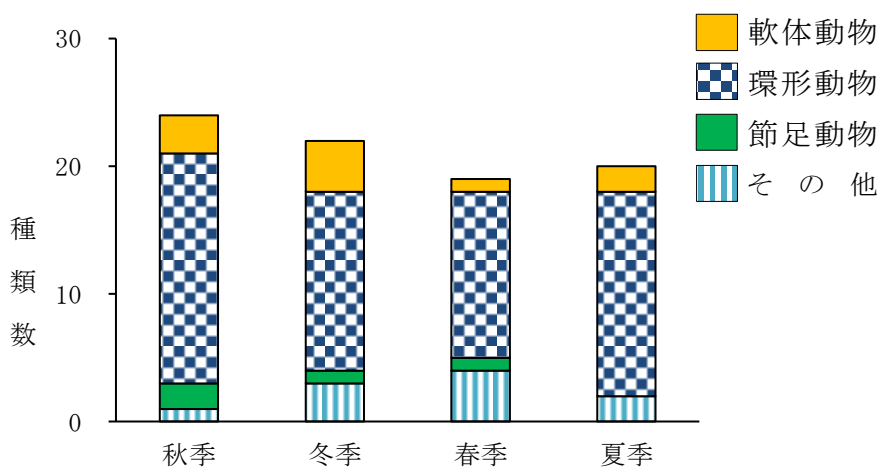


図 7.40 金沢湾口 (St.12) における底生動物時季別種類数

b) 個体数および優占種

金沢湾口 (St.12) の底生動物門別個体数を表 7.125に、時季別個体数を図 7.41に、時季別優占種を表 7.126に示す。

個体数は、4季ともに環形動物門が大きな割合を占めた。

組成比 10%以上を示す優占種は、秋季調査でエリタケフシゴカイ (8 個体、12.5%)、ナガオカンムリ (8 個体、12.5%)、*Sabellastarte* 属 (7 個体、10.9%)、冬季調査で紐形動物門 (5 個体、11.9%)、春季調査でカタマガリギボシイソメ (6 個体、18.2%)、紐形動物門 (4 個体、12.1%)、コノハシログネゴカイ (4 個体、12.1%)、夏季調査でスベスベハネエラスピオ (13 個体、16.0%)、シズクガイ (12 個体、14.8%)、*Glycinde* 属 (10 個体、12.3%)、ハナオカカギゴカイ (9 個体、11.1%)、*Capitellethus* 属 (9 個体、11.1%) であった。

表 7.125 金沢湾口 (St.12) における底生動物門別個体数

時季	秋季		冬季		春季		夏季	
	個体数 (個体/0.1125 m <sup>2</sup> )	組成比 (%)	個体数 (個体/0.1125 m <sup>2</sup> )	組成比 (%)	個体数 (個体/0.1125 m <sup>2</sup> )	組成比 (%)	個体数 (個体/0.1125 m <sup>2</sup> )	組成比 (%)
軟体動物	5	7.8	4	9.5	1	3.0	13	16.0
環形動物	55	85.9	30	71.4	24	72.7	65	80.2
節足動物	3	4.7	1	2.4	1	3.0		
その他	1	1.6	7	16.7	7	21.2	3	3.7
合計	64	100	42	100	33	100	81	100

注) 組成比の数値は小数点1桁で四捨五入しているため、合計が100%にならない場合がある。

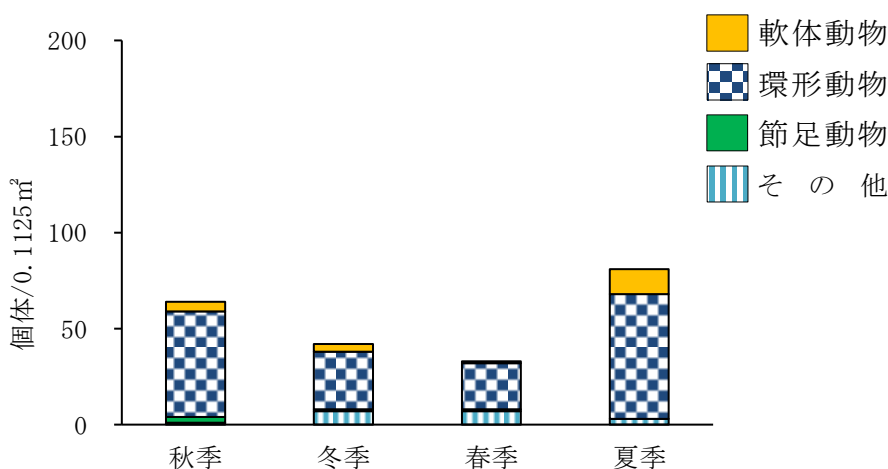


図 7.41 金沢湾口 (St.12) における底生動物時季別個体数

表 7.126 金沢湾口 (St.12) における底生動物時季別優占種 (個体数)

時季	単位: 個体/0.1125m <sup>2</sup>			
	秋季	冬季	春季	夏季
優占種の個体数 および組成比 (組成比10%以上)	エリタケフシゴカイ 8 (12.5%)	紐形動物門 5 (11.9%)	カタマガリギボシイソメ 6 (18.2%)	スベスベハネエラスピオ 13 (16.0%)
	ナガオカンムリ 8 (12.5%)		紐形動物門 4 (12.1%)	シズクガイ 12 (14.8%)
	<i>Sabellastarte</i> 属 7 (10.9%)		コノハシログネゴカイ 4 (12.1%)	<i>Glycinde</i> 属 10 (12.3%)
				ハナオカカギゴカイ 9 (11.1%)
				<i>Capitellethus</i> 属 9 (11.1%)

## c) 湿重量および優占種

金沢湾口 (St.12) の底生動物門別湿重量を表 7.127に、時季別湿重量を図 7.42に、時季別優占種を表 7.128に示す。

湿重量は、秋季調査では軟体動物門と環形動物門が大きな割合を占め、冬季調査ではその他の動物門が大きな割合を占め、春季調査、夏季調査でともに環形動物門が大きな割合を占めた。

組成比 10%以上を示す優占種は、秋季調査でヤカドツノガイ (0.43g、44.3%)、*Sabellastarte* 属 (0.15g、15.5%)、エリタケフシゴカイ (0.11g、11.3%)、冬季調査でモミジガイ (12.88g、91.5%)、春季調査でカタマガリギボシイソメ (0.07g、29.2%)、エリタケフシゴカイ (0.07g、29.2%)、アルパチロリ (0.04g、16.7%)、コノハシログネゴカイ (0.03g、12.5%)、夏季調査で *Capitellethus* 属 (0.57g、33.5%)、ミズヒキゴカイ (0.45g、26.5%)、スベスベハネエラスピオ (0.34g、20.0%) であった。

表 7.127 金沢湾口 (St.12) における底生動物門別湿重量

時季	秋季		冬季		春季		夏季	
	湿重量 (g/0.1125m <sup>2</sup> )	組成比 (%)	湿重量 (g/0.1125m <sup>2</sup> )	組成比 (%)	湿重量 (g/0.1125m <sup>2</sup> )	組成比 (%)	湿重量 (g/0.1125m <sup>2</sup> )	組成比 (%)
軟体動物	0.47	48.5	0.04	0.3	+	-	0.12	7.1
環形動物	0.48	49.5	0.68	4.8	0.23	95.8	1.56	91.8
節足動物	0.02	2.1	0.46	3.3	+	-		
その他	+	-	12.90	91.6	0.01	4.2	0.02	1.2
合計	0.97	100	14.08	100	0.24	100	1.70	100

注1) 組成比の数値は小数点1桁で四捨五入しているため、合計が100%にならない場合がある。

注2) 湿重量の+は0.01g未満を示す。組成比率は-とした。

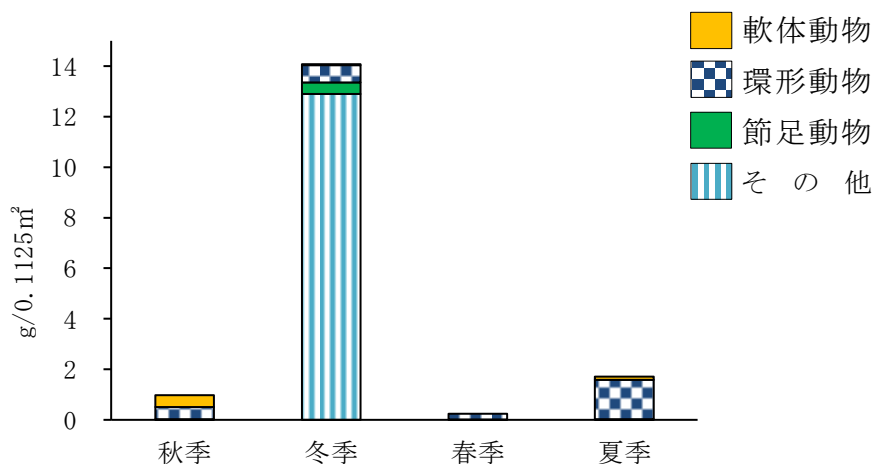


図 7.42 金沢湾口 (St.12) における底生動物時季別湿重量

表 7.128 金沢湾口 (St.12) における底生動物時季別優占種 (湿重量)

時季	単位:g/0.1125m <sup>2</sup>			
	秋季	冬季	春季	夏季
優占種の湿重量 および組成比 (組成比10%以上)	ヤカドツノガイ 0.43 (44.3%)	モミジガイ 12.88 (91.5%)	カタマガリギボシイソメ 0.07 (29.2%)	<i>Capitellethus</i> 属 0.57 (33.5%)
	<i>Sabellastarte</i> 属 0.15 (15.5%)		エリタケフシゴカイ 0.07 (29.2%)	ミズヒキゴカイ 0.45 (26.5%)
	エリタケフシゴカイ 0.11 (11.3%)		アルパチロリ 0.04 (16.7%)	スベスベハネエラスピオ 0.34 (20.0%)
			コノハシログネゴカイ 0.03 (12.5%)	

7.6.底生動物

7.6.3. レッドリスト等掲載種

底生動物のレッドリスト等掲載種一覧を表 7.129、写真 7.26に示す。

レッドリスト等掲載種は、軟体動物門のクチキレガイ、キヌタレガイ、サクラガイの3種であった。

表 7.129 底生動物レッドリスト等掲載種一覧

調査日：(秋季) 2024年11月 6日  
 (冬季) 2025年 2月12日  
 (春季) 2025年 4月30日  
 (夏季) 2025年 7月23日  
 採取方法：採泥器

No.	門	綱	目	科	和名	地点			時季				レッドリスト等掲載種の選定基準
						横浜港口 (St. 6)	根岸湾口 (St.10)	金沢湾口 (St.12)	秋 季	冬 季	春 季	夏 季	
1	軟体動物	腹足	異旋	トウガタガイ	クチキレガイ		○	○		○			千葉県:B
2		二枚貝	キヌタレガイ	キヌタレガイ	キヌタレガイ			○		○			環:NT、千葉県:B、学会:NT
3			マルスタレガイ	ニッコウガイ	サクラガイ			○		○			環:NT、学会:NT
種類数						該当種なし	1	3	該当種なし	3	該当種なし	該当種なし	3

注1) ○は出現したことを示す。

注2) 学名及び分類群順は西村編(1992、1995)「原色検索 日本海岸動物図鑑Ⅰ、Ⅱ」他に準拠した。

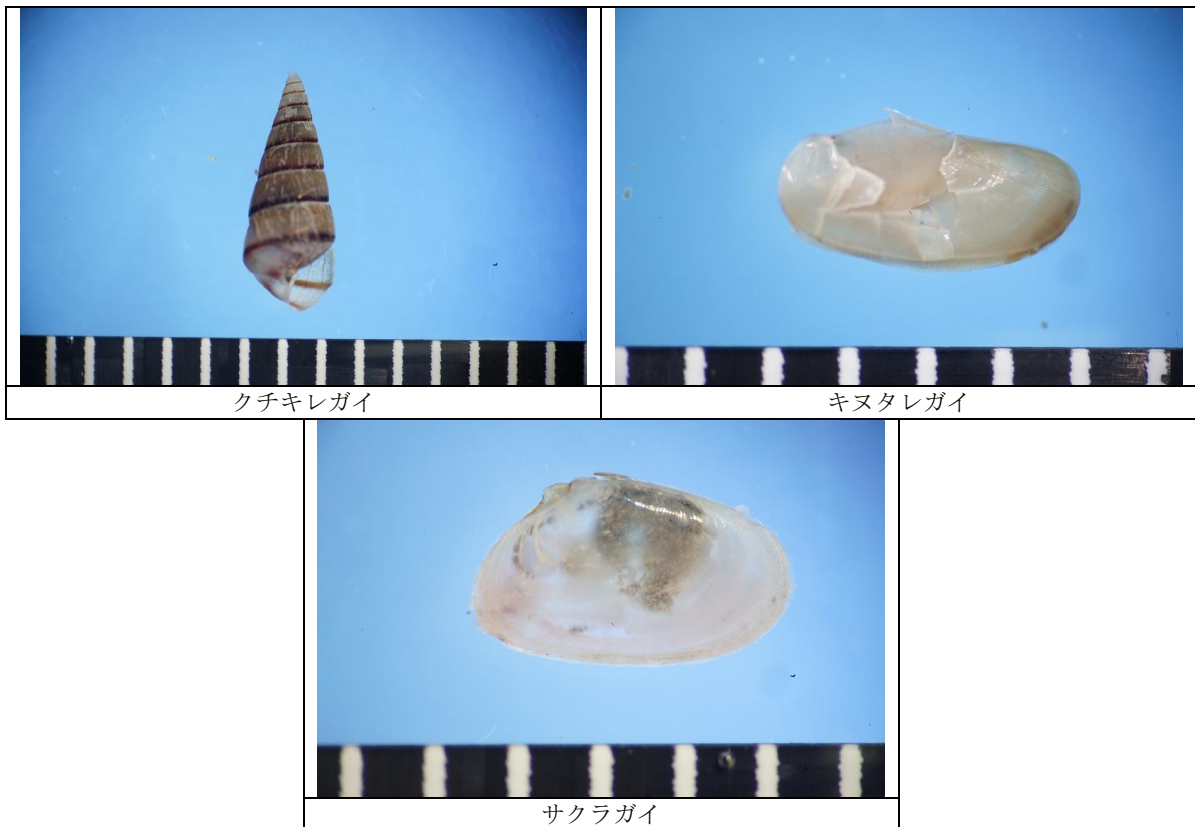


写真 7.26 底生動物レッドリスト等掲載種

## 7.6.4. 外来種

底生動物の外来種一覧を表 7.130、写真 7.27に示す。

環境省および農林水産省が 2015 年 3 月に公表した「我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト」に該当する種はなかった。日本ベントス学会が 2004 年に公表した「日本における海産生物の人為的移入と分散」の「非在来の国外移入種」を含めた外来種はイッカクモガニの 1 種であった。

表 7.130 底生動物外来種一覧

調査日：(秋季) 2024年11月 6日  
(冬季) 2025年 2月12日  
(春季) 2025年 4月30日  
(夏季) 2025年 7月23日

採取方法：採泥器

No.	門	綱	目	科	和名	地点			時季				外来種		
						横浜 港口 (St. 6)	根岸 湾口 (St.10)	金沢 湾口 (St.12)	秋 季	冬 季	春 季	夏 季	外来種 リスト	学会	
1	節足動物	軟甲	十脚	クモガニ	イッカクモガニ			○	○						●
種類数						該当種なし	該当種なし	1	1	該当種なし	該当種なし	該当種なし	該当種なし	1	

注1) ○は出現したことを示す。●は外来種に該当したことを示す。

注2) 外来種リスト欄は「我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト(2015年3月公表)」に該当する種を示す。

注3) 学会欄は「日本における海産生物の人為的移入と分散: 日本ベントス学会(2004年)」のうち「非在来の国外移入種」に該当する種を示す。

注4) 学名及び分類群順は西村編(1992、1995)「原色検索 日本海岸動物図鑑 I、II」他に準拠した。



イッカクモガニ

写真 7.27 底生生物外来種掲載種

## 7.7. プラクトン

### 7.7. プラクトン

#### 7.7.1. 植物プラクトン

##### 1) 概要

植物プラクトン種組成を図 7.43に、地点別種類数を図 7.44に、時季別種類数を図 7.45に、出現種一覧を表 7.131に示す。

出現種類数は秋季調査で 32 種類、冬季調査で 32 種類、春季調査で 37 種類、夏季調査で 43 種類、4 季合わせて 60 種類であった。

網別の種組成は渦鞭毛藻綱が 21 種類で 35%、珪藻綱が 32 種類で 53%、その他の綱が 7 種類で 12%であった。

地点別の種類数は横浜港沖で 54 種類、根岸湾沖、金沢湾沖はともに 56 種類であった。

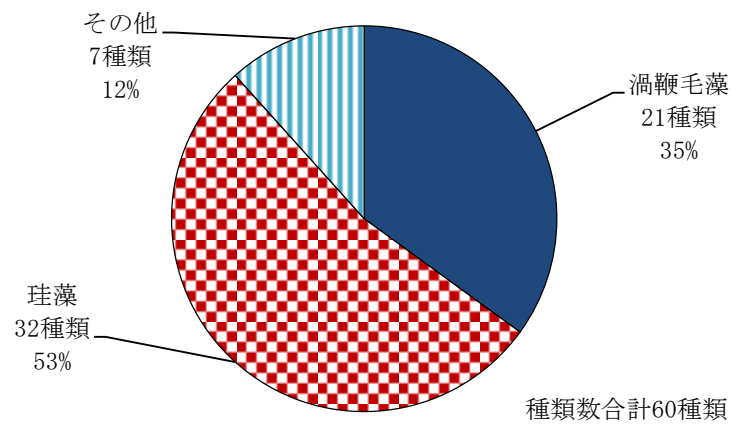


図 7.43 植物プラクトン種組成

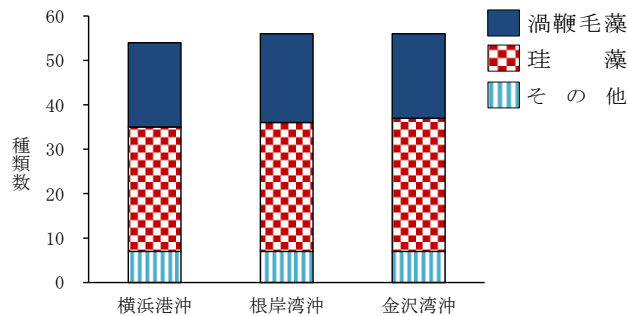


図 7.44 植物プラクトン地点別種類数

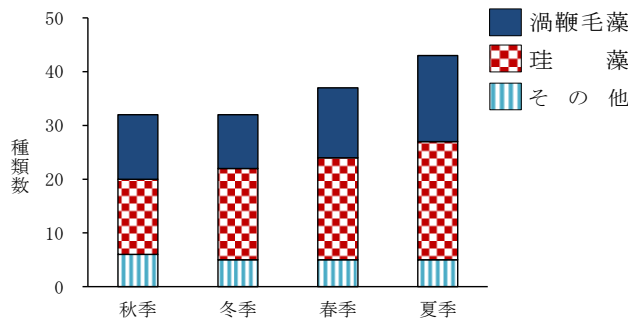


図 7.45 植物プラクトン時季別種類数

表 7.131 植物プランクトン出現種一覧

調査日：(秋季) 2024年11月 6日  
(冬季) 2025年 2月12日  
(春季) 2025年 4月30日  
(夏季) 2025年 7月23日  
採取方法：表層水採水

No.	門	綱	目	科	学名	地点			時季						
						横 浜 港 沖	根 岸 湾 沖	金 沢 湾 沖	秋 季	冬 季	春 季	夏 季			
1	クリプト植物	クリプト藻			CRYPTOPHYCEAE	○	○	○	○	○	○	○			
2	渦鞭毛植物	渦鞭毛藻	プロコケントルム	プロコケントルム	<i>Prorocentrum micans</i>	○	○	○				○			
3					<i>Prorocentrum cordatum</i>	○	○	○				○	○		
4					<i>Prorocentrum triestinum</i>	○	○	○					○		
5			ディノフィシス	ディノフィシス	<i>Dinophysis acuminata</i>	○	○	○			○	○	○		
6					<i>Dinophysis caudata</i>		○	○				○	○		
7					<i>Oxyphysis oxytoxoides</i>	○	○	○				○	○		
8			ギムノディニウム	ギムノディニウム	<i>Akashiwo sanguinea</i>	○			○				○		
9					<i>Karenia mikimotoi</i>	○	○	○	○						
10					<i>Gyrodinium</i> spp.	○	○	○	○	○	○	○	○		
11							GYMNODINIALES	○	○	○	○	○	○		
12			ゴニオラックス	ノクティルカ ケラティウム	ノクティルカ ケラティウム	<i>Noctiluca scintillans</i>	○	○	○	○					
13						<i>Ceratium furca</i>	○	○		○				○	
14						<i>Ceratium fuscus</i>	○	○	○	○				○	
15			ゴニオラックス	ノクティルカ ケラティウム	ノクティルカ ケラティウム	<i>Ceratium kofoidii</i>		○	○				○	○	
16						<i>Gonyaulax</i> spp.	○	○	○			○	○	○	
17						ベリディニウム	カルキオディネラ ベリディニウム	カルキオディネラ ベリディニウム	<i>Scrippsiella</i> spp.	○	○	○	○	○	○
18			<i>Heterocapsa steinii</i>	○	○				○			○	○		
19			<i>Heterocapsa</i> sp.	○	○				○	○	○	○	○	○	
20			プロトベリディニウム	ベリディニウム	ベリディニウム	<i>Protoperdinium bipes</i>	○	○	○						
21						<i>Protoperdinium</i> spp.	○	○	○	○	○	○	○	○	
22									PERIDINIALES	○	○	○			
23			不等毛植物	黄金色藻	ディクチオカ	ディクチオカ	<i>Dictyocha speculum</i>	○	○	○			○	○	
24	ラフイド藻	ラフイドモナス		ヴァケウオラリア	<i>Fibrocapsa japonica</i>	○	○	○	○						
25					<i>Heterosigma akashiwo</i>	○	○	○	○						
26	珪藻	珪藻	円心	タラシオシラ	<i>Skeletonema</i> spp.	○	○	○	○	○	○	○			
27					<i>Thalassiosira nordenskiöldii</i>	○	○	○			○	○			
28					<i>Thalassiosira</i> spp.	○	○	○	○	○	○	○	○		
29					<i>Thalassiosiraceae</i>	○	○	○	○	○	○	○	○		
30					メロシラ	メロシラ	<i>Leptocylindrus danicus</i>	○	○	○	○	○	○	○	
31							<i>Leptocylindrus mediterraneus</i>	○			○				
32							<i>Leptocylindrus minimus</i>	○	○	○	○				○
33					コスキノディスクス	コスキノディスクス	コスキノディスクス	<i>Coscinodiscus</i> spp.	○	○	○			○	○
34					ヘリオベルタ	ヘリオベルタ	ヘリオベルタ	<i>Actinocyclus senarius</i>	○	○	○				○
35					リゾソレニア	リゾソレニア	リゾソレニア	<i>Guinardia flaccida</i>	○	○	○				○
36					リゾソレニア	リゾソレニア	リゾソレニア	<i>Rhizosolenia fragilissima</i>	○	○	○	○	○	○	○
37			<i>Rhizosolenia setigera</i>	○				○	○			○	○		
38			<i>Rhizosolenia stolterfothii</i>					○	○	○					
39			ビドゥルフィア	ビドゥルフィア	ビドゥルフィア	<i>Cerataulina pelagica</i>	○	○	○			○	○		
40						<i>Eucampia zodiacus</i>		○					○		
41			キートケロス	キートケロス	キートケロス	<i>Chaetoceros affine</i>	○	○	○			○	○		
42						<i>Chaetoceros curvisetum</i>	○	○	○					○	
43						<i>Chaetoceros danicum</i>			○					○	
44						<i>Chaetoceros debile</i>			○					○	
45						<i>Chaetoceros didymum</i>	○	○	○					○	
46						<i>Chaetoceros lorenzianum</i>	○	○	○					○	
47						<i>Chaetoceros radicans</i>	○	○	○					○	
48						<i>Chaetoceros sociale</i>	○	○	○			○	○	○	
49						<i>Chaetoceros</i> spp.	○	○	○	○	○	○	○	○	
50						リトデスミウム	リトデスミウム	リトデスミウム	<i>Ditylum brightwellii</i>	○	○	○			○
51			羽状	ディアトマ	ディアトマ	<i>Neodelphineis pelagica</i>	○	○	○				○		
52						<i>Thalassionema nitzschioides</i>	○	○	○	○				○	
53	ナビクラ	ナビクラ				ナビクラ	<i>Navicula</i> spp.	○	○	○	○	○	○		
54	ニッチア	ニッチア	ニッチア	<i>Pleurosigma</i> spp.	○	○	○			○	○				
55				<i>Cylindrotheca closterium</i>	○	○	○	○	○	○	○	○			
56				<i>Nitzschia</i> spp.	○	○	○			○	○	○			
57				<i>Pseudo-nitzschia</i> sp.	○	○	○	○	○	○	○				
58	ミドリムシ植物	ミドリムシ藻			EUGLENOPHYCEAE	○	○	○	○	○	○				
59	緑色植物門	プラシノ藻			PRASINOPHYCEAE	○	○	○	○	○	○				
60					unknown micro-flagellate	○	○	○	○	○	○				
種類数						54	56	56	32	32	37	43			

注1) ○は出現したことを示す。

注2) 学名及び分類順は千原他編(1997)「日本産海洋プランクトン検索図説」に準拠した。

2) 地点ごとの季節変化

①横浜港沖

横浜港沖の植物プランクトン出現種一覧を表 7.132に、時季別種類数を図 7.46に、綱別細胞数を表 7.133に、時季別細胞数を図 7.47に、優占種を表 7.134に示す。

出現種類数は秋季調査で 26 種類、冬季調査で 28 種類、春季調査で 27 種類、夏季調査で 37 種類、4 季合わせて計 54 種類であった。

細胞数は、夏季調査が最も多く、冬季調査は最も少なかった。分類群別細胞数は 4 季ともに珪藻綱の割合が多かった。

組成比 10%以上を示す優占種は、秋季調査で *Skeletonema* spp. (1,080 細胞/mL、80.4%)、冬季調査で *Chaetoceros sociale* (222 細胞/mL、51.7%)、*Skeletonema* spp. (111 細胞/mL、25.9%)、春季調査で *Skeletonema* spp. (504 細胞/mL、43.6%)、CRYPTOPHYCEAE (282 細胞/mL、24.4%)、*Thalassiosira* spp. (216 細胞/mL、18.7%)、夏季調査で *Pseudo-nitzschia* sp. (1,728 細胞/mL、32.7%)、*Thalassiosira* spp. (1,440 細胞/mL、27.2%)、*Skeletonema* spp. (828 細胞/mL、15.7%) であった。

表 7.132 横浜港沖における植物プランクトン出現種一覧

調査方法：表層水採水（1L）  
単 位：細胞/mL

No.	門	綱	目	科	学名	時季 調査日 固定方法	秋季		冬季		春季		夏季					
							2024年 11月6日	定性試料	2025年 2月12日	定性試料	2025年 4月30日	定性試料	2025年 7月23日	定性試料				
1	クリプト植物	クリプト藻			CRYPTOPHYCEAE		15	○	2	○	282	○	108	○				
2	渦鞭毛植物	渦鞭毛藻	プロコケントルム	プロコケントルム	<i>Prorocentrum micans</i>								1					
3					<i>Prorocentrum cordatum</i>	1	○	2	○							○		
4					<i>Prorocentrum triestinum</i>												○	
5					ディノフィシス	ディノフィシス	<i>Dinophysis acuminata</i>						○					
6							<i>Oxyphysis oxytoxoides</i>			1	○			○				
7					ギムノディニウム	ギムノディニウム	<i>Akashiwo sanguinea</i>			○							○	
8							<i>Karenia mikimotoi</i>			○								
9							<i>Gyrodinium</i> spp.	2	○					4	○	4	○	
10									GYMNODINIALES				○	54	○	20	○	
11					ノクティルカ	ノクティルカ	ノクティルカ	<i>Noctiluca scintillans</i>	1	○								
12					ゴニオラックス	ケラティウム	<i>Ceratium furca</i>			○							1	
13							<i>Ceratium fusus</i>	1										○
14						ゴニオラックス	<i>Gonyaulax</i> spp.										1	○
15					ペリディニウム	カルキオディネラ	<i>Scrippsiella</i> spp.	1	○	1	○							
16							ペリディニウム	<i>Heterocapsa steinii</i>			2	○	3	○				
17						<i>Heterocapsa</i> sp.	1	○				3	○	2				
18						プロトペリディニウム	<i>Protoperidinium bipes</i>										2	○
19					<i>Protoperidinium</i> spp.		1	○			○	1	○	8	○			
20								PERIDINIALES									8	○
21	不等毛植物	黄金色藻	ディクチオカ	ディクチオカ	<i>Dityocha speculum</i>				○									
22		ラフィド藻	ラフィドモナス	ガネキョウリア	<i>Fibrocapsa japonica</i>	13	○											
23					<i>Heterosigma akashiwo</i>	3												
24	珪藻	円心	タラシオシラ	<i>Skeletonema</i> spp.	1,080	○	111	○	504	○	828	○						
25				<i>Thalassiosira nordenskioldii</i>			13	○										
26				<i>Thalassiosira</i> spp.	96	○	2	○	216	○	1,440	○						
27				Thalassiosiraceae	18	○	2	○	4	○	312	○						
28				メロシラ	<i>Leptocylindrus danicus</i>	5	○	2	○	3	○	4	○					
29					<i>Leptocylindrus mediterraneus</i>	4												
30			<i>Leptocylindrus minimus</i>		51	○					4	○						
31			コスキノディスクス	<i>Coscinodiscus</i> spp.								1						
32			ヘリオペルタ	<i>Actinopterychus senarius</i>						2	○							
33			リゾソレニア	<i>Guinardia flaccida</i>						1	○							
34				<i>Rhizosolenia fragilissima</i>			23	○	51	○	8	○						
35				<i>Rhizosolenia setigera</i>	1	○			○									
36			ピドゥルフィア	<i>Cerataulina pelagica</i>				6	○	1								
37			キートケロス	<i>Chaetoceros affine</i>			2											
38				<i>Chaetoceros curvisetum</i>								22	○					
39				<i>Chaetoceros didymum</i>									○					
40				<i>Chaetoceros lorenzianum</i>							○	24	○					
41				<i>Chaetoceros radicans</i>								10	○					
42				<i>Chaetoceros sociale</i>			222	○				22	○					
43				<i>Chaetoceros</i> spp.		○	4	○		○		128	○					
44			リトデスミウム	<i>Ditylum brightwellii</i>			7	○		○								
45			羽状	ディアトマ	<i>Neodelphineis pelagica</i>							224	○					
46					<i>Thalassionema nitzschioides</i>	3	○					28	○					
47	ナビクラ	<i>Navicula</i> spp.			1	○	1		42	○								
48		<i>Pleurosigma</i> spp.			1			○	20	○								
49	ニツチア	<i>Cylindrotheca closterium</i>			2	○	4	○	24	○								
50		<i>Nitzschia</i> spp.					○			○								
51		<i>Pseudo-nitzschia</i> sp.	21	○			2	○	1,728	○								
52	ミドリムシ植物	ミドリムシ藻			EUGLENOPHYCEAE	1	○	1		1	○	108	○					
53	緑色植物門	ブラシノ藻			PRASINOPHYCEAE	3	○	1	○	4	○	4	○					
54					unknown micro-flagellate	21	○	21	○	16	○	150	○					
種類数							26		28		27		37					
細胞数合計							1,343	-	429	-	1,157	-	5,286	-				

注1) ○は出現したことを示す。

注2) 学名及び分類順は千原他編(1997)「日本産海洋プランクトン検索図説」に準拠した。

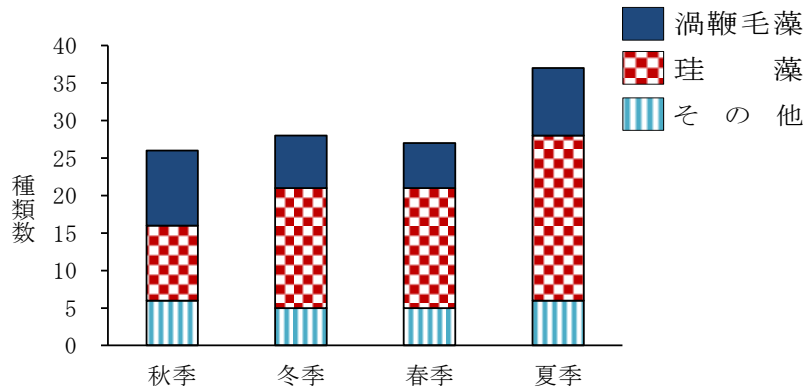


図 7.46 横浜港沖における植物プランクトン時季別種類数

表 7.133 横浜港沖における植物プランクトンの網別細胞数

時季	秋季		冬季		春季		夏季	
	細胞数 (細胞/mL)	組成比 (%)	細胞数 (細胞/mL)	組成比 (%)	細胞数 (細胞/mL)	組成比 (%)	細胞数 (細胞/mL)	組成比 (%)
渦鞭毛藻	8	0.6	6	1.4	65	5.6	47	0.9
珪藻	1,279	95.2	398	92.8	789	68.2	4,869	92.1
その他	56	4.2	25	5.8	303	26.2	370	7.0
合計	1,343	100	429	100	1,157	100	5,286	100

注1) 組成比の数値は小数点1桁で四捨五入しているため、合計が100%にならない場合がある。

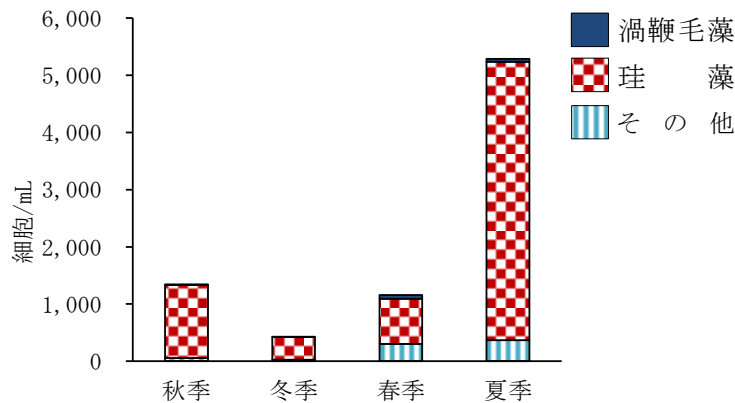


図 7.47 横浜港沖における植物プランクトン時季別細胞数

表 7.134 横浜港における植物プランクトン優占種

時季	単位:細胞/mL			
	秋季	冬季	春季	夏季
優占種の細胞数 および組成比 (組成比10%以上)	<i>Skeletonema</i> spp. 1,080 (80.4%)	<i>Chaetoceros sociale</i> 222 (51.7%) <i>Skeletonema</i> spp. 111 (25.9%)	<i>Skeletonema</i> spp. 504 (43.6%) CRYPTOPHYCEAE 282 (24.4%) <i>Thalassiosira</i> spp. 216 (18.7%)	<i>Pseudo-nitzschia</i> sp. 1,728 (32.7%) <i>Thalassiosira</i> spp. 1,440 (27.2%) <i>Skeletonema</i> spp. 828 (15.7%)

## ②根岸湾沖

根岸湾沖の植物プランクトン出現種一覧を表 7.135に、時季別種類数を図 7.48に、綱別細胞数を表 7.136に、時季別細胞数を図 7.49に、優占種を表 7.137に示す。

出現種類数は秋季調査で 27 種類、冬季調査で 26 種類、春季調査で 31 種類、夏季調査で 36 種類、4 季合わせて計 56 種類であった。

細胞数は夏季調査が最も多く、冬季調査は最も少なかった。分類群別細胞数は 4 季ともに珪藻綱の割合が多かった。

組成比 10%以上を示す優占種は、秋季調査で *Skeletonema* spp. (876 細胞/mL、59.8%)、*Thalassiosira* spp. (210 細胞/mL、14.3%)、*Pseudo-nitzschia* sp. (180 細胞/mL、12.3%)、冬季調査で *Chaetoceros sociale* (282 細胞/mL、61.7%)、*Skeletonema* spp. (63 細胞/mL、13.8%) 春季調査で *Thalassiosira* spp.

(378 細胞/mL、33.8%)、*Skeletonema* spp. (342 細胞/mL、30.6%)、CRYPTOPHYCEAE (306 細胞/mL、27.4%)、夏季調査で *Pseudo-nitzschia* sp. (1,368 細胞/mL、36.5%)、*Skeletonema* spp. (1,344 細胞/mL、35.9%) であった。

表 7.135 根岸湾沖における植物プランクトン出現種一覧

調査方法：表層水採水（1L）  
単 位：細胞/mL

No.	門	綱	目	科	学名	秋季		冬季		春季		夏季			
						調査日	固定方法	2024年 11月6日	2025年 2月12日	2025年 4月30日	2025年 7月23日				
						計数試料	定性試料	計数試料	定性試料	計数試料	定性試料	計数試料	定性試料		
1	クリプト植物	クリプト藻			CRYPTOPHYCEAE	138	○	2	○	306	○	168	○		
2	渦鞭毛植物	渦鞭毛藻	プロコケントルム	プロコケントルム	<i>Prorocentrum micans</i>							6	○		
3					<i>Prorocentrum cordatum</i>	1					1	○			
4					<i>Prorocentrum triestinum</i>						1	○			
5			ディノフィシス	ディノフィシス	<i>Dinophysis acuminata</i>				○	1	○	1	○		
6					<i>Dinophysis caudata</i>	1									
7					<i>Oxyphysis oxytoxoides</i>				○	1	○				
8			ギムノディニウム	ギムノディニウム	<i>Karenia mikimotoi</i>	1	○								
9					<i>Gyrodinium</i> spp.	4	○	1	○	3	○				
10						GYMNODINIALES	1				10	○	4	○	
11			ノクティルカ	ノクティルカ		<i>Noctiluca scintillans</i>		○							
12			ゴニオラックス	ケラテリウム	<i>Ceratium furca</i>									4	○
13					<i>Ceratium fuscum</i>									1	○
14					<i>Ceratium kofoidii</i>								○		
15				ゴニオラックス	<i>Gonyaulax</i> spp.									○	
16			ペリディニウム	カルキオディネラ	<i>Scrippsiella</i> spp.		○	2	○		○			○	
17					<i>Heterocapsa steinii</i>			2	○	1					
18					<i>Heterocapsa</i> sp.	1			○	1	○	4	○		
19			プロペリディニウム	プロペリディニウム	<i>Protoperdinium bipes</i>									6	○
20					<i>Protoperdinium</i> spp.	2			○	4	○	6	○		
21						PERIDINIALES					2	○	○		
22			不等毛植物	黄金色藻	ディクチオカ	ディクチオカ	<i>Dictyocha speculum</i>			1					
23	ラフィド藻	ラフィドモナス		ヴァキエオラリア	<i>Fibrocapsa japonica</i>	7	○								
24				<i>Heterosigma akashiwo</i>	4										
25	珪藻	円心	タラシオシラ	<i>Skeletonema</i> spp.	876	○	63	○	342	○	1,344	○			
26				<i>Thalassiosira nordenskiöldii</i>			31	○							
27				<i>Thalassiosira</i> spp.	210	○	7	○	378	○	336	○			
28				Thalassiosiraceae	6	○	○	2	○	32	○				
29			メロシラ	<i>Leptocylindrus danicus</i>	4		10		9	○	18	○			
30				<i>Leptocylindrus minimus</i>	2	○									
31				コスキノディスクス	<i>Coscinodiscus</i> spp.							1			
32				ヘリオペルタ	<i>Actinopterychus senarius</i>					1	○				
33			リゾソレニア	<i>Guinardia flaccida</i>						1	○				
34				<i>Rhizosolenia fragilissima</i>	1	○	5	○	17	○	6	○			
35				<i>Rhizosolenia setigera</i>	1	○		○							
36				<i>Rhizosolenia stolterfothii</i>	2	○									
37			ピドゥルフィア	<i>Cerataulina pelagica</i>			6		3	○					
38				<i>Eucampia zodiacus</i>						○					
39			キートケロス	<i>Chaetoceros affine</i>			6	○							
40				<i>Chaetoceros curvisetum</i>							38	○			
41				<i>Chaetoceros didymum</i>								○			
42				<i>Chaetoceros lorenzianum</i>							○	6	○		
43				<i>Chaetoceros radicans</i>								○			
44				<i>Chaetoceros sociale</i>				282	○			10	○		
45				<i>Chaetoceros</i> spp.	7	○	1	○	1	○	56	○			
46	リトデスミウム	<i>Ditylum brightwellii</i>			8	○	1	○							
47	羽状	ディアトマ	<i>Neodelphineis pelagica</i>							80	○				
48			<i>Thalassionema nitzschioides</i>	2	○					18	○				
49		ナビクラ	<i>Navicula</i> spp.	1	○			1		8	○				
50			<i>Pleurosigma</i> spp.					1	○	14	○				
51		ニツチア	<i>Cylindrotheca closterium</i>			1	○	6	○	14	○				
52			<i>Nitzschia</i> spp.					2			○				
53			<i>Pseudo-nitzschia</i> sp.	180	○		○		○	1,368	○				
54	ミドリムシ植物	ミドリムシ藻		EUGLENOPHYCEAE		○	1	○	2	○	112	○			
55	緑色植物門	プランノ藻		PRASINOPHYCEAE	1	○	1	○	7	○	12	○			
56				unknown micro-flagellate	12	○	27	○	15	○	68	○			
種類数						27		26		31		36			
細胞数合計						1,465	-	457	-	1,118	-	3,743	-		

注1) ○は出現したことを示す。

注2) 学名及び分類順は千原他編(1997)「日本産海洋プランクトン検索図説」に準拠した。

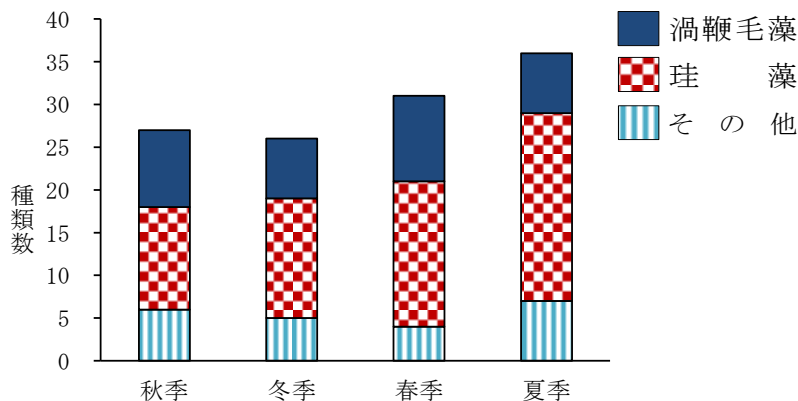


図 7.48 根岸湾沖における植物プランクトン時季別種類数

表 7.136 根岸湾沖における植物プランクトンの網別細胞数

時季	秋季		冬季		春季		夏季	
	細胞数 (細胞/mL)	組成比 (%)	細胞数 (細胞/mL)	組成比 (%)	細胞数 (細胞/mL)	組成比 (%)	細胞数 (細胞/mL)	組成比 (%)
渦鞭毛藻	11	0.8	5	1.1	23	2.1	34	0.9
珪藻	1,292	88.2	420	91.9	765	68.4	3,349	89.5
その他	162	11.1	32	7.0	330	29.5	360	9.6
合計	1,465	100	457	100	1,118	100	3,743	100

注1) 組成比の数値は小数点1桁で四捨五入しているため、合計が100%にならない場合がある。

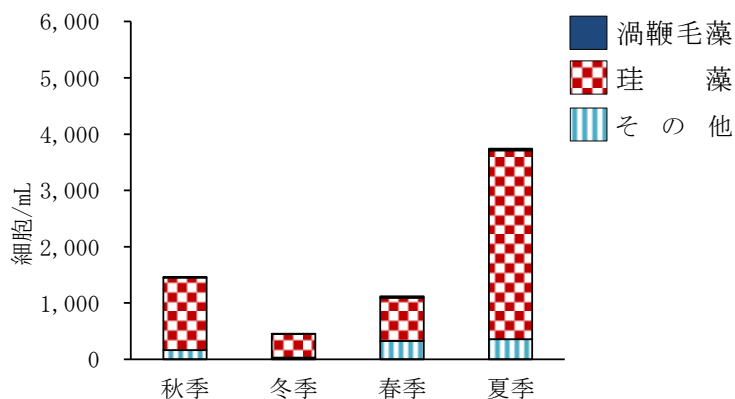


図 7.49 根岸湾沖における植物プランクトン時季別細胞数

表 7.137 根岸湾沖における植物プランクトン優占種

時季	単位:細胞/mL			
	秋季	冬季	春季	夏季
優占種の細胞数 および組成比 (組成比10%以上)	<i>Skeletonema</i> spp. 876 (59.8%)	<i>Chaetoceros sociale</i> 282 (61.7%)	<i>Thalassiosira</i> spp. 378 (33.8%)	<i>Pseudo-nitzschia</i> sp. 1,368 (36.5%)
	<i>Thalassiosira</i> spp. 210 (14.3%)	<i>Skeletonema</i> spp. 63 (13.8%)	<i>Skeletonema</i> spp. 342 (30.6%)	<i>Skeletonema</i> spp. 1,344 (35.9%)
	<i>Pseudo-nitzschia</i> sp. 180 (12.3%)		CRYPTOPHYCEAE 306 (27.4%)	

③金沢湾沖

金沢湾沖の植物プランクトン出現一覧を表 7.138に、時季別種類数を図 7.50に、綱別細胞数を表 7.139に、時季別細胞数を図 7.51に、優占種を表 7.140に示す。

出現種類数は秋季調査で 24 種類、冬季調査で 23 種類、春季調査で 25 種類、夏季調査で 35 種類、4 季合わせて計 56 種類であった。

細胞数は、夏季調査が最も多く、冬季調査は最も少なかった。分類群別細胞数は、春季調査で渦鞭毛藻綱と珪藻綱を除いたその他の割合が多く、その他の 3 季では珪藻綱の割合が多かった。

組成比 10%以上を示す優占種は、秋季調査で *Skeletonema* spp. (948 細胞/mL、68.6%)、*Thalassiosira* spp. (186 細胞/mL、13.5%)、CRYPTOPHYCEAE (168 細胞/mL、12.2%)、冬季調査で *Chaetoceros sociale* (252 細胞/mL、57.8%)、*Skeletonema* spp. (84 細胞/mL、19.3%) 春季調査で CRYPTOPHYCEAE (852 細胞/mL、85.8%)、夏季調査で *Pseudo-nitzschia* sp. (3,192 細胞/mL、60.5%)、*Skeletonema* spp. (888 細胞/mL、16.8%) であった。

表 7.138 金沢湾沖における植物プランクトン出現種一覧

調査方法：表層水採水（1L）  
単 位：細胞/mL

No.	門	綱	目	科	学名	秋季		冬季		春季		夏季							
						調査日	固定方法	2024年 11月6日	2025年 2月12日	2025年 4月30日	2025年 7月23日								
						計数試料	定性試料	計数試料	定性試料	計数試料	定性試料	計数試料	定性試料						
1	クリプト植物	クリプト藻			CRYPTOPHYCEAE	168	○	3	○	852	○	180	○						
2	渦鞭毛植物	渦鞭毛藻	プロコケントルム	プロコケントルム	<i>Prorocentrum micans</i>							1	○						
3					<i>Prorocentrum cordatum</i>	1	○	1	○	1	○				○				
4					<i>Prorocentrum triestinum</i>										8	○			
5																			
6					ディノフィシス	ディノフィシス	<i>Dinophysis acuminata</i>					3	○						
7							<i>Dinophysis caudata</i>						○						
8							<i>Oxyphysis oxytoxoides</i>			1		2	○		○				
9					ギムノディニウム	ギムノディニウム	<i>Karenia mikimotoi</i>	1	○										
10							<i>Gyrodinium</i> spp.	4	○				○						
11							GYMNODINIALES					7	○	20	○				
12					ノクテイルカ	ノクテイルカ	<i>Noctiluca scintillans</i>	1											
13					ゴニオラックス	ケラティウム	<i>Ceratium fusus</i>							1	○				
14							<i>Ceratium kofoidii</i>					1		1					
15						ゴニオラックス	<i>Gonyaulax</i> spp.				○		○						
16					ペリディニウム	カルキオディネラ	<i>Scrippsiella</i> spp.	1		3	○				○				
17						ペリディニウム	<i>Heterocapsa steinii</i>				3	○							
18							<i>Heterocapsa</i> sp.	1	○	1	○								
19						プロトペリディニウム	<i>Protoperidinium bipes</i>							1	○				
20							<i>Protoperidinium</i> spp.		○	2	○	1	○	8	○				
21			不等毛植物	黄金色藻	ディクチオカ	ディクチオカ	<i>Dictyocha speculum</i>				○								
22	ラフト藻	ラフトモナス		ヴァキューオリア	<i>Fibrocapsa japonica</i>	8	○												
23					<i>Heterosigma akashiwo</i>	2													
24	珪藻	珪藻	円心	タラシオシラ	<i>Skeletonema</i> spp.	948	○	84	○	23	○	888	○						
25								<i>Thalassiosira nordenskioldii</i>			35	○							
26								<i>Thalassiosira</i> spp.	186	○	4	○	69	○	192	○			
27								Thalassiosiraceae	9	○		○	2	○	12	○			
28							メロシラ	<i>Leptocylindrus danicus</i>				7				4	○		
29								<i>Leptocylindrus minimus</i>	9										
30							コスキノディスクス		<i>Coscinodiscus</i> spp.						○				
31							ハリオベルタ		<i>Actinocyclus senarius</i>					1	○				
32							リゾソレニア		<i>Guinardia flaccida</i>					1	○				
33									<i>Rhizosolenia fragillissima</i>	1	○	9	○	9	○	4	○		
34							<i>Rhizosolenia setigera</i>	1	○										
35							<i>Rhizosolenia stolterfothii</i>		○										
36					ビドゥルフィア		<i>Cerataulina pelagica</i>			4	○	1	○						
37					キートケロス		<i>Chaetoceros affine</i>								○				
38							<i>Chaetoceros curvisetum</i>							48	○				
39							<i>Chaetoceros danicum</i>						○						
40							<i>Chaetoceros debile</i>								○				
41							<i>Chaetoceros didymum</i>								12	○			
42							<i>Chaetoceros lorenzianum</i>								12	○			
43							<i>Chaetoceros radicans</i>									○			
44							<i>Chaetoceros sociale</i>				252	○			4	○			
45							<i>Chaetoceros</i> spp.	8	○					○	32	○			
46						リトデスミウム		<i>Ditylum brightwellii</i>			9	○	1	○					
47			ミドリムシ植物	ミドリムシ藻			ディアトマ	<i>Neodelphinis pelagica</i>							84	○			
48										<i>Thalassionema nitzschioides</i>	2	○						30	○
49									ナビクラ		<i>Navicula</i> spp.			1	○			26	○
50											<i>Pleurosigma</i> spp.							10	○
51							ニツチア		<i>Cylindrotheca closterium</i>	1	○	2	○	2	○	14	○		
52									<i>Nitzschia</i> spp.									○	
53									<i>Pseudo-nitzschia</i> sp.	16	○		○	2		3,192	○		
54	ミドリムシ植物	ミドリムシ藻							EUGLENOPHYCEAE	1	○		○			300	○		
55	緑色植物門	プランノ藻			PRASINOPHYCEAE	5	○			2	○	10	○						
56					unknown micro-flagellate	7	○	15	○	13	○	180	○						
種 類 数						24		23		25		35							
細胞数合計						1,381	-	436	-	993	-	5,276	-						

注1) ○は出現したことを示す。

注2) 学名及び分類順は千原他編(1997)「日本産海洋プランクトン検索図説」に準拠した。

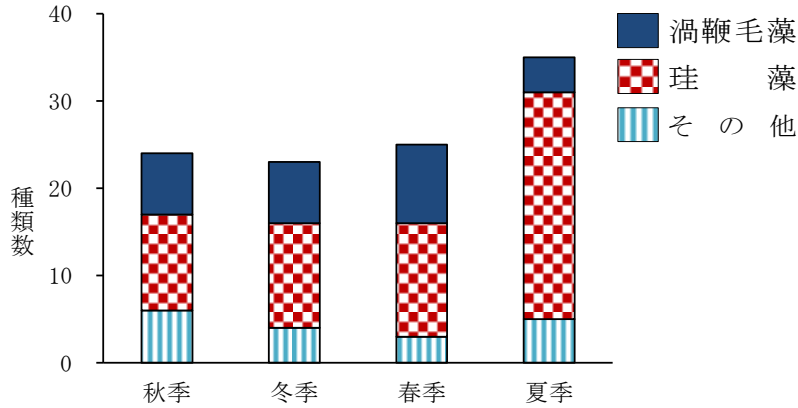


図 7.50 金沢湾沖における植物プランクトン時季別種類数

表 7.139 金沢湾沖における植物プランクトンの網別細胞数

時季	秋季		冬季		春季		夏季	
	細胞数 (細胞/mL)	組成比 (%)	細胞数 (細胞/mL)	組成比 (%)	細胞数 (細胞/mL)	組成比 (%)	細胞数 (細胞/mL)	組成比 (%)
渦鞭毛藻	9	0.7	11	2.5	15	1.5	42	0.8
珪藻	1,181	85.5	407	93.3	111	11.2	4,564	86.5
その他	191	13.8	18	4.1	867	87.3	670	12.7
合計	1,381	100	436	100	993	100	5,276	100

注1) 組成比の数値は小数点1桁で四捨五入しているため、合計が100%にならない場合がある。

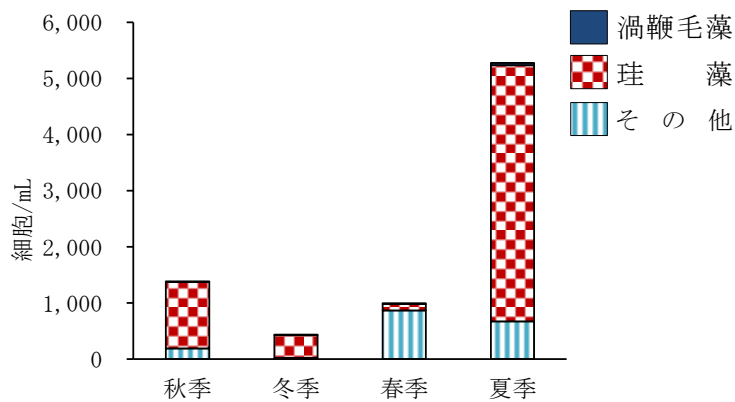


図 7.51 金沢湾沖における植物プランクトン時季別細胞数

表 7.140 金沢湾沖における植物プランクトン優占種

時季	単位:細胞/mL			
	秋季	冬季	春季	夏季
優占種の細胞数 および組成比 (組成比10%以上)	<i>Skeletonema</i> spp. 948 (68.6%)	<i>Chaetoceros sociale</i> 252 (57.8%)	CRYPTOPHYCEAE 852 (85.8%)	<i>Pseudo-nitzschia</i> sp. 3,192 (60.5%)
	<i>Thalassiosira</i> spp. 186 (13.5%)	<i>Skeletonema</i> spp. 84 (19.3%)		<i>Skeletonema</i> spp. 888 (16.8%)
	CRYPTOPHYCEAE 168 (12.2%)			

## 7.7.2. 動物プランクトン

## 1) 概要

動物プランクトン種組成を図 7.52に、地点別種類数を図 7.53に、時季別種類数を図 7.54に、出現種一覧を表 7.141に示す。

出現種類数は、秋季調査で 20 種類、冬季調査で 18 種類、春季調査で 13 種類、夏季調査で 18 種類、4 季合わせて計 35 種類であった。

地点別の出現種類数は横浜港沖で 29 種類、根岸湾沖、金沢湾沖とともに 27 種類であった。

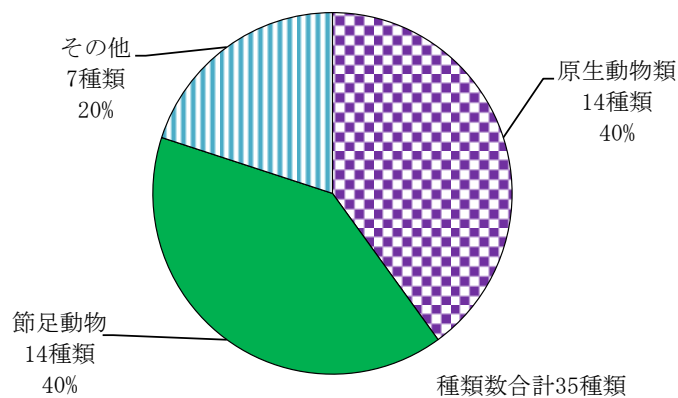


図 7.52 動物プランクトン種組成

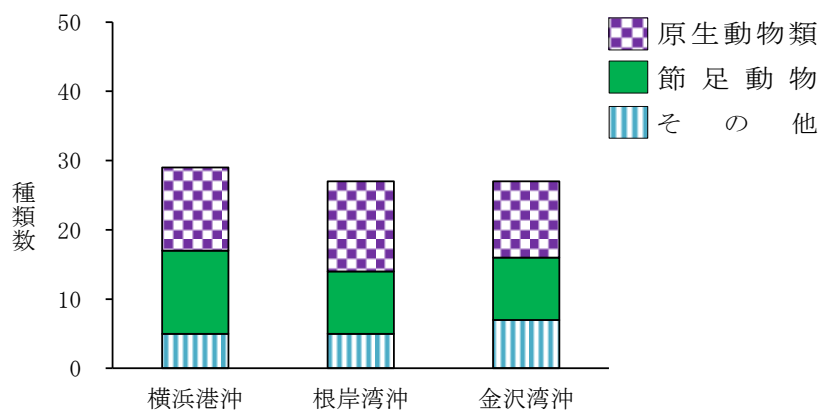


図 7.53 動物プランクトン地点別種類数

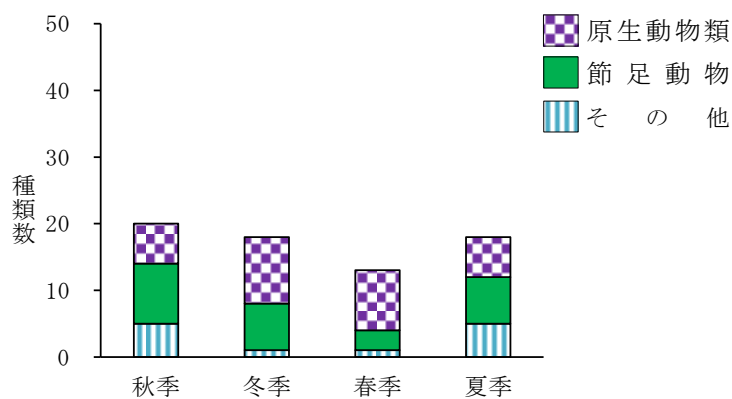


図 7.54 動物プランクトン時季別種類数

表 7.141 動物プランクトン出現種一覧

調査日：(秋季) 2024年11月 6日  
 (冬季) 2025年 2月12日  
 (春季) 2025年 4月30日  
 (夏季) 2025年 7月23日  
 採取方法：表層水採水

No.	門	綱	目	学名	地点			時季					
					横 浜 港 沖	根 岸 湾 沖	金 沢 湾 沖	秋 季	冬 季	春 季	夏 季		
1	原生動物類※	ケルコゾア	テコフィロセア	エブリア	<i>Ebria tripartita</i>	○	○	○	○	○			
2		棘針			ACANTHAREA	○	○	○	○	○		○	
3		キネトフラグミノフォーラ	原口		<i>Myrionecta rubra</i>	○	○	○	○	○	○	○	
4					<i>Tiarina fusus</i>	○	○	○		○	○		
5					<i>Didinium</i> sp.		○				○		
6		多膜類繊毛虫 <small>少毛類繊毛虫(少毛類繊毛虫亜目)</small>			OLIGOTRICHINA	○	○	○	○	○	○	○	
7					<i>Tintinnidium mucicola</i>	○	○	○				○	
8					<i>Tintinnopsis beroidea</i>		○	○		○	○		
9					<i>Tintinnopsis</i> sp.	○	○	○	○	○			
10					<i>Helicostomella subulata</i>	○	○	○		○	○	○	
11					<i>Stenosemella ventricosa</i>	○	○	○		○	○		
12					<i>Favella taraiakaensis</i>	○	○	○		○	○		
13					<i>Amphorellopsis acuta</i>	○	○						○
14		(繊毛虫類)			CILIOPHORA	○	○	○	○	○	○	○	
15	刺胞動物	ヒドロ虫		HYDROZOA			○	○			○		
16	輪形動物	単生殖巣	ワムシ	<i>Synchaeta</i> sp.	○	○	○	○		○			
17	軟体動物	二枚貝		D larva of BIVALVIA	○	○	○	○			○		
18				Umbo larva of BIVALVIA	○	○	○				○		
19	環形動物	多毛		Nectochaeta of POLYCHAETA	○	○	○	○			○		
20	節足動物	鰓脚	枝角	<i>Evadne tergestina</i>	○	○	○	○			○		
21		アゴアシ	カラヌス	<i>Acartia omorii</i>	○	○	○				○	○	
22				Copepodite of <i>Acartia</i>	○	○	○	○	○	○	○		
23				Copepodite of <i>Centropages</i>	○				○				
24				<i>Paracalanus crassirostris</i>		○		○					
25				Copepodite of <i>Paracalanus</i>		○			○				
26				Copepodite of Pontellidae	○							○	
27		キクロプス		<i>Oithona davisae</i>	○	○	○		○	○	○		
28				Copepodite of <i>Oithona</i>	○	○	○	○	○	○	○		
29		ハルバクチス		<i>Euterpina acutifrons</i>	○	○	○	○	○				
30		ボエキロストム		Copepodite of <i>Corycaeus</i>	○	○	○	○	○				
31				Copepodite of <i>Oncaea</i>	○		○						
32		フジツボ		Nauplius of CIRRIPEDIA	○	○	○	○	○				
33				Nauplius of COPEPODA	○	○	○	○		○	○		
34	毛顎動物	現生矢虫	無膜	<i>Sagitta</i> sp.(juv.)			○				○		
35	脊索動物	尾虫	尾虫	<i>Oikopleura dioica</i>	○	○	○	○	○				
種類数					29	27	27	20	18	13	18		

注1) ○は出現したことを示す。

注2) 上位または下位の分類群がより一般的な名称である場合は( )で示した。

注3) 学名及び分類順は千原他編(1997)「日本産海洋プランクトン検索図説」に準拠した。

注4) ※原生動物類については複数の動物門を含むグループを示す。

## 2) 地点ごとの季節変化

## ①横浜港沖

横浜港沖の動物プランクトン出現種一覧を表 7.142に、時季別種類数を図 7.55に、門別個体数を表 7.143に、時季別個体数を図 7.56に、優占種を表 7.144に示す。

出現種類数は秋季調査で 13 種類、冬季調査、春季調査でともに 9 種類、夏季調査で 15 種類、4 季合わせて計 29 種類であった。

個体数は、夏季調査がもっとも多かった。分類群別個体数は、夏季調査で節足動物が大きな割合を占め、その他の 3 季では原生動物類が大きな割合を占めた。

組成比 10%以上を示す優占種は、秋季調査で *Synchaeta* sp. (375 個体/L、36.1%)、OLIGOTRICHINA (225 個体/L、21.6%)、*Ebria tripartita* (150 個体/L、14.4%)、CILIOPHORA (150 個体/L、14.4%)、冬季調査で OLIGOTRICHINA (325 個体/L、43.1%)、*Myrionecta rubra* (275 個体/L、36.5%)、春季調査で OLIGOTRICHINA (750 個体/L、60.9%)、*Helicostomella subulata* (175 個体/L、14.2%)、*Myrionecta rubra* (150 個体/L、12.2%)、夏季調査で Nauplius of COPEPODA (2,750 個体/L、71.2%) であった。

表 7.142 横浜港沖における動物プランクトン出現種一覧

調査方法：表層水採水（2L）

単 位：個体/L

No.	門	綱	目	学 名	時 季				
					調査日	秋季	冬季	春季	夏季
					2024年 11月 6日	2025年 2月12日	2025年 4月30日	2025年 7月23日	
1	原生動物類※	ケルコゾア	テコフィロセア	エブリア	<i>Ebria tripartita</i>	150			
2		棘針			ACANTHAREA	1			25
3		キネトブラグミノフォーラ	原口		<i>Myrionecta rubra</i>	50	275	150	150
4					<i>Tiarina fusus</i>		50	25	
5		多膜類繊毛虫			OLIGOTRICHINA	225	325	750	275
6			少毛類繊毛虫		<i>Tintinnidium mucicola</i>			25	
7					<i>Tintinnopsis</i> sp.	75	75		
8					<i>Helicostomella subulata</i>			175	200
9					<i>Stenosemella ventricosa</i>			100	
10					<i>Favella taraikaensis</i>		25		
11					<i>Amphorellopsis acuta</i>				75
12			(繊毛虫類)		CILIOPHORA	150			
13	輪形動物	単生殖巣	ワムシ	<i>Synchaeta</i> sp.	375		1		
14	軟体動物	二枚貝		D larva of BIVALVIA				25	
15				Umbo larva of BIVALVIA				1	
16	環形動物	多毛		Nectochaeta of POLYCHAETA				2	
17	節足動物	鰓脚	枝角	<i>Evadne tergestina</i>				4	
18		アゴアシ	カラヌス	<i>Acartia omorii</i>				1	
19				Copepodite of <i>Acartia</i>			1	3	3
20				Copepodite of <i>Centropages</i>			1		
21				Copepodite of Pontellidae					1
22		キクロプス		<i>Oithona davisae</i>				50	
23				Copepodite of <i>Oithona</i>	1			300	
24		ハルバクチス		<i>Euterpina acutifrons</i>	1				
25		ポエキロストム		Copepodite of <i>Corycaeus</i>	1				
26				Copepodite of <i>Oncaea</i>	1				
27		フジツボ		Nauplius of CIRRIPIEDIA		1			
28				Nauplius of COPEPODA	6		2	2,750	
29	脊索動物	尾虫	尾虫	<i>Oikopleura dioica</i>	4	1			
種 類 数					13	9	9	15	
個 体 数 合 計					1,040	754	1,231	3,862	

注1) 上位または下位の分類群がより一般的な名称である場合は( )で示した。

注2) 学名及び分類順は千原他編(1997)「日本産海洋プランクトン検索図説」に準拠した。

注3) ※原生動物類については複数の動物門を含むグループを示す。

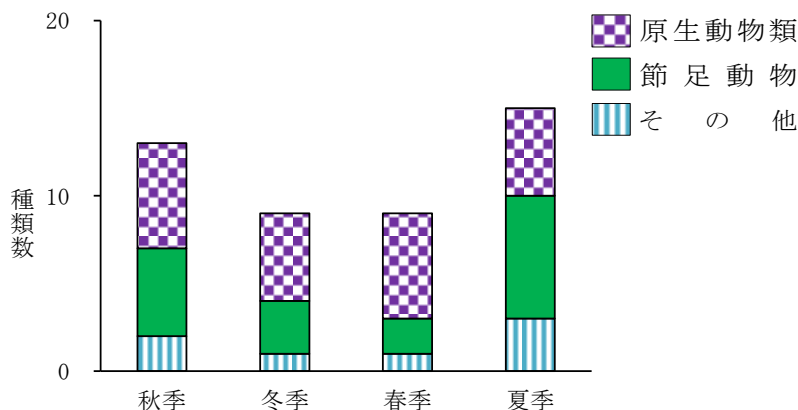


図 7.55 横浜港沖における動物プランクトン時季別種類数

表 7.143 横浜港沖における動物プランクトンの門別個体数

時季	秋季		冬季		春季		夏季	
	個体数 (個体/L)	組成比 (%)	個体数 (個体/L)	組成比 (%)	個体数 (個体/L)	組成比 (%)	個体数 (個体/L)	組成比 (%)
原生動物類	651	62.6	750	99.5	1,225	99.5	725	18.8
節足動物	10	1.0	3	0.4	5	0.4	3,109	80.5
その他	379	36.4	1	0.1	1	0.1	28	0.7
合計	1,040	100	754	100	1,231	100	3,862	100

注1) 組成比の数値は小数点1桁で四捨五入しているため、合計が100%にならない場合がある。

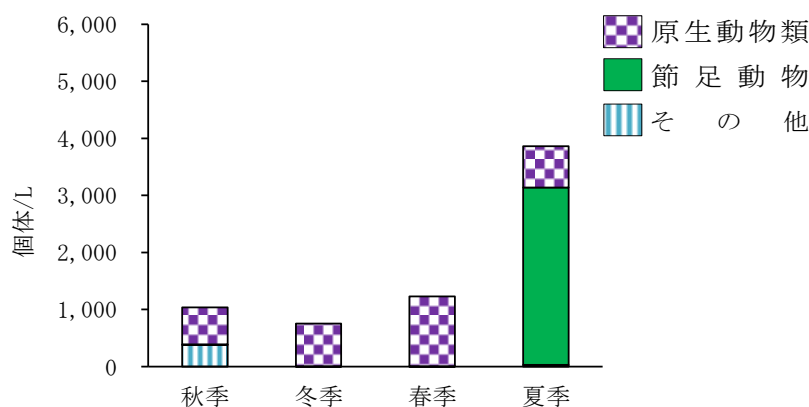


図 7.56 横浜港沖における動物プランクトン時季別個体数

表 7.144 横浜港沖における動物プランクトン優占種

調査時季	単位:個体/L			
	秋季	冬季	春季	夏季
優占種の個体数 および組成比 (組成比10%以上)	<i>Synchaeta</i> sp. 375 (36.1%)	OLIGOTRICHINA 325 (43.1%)	OLIGOTRICHINA 750 (60.9%)	Nauplius of COPEPODA 2,750 (71.2%)
	OLIGOTRICHINA 225 (21.6%)	<i>Myrionecta rubra</i> 275 (36.5%)	<i>Helicostomella subulata</i> 175 (14.2%)	
	<i>Ebria tripartita</i> 150 (14.4%)		<i>Myrionecta rubra</i> 150 (12.2%)	
	CILIOPHORA 150 (14.4%)			

②根岸湾沖

根岸湾沖の動物プランクトン出現種一覧を表 7.145に、時季別種類数を図 7.57に、門別個体数を表 7.146に、時季別個体数を図 7.58に、優占種を表 7.147に示す。

出現種類数は秋季調査、冬季調査、夏季調査でともに 13 種類、春季調査で 9 種類、4 季合わせて計 27 種類であった。

個体数は、夏季調査が最も多かった。分類群別個体数は、夏季調査で節足動物が大きな割合を占め、その他の 3 季では原生動物類が大きな割合を占めた。

組成比 10%以上を示す優占種は、秋季調査で OLIGOTRICHINA (550 個体/L、70.3%)、CILIOPHORA (100 個体/L、12.8%)、冬季調査で OLIGOTRICHINA (500 個体/L、46.3%)、*Myrionecta rubra* (350 個体/L、32.4%)、春季調査で OLIGOTRICHINA (675 個体/L、46.5%)、*Helicostomella subulata* (275 個体/L、19.0%)、*Stenosemella ventricosa* (200 個体/L、13.8%)、夏季調査で Nauplius of COPEPODA (1,875 個体/L、61.2%)、Copepodite of *Oithona* (500 個体/L、16.3%) であった。

表 7.145 根岸湾沖における動物プランクトン出現種一覧

調査方法：表層水採水（2L）  
単 位：個体/L

No.	門	綱	目	学名	時季				
					調査日	秋季	冬季	春季	夏季
					2024年 11月6日	2025年 2月12日	2025年 4月30日	2025年 7月23日	
1	原生動物類※	ケルコゾア	テコフィロセア	エブリア	<i>Ebria tripartita</i>	50	25		
2		原生動物	キネトフラグミノフォエラ	原口	<i>Myrionecta rubra</i>	25	350	125	200
3					<i>Tiarina fusus</i>		25	25	
4					<i>Didinium</i> sp.			25	
5			多膜類繊毛虫 <small>少毛類繊毛虫 (少毛類繊毛虫亜目)</small>		OLIGOTRICHINA	550	500	675	175
6					<i>Tintinnidium mucicola</i>			100	
7					<i>Tintinnopsis beroidea</i>		50	25	
8					<i>Tintinnopsis</i> sp.		25		
9					<i>Helicostomella subulata</i>		50	275	125
10					<i>Stenosemella ventricosa</i>			200	
11					<i>Favella taraikaensis</i>		25		
12				<i>Amphorellopsis acuta</i>				50	
13			(繊毛虫類)		CILIOPHORA	100	25		25
14	輪形動物	単生殖巣	ワムシ	<i>Synchaeta</i> sp.	25				
15	軟体動物	二枚貝		D larva of BIVALVIA	1				
16				Umbo larva of BIVALVIA				3	
17	環形動物	多毛		Nectochaeta of POLYCHAETA	1			4	
18	節足動物	鰓脚	枝角	<i>Evadne tergestina</i>	1			2	
19				アゴアシ	カラヌス	<i>Acartia omorii</i>			
20		Copepodite of <i>Acartia</i>	1			1	1	2	
21		<i>Paracalanus crassirostris</i>	1						
22		Copepodite of <i>Paracalanus</i>				1			
23			キクロプス		<i>Oithona davisae</i>				100
24					Copepodite of <i>Oithona</i>		1		500
25			フジツボ		Nauplius of CIRRIPIEDIA	1	3		
26		Nauplius of COPEPODA			25			1,875	
27	脊索動物	尾虫	尾虫	<i>Oikopleura dioica</i>	1				
					種類数	13	13	9	13
					個体数合計	782	1,081	1,451	3,062

注1) 上位または下位の分類群がより一般的な名称である場合は( )で示した。

注2) 学名及び分類順は千原他編(1997)「日本産海洋プランクトン検索図説」に準拠した。

注3) ※原生動物類については複数の動物門を含むグループを示す。

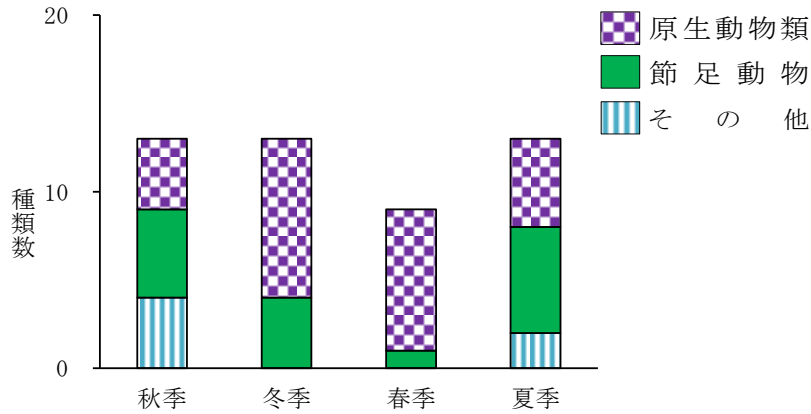


図 7.57 根岸湾沖における動物プランクトン時季別種類数

表 7.146 根岸湾沖における動物プランクトン門別個体数

時季	秋季		冬季		春季		夏季	
	個体数 (個体/L)	組成比 (%)	個体数 (個体/L)	組成比 (%)	個体数 (個体/L)	組成比 (%)	個体数 (個体/L)	組成比 (%)
原生動物類	725	92.7	1,075	99.4	1,450	99.9	575	18.8
節足動物	29	3.7	6	0.6	1	0.1	2,480	81.0
その他	28	3.6					7	0.2
合計	782	100	1,081	100	1,451	100	3,062	100

注1) 組成比の数値は小数点1桁で四捨五入しているため、合計が100%にならない場合がある。

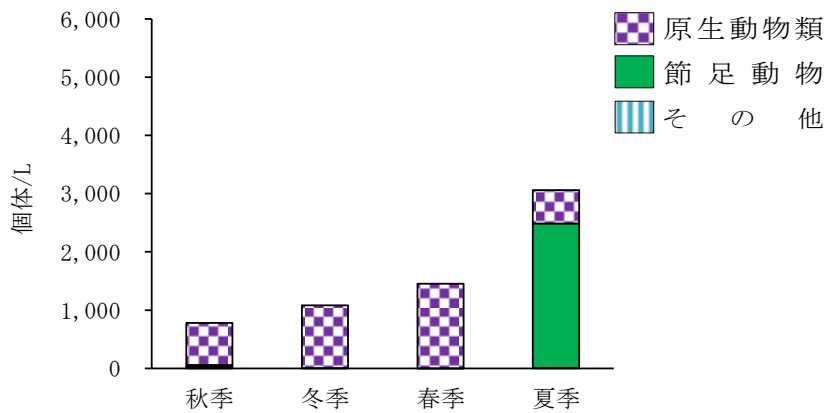


図 7.58 根岸湾沖における動物プランクトン時季別個体数

表 7.147 根岸湾沖における動物プランクトン優占種

調査時季	単位:個体/L			
	秋季	冬季	春季	夏季
優占種の個体数 および組成比 (組成比10%以上)	OLIGOTRICHINA 550 (70.3%)	OLIGOTRICHINA 500 (46.3%)	OLIGOTRICHINA 675 (46.5%)	Nauplius of COPEPODA 1,875 (61.2%)
	CILIOPHORA 100 (12.8%)	<i>Myrionecta rubra</i> 350 (32.4%)	<i>Helicostomella subulata</i> 275 (19.0%)	Copepodite of <i>Oithona</i> 500 (16.3%)
			<i>Stenosemella ventricosa</i> 200 (13.8%)	

## ③金沢湾沖

金沢湾沖の動物プランクトン出現種一覧を表 7.148に、時季別種類数を図 7.59に、門別個体数を表 7.149に、時季別個体数を図 7.60に、優占種を表 7.150に示す。

出現種類数は秋季調査で 12 種類、冬季調査で 14 種類、春季調査で 10 種類、夏季調査で 13 種類、4 季合わせて計 27 種類であった。

個体数は、夏季調査が最も多かった。分類群別個体数は、夏季調査で節足動物が大きな割合を占め、その他の 3 季では原生動物類が大きな割合を占めた。

組成比 10%以上を示す優占種は、秋季調査で OLIGOTRICHINA (600 個体/L、65.8%)、CILIOPHORA (150 個体/L、16.4%)、冬季調査で OLIGOTRICHINA (350 個体/L、41.8%)、*Myrionecta rubra* (150 個体/L、17.9%)、*Tintinnopsis beroidea* (125 個体/L、14.9%)、春季調査で OLIGOTRICHINA (900 個体/L、47.7%)、*Helicostomella subulata* (650 個体/L、34.5%)、夏季調査で Nauplius of COPEPODA (3,575 個体/L、70.1%)、Copepodite of *Oithona* (800 個体/L、15.7%) であった。

表 7.148 金沢湾沖における動物プランクトン出現種一覧

No.	門	綱	目	学名	時季 調査日	調査方法：表層水採水 (2L) 単 位：個体/L					
						秋季 2024年 11月 6日	冬季 2025年 2月12日	春季 2025年 4月30日	夏季 2025年 7月23日		
1	原生動物類※	ケルコゾア	テコフィロセア	エブリア	<i>Ebria tripartita</i>		50	25			
2		キネトフラグミノフォラ	原口		<i>Myrionecta rubra</i>		25	150	150	200	
3					<i>Tiarina fusus</i>			25			
4				多膜類繊毛虫 <small>(少毛類繊毛虫 少毛類繊毛虫並目)</small>		OLIGOTRICHINA		600	350	900	100
5						<i>Tintinnidium mucicola</i>				25	
6						<i>Tintinnopsis beroidea</i>			125	75	
7						<i>Tintinnopsis</i> sp.			25		
8						<i>Helicostomella subulata</i>			25	650	150
9						<i>Stenosemella ventricosa</i>			75	75	
10					<i>Favella taraikaensis</i>					2	
11					(繊毛虫類)		CILIOPHORA		150	25	
12	刺胞動物	ヒドロ虫		HYDROZOA		1			1		
13	輪形動物	単生殖巣	ワムシ	<i>Synchaeta</i> sp.		50					
14	軟体動物	二枚貝		D larva of BIVALVIA		3			2		
15				Umbo larva of BIVALVIA					4		
16	環形動物	多毛		Nectochaeta of POLYCHAETA		1			11		
17	節足動物	鰓脚	枝角	<i>Evadne tergestina</i>					2		
18		アゴアシ	カラヌス		<i>Acartia omorii</i>				3		
19					Copepodite of <i>Acartia</i>			3	3		
20			キクロプス		<i>Oithona davisae</i>			1		225	
21					Copepodite of <i>Oithona</i>		1			800	
22			ハルバクチス		<i>Euterpina acutifrons</i>		1				
23			ボエキロストム		Copepodite of <i>Corycaeus</i>			1			
24			フジツボ		Nauplius of CIRRIPIEDIA				7		
25					Nauplius of COPEPODA		25		2	3,575	
26			毛顎動物	現生矢虫	無膜	<i>Sagitta</i> sp.(juv.)					2
27	脊索動物		尾虫	尾虫	<i>Oikopleura dioica</i>		5	1			
種類数						12	14	10	13		
個体数合計						912	838	1,885	5,097		

注1) 上位または下位の分類群がより一般的な名称である場合は( )で示した。

注2) 学名及び分類順は千原他編(1997)「日本産海洋プランクトン検索図説」に準拠した。

注3) ※原生動物類については複数の動物門を含むグループを示す。

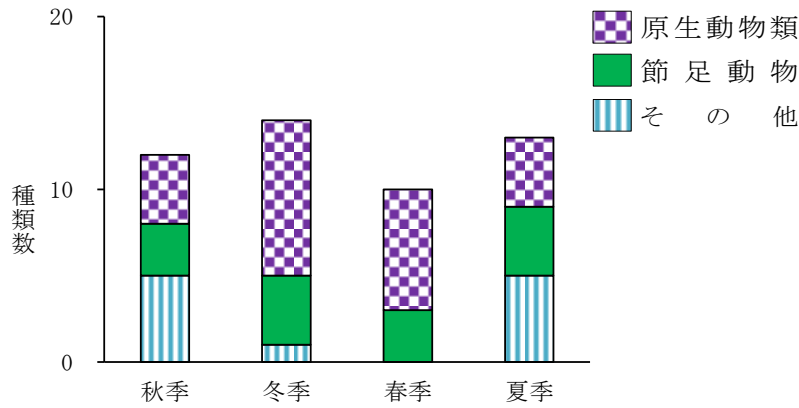


図 7.59 金沢湾沖における動物プランクトン時季別種類数

表 7.149 金沢湾沖における動物プランクトン門別個体数

時季	秋季		冬季		春季		夏季	
	個体数 (個体/L)	組成比 (%)	個体数 (個体/L)	組成比 (%)	個体数 (個体/L)	組成比 (%)	個体数 (個体/L)	組成比 (%)
原生動物類	825	90.5	825	98.4	1,877	99.6	475	9.3
節足動物	27	3.0	12	1.4	8	0.4	4,602	90.3
その他	60	6.6	1	0.1			20	0.4
合計	912	100	838	100	1,885	100	5,097	100

注1) 組成比の数値は小数点1桁で四捨五入しているため、合計が100%にならない場合がある。

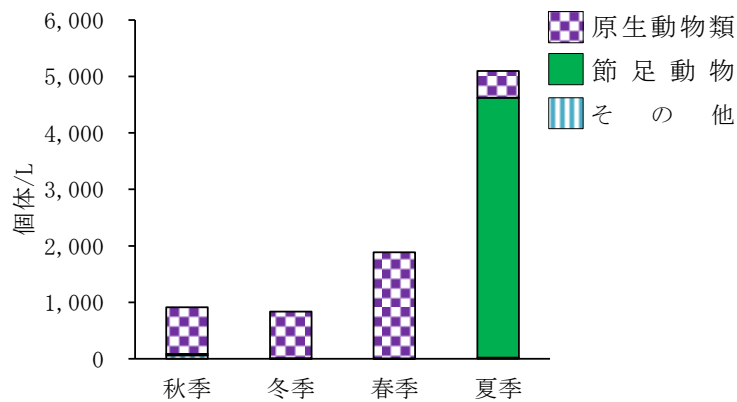


図 7.60 金沢湾沖における動物プランクトン時季別個体数

表 7.150 金沢湾沖における動物プランクトン優占種

調査時季	単位: 個体/L			
	秋季	冬季	春季	夏季
優占種の個体数 および組成比 (組成比10%以上)	OLIGOTRICHINA 600 (65.8%)	OLIGOTRICHINA 350 (41.8%)	OLIGOTRICHINA 900 (47.7%)	Nauplius of COPEPODA 3,575 (70.1%)
	CILIOPHORA 150 (16.4%)	<i>Myrionecta rubra</i> 150 (17.9%)	<i>Helicostomella subulata</i> 650 (34.5%)	Copepodite of <i>Oithona</i> 800 (15.7%)
		<i>Tintinnopsis beroidea</i> 125 (14.9%)		

## 7.8. 環境要因

## 7.8.1. 河口・海岸調査

## (1) 水質観測値および分析値

河口・海岸域の調査時における地点別の水質観測値および分析値の一覧を表 7.152～表 7.158、図 7.61～図 7.67に示す。

また、「生活環境の保全に関する環境基準（海域）」（以下、環境基準）のCOD（化学的酸素要求量）についての基準値を表 7.151に示す。

表 7.151 生活環境の保全に関する環境基準（海域）のCOD基準値

類型項目	利用目的の適応性	COD基準値
A	水産1級 水浴 自然環境保全 および B以下の欄に掲げるもの	2mg/L以下
B	水産2級 工業用水 および Cの欄に掲げるもの	3mg/L以下
C	環境保全	8mg/L以下

## ① 鶴見川河口

表層水の水温は9.9～30.0℃、塩分は5.2～19.6psu、pHは7.1～8.5、溶存酸素は5.5～8.3mg/L、CODは5.0～7.6mg/Lの範囲で推移した。なお、鶴見川河口は海域としての類型指定はしていない。

表 7.152 鶴見川河口における水質調査の観測および分析値一覧

調査地点		鶴見川河口			
調査時季		秋季	冬季	春季	夏季
調査実施日		2024年10月30日	2025年2月14日	2025年4月23日	2025年7月29日
調査項目	(単位) 調査時刻	9:50	8:45	8:05	8:00
天候	(-)	雨,曇	晴	雨	晴
気温	(℃)	17.4	7.5	16.3	27.8
潮位	(cm)	68.2	134.1	96.4	163.6
計	水温 (℃)	19.3	9.9	19.4	30.0
器	塩分 (psu)	5.2	19.6	5.2	12.8
観	pH (-)	7.1	7.8	7.5	8.5
測	溶存酸素 (mg/L)	5.9	8.3	5.5	6.5
分析	COD (mg/L)	5.5	5.0	7.6	7.3

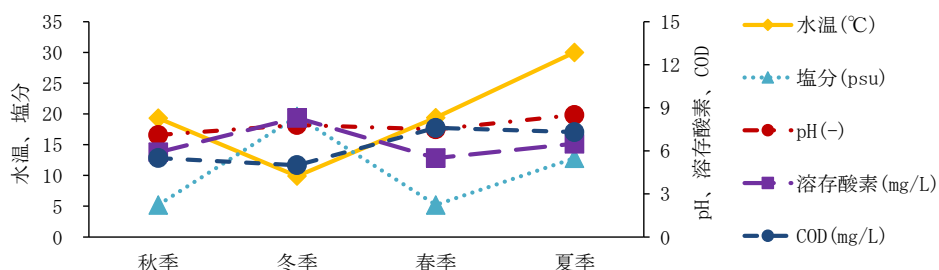


図 7.61 鶴見川河口における水質の季節変化

② 山下公園

表層水の水温は 11.1～28.5℃、塩分は 25.9～29.4psu、pH は 8.0～8.6、溶存酸素は 4.7～9.7mg/L、COD は 2.6～5.0mg/L の範囲で推移した。COD は秋季調査、春季調査および夏季調査では環境基準 C 類型の基準値以下で、冬季調査では環境基準 B 類型の基準値以下であった。

表 7.153 山下公園における水質調査の観測および分析値一覧

調査項目 (単位)	調査地点	山下公園			
	調査時期	秋季	冬季	春季	夏季
調査時刻		2024年10月29日	2025年2月14日	2025年4月23日	2025年7月22日
天候 (-)		雨	晴	雨	晴
気温 (°C)		17.9	11.6	18.5	32.5
潮位 (cm)		67.1	57.7	136.3	24.9
計器	水温 (°C)	21.0	11.1	16.5	28.5
器	塩分 (psu)	25.9	29.4	28.5	27.4
観	pH (-)	8.0	8.1	8.3	8.6
測	溶存酸素 (mg/L)	6.2	9.7	5.3	4.7
分析	COD (mg/L)	3.3	2.6	3.2	5.0
	環境基準類型	C	B	C	C

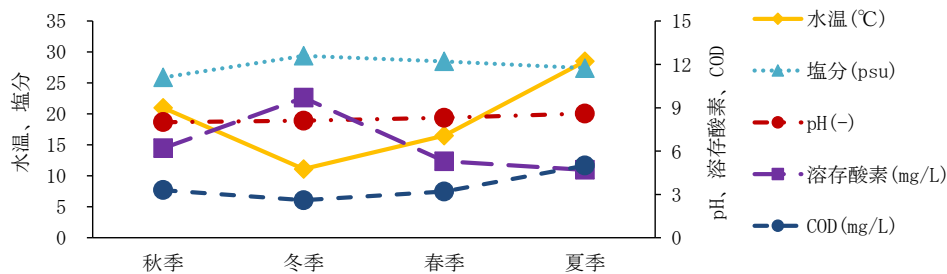


図 7.62 山下公園における水質の季節変化

③ 堀割川河口

表層水の水温は 11.8～29.3℃、塩分は 24.8～30.0psu、pH は 7.9～8.4、溶存酸素は 3.7～9.1mg/L、COD は 3.3～5.0mg/L の範囲で推移した。COD は秋季調査から夏季調査の 4 季ともに環境基準 C 類型の基準値以下であった。

表 7.154 堀割川河口における水質調査の観測および分析値一覧

調査項目 (単位)	調査地点	堀割川河口			
	調査時期	秋季	冬季	春季	夏季
調査時刻		2024年10月29日	2025年2月14日	2025年5月12日	2025年7月22日
天候 (-)		雨	晴	曇	晴
気温 (°C)		15.2	10.5	17.8	33.3
潮位 (cm)		139.2	113.5	57.3	100.1
計器	水温 (°C)	22.0	11.8	19.2	29.3
器	塩分 (psu)	27.3	30.0	24.8	28.5
観	pH (-)	7.9	8.1	8.1	8.4
測	溶存酸素 (mg/L)	5.0	9.1	3.7	5.9
分析	COD (mg/L)	3.3	5.0	4.0	4.2
	環境基準類型	C	C	C	C

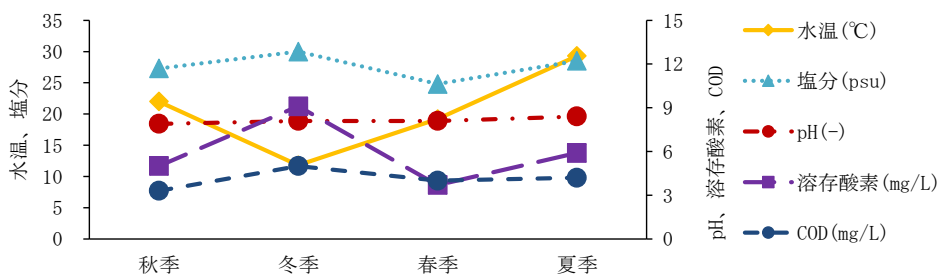


図 7.63 堀割川河口における水質の季節変化

## ④ 海の公園

表層水の水温は 11.2～27.8℃、塩分は 28.9～30.1psu、pH は 8.2～8.4、溶存酸素は 3.9～9.2mg/L、COD は 2.0～3.2mg/L の範囲で推移した。COD は秋季調査、春季調査では環境基準 B 類型の基準値以下で、冬季調査では環境基準 A 類型の基準値以下、夏季調査では環境基準 C 類型の基準値以下であった。

表 7.155 海の公園における水質調査の観測および分析値一覧

調査項目 (単位)	海の公園				
	調査時期	秋季	冬季	春季	夏季
調査実施日	2024年10月25日	2025年2月17日	2025年4月22日	2025年7月28日	
調査時刻	14:48	8:52	8:28	8:30	
天候 (-)	曇	晴	晴	快晴	
気温 (°C)	20.8	12.9	22.0	29.6	
潮位 (cm)	149.3	153.4	122.9	157.1	
計器	水温 (°C)	21.9	11.2	17.6	27.8
観測	塩分 (psu)	28.9	30.1	29.3	29.8
	pH (-)	8.2	8.2	8.2	8.4
	溶存酸素 (mg/L)	6.2	9.2	6.6	3.9
分析	COD (mg/L)	2.3	2.0	2.6	3.2
	環境基準類型	B	A	B	C

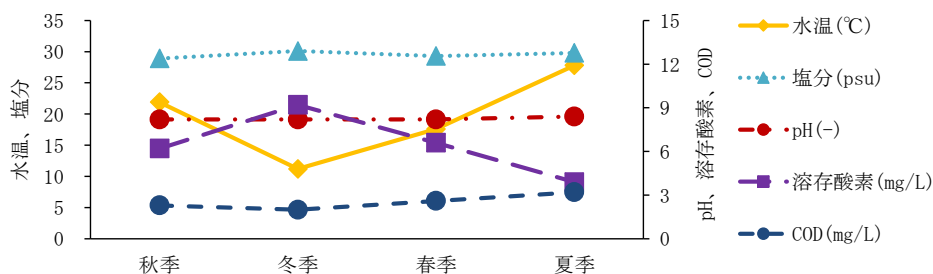


図 7.64 海の公園における水質の季節変化

## ⑤ 野島公園

表層水の水温は 12.1～29.1℃、塩分は 26.6～30.5psu、pH は 7.8～8.3、溶存酸素は 3.4～9.4mg/L、COD は 2.1～9.4mg/L の範囲で推移した。COD は秋季調査では 8mg/L を超え環境基準類型の範囲外で、冬季調査では環境基準の B 類型の基準値以下、春季調査、夏季調査では環境基準 C 類型の基準値以下であった。秋季調査の COD が基準値外と高くなったのは、当日の調査地点付近に局所的に起きていたプランクトン (*Noctiluca scintillans*、夜光虫) の大量発生が原因と思われる。

表 7.156 野島公園における水質調査の観測および分析値一覧

調査項目 (単位)	野島公園				
	調査時期	秋季	冬季	春季	夏季
調査実施日	2024年10月28日	2025年2月17日	2025年4月25日	2025年7月25日	
調査時刻	13:10	11:45	9:09	9:10	
天候 (-)	曇	晴	曇	快晴	
気温 (°C)	20.5	13.7	20.3	31.6	
潮位 (cm)	156.7	74.1	52.7	50.4	
計器	水温 (°C)	21.3	12.1	18.8	29.1
観測	塩分 (psu)	26.6	30.5	29.0	29.5
	pH (-)	7.8	8.2	8.2	8.3
	溶存酸素 (mg/L)	5.0	9.4	5.4	3.4
分析	COD (mg/L)	9.4	2.1	3.1	3.6
	環境基準類型	基準値外	B	C	C

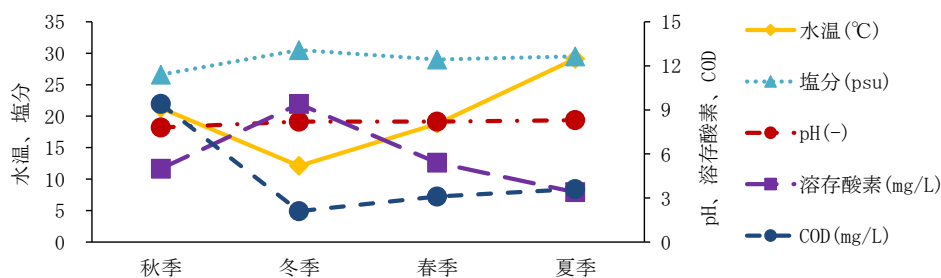


図 7.65 野島公園における水質の季節変化

⑥ 野島水路

表層水の水温は12.3～30.0℃、塩分は25.1～31.1psu、pHは7.8～8.3、溶存酸素は3.6～10.7mg/L、CODは2.6～4.0mg/Lの範囲で推移した。CODは秋季調査、夏季調査では環境基準のC類型の基準値以下で、冬季調査、春季調査では環境基準のB類型の基準値以下であった。

表 7.157 野島水路における水質調査の観測および分析値一覧

調査地点		野島水路			
調査項目	調査時刻	秋季	冬季	春季	夏季
調査項目 (単位)	調査時刻	2024年10月28日	2025年2月17日	2025年4月25日	2025年7月25日
天候 (-)	調査時刻	10:20	13:10	11:00	11:03
気温 (°C)		曇,雨	晴	曇	快晴
潮位 (cm)		18.7	14.1	19.8	31.0
計器		100.8	52.2	76.4	10.9
観測		21.3	12.3	18.6	30.0
		25.1	26.7	26.7	31.1
		7.8	8.2	8.2	8.3
		4.6	10.7	5.4	3.6
		4.0	2.6	2.8	3.5
分析					
		C	B	B	C

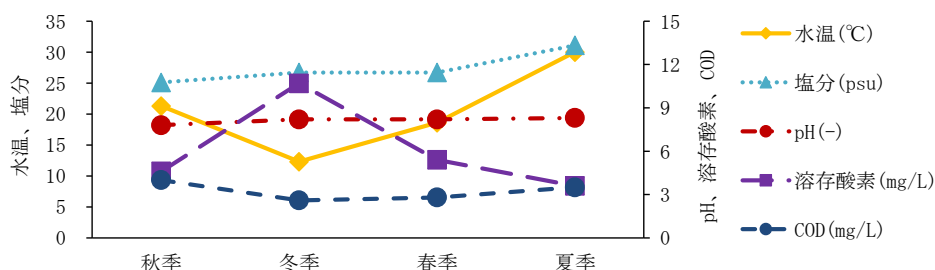


図 7.66 野島水路における水質分析値および観測値の季節変化

⑦ 夕照橋

表層水の水温は13.1～29.4℃、塩分は20.3～29.6psu、pHは7.9～8.6、溶存酸素は5.0～13.3mg/L、CODは2.7～4.3mg/Lの範囲で推移した。CODは秋季調査、春季調査および夏季調査では環境基準のC類型の基準値以下で、冬季調査では環境基準のB類型の基準値以下であった。

表 7.158 夕照橋における水質調査の観測および分析値一覧

調査地点		夕照橋			
調査項目	調査時刻	秋季	冬季	春季	夏季
調査項目 (単位)	調査時刻	2024年10月25日	2025年2月17日	2025年4月22日	2025年7月28日
天候 (-)	調査時刻	9:30	15:15	12:20	12:30
気温 (°C)		曇	晴	晴	晴
潮位 (cm)		20.7	13.0	20.5	31.0
計器		129.3	67.9	122.4	41.8
観測		21.0	13.1	19.7	29.4
		20.3	29.1	29.4	29.6
		7.9	8.4	8.2	8.6
		5.4	13.3	6.7	5.0
		4.0	2.7	3.2	4.3
分析					
		C	B	C	C

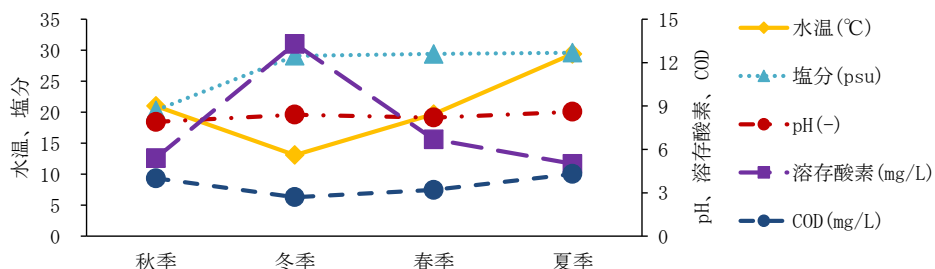


図 7.67 夕照橋における水質分析値および観測値の季節変化

## (2) 底質観測値および分析値

河口・海岸域の調査時における、地点別の底質観測値および分析値の一覧を表 7.159～表 7.163、図 7.68～図 7.72に示す。

## ① 鶴見川河口

平均水面下 2mの酸化還元電位は-324～-133mV、強熱減量は 10.9～13.3%、COD は 18～35mg/g・dry、硫化物は0.11～1.6mg/g・dryであった。

表 7.159 鶴見川河口における底質調査の観測および分析値一覧

調査地点		鶴見川河口							
調査時季		秋季		冬季		春季		夏季	
底質採取位置		平均水面	平均水面下2m	平均水面	平均水面下2m	平均水面	平均水面下2m	平均水面	平均水面下2m
調査項目	(単位) 調査実施日	2024年10月30日		2025年2月14日		2025年4月23日		2025年7月29日	
現地観測	泥温 (°C)	18.1	21.2	10.3	11.6	17.6	18.3	29.6	29.7
	pH (-)	7.5	7.6	7.8	7.7	7.8	7.7	8.1	7.8
	酸化還元電位 (mV)	+116	-194	+175	-324	+137	-133	+112	-220
	泥色 (-)	灰	暗オリーブ灰	灰オリーブ	オリーブ黒	暗灰黄	オリーブ黒	灰オリーブ	オリーブ黒
	臭気 (-)	無	無	無	弱泥臭	無	無	無	微泥臭
	外観 (-)	砂	砂混じりシルト	砂	シルト混じり砂	砂	砂混じりシルト	砂	シルト混じり砂
	混入物 (-)	貝片	カキ殻	貝片・貝殻多	貝殻	貝殻多	貝殻多	貝片多	貝殻多
分析	乾燥減量(含水率) (%)	—	48.9	—	48.8	—	44.8	—	56.8
	強熱減量 (%)	—	11.1	—	11.9	—	10.9	—	13.3
	COD (mg/g・dry)	—	22	—	21	—	18	—	35
	硫化物 (mg/g・dry)	—	1.6	—	1.5	—	0.41	—	0.11

注) 混入物について: 貝殻・カキ殻は貝の原形が残っているもの、貝片は細かく破片状になった貝殻を示す。

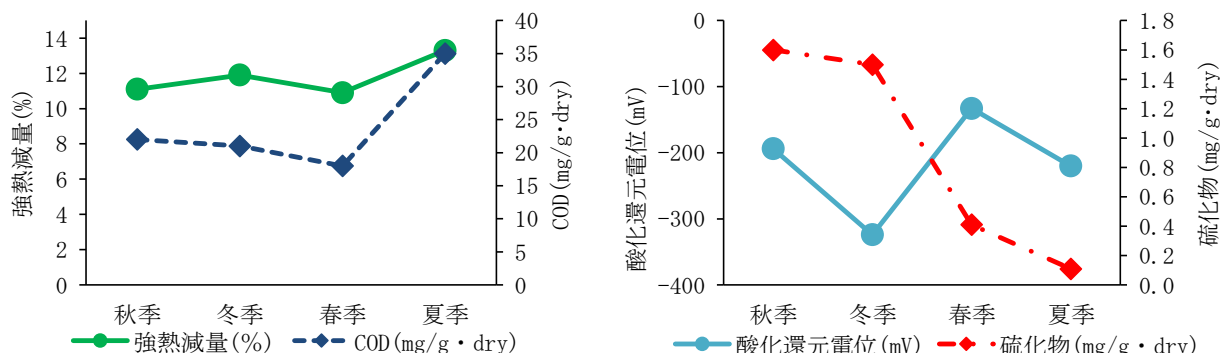


図 7.68 鶴見川河口における底質の季節変化 (平均水面下 2m)

② 海の公園

平均水面下 1.65m の酸化還元電位は-1~+151mV、強熱減量は 1.1~1.4%、COD は 1.2~1.8mg/g・dry、硫化物は 0.01 未満~0.08mg/g・dry であった。

表 7.160 海の公園における底質調査の観測および分析値一覧

調査地点		海の公園							
調査時季		秋季		冬季		春季		夏季	
底質採取位置		平均水面	※平均水面下 1.65m	平均水面	※平均水面下 1.65m	平均水面	※平均水面下 1.65m	平均水面	※平均水面下 1.65m
調査項目	(単位) 調査実施日	2024年10月25日		2025年2月17日		2025年4月22日		2025年7月28日	
現地観測	泥温 (°C)	21.9	21.8	11.5	12.2	21.6	17.6	28.4	28.2
	pH (-)	8.2	8.2	8.3	8.2	8.2	8.1	8.0	7.7
	酸化還元電位 (mV)	+154	-1	+152	+151	+161	+123	+140	+52
	泥色 (-)	灰オリーブ	オリーブ黒	灰オリーブ	オリーブ黒	灰オリーブ	オリーブ黒	灰オリーブ	オリーブ黒
	臭気 (-)	無	無	無	無	無	無	無	無
	外観 (-)	無	無	無	無	無	無	無	無
	混入物 (-)	貝片少	貝片	貝片少	貝片少	貝殻少	貝殻	貝片	貝片少
分析	乾燥減量(含水率) (%)	-	19.7	-	23.5	-	23.9	-	22.9
	強熱減量 (%)	-	1.4	-	1.3	-	1.1	-	1.4
	COD (mg/g・dry)	-	1.4	-	1.2	-	1.4	-	1.8
	硫化物 (mg/g・dry)	-	0.08	-	0.01	-	<0.01	-	0.03

注1) 混入物について: 貝殻は貝の原形が残っているもの、貝片は細かく破片状になった貝殻を示す。

注2) ※表示は測線距離130mまで平均水面下2mの水深に至らなかったため、底質採取は測線上で最深となった平均水面下1.65m(A.P.-0.5m)で行ったことを示す。

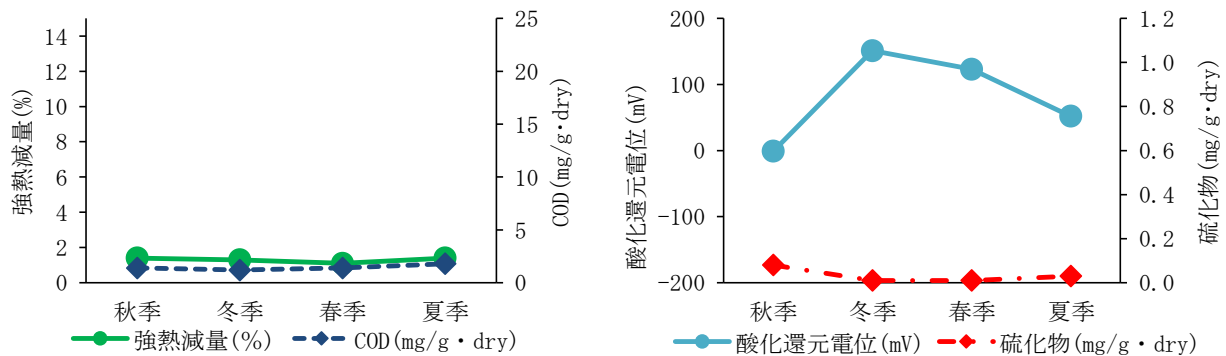


図 7.69 海の公園における底質の季節変化 (平均水面下 1.65m)

## ③ 野島公園

平均水面下 1.15m の酸化還元電位は-65～+129mV、強熱減量は 1.5～1.9%、COD は 1.3～2.0mg/g・dry、硫化物は 0.01 未満～0.05mg/g・dry であった。

表 7.161 野島公園における底質調査の観測および分析値一覧

調査地点		野島公園							
調査時季		秋季		冬季		春季		夏季	
底質採取位置		平均水面	※平均水面下 1.15m	平均水面	※平均水面下 1.15m	平均水面	※平均水面下 1.15m	平均水面	※平均水面下 1.15m
調査項目	(単位) 調査実施日	2024年10月28日		2025年2月17日		2025年4月25日		2025年7月25日	
現地観測	泥温 (°C)	21.1	21.4	14.1	11.9	21.2	17.9	33.7	28.7
	pH (-)	8.0	8.0	8.1	8.2	7.3	8.1	8.0	7.9
	酸化還元電位 (mV)	+80	-65	+160	+82	+102	+89	+172	+129
	泥色 (-)	灰オリーブ	オリーブ黒	灰オリーブ	オリーブ黒	灰オリーブ	オリーブ黒	灰オリーブ	灰オリーブ
	臭気 (-)	無	無	無	無	無	無	無	無
	外観 (-)	砂	細砂	砂	細砂	砂	細砂	砂	細砂
	混入物 (-)	貝片	貝片,貝殻	貝片少	ゴアゴモ,貝片少	貝片多	貝片少	貝片多	貝片少
分析	乾燥減量(含水率) (%)	-	23.2	-	27.5	-	24.0	-	23.4
	強熱減量 (%)	-	1.5	-	1.9	-	1.6	-	1.7
	COD (mg/g・dry)	-	1.3	-	2.0	-	1.3	-	1.7
	硫化物 (mg/g・dry)	-	0.05	-	0.02	-	<0.01	-	<0.01

注1) 混入物について: 貝殻は貝の原形が残っているもの、貝片は細かく破片状になった貝殻を示す。

注2) ※表示は測線距離100mまで平均水面下2mの水深に至らなかったため、底質採取は測線上で最深となった平均水面下1.15m(A.P.0m)で行ったことを示す。

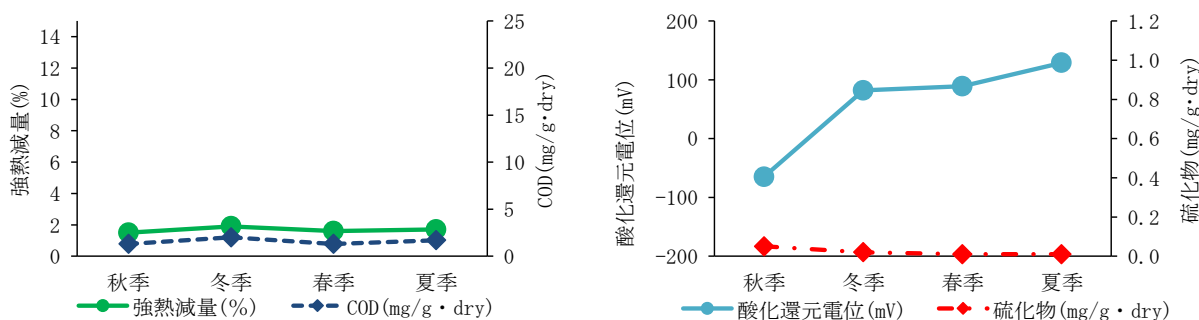


図 7.70 野島公園における底質の季節変化 (平均水面下 1.15m)

④ 野島水路

平均水面下 2mの酸化還元電位は-212～+66mV、強熱減量は 2.5～6.2%、COD は 3.7～11mg/g・dry、硫化物は0.06～0.72mg/g・dryであった。

表 7.162 野島水路における底質調査の観測および分析結果一覧

調査項目	調査地点	野島水路							
		秋季		冬季		春季		夏季	
調査実施日	底質採取位置	平均水面	平均水面下2m	平均水面	平均水面下2m	平均水面	平均水面下2m	平均水面	平均水面下2m
調査実施日		2024年10月28日		2025年2月17日		2025年4月25日		2025年7月25日	
現地観測									
泥温 (°C)		21.1	21.4	14.5	11.6	21.3	17.8	31.0	29.2
pH (-)		7.8	7.7	8.1	7.9	7.9	8.0	8.0	7.7
酸化還元電位 (mV)		+144	-23	+143	-212	+165	+66	-1	-181
泥色 (-)		灰オリーブ	灰	オリーブ黒	暗オリーブ	オリーブ黒	オリーブ黒	灰	オリーブ黒
臭気 (-)		無	無	無	無	無	無	無	微泥臭
外観 (-)		砂	シルト混じり砂	砂	砂混じりシルト	砂	砂	砂、礫	砂、礫
混入物 (-)		貝片	貝片多、貝殻	貝片少	貝片少	貝片	貝片多	貝片	貝殻多
分析									
乾燥減量(含水率) (%)		-	23.6	-	39.7	-	26.2	-	30.2
強熱減量 (%)		-	2.5	-	6.2	-	3.4	-	4.0
COD (mg/g・dry)		-	3.8	-	11	-	3.7	-	7.4
硫化物 (mg/g・dry)		-	0.34	-	0.72	-	0.06	-	0.10

注) 混入物について: 貝殻は貝の原形が残っているもの、貝片は細かく破片状になった貝殻を示す。

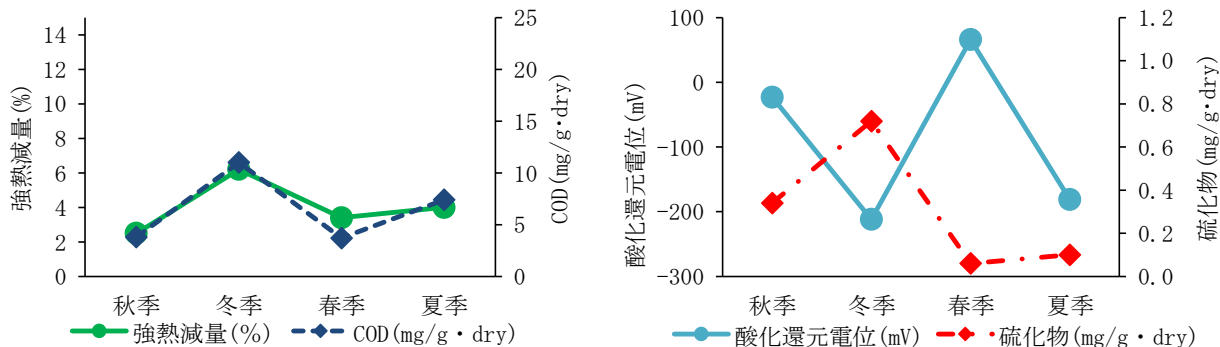


図 7.71 野島水路における底質の季節変化 (平均水面下 2m)

## ⑤ 夕照橋

平均水面下2mの酸化還元電位は-206～+79mV、強熱減量は2.3～3.2%、CODは3.3～5.1mg/g・dry、硫化物は0.05～0.19mg/g・dryであった。

表 7.163 夕照橋における底質調査の観測および分析結果一覧

調査地点		夕照橋							
調査時季		秋季		冬季		春季		夏季	
底質採取位置		※平均水面下0.27m	平均水面下2m	※平均水面下0.27m	平均水面下2m	※平均水面下0.27m	平均水面下2m	※平均水面下0.27m	平均水面下2m
調査項目	(単位) 調査実施日	2024年10月25日		2025年2月17日		2025年4月22日		2025年7月28日	
現地観測	泥温 (°C)	21.1	21.6	12.3	10.5	20.3	18.5	38.4	28.8
	pH (-)	7.9	8.0	7.8	8.2	8.2	7.9	7.6	7.9
	酸化還元電位 (mV)	-109	+79	-113	+71	+4	-31	-50	-206
	泥色 (-)	オリーブ黒	オリーブ黒	オリーブ黒	灰	オリーブ黒	暗オリーブ灰	オリーブ黒	灰オリーブ
	臭気 (-)	無	無	無	無	弱泥臭	弱泥臭	微泥臭	無
	外観 (-)	シルト混じり砂	砂混じりシルト	シルト混じり砂	シルト混じり砂	シルト混じり砂	シルト混じり砂	シルト混じり砂	シルト混じり砂
	混入物 (-)	貝殻	貝殻	貝殻多	貝殻多	貝片多	貝片多	貝殻	貝殻多
分析	乾燥減量(含水率) (%)	—	27.1	—	29.8	—	30.6	—	28.9
	強熱減量 (%)	—	2.3	—	3.2	—	2.5	—	2.9
	COD (mg/g・dry)	—	3.3	—	5.1	—	4.4	—	4.6
	硫化物 (mg/g・dry)	—	0.12	—	0.12	—	0.19	—	0.05

注1) 混入物について: 貝殻は貝の原形が残っているもの、貝片は細かく破片状になった貝殻を示す。

注2) ※表示は平均水面が垂直護岸部となったため、底質採取は護岸直下で砂泥底の平均水面下0.27m(A.P.+0.88m)で行ったことを示す。

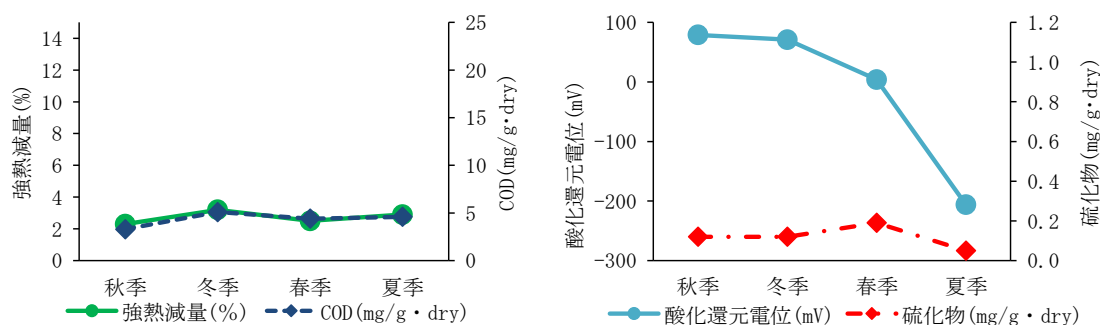


図 7.2 夕照橋における底質の季節変化 (平均水面下2m)

7.8.環境要因

7.8.2. 内湾調査

(1) 水質観測値および分析値

内湾調査時における、海域、地点別の水質観測値および分析値を表 7.165～表 7.167、図 7.73～図 7.75に示す。

また、「生活環境の保全に関する環境基準（海域）」（以下、環境基準）の COD（化学的酸素要求量）についての基準値を表 7.164に示す。

表 7.164 生活環境の保全に関する環境基準（海域）の COD 基準値

類型項目	利用目的の適応性	COD基準値
A	水産1級 水浴 自然環境保全 および B以下の欄に掲げるもの	2mg/L以下
B	水産2級 工業用水 および Cの欄に掲げるもの	3mg/L以下
C	環境保全	8mg/L以下

## ①横浜港沖

透明度は1.9～5.3m、表層水の水温は9.9～29.6℃、塩分は25.1～30.4psu、pHは8.0～8.4、溶存酸素は4.4～9.4mg/L、CODは2.7～4.6mg/L、濁度は1.8～5.8度、クロロフィルaは9.0～23 $\mu$ g/Lの範囲で推移した。CODは秋季調査、春季調査および夏季調査では環境基準C類型の基準以下、冬季調査では環境基準B類型の基準以下であった。

表 7.165 横浜港沖における水質調査の観測および分析値一覧

調査地点		横浜港沖				
調査時季		秋季	冬季	春季	夏季	
調査実施日		2024年11月6日	2025年2月12日	2025年4月30日	2025年7月23日	
調査項目 (単位)		調査時刻	11:06	11:09	10:37	10:37
現地観測	天候 (-)		曇	曇	晴	晴
	気温 (°C)		16.0	6.5	17.0	32.0
	実測水深 (m)		33.0	31.5	31.5	31.7
	透明度 (m)		5.3	3.7	3.2	1.9
	水温 (°C)		19.3	9.9	17.3	29.6
	塩分 (psu)		25.1	30.1	27.9	30.4
	pH (-)		8.0	8.2	8.4	8.4
	溶存酸素 (mg/L)		8.4	9.4	8.5	4.4
	水色 (-)		暗灰黄緑色	暗緑色	暗灰黄緑色	緑褐色
	分析	COD (mg/L)		3.8	2.7	4.3
環境基準類型			C	B	C	C
濁度 (度)			1.8	4.5	2.4	5.8
クロロフィルa ( $\mu$ g/L)			14	10	9.0	23

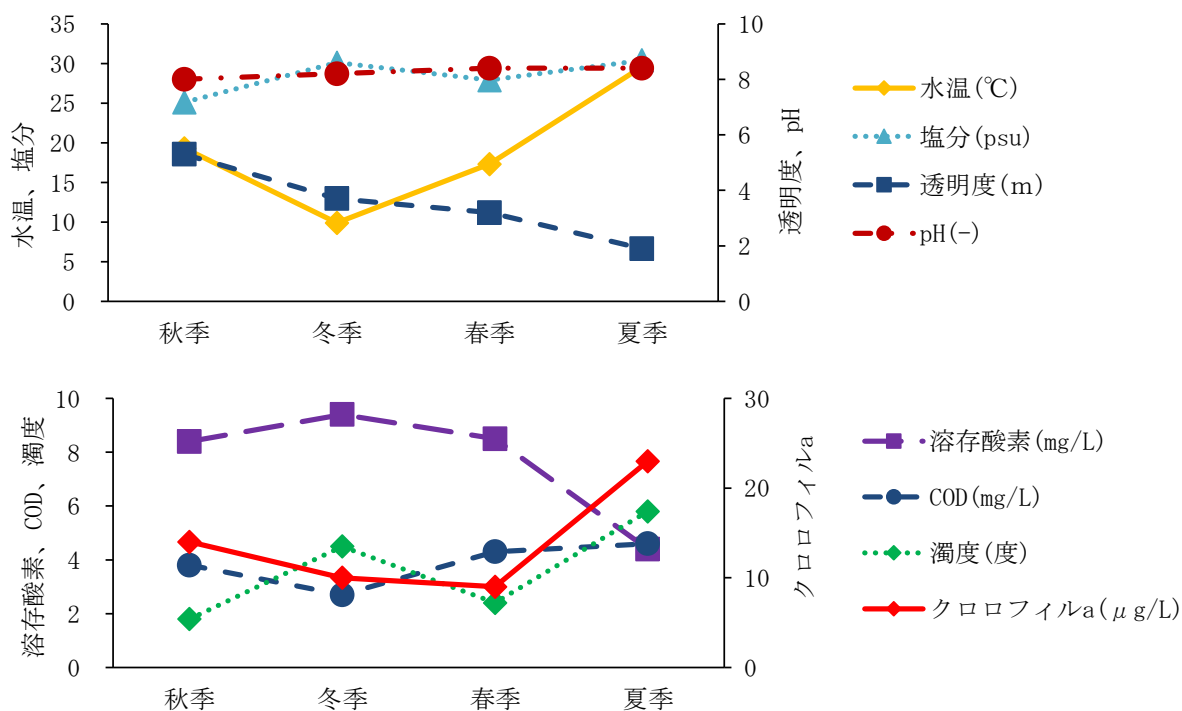


図 7.73 横浜港沖における水質の季節変化

②根岸湾沖

透明度は 2.0～5.6m、表層水の水温は 9.7～28.7℃、塩分は 28.4～30.3psu、pH は 8.0～8.7、溶存酸素は 7.1～9.6mg/L、COD は 2.8～4.6mg/L、濁度は 1.7～5.8 度、クロロフィル a は 5.9～22  $\mu\text{g/L}$  の範囲で推移した。COD は秋季調査、春季調査および夏季調査では環境基準 C 類型の基準以下、冬季調査では環境基準 B 類型の基準以下であった。

表 7.166 根岸湾沖における水質調査の観測および分析値一覧

調査地点		根岸湾沖				
調査時季		秋季	冬季	春季	夏季	
調査実施日		2024年11月6日	2025年2月12日	2025年4月30日	2025年7月23日	
調査項目 (単位)		調査時刻	12:11	9:59	11:52	10:39
現地観測	天候 (-)		曇	曇	晴	晴
	気温 (°C)		17.6	4.7	18.0	30.0
	実測水深 (m)		30.6	36.0	34.5	22.5
	透明度 (m)		5.6	3.9	3.0	2.0
	水温 (°C)		19.7	9.7	17.3	28.7
	塩分 (psu)		28.4	30.3	28.6	29.0
	pH (-)		8.0	8.2	8.4	8.7
	溶存酸素 (mg/L)		7.8	9.6	7.7	7.1
	水色 (-)		暗灰黄緑色	暗緑色	暗緑色	緑褐色
	分析	COD (mg/L)		3.3	2.8	4.6
環境基準類型			C	B	C	C
濁度 (度)			5.8	1.7	3.2	5.1
クロロフィルa ( $\mu\text{g/L}$ )			5.9	10	11	22

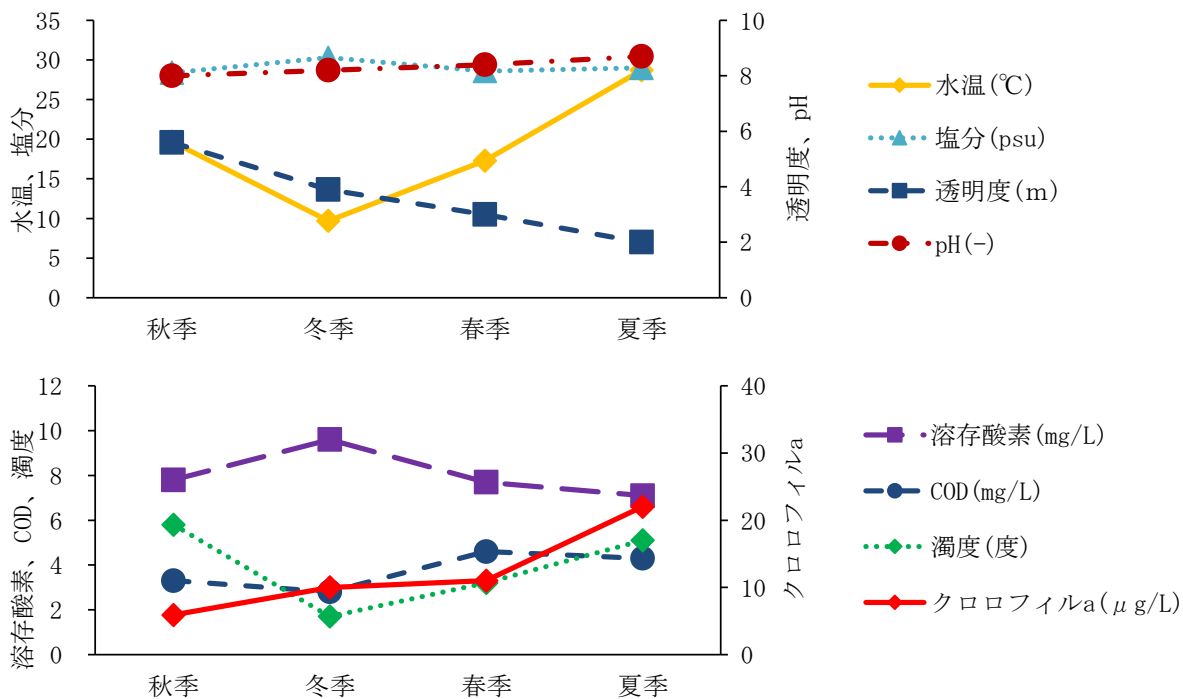


図 7.74 根岸湾沖における水質の季節変化

## ③金沢湾沖

透明度は 2.5～7.6m、表層水の水温は 10.4～27.4℃、塩分は 25.0～30.4psu、pH は 8.0～8.8、溶存酸素は 7.2～9.1mg/L、COD は 2.2～5.1mg/L、濁度は 1.5～5.0 度、クロロフィル a は 8.2～13  $\mu\text{g/L}$  の範囲で推移した。COD は秋季調査、冬季調査では環境基準 B 類型の基準以下、春季調査、夏季調査では環境基準 C 類型の基準以下であった。

表 7.167 金沢湾沖における水質調査の観測および分析値一覧

調査地点		金沢湾沖			
調査時季		秋季	冬季	春季	夏季
調査実施日		2024年11月6日	2025年2月12日	2025年4月30日	2025年7月23日
調査時刻		13:16	8:38	13:00	13:57
現地観測	天候 (—)	曇	晴	晴	晴
	気温 (°C)	16.0	4.1	18.0	30.0
	実測水深 (m)	30.0	14.7	14.4	15.0
	透明度 (m)	7.6	4.0	3.1	2.5
	水温 (°C)	19.7	10.4	17.5	27.4
	塩分 (psu)	25.0	30.4	29.2	28.9
	pH (—)	8.0	8.2	8.5	8.8
	溶存酸素 (mg/L)	8.7	9.1	8.4	7.2
	水色 (—)	暗灰黄緑色	暗緑色	暗緑色	緑褐色
	分析	COD (mg/L)	2.8	2.2	5.1
環境基準類型		B	B	C	C
濁度 (度)		5.0	1.5	2.4	4.9
クロロフィルa ( $\mu\text{g/L}$ )		10	8.2	11	13

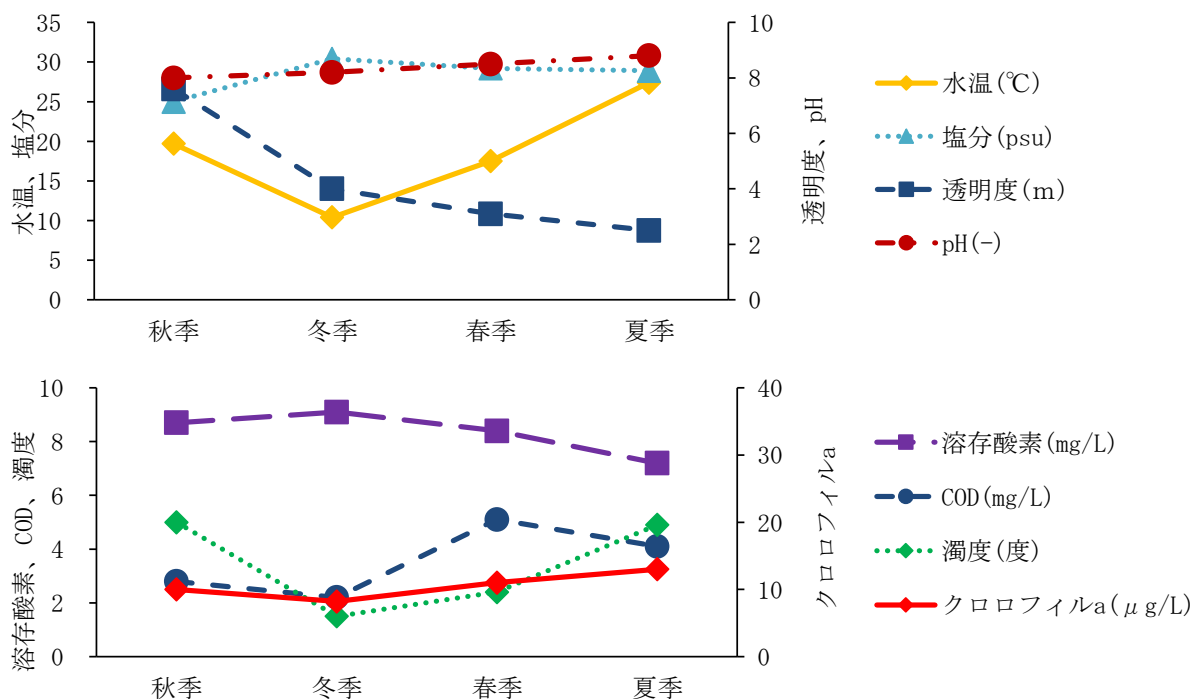


図 7.75 金沢湾沖における水質の季節変化

(2) 底質観測値および分析値

底生動物の採取地点で採取した底質の観測値および分析値を表 7.168～表 7.170、図 7.76～図 7.78に示す。

① 横浜港口(St.6)

泥温は 11.6～23.1℃、pH は 7.5～7.8、酸化還元電位は-325～-169mV、強熱減量は 7.5～9.9%、COD は 15～17mg/g・dry、硫化物は 0.72～1.6mg/g・dry、底層溶存酸素は 1.0～9.1mg/L の範囲で推移した。

表 7.168 横浜港口(St.6)における底質調査の観測および分析値一覧

調査地点		横浜港口(St.6)			
調査時季		秋季	冬季	春季	夏季
調査実施日		2024年11月6日	2025年2月12日	2025年4月30日	2025年7月23日
調査項目	(単位) 調査時刻	10:22	12:15	10:02	10:00
現地観測	実測水深 (m)	19.2	18.4	18.1	17.1
	泥温 (°C)	20.4	11.6	15.6	23.1
	pH (-)	7.5	7.8	7.7	7.6
	酸化還元電位 (mV)	-263	-169	-213	-325
	泥色 (-)	オリーブ黒	オリーブ黒	灰オリーブ	暗オリーブ灰
	臭気 (-)	弱硫化水素	弱硫化水素	弱泥臭	弱硫化水素
	外観 (-)	シルト	シルト混じり砂	細砂混じりシルト	シルト
	混入物 (-)	無	貝片少	無	貝片少
分析	乾燥減量(含水率) (%)	46.4	50.1	56.5	54.8
	強熱減量 (%)	7.5	7.6	8.7	9.9
	COD (mg/g・dry)	16	15	16	17
	硫化物 (mg/g・dry)	1.1	0.72	1.0	1.6
	底層溶存酸素(海底上1m) (mg/L)	5.3	9.1	5.3	1.0

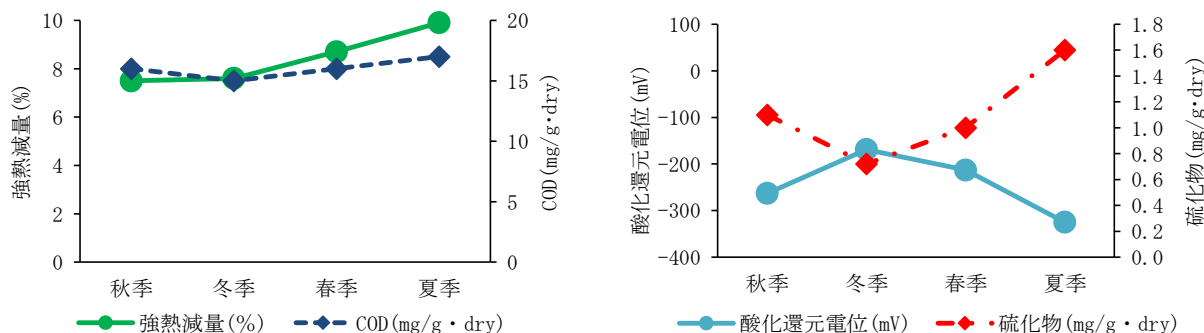


図 7.76 横浜港口(St.6)における底質の季節変化

## ②根岸湾口(St.10)

泥温は 10.9～23.8℃、pH は 7.6～7.9、酸化還元電位は-265～-59mV、強熱減量は 4.0～4.3%、COD は 7.0～11mg/g・dry、硫化物は 0.06～0.13mg/g・dry、底層溶存酸素は 3.7～8.6mg/L の範囲で推移した。

表 7.169 根岸湾口(St.10)における底質調査の観測および分析値一覧

調査地点		根岸湾口(St.10)			
調査時季		秋季	冬季	春季	夏季
調査実施日		2024年11月6日	2025年2月12日	2025年4月30日	2025年7月23日
調査項目 (単位) 調査時刻		9:23	13:15	9:08	9:01
現地観測	実測水深 (m)	18.6	18.2	17.8	17.3
	泥温 (℃)	19.9	10.9	16.6	23.8
	pH (-)	7.9	7.8	7.6	7.6
	酸化還元電位 (mV)	-59	-123	-265	-137
	泥色 (-)	オリーブ黒	オリーブ黒	灰オリーブ	灰オリーブ
	臭気 (-)	無	無	無	無
	外観 (-)	砂混じりシルト	砂	シルト混じり細砂	シルト混じり砂
分析	混入物 (-)	貝片少	貝片少	貝片少	貝片少
	乾燥減量(含水率) (%)	34.2	39.2	38.4	35.4
	強熱減量 (%)	4.3	4.2	4.2	4.0
	COD (mg/g・dry)	8.6	11	7.1	7.0
	硫化物 (mg/g・dry)	0.13	0.11	0.06	0.12
	底層溶存酸素(海底上1m) (mg/L)	7.2	8.6	7.1	3.7

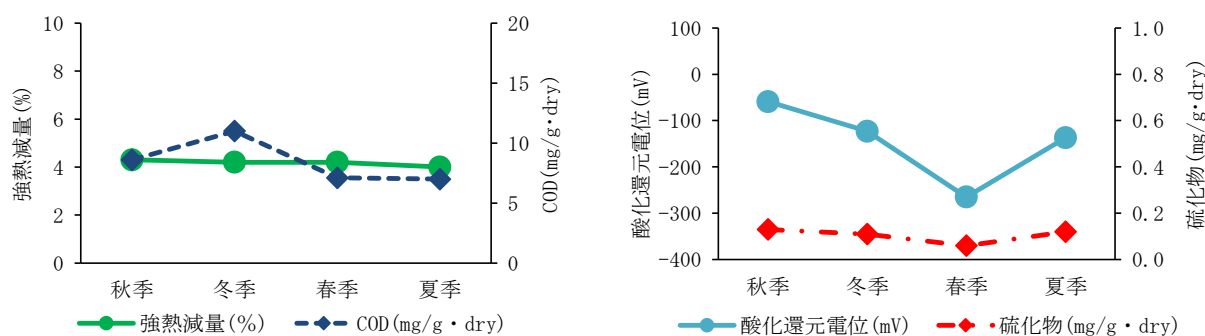


図 7.77 根岸湾口 (St. 10) における底質の季節変化

③金沢湾口(St.12)

泥温は 11.1~25.4℃、pH は 7.1~7.9、酸化還元電位は-176~-79mV、強熱減量は 2.3~3.8%、COD は 4.9~6.0mg/g・dry、硫化物は 0.02~0.10mg/g・dry、底層溶存酸素は 4.0~9.6mg/L の範囲で推移した。

表 7.170 金沢湾口(St.12)における底質調査の観測および分析値一覧

調査地点		金沢湾口(St.12)			
調査時季		秋季	冬季	春季	夏季
調査実施日		2024年11月6日	2025年2月12日	2025年4月30日	2025年7月23日
調査項目 (単位) 調査時刻		8:36	7:45	8:22	8:19
現地観測	実測水深 (m)	18.0	17.2	19.3	17.4
	泥温 (℃)	19.5	11.1	16.3	25.4
	pH (-)	7.9	7.9	7.5	7.1
	酸化還元電位 (mV)	-82	-79	-176	-121
	泥色 (-)	灰オリーブ	オリーブ黒	灰オリーブ	灰オリーブ
	臭気 (-)	無	無	無	無
	外観 (-)	シルト混じり砂	砂	シルト混じり細砂	シルト混じり砂
分析	混入物 (-)	貝片少	無	貝片少	貝片少
	乾燥減量(含水率) (%)	23.8	32.2	34.5	25.3
	強熱減量 (%)	2.4	3.0	3.8	2.3
	COD (mg/g・dry)	5.2	6.0	5.8	4.9
	硫化物 (mg/g・dry)	0.05	0.02	0.10	0.05
	底層溶存酸素(海底上1m) (mg/L)	8.8	9.6	6.5	4.0

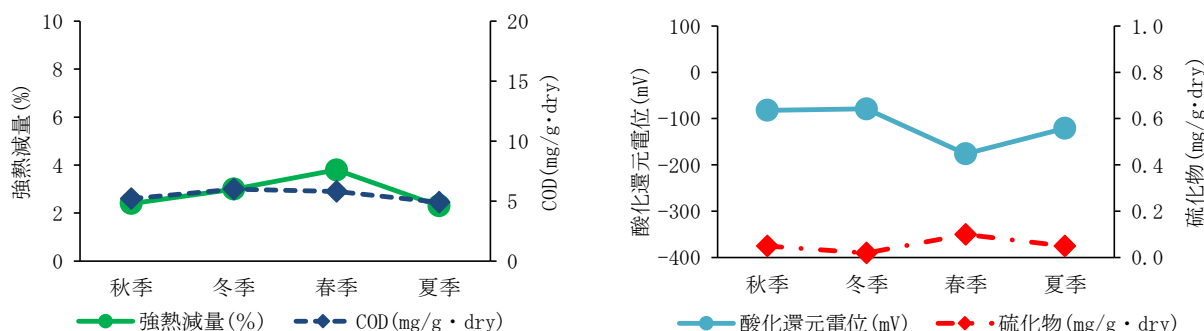


図 7.78 金沢湾口(St.12)における底質の季節変化

## 8. 生物指標による水質評価

### 8.1. 横浜市の生物指標による水質評価

横浜市は、1975年（昭和50年）に河川、海域の生物指標を策定した。その後、1989年（平成元年）に生物相調査の蓄積した結果や他の調査等の情報をまとめ、生物指標を全面的に改定した。

海域の生物指標は、水質階級を「きれい」、「きれい～やや汚れている」、「きれい～汚れている」、「きれい～非常に汚れている」の4段階、または「汚れている～非常に汚れている」を加えた5段階に分け、各水質階級の指標種を「岸壁」、「干潟」、「内湾」の環境ごとに選定している。

「岸壁」とはコンクリートや石積み護岸になっている水域であり、横浜の海岸線の多くを占めている。市民にとって身近な環境としては、横浜港山下公園や金沢湾などがある。

「干潟」とは湾奥や河口近くの潮間帯域で、潮が引くと砂泥質の海底が広く干し出す水域であり、平潟湾、金沢湾などで見られる。

「内湾」とは潮間帯域を含まない、やや沖合の水域である。

本調査の調査結果から、指標種の有無を確認し、最も優良な水質階級をその地点の水質評価結果とした。

#### 参考文献

公害研資料 No.88、横浜市公害研究所（1989）「水域生物指標に関する研究報告書」

8.1.1. 岸壁

「岸壁」の水質評価について、秋季調査、春季調査の魚類、海岸動物、海藻の調査結果から判定した。なお冬季調査は海岸動物と魚類の調査を実施しておらず、夏季調査は海藻の調査を実施していないため評価の対象とならない。

岸壁の生物指標を表 8.1に、水質評価結果を表 8.2に示す。

山下公園では秋季調査、春季調査でカメノテを観察して「きれい」と評価された。

堀割川河口では秋季調査でアカオビシマハゼを観察して「きれい～やや汚れている」、春季調査でクサフグを観察して「きれい」と評価された。

表 8.1 岸壁の生物指標による水質階級

項目	指標種	きれい	やや汚れている	汚れている	非常に汚れている
魚類	クサフグ				
	ウミタナゴ				
	ヒイラギ				
	キュウセン				
	ナベカ				
	シマハゼ				
	アイナメ				
海岸動物	ボラ				
	ヨロイイソギンチャク				
底生動物	カメノテ				
	ダイダイイソカイメン				
	ヒザラガイ				
	イソガニ				
	コウロエンカワヒバリガイ				
	ムラサキイガイ				
	ケフサイソガニ				
	フジツボ類				
	タマキビガイ				
	マガキ				
海藻	マクサ				
	ワカメ				
	ベニスナゴ				
	ムカデノリ				

表 8.2 岸壁の生物指標による評価結果

指標種	山下公園				堀割川河口				
	秋季	冬季	春季	夏季	秋季	冬季	春季	夏季	
きれい	魚類	クサフグ				○			○
		ウミタナゴ *1							
	海岸動物	ヨロイイソギンチャク							
		カメノテ	○		○	○			
海藻	マクサ								
きれい～ やや汚れている	魚類	ヒイラギ							
		キュウセン							
		ナベカ			○	○			○
	海岸動物	シマハゼ *2	○		○		○		○
		アイナメ							
		ダイダイイソカイメン							
海藻	ヒザラガイ	○							
	ワカメ		○	○				○	
ベニスナゴ									
きれい～ 汚れている	魚類	ボラ							
		イソガニ	○		○	○	○		○
	海岸動物	コウロエンカワヒバリガイ			○	○			
		ムラサキイガイ	○		○	○			○
		ムカデノリ							
きれい～ 非常に汚れている	海岸動物	ケフサイソガニ *3	○				○		
		フジツボ類	○		○	○	○		○
		タマキビガイ *4	○						
		マガキ	○		○	○	○		○
評価		1	-	1	-	2	-	1	-

評価結果 1：きれい 2：やや汚れている 3：汚れている 4：非常に汚れている 不明：指標種がみられず評価不能

注1) 河口・海岸調査では、夏季の海藻・海藻調査と冬季の魚類・海岸動物調査を実施していないため、判定の対象にならない。

注2) 斜線は該当する生物の調査を実施していないことを示す。

\*1：アオタナゴ、マタナゴを含む。

\*2：アカオビシマハゼを含む。

\*3：タカノケフサイソガニを含む。

\*4：16報調査結果では、タマキビと表記した。

8.1.2. 干潟

「干潟」の水質評価について、秋季調査、春季調査の魚類、海岸動物、海藻の調査結果から判定した。なお冬季調査については海岸動物および魚類の調査を実施しておらず、夏季調査は海藻の調査を実施していないため評価の対象とならない。

干潟の生物指標を表 8.3に、水質評価結果を表 8.4に示す。

鶴見川河口では、秋季調査でチチブ、ボラを観察し「きれい～汚れている」、春季調査でボラを観察し「きれい～汚れている」と判定された。

海の公園では、秋季調査、春季調査でクサフグを観察し「きれい」と評価された。

野島公園では、秋季調査でヒメハゼ、マテガイ、バカガイを観察し「きれい～やや汚れている」、春季調査でクサフグを観察し「きれい」と評価された。

野島水路では、秋季調査でヒメハゼを観察し「きれい～やや汚れている」、春季調査でクサフグを観察し「きれい」と評価された。

夕照橋では、秋季調査でクサフグを観察し「きれい」、春季調査でイソミミズハゼを観察し「きれい」と評価された。

表 8.3 干潟の生物指標による水質階級

項目	指標種	きれい	やや汚れている	汚れている	非常に汚れている
魚類	ピリンゴ				
	ミミズハゼ				
	クサフグ				
	シマイサキ				
	ヒメハゼ				
	チチブ				
	ボラ				
海岸動物	マテガイ				
	バカガイ				
底生動物	ニホンスナモグリ				
	シオフキガイ				
	アサリ				
	ケフサイソガニ				
	ミスヒキゴカイ				
	ハナオカカギゴカイ				
	オゴノリ				
海藻	アナアオサ				
	ハネモ				

表 8.4 干潟の生物指標による評価結果

指標種			鶴見川河口				海の公園				野島公園				野島水路				夕照橋			
			秋季	冬季	春季	夏季	秋季	冬季	春季	夏季	秋季	冬季	春季	夏季	秋季	冬季	春季	夏季	秋季	冬季	春季	夏季
きれい	魚類	ピリンゴ																				
		ミミズハゼ*1																				
		クサフグ			○	○			○	○			○	○			○	○			○	○
きれい～ やや汚れている	魚類	シマイサキ			○	○			○	○			○	○			○	○			○	○
		ヒメハゼ			○	○			○	○			○	○			○	○			○	○
	海岸動物	オサガニ			○	○			○	○			○	○			○	○			○	○
		マテガイ			○	○			○	○			○	○			○	○			○	○
きれい～ 汚れている	海岸動物	バカガイ			○	○			○	○			○	○			○	○			○	○
		オゴノリ			○	○			○	○			○	○			○	○			○	○
	海藻	アサリ			○	○			○	○			○	○			○	○			○	○
きれい～ 非常に汚れている	魚類	チチブ	○	○			○	○			○	○			○	○			○	○		
		ボラ	○	○			○	○			○	○			○	○			○	○		
	海岸動物	マテガイ			○	○			○	○			○	○			○	○			○	○
		ニホンスナモグリ			○	○			○	○			○	○			○	○			○	○
きれい～ 非常に汚れている	海藻	シオフキガイ*2			○	○			○	○			○	○			○	○			○	○
		アサリ			○	○			○	○			○	○			○	○			○	○
		アサリ			○	○			○	○			○	○			○	○			○	○
やや汚れている～ 非常に汚れている	海岸動物	ケフサイソガニ*3	○	○			○	○			○	○			○	○			○	○		
		ミスヒキゴカイ	○	○			○	○			○	○			○	○			○	○		
		ハナオカカギゴカイ	○	○			○	○			○	○			○	○			○	○		
評価			3	-	3	-	1	-	1	-	2	-	1	-	2	-	1	-	1	-	1	-

評価結果 1：きれい 2：やや汚れている 3：汚れている 4：非常に汚れている 不明：指標種がみられず評価不能  
 注1) 河口・海岸調査では、夏季の海藻・海藻調査と冬季の魚類・海岸動物調査を実施していないため、判定の対象にならない。  
 注2) 斜線は該当する生物の調査を実施していないことを示す。  
 \*1：イソミミズハゼを含む  
 \*2：16報調査結果では、シオフキと表記した。  
 \*3：タカノケフサイソガニを含む

8.1.3. 内湾

「内湾」の水質評価について、魚類、底生動物、プランクトンの調査結果から判定した。内湾の生物指標を表 8.5に、水質評価結果を表 8.6に示す。

横浜港沖では、秋季調査でマアジを確認し「きれい」、冬季調査でシロギスを確認し「きれい」、春季調査と夏季調査でミリオネクタ ルブラを確認し「きれい～やや汚れている」と評価された。

根岸湾沖では、秋季調査、春季調査でマアジを確認し「きれい」、冬季調査でシロギスを確認し「きれい」、夏季調査でマコガレイ、ミリオネクタ ルブラを確認し「きれい～やや汚れている」と評価された。

金沢湾沖では、秋季調査、冬季調査でマアジを確認し「きれい」、春季調査でクロダイ、ミリオネクタ ルブラを確認し「きれい～やや汚れている」、夏季調査でスズキ、マコガレイ、ミリオネクタ ルブラを確認し「きれい～やや汚れている」と評価された。

表 8.5 内湾の生物指標

項目	指標種	きれい	やや汚れている	汚れている	非常に汚れている
魚類	シロギス				
	マアジ				
	スズキ				
	クロダイ				
	ネズミゴチ				
	マコガレイ				
	カワハギ				
	マハゼ				
	ハタタテヌメリ				
海岸動物	スベスベハネエラスピオ（ゴカイ類）*1				
	ミズヒキゴカイ				
底生動物	ハナオカカギゴカイ				
	イトエラスピオ*2				
プランクトン	ユーカンピア ゾオディアクス（珪藻類）				
	メソディニウム ルブルム（繊毛虫類）*3				
	プロロケントラム トリエステイヌム（渦鞭毛藻類）				
	ヘテロシグマ アカシオ（ラフィド藻類）				
	スケレトネマ コスタツム（珪藻類）*4				

\*1：指標種として選定された際、*Paraprionospio* CI（ヨツバネスピオCI型）とされていた。

\*2：指標種として選定された際、*Prionospio cirrifera*（プリオノスピオ・キリヒユラ）とされていた。

\*3：14報調査結果以降は動物プランクトン出現種一覧ではミリオネクタ・ルブラとした。

\*4：16報調査結果の植物プランクトン出現種一覧では*Skeletonema* spp.の種群に含まれる。

表 8.6 内湾の生物指標による判定結果

指標種			横浜港沖				根岸湾沖				金沢湾沖			
			秋季	冬季	春季	夏季	秋季	冬季	春季	夏季	秋季	冬季	春季	夏季
きれい	魚類	シロギス		○				○						
		マアジ	○				○		○		○	○		
きれい～ やや汚れている	魚類	スズキ					○		○			○	○	
		クロダイ					○	○	○			○		
		ネズミゴチ												
		マコガレイ								○			○	
	プランクトン	カワハギ												
		ニューカンビア ソオディアクス (珪藻類)							○					
		メソディニウム ルブヌム (繊毛虫類) *1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
きれい～ 汚れている	魚類	マハゼ												
		ハタタテスメリ		○	○			○	○				○	
	プランクトン	スケレトネマ コスタツム (珪藻類) *2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
やや汚れている～ 汚れている	海岸・底生動物	スベスベハネエラスピオ (ゴカイ類) *3			○	○	○			○	○	○	○	
		プランクトン	グロケントラム トリニステイヌス (渦鞭毛藻類)				○			○			○	
		ヘテロシグマ アカシオ (ラフィド藻類)	○				○			○				
やや汚れている～ 非常に汚れている	海岸・底生動物	ミズヒキゴカイ					○	○	○				○	
		ハナオカカギゴカイ	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	
		イトエラスピオ (ゴカイ類) *4	○	○		○								
評価			1	1	2	2	1	1	1	2	1	1	2	2

評価結果 1：きれい 2：やや汚れている 3：汚れている 4：非常に汚れている 不明：指標種がみられず評価不能

\*1：14報調査結果以降は動物プランクトン出現種一覧ではミリオネクタ・ルブラとした。

\*2：16報調査結果の植物プランクトン出現種一覧ではSkeletonema spp.の種群に含まれる。

\*3：指標種として選定された際、Paraprionospio CI (ヨツバナエラスピオCI型)とされていた。

\*4：指標種として選定された際、Prionospio cirrifera (プリオノスピオ・キリヒエラ)とされていた。

8.2. 東京湾における底生生物による底質環境評価

東京湾自治体で構成する七都縣市首脳会議環境問題対策委員会水質改善専門部会が平成 11 年に策定した「東京湾における底生生物等による底質評価方法」を用い、秋季から夏季調査の、横浜港口 (St.6)、根岸湾口 (St.10)、金沢湾口 (St.12) を対象とした底質環境の評価および比較を行った。

評価方法を表 8.7、表 8.8に、判定結果を表 8.9～表 8.11に示す。

横浜港口 (St.6) は、秋季調査、春季調査及び夏季調査で環境保全度 I、冬季調査で環境保全度 II であった。根岸湾口 (St.10) は、秋季調査で環境保全度 II、冬季、春季及び夏季調査で環境保全度 III であった。金沢湾口 (St.12) は、秋季と冬季調査で環境保全度 III、春季と夏季調査で環境保全度 II であった。

この 3 地点の中では横浜港口 (St.6) の環境保全度が比較的低かった。

表 8.7 七都縣市水質改善専門部会の底質評価方法

①	底生生物の総出現種類数	30種以上	20～30種	10～19種	10種未満	無生物	
	評点	4	3	2	1	0	
②	総出現種類数に占める甲殻類比率※1	20%以上	10～20%未満	5～10%未満	5%未満	0%	
	評点	4	3	2	1	0	
③	底質の有機物	底質の強熱減量 (%)	2未満	2～5未満	5～10未満	10～15未満	15以上
	底質のCOD(mg/g)※2	3未満	15未満	30未満	50未満	50以上	
	評点	4	3	2	1	0	
④	優占指標生物※3	A		B	C	D	
		B、C以外の生物		<i>Lumbrineris longifolia</i> (ギボシイソメ科) <i>Raeta rostralis</i> (チヨノハナガイ) <i>Prionospio pulchra</i> (スピオ科)	<i>Paraprionospio</i> sp. (typeA) (スピオ科) <i>Theora fragilis</i> (シズクガイ) <i>Sigambra</i> sp. (ハナオカカゴカイ)	無生物	
		上位3種がすべてAの生物 (ランクA)	A、C、Dのどのランクにも分類されないもの (ランクB)	Cの生物が2種以上 (ランクC)	(ランクD)		
	上位3種による評価	3	2	1	0		
	評点	3	2	1	0		

※1: 全体の出現種数が4種以下の場合、比率にかかわらず評点は1とする。  
 ※2: 評価については、原則として強熱減量を用いるが、測定していない場合は底質のCODで評価する。  
 ※3: 全体の出現種数が2種以下の場合、ランクCとする。

表 8.8 底質評価区分評点

環境評価区分	評点(合計)	概要
環境保全度IV	14以上	良好に保全されている。多様な底生生物が生息しており、底質は砂質で、好氣的である。
環境保全度III	10～13	環境は、概ね良好に保全されているが、夏季に底層水の溶存酸素が減少するなど、生息環境が一時的に悪化する場合も見られる。
環境保全度II	6～9	底質の有機汚濁が進んでおり、貧酸素水域になる場合がある。底生生物は汚濁に耐える種が優先する。
環境保全度I	3～5	一時的に無酸素状態になり、底質の多くは黒色のヘドロ状である。底生生物は汚濁に耐える種が中心で、種類数、個体数ともに少ない。
環境保全度0	0～2	溶存酸素はほとんどなく、生物は生息していない。底質はヘドロ状である。

参考文献

全国公害研会誌 No.2 (2000) 「東京湾における底生生物等による底質評価方法」

表 8.9 七都県市水質改善専門部会の底質評価方法による評価結果（横浜港口（St.6））

評価項目	調査地点 調査日	横浜港口 (St.6)			
		2024年11月6日	2025年2月12日	2025年4月30日	2025年7月23日
①総種類数	種類数	8	9	18	10
	評点	1	1	2	2
②総種類数に占める 甲殻類比率(%)	甲殻類比率(%)	0	11.1	0	0
	評点	0	3	0	0
③底質の有機物	強熱減量	7.5	7.6	8.7	9.9
	評点	2	2	2	2
④優占種評価	優占種 個体数上位3位	トエラスピオ(B)	シノブハネエラスピオ(C)	シノブハネエラスピオ(C)	シノブハネエラスピオ(C)
		シノブハネエラスピオ(C)	オウキゴカイ(-)	Chaetozone 属(-)	シズクガイ(C)
		マダラサシハゴカ属(-)	ハナオカキゴカイ(C)	シズクガイ(C)	トエラスピオ(B)
		タレメオトヒモカイ(-)同3位 フタエラスピオ(-)同3位	Glycera 属(-)同3位		
	評点	2	1	1	1
総評点	5	7	5	5	
環境保全度		I	II	I	I

表 8.10 七都県市水質改善専門部会の底質評価方法による評価結果（根岸湾口（St.10））

評価項目	調査地点 調査日	根岸湾口 (St.10)			
		2024年11月6日	2025年2月12日	2025年4月30日	2025年7月23日
①総種類数	種類数	21	24	35	36
	評点	3	3	4	4
②総種類数に占める 甲殻類比率(%)	甲殻類比率(%)	0	8.3	11.4	16.6
	評点	0	2	3	3
③底質の有機物	強熱減量	4.3	4.2	4.2	4.0
	評点	3	3	3	3
④優占種評価	優占種 個体数上位3位	フタエラスピオ(-)	Tharyx 属(-)	Capitellethus 属(-)	ハナオカキゴカイ(C)
		シノブハネエラスピオ(C)	ハナオカキゴカイ(C)	ハナオカキゴカイ(C)	Capitellethus 属(-)
		紐形動物門(-)	Capitellethus 属(-)	アルパチロ(-)	シズクガイ(C)
				エリタケフシゴカイ(-)同3位	
	評点	2	2	2	1
総評点	8	10	12	11	
環境保全度		II	III	III	III

表 8.11 七都県市水質改善専門部会の底質評価方法による評価結果（金沢湾口（St.12））

評価項目	調査地点 調査日	金沢湾口 (St.12)			
		2024年11月6日	2025年2月12日	2025年4月30日	2025年7月23日
①総種類数	種類数	24	22	19	20
	評点	3	3	2	3
②総種類数に占める 甲殻類比率(%)	甲殻類比率(%)	8.3	4.5	5.2	0
	評点	2	1	2	0
③底質の有機物	強熱減量	2.4	3.0	3.8	2.3
	評点	3	3	3	3
④優占種評価	優占種 個体数上位3位	エリタケフシゴカイ(-)	紐形動物門(-)	カタマカリギボシソメ(B)	スヘスヘハネエラスピオ(C)
		ナガオカンムリ(-)	コノハシロガネゴカイ(-)	紐形動物門(-)	シズクガイ(C)
		Sabellastarte 属(-)	Mediomastus 属(-)	コノハシロガネゴカイ(-)	Glycinde 属(-)
	評点	3	3	2	1
総評点	11	10	9	7	
環境保全度		III	III	II	II

## 9. 第16報の調査結果概要

2024年10月より、2025年7月までの2年度にわたって計4回、横浜市内の沿岸域において、海草・海藻、海岸動物、魚類、底生動物、プランクトンについて種類数および個体数等を調査した。また、環境要因である水質・底質を調査した。

調査地点は河口・海岸域が鶴見川河口、山下公園、堀割川河口、海の公園、野島公園、野島水路、夕照橋の7地点、内湾域が横浜港沖、横浜港口 (St.6)、根岸湾沖、根岸湾口 (St.10)、金沢湾沖、金沢湾口 (St.12) の3海域、6地点とした。

調査の結果、海草・海藻47種類、魚類101種類、海岸・底生動物284種類、プランクトン95種類、合計527種類を確認した。レッドリスト等掲載種は35種で、河口の干潟に棲む貝類、エビ・カニ類、魚類が多くを占めた。外来種は14種で、岸壁に付着する二枚貝類やフジツボ類が多くを占めた。

調査結果に基づき、生物指標による水質評価を行った。「岸壁」と「内湾」はいずれの地点も4季の調査のうち少なくとも1季は「きれい」の評価となった。「干潟」も鶴見川河口を除いた4地点はいずれの地点も4季のうち少なくとも1季は「きれい」の評価となった。鶴見川河口は「きれい～汚れている」の評価となった。

### ①鶴見川河口 (干潟)

鶴見川河口における調査項目ごとの出現種類数等一覧を表9.1に示す。海草・海藻は秋季調査で1種、冬季調査で8種類、春季調査で6種類の3季合わせて9種類を確認した。レッドリスト等掲載種はホソアヤギヌ1種を確認した。

干潟の海岸動物は秋季調査で28種類、春季調査で35種類、夏調査季で29種類の3季合わせて48種類を確認した。レッドリスト等掲載種はウネナシトマヤガイ1種を確認した。外来種はミドリイガイ、コウロエンカワヒバリガイ、イガイダマシ、ウスカラシオツガイ、ホンビノスガイ、カニヤドリカンザシゴカイ、タテジマフジツボ、アメリカフジツボ、ヨーロッパフジツボの9種を確認した。個体数の最優占種は秋季調査で環形動物門のオイワケゴカイ、春季、夏季調査で節足動物門のアリアケドロクダムシであった。総個体数は854個体～5,260個体/0.5㎡で、春季調査で最も多く、秋季調査で最も少なかった。湿重量の最優占種はいずれも軟体動物門で秋季調査でミドリイガイ、春季調査でアラムシロ、夏季調査でマガキであった。総湿重量は44.17～115.94g/0.5㎡で秋季調査で最も多く、夏季調査で最も少なかった。ミドリイガイ、マガキ、アラムシロ等の軟体動物がいずれの時季も75.3%～89.5%とその多くを占めた。

魚類は秋季調査で8種、春季調査で7種類、夏季調査で7種の3季合わせて13種類を確認した。レッドリスト等掲載種はキチヌ、アシシロハゼ、アベハゼ、チチブ、ウロハゼの5種を確認した。

干潟の生物指標による判定結果は、秋季、春季調査で「きれい～汚れている」となった。

環境要因調査の水質調査では、表層水の水温は9.9～30.0℃、塩分は5.2～19.6psu、pHは7.1～8.5、溶存酸素は5.5～8.3mg/L、CODは5.0～7.6mg/Lの範囲で推移した。塩分が他の地点に比べて低いのは、鶴見川の河川水の影響が大きいと考えられる。なお、鶴見川河口は海域としての類型指定はしていない。底質調査では、平均水面下2mの酸化還元電位は-324～-133mV、強熱減量は10.9～13.3%、CODは18～35mg/g・dry、硫化物は0.11～1.6mg/g・dryであった。酸化還元電位は一年を通じてマイナスの値を示した。強熱減量、CODは他の地点と比べると最も高かった。硫化物は秋季、冬季調査に比べ、春季、夏季調査で低かった。

表 9.1 調査項目ごとの出現種類数等一覧（鶴見川河口）

項目	確認種類数					レッドリスト等掲載種		外来種	
	秋季	冬季	春季	夏季	全季	和名	種類数	和名	種類数
海草・海藻	1	8	6	9	9	ホンアヤギス	1		0
海岸動物 (干潟)	28		35	29	48	ウネナシトマヤガイ	1	ミドリイガイ コウロエンカワヒバリガイ イガイダマシ ウスカラシオツガイ ホンビノスガイ カニヤドリカンザシゴカイ タテジマフジツボ アメリカフジツボ ヨーロッパフジツボ	9
魚類	8		7	7	13	キチヌ アシシロハゼ アベハゼ チチブ ウロハゼ	5		0

注) 斜線は該当する生物の調査を実施していないことを示す。

## ②山下公園（岸壁）

山下公園における調査項目ごとの出現種類数等一覧を表 9.2に示す。海草・海藻は秋季調査で8種類、冬季調査で17種類、春季調査で17種類の3季合わせて26種類を確認した。レッドリスト等掲載種は確認しなかった。

岸壁の海岸動物は秋季調査で71種類、春季調査で76種類、夏季調査で69種類の3季合わせて113種類を確認した。レッドリスト等掲載種はカクベンケイガイ1種を確認した。外来種はシマメノウフネガイ、ムラサキイガイ、ミドリイガイ、コウロエンカワヒバリガイ、ウスカラシオツガイ、タテジマフジツボ、アメリカフジツボ、ヨーロッパフジツボ、マンハッタンボヤの9種を確認した。個体数の最優占種は秋季調査で軟体動物門のホトトギスガイ、春季調査で節足動物門のアリアケドロクダムシ、夏季調査で軟体動物門のウスカラシオツガイであった。総個体数は1,864個体～3,039個体/0.04㎡で、夏季調査で最も多く、秋季調査で最も少なかった。湿重量の最優占種は秋季調査で節足動物門のイワフジツボ、春季調査で軟体動物門のマガキ、夏季調査で脊索動物門のシロボヤであった。総湿重量は84.72g～157.15g/0.04㎡で、春季調査で最も多く、秋季調査で最も少なかった。

魚類は秋季調査で8種、春季調査で7種、夏季調査で11種の3季合わせて20種類を確認した。レッドリスト等掲載種はキチヌ1種を確認した。

岸壁の生物指標による判定結果は、秋季、春季調査で「きれい」となった。

環境要因調査の水質調査では、表層水の水温は11.1～28.5℃、塩分は25.9～29.4psu、pHは8.0～8.6、溶存酸素は4.7～9.7mg/L、CODは2.6～5.0mg/Lの範囲で推移した。CODは秋季、春季および夏季調査では環境基準C類型の基準値以下で、冬季調査では環境基準B類型の基準値以下であった。

表 9.2 調査項目ごとの出現種類数等一覧（山下公園）

項目	確認種類数					レッドリスト等掲載種		外来種	
	秋季	冬季	春季	夏季	全季	和名	種類数	和名	種類数
海草・海藻	8	17	17	26	26		0		0
海岸動物 (岸壁)	71		76	69	113	カクベンケイガイ	1	シマメノウフネガイ ムラサキイガイ ミドリイガイ コウロエンカワヒバリガイ ウスカラシオツガイ タテジマフジツボ アメリカフジツボ ヨーロッパフジツボ マンハッタンボヤ	9
魚類	8		7	11	20	キチヌ	1		0

注) 斜線は該当する生物の調査を実施していないことを示す。

③堀割川河口（岸壁）

堀割川河口における調査項目ごとの出現種類数等一覧を表 9.3に示す。海草・海藻は秋季調査で 5 種類、冬季調査で 17 種類、春季調査で 14 種類の 3 季合わせて 26 種類を確認した。レッドリスト等掲載種はいずれも漂着したコアマモ、アマモの 2 種を確認した。

岸壁の海岸動物は秋季調査で 45 種類、春季調査で 60 種類、夏季調査で 50 種類の 3 季合わせて 92 種類を確認した。レッドリスト等掲載種は確認しなかった。外来種はシマメノウフネガイ、ムラサキイガイ、ミドリイガイ、ウスカラシオツガイ、タテジマフジツボ、アメリカフジツボ、クロマメイタボヤ、マンハッタンボヤの 8 種を確認した。個体数の最優占種は秋季調査で環形動物門の *Cirriformia* 属、春季調査で節足動物門のイワフジツボ、夏季調査で軟体動物門のウスカラシオツガイであった。総個体数は 590 個体～1,527 個体/0.04 m<sup>2</sup>で、秋季調査で最も多く、春季調査で最も少なかった。湿重量の最優占種は秋季調査で脊索動物門のシロボヤ、春季調査で脊索動物門のイタボヤ科、夏季調査で軟体動物門のイボニシであった。総湿重量は 19.64g～42.30g/0.04 m<sup>2</sup>で、秋季調査で最も多く、春季調査で最も少なかった。

魚類は秋季調査で 11 種、春季調査で 9 種類、夏季調査で 12 種の 3 季合わせて 19 種を確認した。レッドリスト等掲載種はキチヌ、ウロハゼ、スジハゼの 3 種を確認した。

岸壁の生物指標による判定結果は、秋季調査で「きれい～やや汚れている」、春季調査で「きれい」となった。

環境要因調査の水質調査では、表層水の水温は 11.8～29.3℃、塩分は 24.8～30.0psu、pH は 7.9～8.4、溶存酸素は 3.7～9.1mg/L、COD は 3.3～5.0mg/L の範囲で推移した。COD は秋季調査から夏季調査の 4 季ともに環境基準 C 類型の基準値以下であった。

表 9.3 調査項目ごとの出現種類数等一覧（堀割川河口）

項目	確認種類数					レッドリスト等掲載種		外来種	
	秋季	冬季	春季	夏季	全季	和名	種類数	和名	種類数
海草・海藻	5	17	14	26	26	コアマモ（漂着） アマモ（漂着）	2		0
海岸動物 （岸壁）	45	60	50	92	92	シマメノウフネガイ ムラサキイガイ ミドリイガイ ウスカラシオツガイ タテジマフジツボ アメリカフジツボ クロマメイタボヤ マンハッタンボヤ	8		8
魚類	11	9	12	19	19	キチヌ ウロハゼ スジハゼ	3		0

注) 斜線は該当する生物の調査を実施していないことを示す。

④海の公園（干潟）

海の公園における調査項目ごとの出現種類数等一覧を表 9.4に示す。海草・海藻は秋季調査で 3 種類、冬季調査で 17 種類、春季調査で 4 種類の 3 季合わせて 17 種類を確認した。レッドリスト等掲載種はアマモ 1 種を確認した。

干潟の海岸動物は秋季調査で 25 種類、春季調査で 19 種類、夏季調査で 35 種類の 3 季合わせて 54 種類を確認した。レッドリスト等掲載種はムシロガイ、キヌボラ、クチキレガイ、サクラガイ、テナガツノヤドカリの 5 種を確認した。外来種はシマメノウフネガイとウスカラシオツガイの 2 種を確認した。個体数の最優占種は秋季調査で線形動物門、春季調査で環形動物門の貧毛綱、夏季調査で環形動物門のミズヒキゴカイであった。総個体数は 161 個体～930 個体/0.5 m<sup>2</sup>で、夏季調査で最も多く、春季調査で最も少なかった。湿重量の最優占種は秋季、春季および夏季調査のす

べてで環形動物門のミズヒキゴカイであった。総湿重量は 10.28g~74.22g/0.5 m<sup>2</sup>で、夏季調査で最も多く、春季調査で最も少なかった。

魚類は秋季調査で 15 種、春季調査で 7 種、夏季調査で 10 種の 3 季合わせて 22 種を確認した。レッドリスト等掲載種はキチヌとヒメハゼの 2 種を確認した。

干潟の生物指標による判定結果は、秋季、春季調査で「きれい」となった。

環境要因調査の水質調査では、表層水の水温は 11.2~27.8℃、塩分は 28.9~30.1psu、pH は 8.2~8.4、溶存酸素は 3.9~9.2mg/L、COD は 2.0~3.2mg/L の範囲で推移した。COD は秋季、春季調査では環境基準 B 類型の基準値以下で、冬季調査では環境基準 A 類型の基準値以下、夏季調査では環境基準 C 類型の基準値以下であった。底質調査では、平均水面下 1.65m の酸化還元電位は-1~+151mV、強熱減量は 1.1~1.4%、COD は 1.2~1.8mg/g・dry、硫化物は 0.01 未満~0.08mg/g・dry であった。酸化還元電位は秋季調査の-1mV を除いて一年を通じてプラスの値を示し、強熱減量、COD および硫化物は一年を通じて大きな変化はなかった。

表 9.4 調査項目ごとの出現種類数等一覧（海の公園）

項目	確認種類数					レッドリスト等掲載種		外来種	
	秋季	冬季	春季	夏季	合計	種名	種類数	種名	種類数
海草・海藻	3	17	4	17	17	アマモ	1		0
海岸動物 (干潟)	25		19	35	54	ムシロガイ キヌボラ クチキレガイ サクラガイ テナガツノヤドカリ	5	シマノウフネガイ ウスカラシオツガイ	2
魚類	15		7	10	22	キチヌ ヒメハゼ	2		0

注) 斜線は該当する生物の調査を実施していないことを示す。

#### ⑤野島公園（干潟）

野島公園における調査項目ごとの出現種類数等一覧を表 9.5に示す。海草・海藻は秋季調査で 3 種類、冬季調査で 21 種類、春季調査で 10 種類の 3 季合わせて 24 種類を確認した。レッドリスト等掲載種はコアマモとアマモの 2 種を確認した。

干潟の海岸動物は秋季調査で 29 種類、春季調査で 31 種類、夏季調査で 48 種類の 3 季合わせて 72 種類を確認した。レッドリスト等掲載種はネコガイ、ムシロガイ、ムラクモキビジキガイ、テナガツノヤドカリ、マメコブシガニ、オサガニ、コメツキガニの 7 種を確認した。外来種はシマメノウフネガイ 1 種を確認した。個体数の最優占種はいずれも環形動物門で、秋季、春季調査でコケゴカイ、夏季調査でコオニスピオであった。総個体数は 133 個体~2,870 個体/0.5 m<sup>2</sup>で、夏季調査で最も多く、春季調査で最も少なかった。湿重量の最優占種はいずれの時季も軟体動物門のアサリで、組成比率は 76.7%~88.7%を占めた。総湿重量は 87.33g~374.38g/0.5 m<sup>2</sup>で、夏季調査で最も多く、秋季調査で最も少なかった。

魚類は秋季調査で 12 種、春季調査で 10 種、夏季調査で 19 種類の 3 季合わせて 28 種類を確認した。レッドリスト等掲載種はツバクロエイ、ウロハゼ、スジハゼ、ヒメハゼの 4 種を確認した。

干潟の生物指標による判定結果は、秋季調査で「きれい~やや汚れている」、春季調査で「きれい」となった。

環境要因調査の水質調査では、表層水の水温は 12.1~29.1℃、塩分は 26.6~30.5psu、pH は 7.8~8.3、溶存酸素は 3.4~9.4mg/L、COD は 2.1~9.4mg/L の範囲で推移した。COD は秋季調査では 8mg/L を超え環境基準類型の範囲外で、冬季調査では環境基準の B 類型の基準値以下、春季調査、夏季調査では環境基準 C 類型の基準値以下であった。秋季調査の COD が基準値外と高くなったのは、当日の調査地点付近に局所的に起きていたプランクトン (*Noctiluca scintillans*、夜光虫) の大量発生が原因と思われる。底質調査では、平均水面下 1.15m の酸化還元電位は-65~+129mV、強

熱減量は1.5～1.9%、CODは1.3～2.0mg/g・dry、硫化物は0.01未満～0.05mg/g・dryであった。酸化還元電位は秋季調査でマイナスの値を示した。強熱減量、CODおよび硫化物は一年を通じて大きな変化はなかった。

表 9.5 調査項目ごとの出現種類数等一覧（野島公園）

項目	確認種類数					レッドリスト等掲載種		外来種	
	秋季	冬季	春季	夏季	全季	和名	種類数	和名	種類数
海草・海藻	3	21	10	/	24	コアマモ アマモ	2		0
海岸動物 (干潟)	29	/	31	48	72	ネコガイ ムシロガイ ムラクモキビジキガイ テナガツノヤドカリ マメコブシガニ オサガニ コメツキガニ	7	シマメノウフネガイ	1
魚類	12	/	10	19	28	ツバクロエイ ウロハゼ スジハゼ ヒメハゼ	4		0

注) 斜線は該当する生物の調査を実施していないことを示す。

#### ⑥野島水路（干潟）

野島水路における調査項目ごとの出現種類数等一覧を表 9.6に示す。海草・海藻は秋季調査で6種類、冬季調査で21種類、春季調査で16種類の3季合わせて28種類を確認した。レッドリスト等掲載種は漂着したコアマモ1種を確認した。

干潟の海岸動物は秋季調査で47種類、春季調査で48種類、夏季調査で62種類の3季合わせて101種類を確認した。レッドリスト等掲載種はムシロガイ、サクラガイ、ウズザクラ、テナガツノヤドカリ、マメコブシガニ、カクベンケイガニ、コメツキガニの7種を確認した。外来種はシマメノウフネガイ、ミドリイガイ、ホンビノスガイ、タテジマフジツボ、アメリカフジツボ、ヨーロッパフジツボ、マンハッタンボヤの7種を確認した。個体数の最優占種は秋季、夏季調査で軟体動物門のアサリ、春季調査で節足動物門のアリアケドロクダムシであった。総個体数は295個体～1,018個体/0.5㎡で、春季調査で最も多く、秋季調査で最も少なかった。湿重量の最優占種はいずれの時季も軟体動物門のアサリで組成比率は64.4%～86.4%を占めた。総湿重量は36.97g～461.59g/0.5㎡で、夏季調査で最も多く、春季調査で最も少なかった。

魚類は秋季調査で16種、春季調査で9種、夏季調査で17種の3季合わせて28種を確認した。レッドリスト等掲載種はキチヌ、チチブ、ウロハゼ、スジハゼ、ヒメハゼ、サツキハゼの6種を確認した。

干潟の生物指標による判定結果は、秋季調査で「きれい～やや汚れている」、春季調査で「きれい」となった。

環境要因調査の水質調査では、表層水の水温は12.3～30.0℃、塩分は25.1～31.1psu、pHは7.8～8.3、溶存酸素は3.6～10.7mg/L、CODは2.6～4.0mg/Lの範囲で推移した。CODは秋季、夏季調査では環境基準のC類型の基準値以下で、冬季、春季調査では環境基準のB類型の基準値以下であった。底質調査では、平均水面下2mの酸化還元電位は-212～+66mV、強熱減量は2.5～6.2%、CODは3.7～11mg/g・dry、硫化物は0.06～0.72mg/g・dryであった。酸化還元電位は春季調査を除いてマイナスの値を示した。強熱減量、CODおよび硫化物は冬季に最も高くなった。

表 9.6 調査項目ごとの出現種類数等一覧（野島水路）

項目	確認種類数				レッドリスト等掲載種		外来種		
	秋季	冬季	春季	夏季	全季	和名	種類数	和名	種類数
海草・海藻	6	21	16	28	コアマモ（漂着）	1			0
海岸動物 （干潟）	47	48	62	101	ムシロガイ サクラガイ ウズザクラ テナガツノヤドカリ マメコブシガニ カクベンケイガニ コメツキガニ	7	シマメノウフネガイ ミドリイガイ ホンビノスガイ タテジマフジツボ アメリカフジツボ ヨーロッパフジツボ マンハッタンボヤ	7	
魚類	16	9	17	28	キチヌ チチブ ウロハゼ スジハゼ ヒメハゼ サツキハゼ	6		0	

注) 斜線は該当する生物の調査を実施していないことを示す。

### ⑦夕照橋（干潟）

夕照橋における調査項目ごとの出現種類数等一覧を表 9.7に示す。海草・海藻は秋季調査で4種類、冬季調査で16種類、春季調査で7種類の3季合わせて18種類を確認した。レッドリスト等掲載種はアマモの1種類を確認した。

干潟の海岸動物は秋季調査で50種類、春季調査で57種類、夏季調査で47種類の3季合わせて85種類を確認した。レッドリスト等掲載種はウミゴマツボ、クチキレガイ、サクラガイ、テナガツノヤドカリ、マメコブシガニ、カクベンケイガニの6種類を確認した。外来種はシマメノウフネガイ、ムラサキイガイ、ミドリイガイ、コウロエンカワヒバリガイ、ウスカラシオツガイ、タテジマフジツボ、アメリカフジツボ、ヨーロッパフジツボの8種類を確認した。個体数の最優占種はいずれも環形動物門で、秋季、夏季調査でコケゴカイ、春季調査でミズヒキゴカイであった。総個体数は517個体～1,079個体/0.5㎡で、秋季調査で最も多く、春季調査で最も少なかった。湿重量の最優占種はいずれも軟体動物門で、秋季調査でホソウミニナ、春季調査でアサリ、夏季調査でマガキであった。総湿重量は110.93g～244.67g/0.5㎡で、秋季調査で最も多く、夏季調査で最も少なかった。ホソウミニナ、アサリ等の軟体動物が調査時季別で湿重量の96.2%～96.4%を占めた。

魚類は秋季調査で12種、春季調査で12種類、夏季調査で14種の3季合わせて23種類を確認した。レッドリスト等掲載種はイソミミズハゼ、アベハゼ、チチブ、ウロハゼ、スジハゼ、ヒメハゼの6種類を確認した。

干潟の生物指標による判定結果は、秋季、春季調査で「きれい」となった。

環境要因調査の水質調査では、表層水の水温は13.1～29.4℃、塩分は20.3～29.6psu、pHは7.9～8.6、溶存酸素は5.0～13.3mg/L、CODは2.7～4.3mg/Lの範囲で推移した。CODは秋季調査、春季調査および夏季調査では環境基準のC類型の基準値以下で、冬季調査では環境基準のB類型の基準値以下であった。底質調査では、平均水面下2mの酸化還元電位は-206～+79mV、強熱減量は2.3～3.2%、CODは3.3～5.1mg/g・dry、硫化物は0.05～0.19mg/g・dryであった。酸化還元電位は春季調査、夏季調査でマイナスの値を示した。強熱減量、COD、硫化物は一年を通じて大きな変化はなかった。

表 9.7 調査項目ごとの出現種類数等一覧（夕照橋）

項目	確認種類数					レッドリスト等掲載種		外来種	
	秋季	冬季	春季	夏季	全季	和名	種類数	和名	種類数
海草・海藻	4	16	7	18	アマモ	1		0	
海岸動物 (干潟)	50	57	47	85	ウミゴマツボ クチキレガイ サクラガイ テナガツノヤドカリ マメコブシガニ カクベンケイガニ	6	シマメノウフネガイ ムラサキガイ ミドリガイ コウロエンカワヒバリガイ ウスカラシオツガイ タテジマフジツボ アメリカフジツボ ヨーロッパフジツボ	8	
魚類	12	12	14	23	イツミズハゼ アベハゼ チチブ ウロハゼ スジハゼ ヒメハゼ	6		0	

注) 斜線は該当する生物の調査を実施していないことを示す。

### ⑧内湾域

内湾域における調査項目ごとの出現種類数等一覧を表 9.8に示す。魚類は秋季調査で 30 種、冬季調査で 24 種、春季調査で 30 種、夏季調査で 27 種の 4 季合わせて計 51 種を確認した。最も種類数の多かったのは金沢湾沖で 37 種、最も少なかったのが横浜港沖で 22 種であった。採捕個体数合計上位 5 種となった優占種はマアジ、シログチ、テンジクダイ、コモンフグ、ハタタテヌメリであった。最も多く採捕したマアジは全ての調査地点で採捕し、302 個体を採捕した。レッドリスト等掲載種はホシザメ、カスザメ、ガンギエイ、コモンカスベ、ツバクロエイ、トビエイ、コモチジャコ、アカハゼの 8 種を確認した。

底生動物は秋季調査で 41 種類、冬季調査で 38 種類、春季調査で 46 種類、夏季調査で 44 種類の 4 季合わせて 80 種類を確認した。レッドリスト等掲載種はクチキレガイ、キヌタレガイ、サクラガイの 3 種を確認した。外来種はイッカクモガニ 1 種を確認した。

横浜港口 (St.6) の個体数の最優占種は、いずれの時季も環形動物門で、秋季調査でイトエラスピオ、冬季、春季および夏季調査でシノブハネエラスピオであった。総個体数は 40~108 個体/0.1125 m<sup>2</sup>で、春季調査で最も多く、夏季調査で最も少なかった。秋季、冬季調査では環形動物門が個体数の 90%以上を占めた。湿重量の最優占種は秋季、冬季および春季調査で環形動物門のシノブハネエラスピオ、夏季調査で軟体動物門のゴイサギであった。総湿重量は 0.41~3.13 g/0.1125 m<sup>2</sup>で、春季調査で最も多く、秋季調査で最も少なかった。

根岸湾口 (St.10) の個体数の最優占種は、いずれの時季も環形動物門で、秋季調査でフタエラスピオ、冬季調査で *Tharyx* 属、春季調査で *Capitellethus* 属、夏季調査でハナオカカギゴカイであった。総個体数は 80~177 個体/0.1125 m<sup>2</sup>で、秋季調査で最も多く、春季調査で最も少なかった。環形動物門は、秋季、冬季調査で 85.3%、87.2%と高い割合を占めた。湿重量の最優占種は、秋季調査で棘皮動物門のイカリナマコ科、冬季、夏季調査で環形動物門の *Capitellethus* 属、春季調査で環形動物門の *Streblosoma* 属であった。総湿重量は 1.53~2.58 g/0.1125 m<sup>2</sup>で、秋季調査で最も多く、冬季調査で最も少なかった。

金沢湾口 (St.10) の個体数の最優占種は、秋季調査で環形動物門のエリタケフシゴカイとナガオカンムリ、冬季調査で紐形動物門、春季調査で環形動物門のカタマガリギボシイソメ、夏季調査で環形動物門のスベスベハネエラスピオであった。総個体数は 33~81 個体/0.1125 m<sup>2</sup>で、夏季調査で最も多く、春季調査で最も少なかった。湿重量の最優占種は秋季調査で軟体動物門のヤカドツノガイ、冬季調査で棘皮動物門のモミジガイ、春季調査で環形動物門のカタマガリギボシイソメ、夏季調査で環形動物門の *Capitellethus* 属であった。総湿重量は 0.24~14.08 g/0.1125 m<sup>2</sup>で、冬

季調査で最も多く、春季調査で最も少なくなった。

植物プランクトンは秋季、冬季調査でいずれも32種類、春季調査で37種類、夏季調査で43種類の4季合わせて60種類を確認した。

横浜港沖の最優占種はいずれも珪藻綱で、秋季、春季調査で *Skeletonema* spp.、冬季調査で *Chaetoceros sociale*、夏季調査で *Pseudo-nitzschia* sp.であった。細胞数は429～5,286細胞/mLで、夏季調査で最も多く、冬季調査で最も少なかった。

根岸湾沖の最優占種は、いずれの時季も珪藻綱で、秋季調査で *Skeletonema* spp.、冬季調査で *Chaetoceros sociale*、春季調査で *Thalassiosira* spp.、夏季調査で *Pseudo-nitzschia* sp.であった。細胞数は457～3,743細胞/mLで、夏季調査で最も多く、冬季調査で最も少なかった。

金沢湾沖の最優占種は、秋季調査で珪藻綱の *Skeletonema* spp.、冬季調査で珪藻綱の *Chaetoceros sociale*、春季調査でクリプト藻綱の CRYPTOPHYCEAE、夏季調査で珪藻綱の *Pseudo-nitzschia* sp.であった。細胞数は436～5,276細胞/mLで、夏季調査で最も多く、冬季調査で最も少なかった。

動物プランクトンは秋季調査で20種類、冬季調査で18種類、春季調査で13種類、夏季調査で18種類の4季合わせて35種類を確認した。

横浜港沖の最優占種は、秋季調査で輪形動物門の *Synchaeta* sp.、冬季、春季調査で繊毛虫門（原生動物類）の OLIGOTRICHINA、夏季調査で節足動物門の Nauplius of COPEPODA であった。個体数は754～3,862個体/Lで、夏季調査で最も多く、冬季調査で最も少なかった。

根岸湾沖の最優占種は秋季、冬季および春季調査で、繊毛虫門（原生動物類）の OLIGOTRICHINA、夏季調査で節足動物門の Nauplius of COPEPODA であった。個体数は782～3,062個体/Lで、夏季調査で最も多く、秋季調査で最も少なかった。

金沢湾沖の最優占種は秋季、冬季および春季調査で、繊毛虫門（原生動物類）の OLIGOTRICHINA、夏季調査で節足動物門の Nauplius of COPEPODA であった。個体数は838～5,097個体/Lで、夏季調査で最も多く、冬季調査で最も少なかった。

内湾の生物指標による水質判定結果は、横浜港沖では、秋季、冬季調査で「きれい」、春季、夏季調査で「きれい～やや汚れている」と判定された。根岸湾沖では、秋季、冬季および春季調査で「きれい」、夏季調査で「きれい～やや汚れている」と判定された。金沢湾沖では、秋季、冬季調査で「きれい」、春季、夏季調査で「きれい～やや汚れている」と判定された。

環境要因調査の水質調査において、横浜港沖では透明度は1.9～5.3m、表層水の水温は9.9～29.6℃、塩分は25.1～30.4psu、pHは8.0～8.4、溶存酸素は4.4～9.4mg/L、CODは2.7～4.6mg/L、濁度は1.8～5.8度、クロロフィルaは9.0～23μg/Lの範囲で推移した。CODは秋季、春季および夏季調査では環境基準C類型の基準値以下、冬季調査では環境基準B類型の基準値以下であった。根岸湾沖では透明度は2.0～5.6m、表層水の水温は9.7～28.7℃、塩分は28.4～30.3psu、pHは8.0～8.7、溶存酸素は7.1～9.6mg/L、CODは2.8～4.6mg/L、濁度は1.7～5.8度、クロロフィルaは5.9～22μg/Lの範囲で推移した。CODは秋季、春季および夏季調査では環境基準C類型の基準値以下、冬季調査では環境基準B類型の基準値以下であった。金沢湾沖では透明度は2.5～7.6m、表層水の水温は10.4～27.4℃、塩分は25.0～30.4psu、pHは8.0～8.8、溶存酸素は7.2～9.1mg/L、CODは2.2～5.1mg/L、濁度は1.5～5.0度、クロロフィルaは8.2～13μg/Lの範囲で推移した。CODは秋季、冬季調査では環境基準B類型の基準値以下、春季、夏季調査では環境基準C類型の基準値以下であった。

底質調査では、横浜港口（St.6）で、泥温は11.6～23.1℃、pHは7.5～7.8、酸化還元電位は-325～-169mV、強熱減量は7.5～9.9%、CODは15～17mg/g・dry、硫化物は0.72～1.6mg/g・dry、底層溶存酸素は1.0～9.1mg/Lの範囲で推移した。根岸湾口（St.10）では、泥温は10.9～23.8℃、pHは7.6～7.9、酸化還元電位は-265～-59mV、強熱減量は4.0～4.3%、CODは7.0～11mg/g・dry、硫化

物は0.06～0.13mg/g・dry、底層溶存酸素は3.7～8.6mg/Lの範囲で推移した。金沢湾口（St.12）では、泥温は11.1～25.4℃、pHは7.1～7.9、酸化還元電位は-176～-79mV、強熱減量は2.3～3.8%、CODは4.9～6.0mg/g・dry、硫化物は0.02～0.10mg/g・dry、底層溶存酸素は4.0～9.6mg/Lの範囲で推移した。

表 9.8 調査項目ごとの出現種類数等一覧（内湾域）

項目	確認種類数					レッドリスト等掲載種		外来種	
	秋季	冬季	春季	夏季	全季	和名	種類数	和名	種類数
魚類	30	24	30	27	51	ホシザメ カスザメ ガンギエイ コモンカスベ ツバクロエイ トビエイ コモチジャコ アカハゼ	8		0
底生動物	41	38	46	44	80	クチキレガイ キスタレガイ サクラガイ	3	イッカククモガニ	1
植物プランクトン	32	32	37	43	60		0		0
動物プランクトン	20	18	13	18	35		0		0

## 10. 市内沿岸域における出現生物と環境要因の変遷

本生物相調査は、市内水域に生息・生育する動植物の調査を昭和 48（1973）年度より現在まで継続的に行っているものである。本項では、50 年以上の歴史を持つ本調査で蓄積された出現生物や環境要因に関するデータを活用していくことを目的として、本市沿岸域の生物相の変遷を中心に整理した。調査項目別の各項においても生物群別の経年変化等について詳述しているが、本項では、それらの結果も踏まえた上で、調査項目を横断的に俯瞰して出現生物と環境要因の変遷について記述し、市内沿岸域生物相の状態を時間的・空間的に概観する内容となるように心掛けた。

### 10.1. 本調査のこれまでの経緯

本生物相調査の第 1 回目調査は、昭和 48（1973）年度にまで遡ることができる。第 1 回から第 11 回の第 11 報（2005 年度調査）までは 3 年毎に実施されている。第 12 報（2009 年度調査）からは 4 年毎の実施となり、本報告である第 16 報（2024～2025 年度調査）に至っている。

調査地点は、河口・海岸調査として岸壁、河口域、干潟域といった市内の河口・海岸域と、内湾調査として市内海域に、それぞれ定点を設けてモニタリングしている。対象とする生物群は河口・海岸に生育・生息する海草・海藻、海岸動物、河口・海岸域、内湾海域に生息する魚類、及び内湾海域に生息する底生動物、プランクトン、他である。

### 10.2. 市内の河口・海岸域の環境要因と生息する海岸動物優占種の分布状況

第 14～16 報（2016～2017、2020～2021、2024～2025 年度調査）の河口・海岸調査は、市内の岸壁 2 地点（中区\_山下公園、磯子区\_堀割川河口）、干潟域 5 地点（鶴見区\_鶴見川河口、金沢区\_海の公園、野島公園、野島水路、夕照橋）を定点としている。

各定点の水質環境を概観するために第 14～16 報における水温、塩分、COD の推移を図 10.1 に示す。なお、鶴見川河口は、潮位による海域からの影響が見られたことから、塩分グラフに潮位も併記した。

河口・海岸調査の 7 地点のうち、市内最北部の鶴見川河口地点の水質環境は、過去の結果と同様に河川水と海水の影響が潮汐によって交互に現れる特徴が見られた。調査時の鶴見川河口は、塩分の主たる範囲が 10～20psu と他の 6 地点と比較して最も低く、COD は顕著に高い傾向が見られた。第 14～16 報の調査結果からは、潮位が低く塩分値が低下するタイミングで COD が上昇する傾向が見られた。潮位が低い干潮時には河川水の影響が強まり、COD が上昇するものと考えられた。また、鶴見川河口の冬季の水温は、他の 6 地点と比べて高い傾向にある。第 16 報では測定時間の潮位が高く、海水の影響を受けた結果、冬季の水温は 9.9℃とそれほど高くはないが、第 14～15 報では 12.5～13.8℃と他の地点と比較して明らかに高かった。これは調査地点上流からの下水処理水の放流や生活排水の影響と考えられる。鶴見川河口地点は、潮位の変動によって海域と河川域の影響を受ける塩分勾配の大きい汽水域になっており、生息環境の多様性は高いと言える。海草・海藻調査において、汽水性のホソアヤギヌが継続的に鶴見川河口地点に生育しているのはこのような汽水環境を反映した結果と考える。一方で、冬季の高水温や年間を通じた高い COD といった特性も見られ、生息生物への影響に注意を払う必要がある。

全地点を通しては、冬季調査時の水温が、第 14 報時が 10℃未満の地点が多かったのに対して 4 年後の第 15 報時、8 年後の 16 報時では 10℃以上となる地点が多かった。COD は、秋季から冬季にかけて低下し、冬季から春季にかけて上昇する地点が多かった。

なお、第 16 報（2024～2025 年度調査）において、秋季の野島公園の COD が環境基準の 8mg/L を超えて 9.4mg/L と高かったのは、調査当日の調査地点付近に局所的に起きていたプランクトン（*Noctiluca scintillans*、夜光虫）の大量発生が原因と思われる。

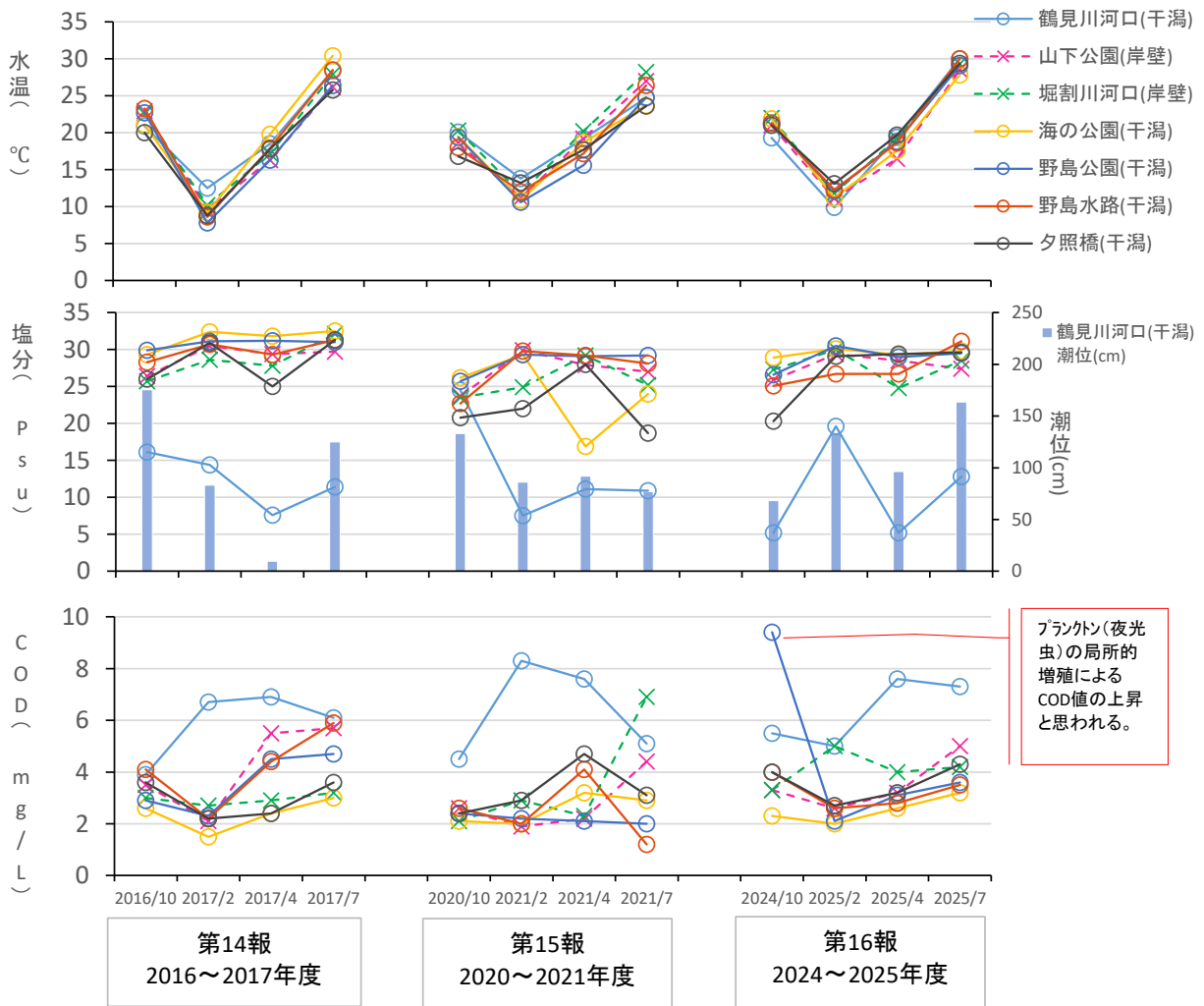


図 10.1 河口・海岸調査における水質環境の推移

次にこれらの水質環境を踏まえて、市内の河口・海岸域に生息する海岸動物の分布特性について概観した。海岸動物の定量採取データを用いて、個体数と湿重量のよる優占種を抽出した。優占種は個体数あるいは湿重量の組成比率が 10%以上となった種とした。前回の第 15 報と今回の 16 報における河口・海岸調査における優占種と生物量を表 10.1に示す。

第 15、16 報において優占種に該当した種は、紐形動物門 1 種類、線形動物門 1 種類、触手動物門 1 種、軟体動物門 19 種、環形動物門 13 種類、節足動物門 12 種類、脊索動物門 3 種類の計 50 種類であった。

優占種に該当した頻度が高かったのは、軟体動物のアサリ、ホトトギスガイ、マガキ、環形動物のミズヒキゴカイ、節足動物のイワフジツボであった。出現頻度が 41.7%と最も高かったアサリは、干潟である市内最北部鶴見区の鶴見川河口と最南部金沢区の干潟 4 地点（海の公園、野島公園、野島水路、夕照橋）に分布した。特に南部の金沢区の干潟 4 地点では、個体数、湿重量ともに優占種となることが多く、生物量の多くをアサリが占めた。第 15~16 報においてアサリの湿重量が最も多かったのは第 16 報の夏季調査の野島水路における 0.8kg/m<sup>2</sup>であった。第 14 報時の秋季調査の野島水路においては 3.3kg/m<sup>2</sup>を記録しており、アサリの生物量は減少傾向にある。ホトトギスガイ、マガキは、干潟域である鶴見川河口、平潟湾の野島水路、夕照橋といった塩分が低めの汽水環境や、付着基質のある岸壁の山下公園、堀割川河口で優占種となった。ミズヒキゴカイは、南部の金沢区の干潟 4 地点において主に個体数で優占種となった。イワフジツボは付着基質

のある岸壁の山下公園、堀割川河口において優占種となった。

地点別の特性は、山下公園は、ホトトギスガイ、ムラサキイガイ、ミドリイガイ、コウロエンカヒバリガイなどのイガイ類が優占種となる場合が多かった。これらイガイ類4種のうち、第15報時に優占種となったのは、ホトトギスガイ、ムラサキイガイ、コウロエンカワヒバリガイの3種であったが、本第16報時にはホトトギスガイと、代わってミドリイガイの2種が優占種となり、ムラサキイガイとコウロエンカワヒバリガイは、出現はしたものの、優占種とはならなかった。山下公園におけるイガイ類の生物量の変遷は、10.3で改めて述べる。

山下公園と同様の岸壁である堀割川河口では、ろ過食者のイガイ類が優占種となることはなく、ミズヒキゴカイ科の *Cirriiformia* 属が個体数で、イボニシが湿重量でそれぞれ最優占種となった。また、ろ過食者のシロボヤも湿重量で優占種となるなど、同じ岸壁でも山下公園とは優占種が異なった。一方、干潟域ではアサリやマガキといったろ過食者が生物量の多くを占める傾向が共通した。



### 10.3. 山下公園における外来種イガイ類（二枚貝）の変遷

海岸動物の項では、これまでの河口・海岸調査で確認された外来種の変遷と外来種の確認種類数の推移を示した。ここでは、前報の第15報から継続してムラサキイガイの減少傾向に着目した。ムラサキイガイと同様に外来種であるイガイ類のミドリイガイ、コウロエンカワヒバリガイの3種の生物量の変遷を整理した。

外来種イガイ類であるムラサキイガイ、ミドリイガイ、コウロエンカワヒバリガイは、ムラサキイガイが第4報（1984～85年度調査）以降、ミドリイガイ、コウロエンカワヒバリガイは第5報（1987～88年度調査）以降、本第16報まで継続して記録されている。外来種イガイ類の継続的な定量採取を実施している山下公園における3種の平均生物量（個体数、湿重量）の変遷を図10.2(1)～(2)に示す。

ムラサキイガイの生物量は、個体数が第13報（2012～13年度調査）時の約14万個体/m<sup>2</sup>、湿重量は第14報（2016～17年度調査）時の約12kg/m<sup>2</sup>をピークに減少に転じている。本第16報においても減少傾向は継続し、個体数が約300個体/m<sup>2</sup>、湿重量は約0.05kg/m<sup>2</sup>にまで減少し、外来種イガイ類3種の中でムラサキイガイの生物量が最も少なくなった。

反対に、ミドリイガイは、第14報以降は増加に転じて、本第16報において、個体数が約2,200個体/m<sup>2</sup>、湿重量は約0.2kg/m<sup>2</sup>と、3種のうち、ミドリイガイの生物量が最も多くなった。コウロエンカワヒバリガイは、第15報では3種のうち、生物量が最も多かったが、第16報は個体数、湿重量ともに減少し、生物量はミドリイガイに次いで多い、個体数が約2,000個体/m<sup>2</sup>、湿重量は約0.09kg/m<sup>2</sup>となった。

最近の東京湾においてムラサキイガイが減少する現象は、「平成31年度（2019年度）東京都内湾水生生物調査速報」でも言及されている。

外来種イガイ類3種の生物量の変遷については、今後も注視していく必要があると考える。

#### 参考文献

東京都環境局（2019）「平成31年度 東京都内湾水生生物調査 付着動物調査 速報」

[https://www.kankyo.metro.tokyo.lg.jp/water/tokyo\\_bay/creature/aquatic\\_creature.files/2019\\_05\\_fuchaku\\_sokuhou.pdf](https://www.kankyo.metro.tokyo.lg.jp/water/tokyo_bay/creature/aquatic_creature.files/2019_05_fuchaku_sokuhou.pdf)

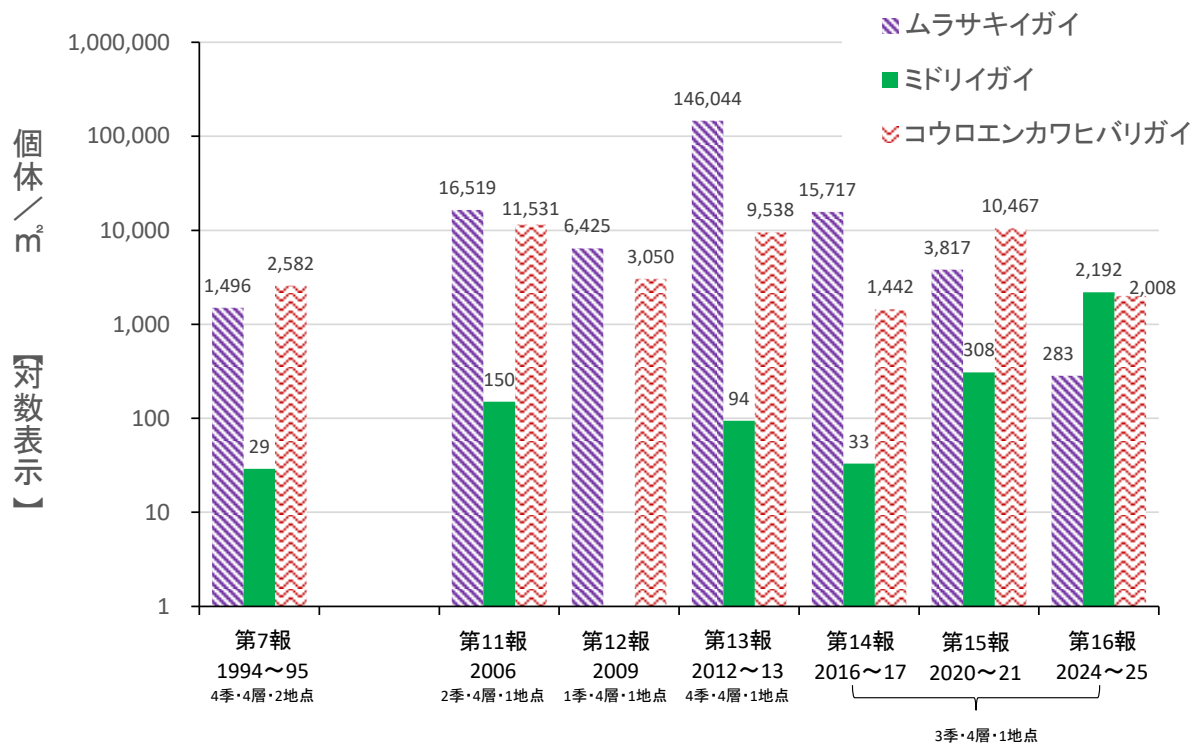


図 10.2 (1) 山下公園における外来種イガイ類3種の生物量の変遷 (個体数)

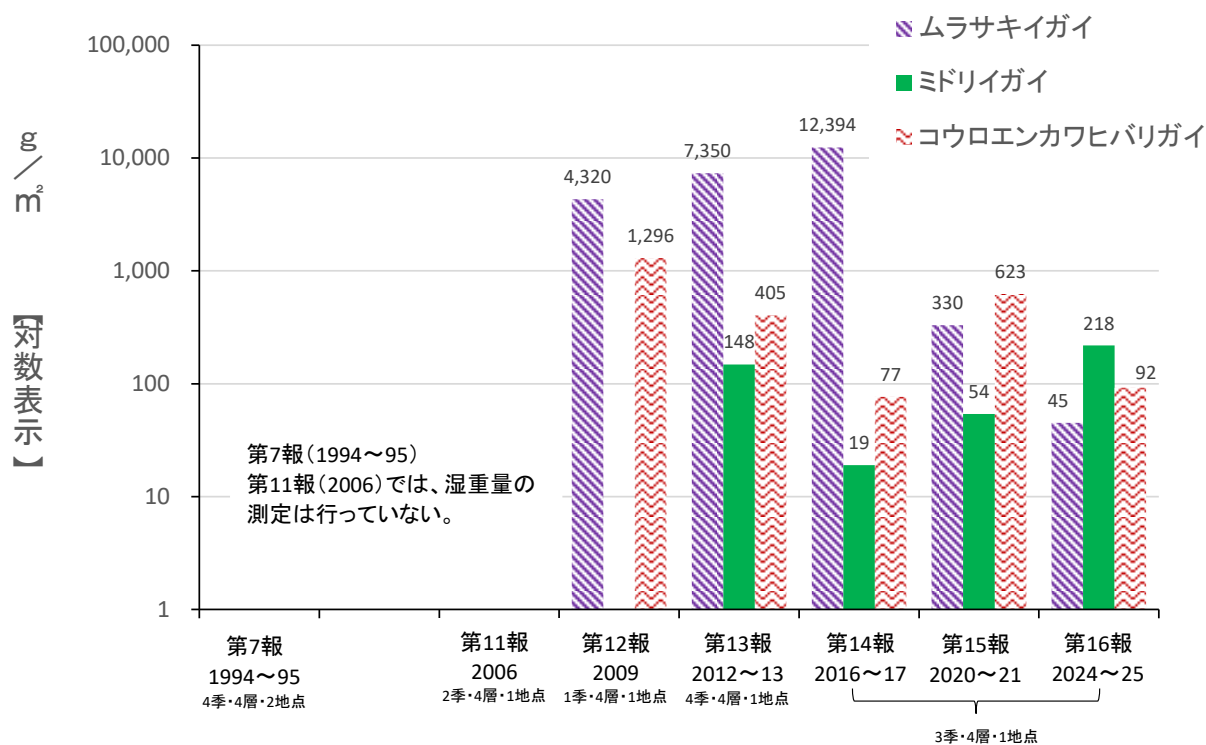


図 10.2 (2) 山下公園における外来種イガイ類3種の生物量の変遷 (湿重量)

#### 10.4. 内湾海域の植物プランクトンの細胞数と水質の関係

横浜市沿岸の生物多様性の基盤となる海域の基礎生産を見るために主な一次生産者である植物プランクトンの細胞数と、植物プランクトンの活動に連動あるいは影響すると思われる水質項目の推移を整理した。第 14~16 報の内湾調査における植物プランクトンの細胞数と水温、COD、クロロフィル a の推移を図 10.3 に示す。

内湾調査の 3 地点間（横浜港沖、根岸湾沖、金沢湾沖）の水温は、第 14 報（2016~17 年度調査）、から第 16 報（2024~25 年度調査）ともに 4 季を通じて殆ど差はなかった。横浜市沿岸の海域水温はほぼ均質であった。

COD は、海水に含まれる有機物の量を示す項目である。クロロフィル a は、植物プランクトンに含まれる葉緑体色素の量であり、細胞数と正の相関を示す。海水に含まれる有機物は分解者によって植物プランクトンの栄養源となる無機栄養塩に分解されることから、COD と細胞数も正の相関を示すものと予測される。第 14~第 16 報の秋季~春季調査では、植物プランクトンの細胞数は、クロロフィル a、COD と正の相関を示した。一方、春季~夏季調査にかけては、植物プランクトンの細胞数と COD の相関は見られなかった。

植物プランクトンの単一種が爆発的に増加する現象を、植物プランクトンの増大により海水が着色することから赤潮と呼ぶ。内湾調査でもしばしば優占種となる珪藻綱の *Skeletonema* spp. の場合、活性度や細胞サイズにもよるが、1mL 中に 1 万細胞を超える程度で赤潮を形成し、茶褐色や黄褐色などの着色となる。透明度板を下して見た水色は黄褐色などに着色し、透明度が 1.5m を下回るようになる。植物プランクトンの増殖には、沿岸の一次生産を支える重要な役割がある。一方で、流入河川の COD 負荷が高まると、海域が富栄養化して赤潮が発生することで魚類の大量斃死や大量発生した植物プランクトンの死骸が海底へ沈降、堆積して、酸化分解過程で底層での貧酸素化を招き、生物多様性の面からマイナスの影響を与える場合がある。

第 14~16 報においては、植物プランクトン全体の細胞数が 1 万細胞/mL 未満なので調査時に赤潮状態となったことはなかった。しかし、河口・海岸域と同様に内湾調査の海域でも春季から夏季にかけて富栄養化の原因となる COD の上昇が見られることから、海域での赤潮の発生には今後も注意が必要である。

#### 参考文献

東京都環境局（2019）「東京湾調査結果報告書～ 赤潮・貧酸素水塊調査～」

[https://www.kankyo.metro.tokyo.lg.jp/water/tokyo\\_bay/red\\_tide/download.files/29\\_redtide\\_color.pdf](https://www.kankyo.metro.tokyo.lg.jp/water/tokyo_bay/red_tide/download.files/29_redtide_color.pdf)

10.市内水域における出現生物と環境要因の変遷

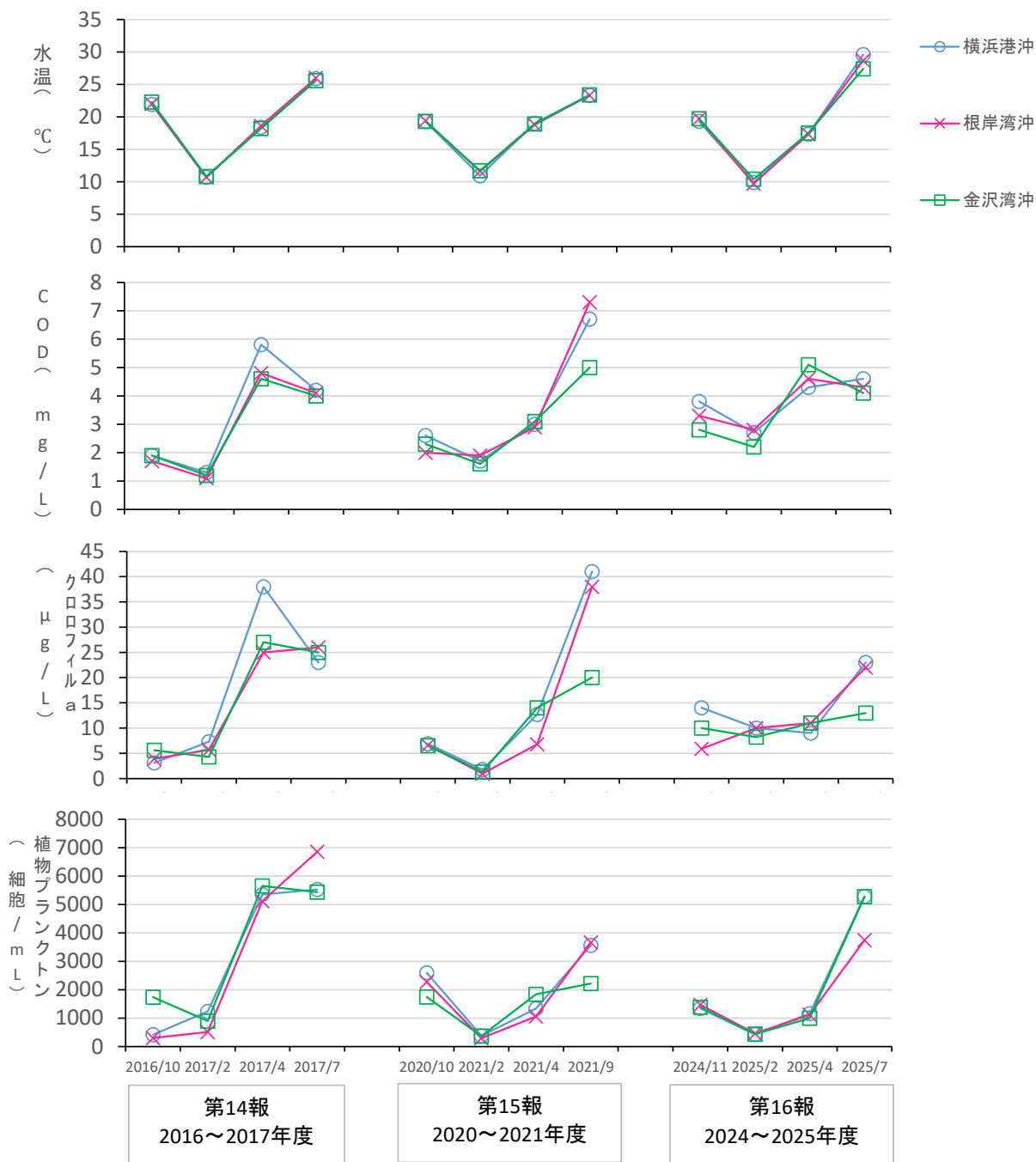


図 10.3 内湾調査における植物プランクトン細胞数と水質の推移

## 10.5. 第16報の初記録種から見る生息環境の”外洋化”や出現種の”南方化”について

第16報の初記録種を表10.2に示す。なお、初記録種とは、新たに出現した新規出現種のうち、これまでに記録されていない種、あるいは種まで同定できない生物種についてはこれまでに記録されていない科、属に所属した種類とした。

第16報における初記録種は、刺胞動物門1種、軟体動物門10種、環形動物門6種類、節足動物門10種、棘皮動物門1種、脊索動物門6種の計34種類であった。

近年、フィールド調査において、同一場所の生物相が過去から変化している感覚があり、この感覚について、専門家からは”外洋化”、”南方化”という言葉で説明される機会が増えている。

”外洋化”とは、生息環境の変化によって元来は内湾域とされていた場所において生物相が内湾性から外洋性に変化していく現象である。東京湾に位置する横浜市沿岸で言えば、かつては横浜市沿岸では見られなかった東京湾口に見られる生物相が、水質浄化等が起因して横浜市沿岸域にも出現するということである。また、”南方化”とは、海水温の上昇等を原因として、横浜市沿岸とは気候区分の異なる地域を起源とするいわゆる南方系の生物相が出現する現象である。

第16報では初記録種の中には、特段、”外洋化”を示唆する種は出現しなかった。しかし、本第16報にて初記録となったアマオブネガイ、キンセンガニ、ガンガゼを東京湾の内湾域で観察する経験がこれまでに無く、これらの種の出現は”外洋化”を示唆する可能性があると考えられる。また、同じく初記録となったネコガイ、ムラクモキビジキガイといったレッドリスト等掲載種の出現は、横浜市沿岸の水質環境などが以前と比べて好転して生息環境に変化が起きていることを示唆するものと考えられる。

第15報時に初記録となった種のうち、4年後の第16報時にも継続して出現している種に、スガイ、テナガツノヤドカリ、レッドリスト等掲載種のムシログイ、キヌボラなどが挙げられる。これらの種は、複数個体あるいは複数地点で観察、採取していることから、横浜市沿岸域において定着しつつあると考えられる。

魚類については、第15報において、ハモ、イゴダカホドリ、クツワハゼの3種が初記録であったが、本第16報では、これらの3種は出現しなかった。本第16報において、カガミダイ、セトミノカサゴ、オニオコゼ、コケギンポ、コウベダルマガレイ、シマウシノシタの計6種の初記録種が出現した。これらの種の出現が”外洋化”や”南方化”によるものかは不明である。これらの種の今後の出現頻度や出現個体数の変遷に注目していきたい。

”南方化”を示唆する初記録種は本第16報では確認されなかったが、第14報で南方種と定義したガンテンイシヨウジ、ヒナハゼ、ウロハゼのうち、ガンテンイシヨウジとウロハゼは本第16報でも継続して出現した。



### 10.6. 横浜市沿岸域における生物相をとりまく環境変化

内湾調査の魚類調査では、かつては常時、優占種となっていたハタタテヌメリやコモチジャコなどの底生魚が、第14報（2016~2017年度調査）以降、優占種となっていない。代わって優占種となったのはシログチ、コノシロなどの中層性の魚類である。類似した事例として、堀口他（2015）は東京湾20定点における底曳き調査結果を解析して、1970年代後半から1990年代前半は、シャコ、ハタタテヌメリ、マコガレイといった底生性の生物が優占したが、2000年代はこれらの底生性の生物は減少して、代わってサメ・エイ類やスズキといった（中層性の）大型魚類が出現量の多くを占める変化が起きていることを明らかにしている。

第7報（1994年度調査）では、底生動物相から見た横浜市沿岸域の有機汚濁状況を総合的に評価すると過栄養から汚濁が進んだ状態が継続していると判断している。一方で、本内湾調査の小型底曳き網による魚類の個体数経年変化では、第7報（1993年度調査）のピーク時には2,732個体/曳網の魚類を採取しており、第7報当時の底生魚類相は汚濁が進む中でもまだ維持されていたと思われる。しかし、第7報（1993年度調査）から12年後の第11報（2005年度調査）時の小型底曳き調査の個体数は241個体/曳網と激減し、さらに20年後の本第16報（2024~2025年度調査）時には91個体/曳網と過去最低の個体数にまで減少した。これらのことから、第7報（1994年度調査）以降の横浜市沿岸では、河川からのCOD負荷などにより第7報当時の過栄養から汚濁が進んだ状況が継続していたと考えられる。その結果、海域の富栄養化進行に伴う赤潮発生などにより底層の貧酸素化が頻発したことで底層系の生態系の壊滅を招いたと推測される。

専門家からは、底層系の生態系が壊滅した一方で、プランクトンを中心とする表層系の生態系を主体とする状況に変化してきているという見方も聞かれる。また、柳（2014）が示した瀬戸内海の事例では、全リン負荷総量削減の効果もあって、貧栄養化と呼べる現象が起こっているが、東京湾と同様に底層系の生態系が回復していないために、赤潮の発生件数が減少しても、貧酸素水塊の解消には至っていない。

横浜市沿岸の現在の状況は、底質のCODの改善傾向が見られ（横浜市環境科学研究所, 2022）、本調査の第14報（2016~17年度調査）以降のプランクトン調査時には、赤潮状態を確認していない。横浜市沿岸域では、第7報当時の過栄養状態から30年以上を経て瀬戸内海と同様の貧栄養化過程にシフトしてきている可能性がある。

今後も横浜市沿岸域の生物相変化の機構解明に資するために本モニタリング調査を継続し、生態系回復の一助としたい。

#### 参考文献

- 堀口他（2015）.生き物たちの東京湾 生物調査から見た東京湾環境-東京湾20定点調査.東京湾海洋環境研究会  
 横浜市環境保全局（1996）「横浜の川と海の生物（第7報・海域編）」.横浜市沿岸域の底生動物相.  
 柳（2014）.瀬戸内海における富栄養化・貧栄養化の力学.沿岸海洋研究.第52巻1号.3-10  
 横浜市環境科学研究所（2022）「横浜の川と海の生物（第15報・海域編）」底生動物による底質環境評価

## 11. 謝辞

報告書をまとめるにあたり、過去に「横浜の川と海の生物」の調査を担当された専門家の方々、現在、海をフィールドに調査研究を行っている専門家の方々にヒアリングを行いました。専門的な見地から、報告書に関する多くのご指摘、助言、資料の提供をいただきました。また、横浜市  
の生物相調査を継続していく上で貴重なご意見をいただきました。ここに深くお礼申し上げます。

### 海草・海藻：

東京海洋大学

田中 次郎 名誉教授

### 海岸動物、底生動物：

横須賀市自然・人文博物館

萩原 清司 研究員

### 海岸動物、底生動物：

横須賀市自然・人文博物館

中島 広喜 学芸員

### 魚類：

神奈川県立生命の星・地球博物館

和田 英敏 学芸員

### 魚類：

神奈川県東部漁港事務所 漁港課

工藤 孝浩 主査

### プランクトン：

東京大学大学院 農学生命科学研究科附属アジア生物資源環境研究センター

岩滝 光儀 准教授